

令和4年度 国際総合科学群  
教学 IR 実施報告書

# 目 次

## 第 1 章 令和 4 年度 教学 IR 取組概要

1. 令和 4 年度 教学 IR 検討ワーキング取組事項…………… 2
2. 令和 4 年度 教学 IR 検討ワーキング分析結果概要…………… 3

## 第 2 章 令和 4 年度 教学 IR 分析データ集

1. 入学から卒業までのアンケートをつないだ経時的な分析
  - (1) 令和 4 年度分析結果について…………… 6
  - (2) 各アンケートをつないだ分析…………… 7
2. 教学 IR 検討 WG における認証評価に向けた対応
  - (1) 令和 4 年度前期授業評価アンケートにおける  
授業外学修時間の推移について …… 13
  - (2) 令和 4 年度前期科目における成績評価について…………… 35
  - (3) YCU 指標学修成果の AI 試行分析  
(LMS ポートフォリオ機能の活用) …… 49
3. ALGS 学修行動比較調査の実施及び分析
  - (1) 2021 年度 ALGS 学修行動比較調査の  
実施結果について…………… 62
  - (2) 全体結果梗概…………… 68
4. 全国学生調査
  - (1) 令和 3 年度全国学生調査実施結果について…………… 70
5. 教学 IR で挙げられた課題について…………… 107

## 令和4年度 国際総合科学群教学 IR 検討ワーキング取組事項

### 1 国際総合科学群教学 IR 検討ワーキング開催実績

- 第1回 令和4年6月17日
- 第2回 令和4年9月9日
- 第3回 令和4年11月28日
- 第4回 令和5年2月13日
- 第5回 令和5年3月20日

### 2 国際総合科学群教学 IR 検討ワーキングメンバー（敬称略）

ワーキング長	土屋 隆裕
ワーキング長補佐	中條 祐介
国際教養学部	鈴木 伸治、柿崎 一郎、山田 剛史
国際商学部	大澤 正俊、白石 小百合、吉永 崇
理学部	横山 崇、大関 泰裕、北 幸海
データサイエンス学部	山崎 眞見、土屋 隆裕
事務局	小林学務・教務部長、佐藤学術企画担当係長、植松学長室担当係長、田中学術企画担当、佐々木学術企画担当

## 令和4年度 国際総合科学群教学 IR 検討ワーキング分析結果概要

### 1. 入学から卒業後までのアンケートをつないだ経時的な分析

#### <取組概要>

平成30年度から引き続き、「新入生アンケート（入学時実施）」、「カリキュラム評価アンケート（卒業時実施）」、「卒業生アンケート（卒後3年に実施）」の3つのアンケートを設定し、本学が特に重視する教育理念に関する共通の設問への回答結果について分析した。

分析結果については、各種会議にて報告を行うとともに、結果を各学部教授会で報告・共有し、各学部におけるカリキュラム改善検討を支援した。

また、各アンケートの回答率向上のために、回答者への結果の共有・周知を進めることが提案され、来年度以降対応を進める。

#### (分析内容)

各アンケートをつないだ経時分析

#### <分析結果>

分析結果について、入学時と卒業時の回答結果から、本学が掲げる教育理念について、入学時には期待値が高いものの、卒業時、卒後3年と徐々に下がっていく傾向が見られた。

なお、令和3年度のカリキュラム評価アンケートのみ、「グローバルな視野」の数値が高くなっており、該当学年の留学状況等、要因を確認した。

### 2. 教学 IR 検討 WG における認証評価に向けた対応

#### <取組概要>

令和3年度の認証評価受審を想定し設定した3つの観点について、認証評価受審後も普遍的な課題として検討を進めた。教学 IR 検討 WG にて解析した結果について各学部会議体にて報告を行うとともに、結果を各学部教授会で報告・共有し、各学部において各学部独自の課題が確認された。

#### (分析内容)

- (1) 令和3年度後期・令和4年度前期授業評価アンケートにおける授業外学修時間の推移
- (2) 令和3年度後期・令和4年度前期科目における成績評価
- (3) 学修成果の可視化検討

#### <分析結果>

- (1) 令和4年度授業評価アンケートの結果を過年度の結果と比較した結果、オンライン授業を開始した令和2年度には授業外学修時間が増加していたが、令和3年度、令和4年度の結果は横ばいであった。令和5年度は原則対面授業となる

ため、引き続き、授業外学修時間の分析を進める。

(2) 令和3年度後期、令和4年度前期の成績評価結果を分析し、成績評価が適切に行われているか確認を行った。

各科目の成績登録者数によって平均値に差が見られるため、今後は成績登録者数を考慮し分析を進める。また、各学期の集計結果だけでなく、経年変化を集計し、俯瞰的に変化を確認できるようにする。

(3) 令和4年度より導入した YCU-Board に実装したポートフォリオ機能の活用推進を進めた。

- ・ YCU 指標等の学修成果の AI 試行分析については、(1)留学経験と学修成果項目の相関分析、(2)入試区分と学修成果項目の相関分析を行った。現時点で大きな違いは見られなかったため、YCU-Board のデータを蓄積し、経年で集計を行う。
- ・ YCU-Board 目標設定機能の活用については、学生、教員への内容や意義の説明、周知を進め、目標・振り返りの登録が浸透するよう努めた。
- ・ YCU-Board ポートフォリオ機能の活用については、入力項目を確認し、所管課に入力を依頼した。

### 3. ALCS 学修行動比較調査の実施及び分析

#### <取組概要>

学生データの効率的な収集及び他大学との比較のため、令和元年度より教学比較 IR コモンズに入り会いし、令和4年度も1年次、3年次の学生に対しアンケート調査を実施した。令和4年度は令和3年度の調査結果について分析を実施し、各学部へ内容を報告・共有した。

#### (分析内容)

令和3年度横浜市立大学 ALCS 学修行動比較調査

#### <分析結果>

「よく学ぶ学生に刺激されて学修が促されたこと」に関する設問について「よくあった・かなりあった」とする回答、「短期・長期海外留学を希望する」という回答が他大学と比較して10%程度多いという結果が見られた。一方で、「図書館の蔵書内容」「設備の使用感」については、他大学よりも満足度が低い傾向が見られた。

### 4. 全国学生調査の実施及び分析

#### <取組概要>

全国学生調査は、文部科学省によって、令和元年度から令和4年度までの計3回、試行で実施されており、本学も協力している。令和4年度は令和3年度調査結果の分析及び令和4年度調査の周知を実施し、集計結果を各種会議体に報告・共有した。

### (分析内容)

令和3年度全国学生調査

#### <分析結果>

- ・論理的な思考や、研究を進める上で必要とされるスキルを問う項目で全国平均を上回る傾向があった。(「項目 29 文献・資料を収集・分析する力」、「項目 30 : 論理的に文章を書く力」、「項目 31 : 人に分かりやすく話す力」)
- ・グローバル人材及びデータサイエンス人材の育成に関する項目では、全国平均と同等または上回る水準であった。特に「項目 32 : 外国語を使う力」では、全国平均 2.1 に対し、本学平均は 2.4 と良好な結果であった。データサイエンスに関わる「項目 33 : 統計などデータサイエンスの知識・技能」も、令和3年度は全国平均と全学平均は同水準であった。
- ・全国平均を下回った項目は「項目 7 : 予習・復習などの自主学習について授業やシラバスで指示があった」、「項目 10 : 課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却された」であった。

## 5. 分析結果の報告

解析結果について各種会議にて報告・共有し、各学部におけるカリキュラム改善を支援した。

#### <報告・共有した会議体>

- ・学長諮問会議 (年 1 回)
- ・教学 IR 検討ワーキング (年 5 回)、高等教育推進センター教学 IR 部門会議(年 4 回)
- ・各学部教授会 (年 3 回)
- ・ICT 推進委員会 (年 2 回)

# 入学から卒業後までのアンケートをつないだ経時的な分析

## 令和4年度分析結果について

### 1 趣旨

平成30年度より、国際総合科学群教学IR検討ワーキングでは、国際総合科学群で特に重視する教育理念に関して、入学時、卒業時、卒後3年の学生を対象に実施するアンケートに共通設問を設定し、その回答結果を分析し、経時的な変化を確認しています。今年度の解析を実施しましたので報告いたします。

### 2 分析対象データ

- ・ 新入生アンケート  
実施期間：令和4年4月  
回答数：737名
- ・ カリキュラム評価アンケート  
実施期間：令和3年12月～令和4年2月  
回答数：729名
- ・ 卒業生アンケート  
実施期間：令和3年8月～令和3年11月  
回答数：188名

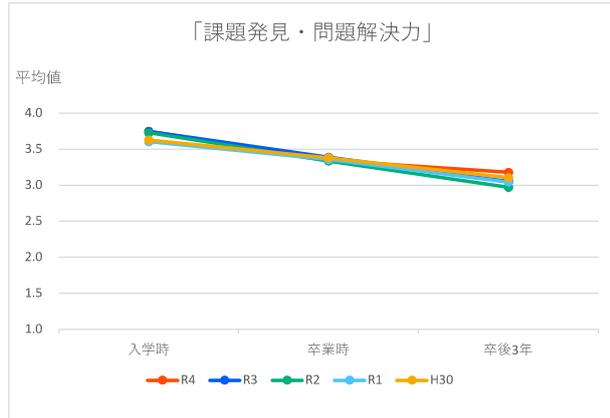
### 3 分析結果

次ページ参照

## 各アンケートをつないだ分析（国際総合科学群）

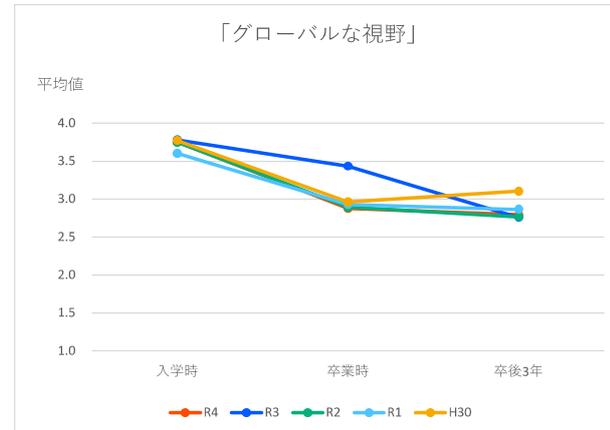
### 「課題発見・問題解決力」

	新入生		カリキュラム		卒業生	
	回答	割合 (%)	回答	割合 (%)	回答	割合 (%)
4	563	76.391	302	41.427	68	36.170
3	165	22.388	385	52.812	91	48.404
2	7	0.950	31	4.252	23	12.234
1	0	0.000	11	1.509	6	3.191
回答なし	2	0.271	0	0.000	0	0.000
総計	737		729		188	
平均	3.742		3.342		3.176	
R03年度平均	3.745		3.387		3.050	
R02年度平均	3.725		3.335		2.967	
R01年度平均	3.602		3.355		3.041	
H30年度平均	3.627		3.379		3.103	



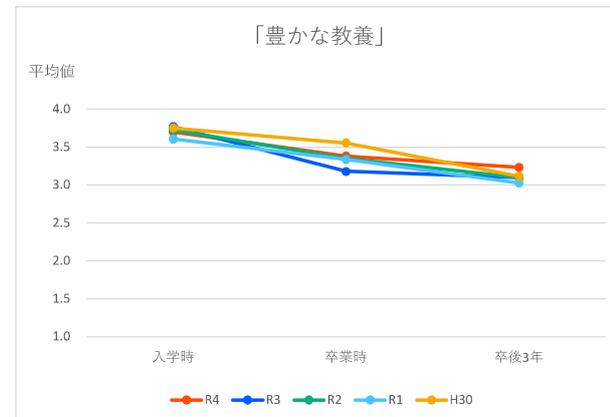
### 「グローバルな視野」

	新入生		カリキュラム		卒業生	
	回答	割合 (%)	回答	割合 (%)	回答	割合 (%)
4	587	79.647	194	26.612	48	25.532
3	130	17.639	298	40.878	70	37.234
2	17	2.307	190	26.063	53	28.191
1	0	0.000	47	6.447	17	9.043
回答なし	3	0.407	0	0.000	0	0.000
総計	737		729		188	
平均	3.751		2.877		2.793	
R03年度平均	3.780		3.436		2.76	
R02年度平均	3.75		2.896		2.767	
R01年度平均	3.602		2.93		2.865	
H30年度平均	3.774		2.963		3.103	



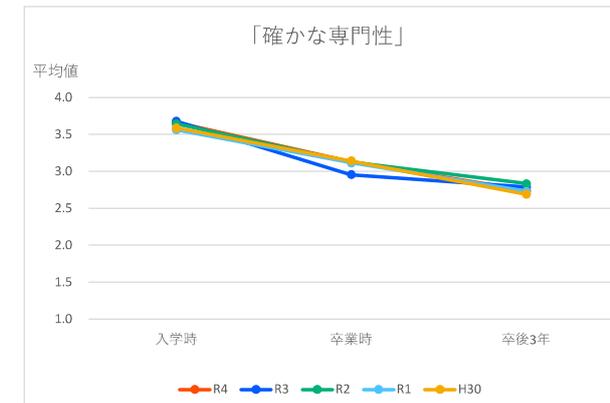
### 「豊かな教養」

	新入生		カリキュラム		卒業生	
	回答	割合 (%)	回答	割合 (%)	回答	割合 (%)
4	541	73.406	332	45.542	70	37.234
3	181	24.559	356	48.834	92	48.936
2	13	1.764	29	3.978	26	13.830
1	1	0.136	12	1.646	0	0.000
回答なし	1	0.136	0	0.000	0	0.000
総計	737		729		188	
平均	3.700		3.383		3.234	
R03年度平均	3.770		3.180		3.101	
R02年度平均	3.725		3.349		3.100	
R01年度平均	3.608		3.338		3.027	
H30年度平均	3.753		3.556		3.118	



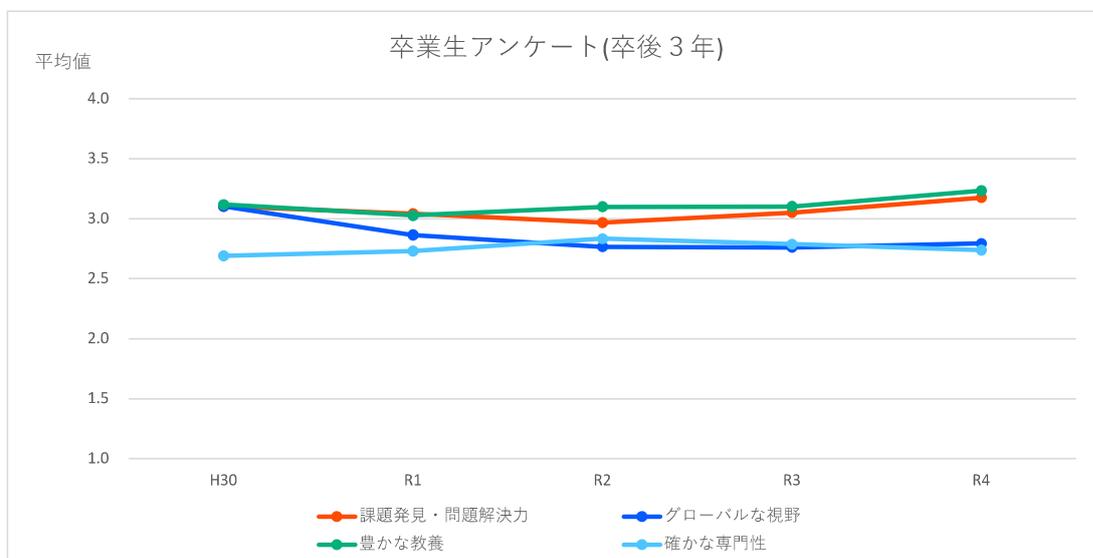
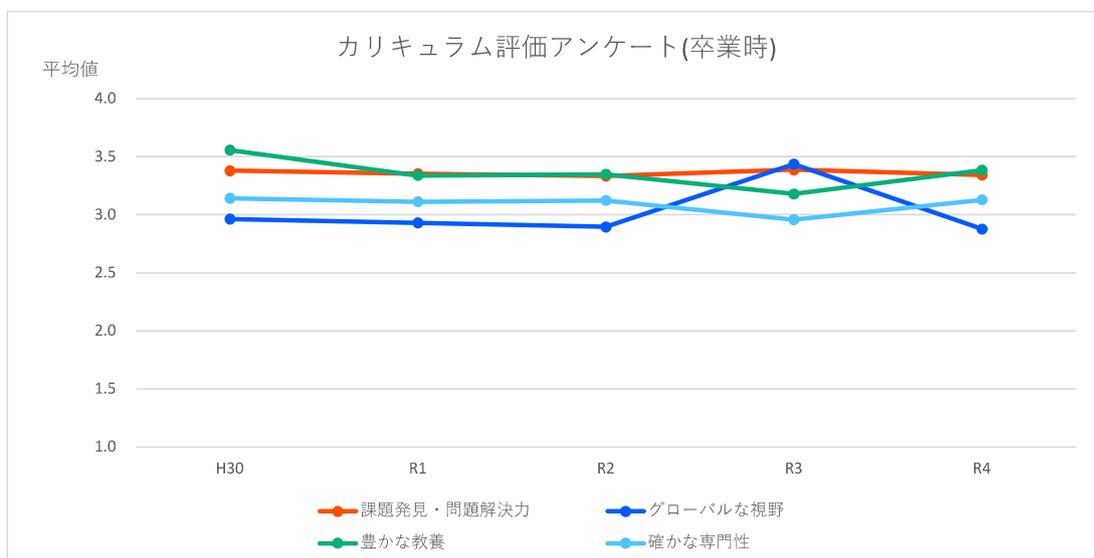
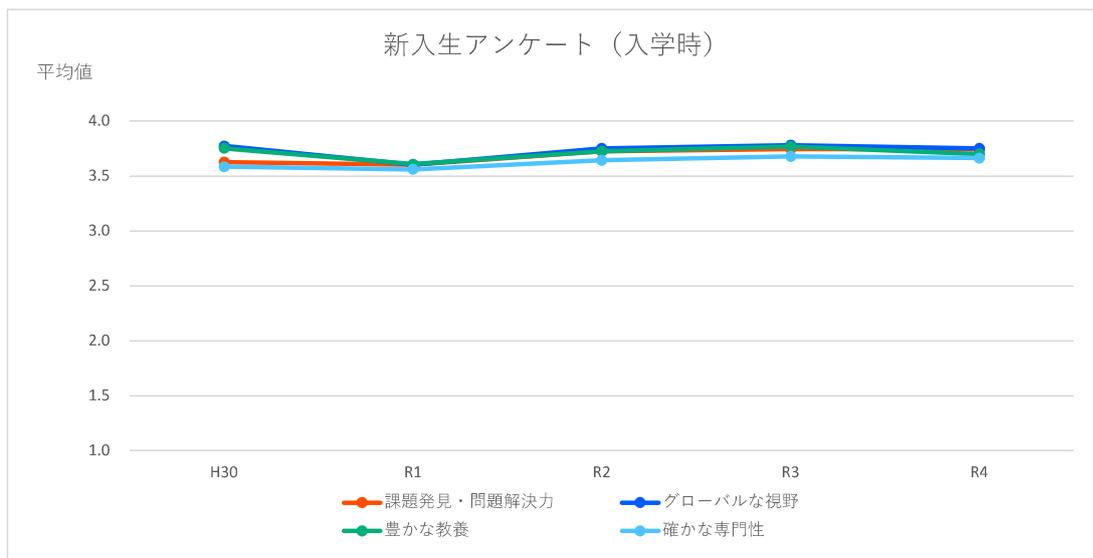
### 「確かな専門性」

	新入生		カリキュラム		卒業生	
	回答	割合 (%)	回答	割合 (%)	回答	割合 (%)
4	512	69.471	230	31.550	43	22.872
3	209	28.358	383	52.538	71	37.766
2	15	2.035	95	13.032	56	29.787
1	1	0.136	21	2.881	18	9.574
回答なし	0	0.000	0	0.000	0	0.000
総計	737		729		188	
平均	3.663		3.128		2.739	
R03年度平均	3.677		2.957		2.788	
R02年度平均	3.643		3.123		2.833	
R01年度平均	3.562		3.114		2.730	
H30年度平均	3.586		3.142		2.691	



- ・ 入学時、卒業時、卒後3年の各項目の平均値には、年度ごとの大きな差は見られない。

## 各アンケートをつないだ分析（国際総合科学群）

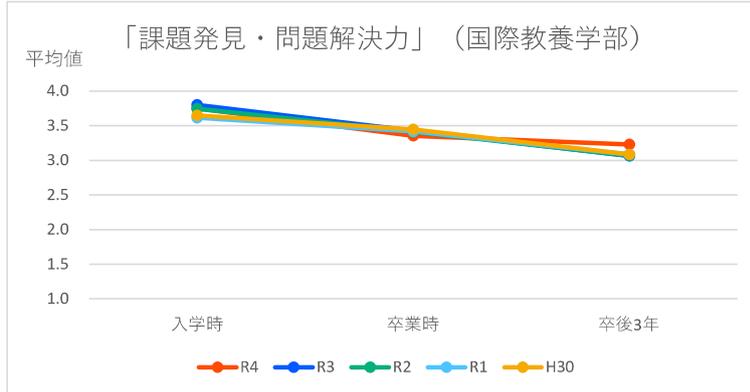


- ・ 入学時、卒業時、卒後3年の各項目の平均値には、年度ごとの大きな差は見られない。
- ・ カリキュラム評価アンケートでは令和3年度のみ、「グローバルな視野」の数値が上がっているが、令和4年度は令和2年度以前の数値に近い結果となっている。

各アンケートをつないだ分析  
 (『課題発見・問題解決力』 学部別解析結果)

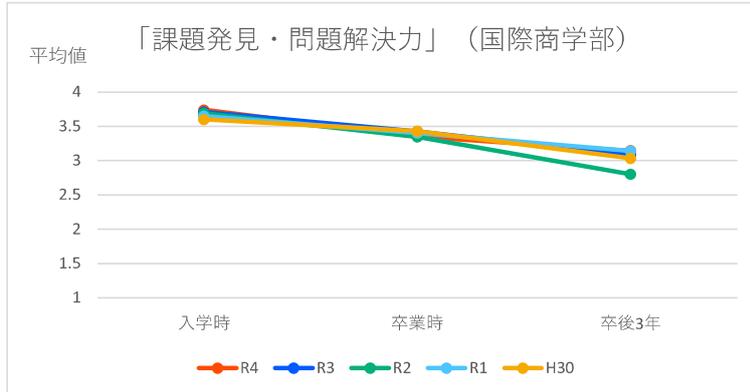
国際教養学部

	新入生	カリキュラム	卒業生
回答数	279	274	87
4	219	117	33
3	53	140	43
2	6	14	9
1	0	3	2
回答なし	1	0	0
平均	3.753	3.354	3.230
R03年度平均	3.803	3.427	3.064
R02年度平均	3.747	3.413	3.071
R01年度平均	3.618	3.414	3.086
H30年度平均	3.649	3.450	3.088



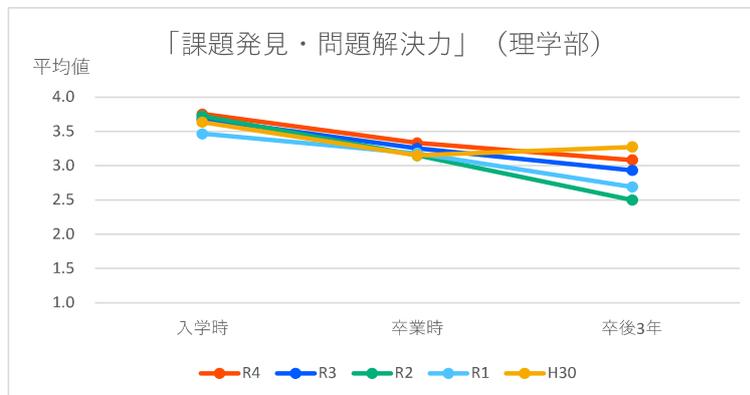
国際商学部

	新入生	カリキュラム	卒業生
回答数	277	268	77
4	208	115	27
3	68	139	36
2	0	8	12
1	0	6	2
回答なし	1	0	0
平均	3.740	3.354	3.143
R03年度平均	3.708	3.423	3.083
R02年度平均	3.693	3.349	2.800
R01年度平均	3.649	3.404	3.141
H30年度平均	3.601	3.429	3.032



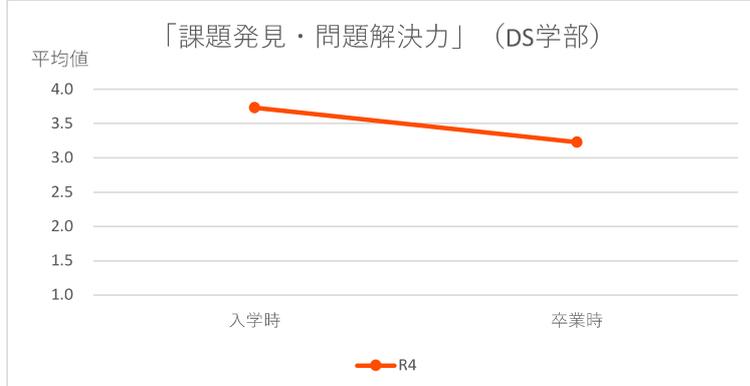
理学部

	新入生	カリキュラム	卒業生
回答数	121	139	24
4	92	53	8
3	28	80	12
2	1	5	2
1	0	1	2
回答なし	0	0	0
平均	3.752	3.331	3.083
R03年度平均	3.681	3.250	2.931
R02年度平均	3.724	3.150	2.500
R01年度平均	3.463	3.178	2.692
H30年度平均	3.634	3.150	3.273



データサイエンス学部

	新入生	カリキュラム	卒業生
回答数	60	48	回答
4	44	17	
3	16	26	
2	0	4	
1	0	1	
回答なし	0	0	
平均	3.733	3.229	
R03年度平均	3.762	-	
R02年度平均	3.762	-	
R01年度平均	3.621	-	
H30年度平均		-	



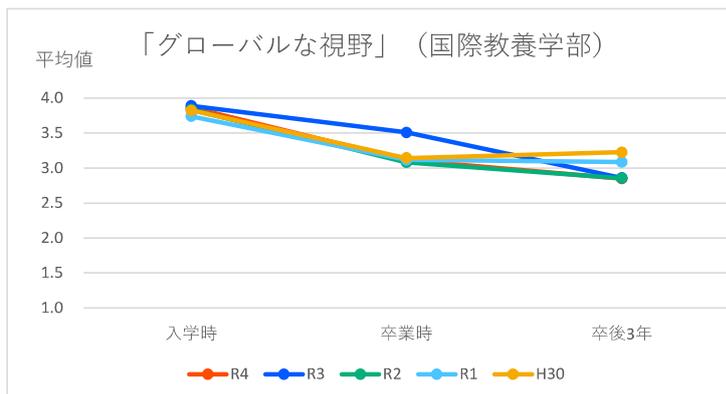
※H30年度開設のため、卒業時・卒後3年対象のアンケートは未実施あり

- ・ 国際教養学部・国際商学部の入学時、卒業時、卒後3年の各項目の平均値には、年度ごとの大きな差は見られない。
- ・ 理学部は卒後3年の数値が各年度でバラつきがあるが、回答数が少ないため、数値の変動が大きいことも考えられる。

## 各アンケートをつないだ分析 (『グローバルな視野』 学部別解析結果)

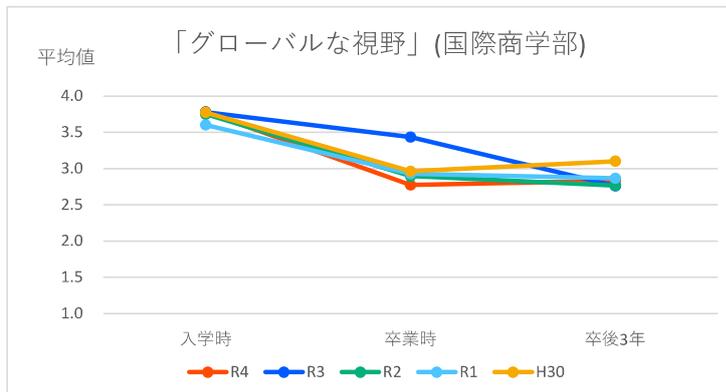
### 国際教養学部

	新入生	カリキュラム	卒業生
回答数	279	274	87
4	248	102	24
3	27	112	34
2	3	49	21
1	0	11	8
回答なし	1	0	0
平均	3.867	3.113	2.851
R03年度平均	3.891	3.512	2.859
R02年度平均	3.835	3.083	2.857
R01年度平均	3.744	3.117	3.086
H30年度平均	3.826	3.146	3.224



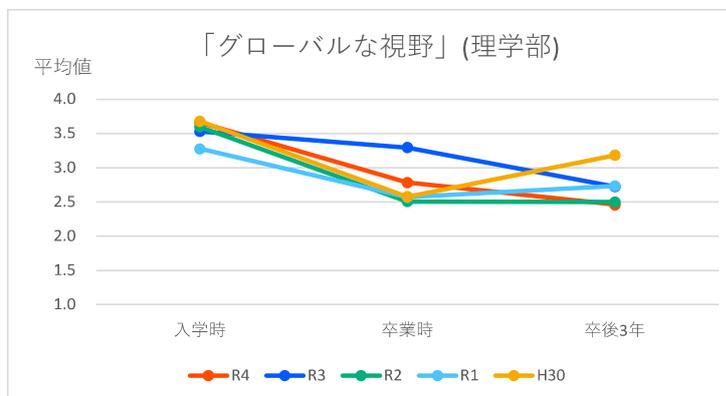
### 国際商学部

	新入生	カリキュラム	卒業生
回答数	277	268	77
4	224	53	20
3	48	119	27
2	4	78	27
1	0	18	3
回答なし	1	0	0
平均	3.783	2.772	2.831
R03年度平均	3.840	3.439	2.667
R02年度平均	3.804	2.906	2.600
R01年度平均	3.768	2.951	2.719
H30年度平均	3.766	2.985	2.968



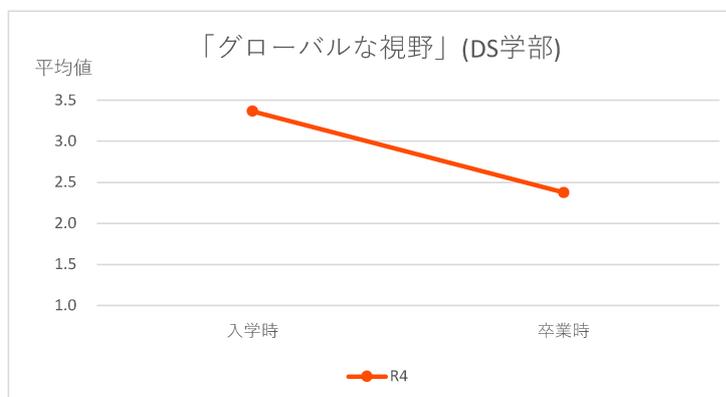
### 理学部

	新入生	カリキュラム	卒業生
回答数	121	139	24
4	84	31	4
3	33	55	9
2	4	45	5
1	0	8	6
回答なし	0	0	0
平均	3.661	2.784	2.458
R03年度平均	3.529	3.294	2.724
R02年度平均	3.598	2.504	2.500
R01年度平均	3.276	2.568	2.731
H30年度平均	3.679	2.575	3.182



### データサイエンス学部

	新入生	カリキュラム	卒業生
回答数	60	48	回答
4	31	8	
3	22	12	
2	6	18	
1	0	10	
回答なし	1	0	
平均	3.367	2.375	
R03年度平均	3.500	-	
R02年度平均	3.444	-	
R01年度平均	3.483	-	
H30年度平均		-	



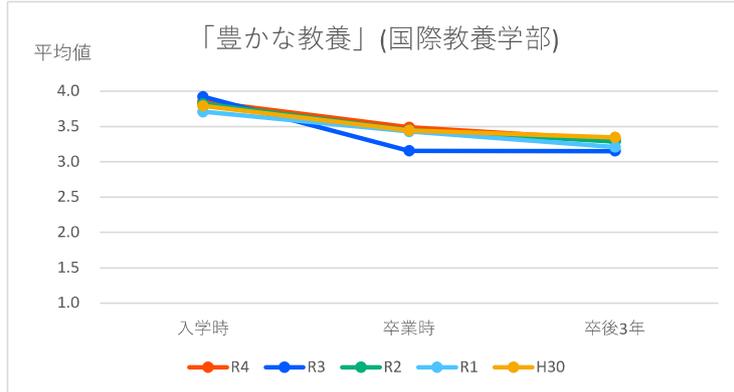
※H30年度開設のため、卒業時・卒後3年対象のアンケートは未実施あり

- ・3学部とも令和3年度カリキュラム評価アンケートでは令和3年度のみ、「グローバルな視野」の数値が上がっているが、令和4年度は令和2年度以前の数値に近い結果となっている。

## 各アンケートをつないだ分析 (『豊かな教養』 学部別解析結果)

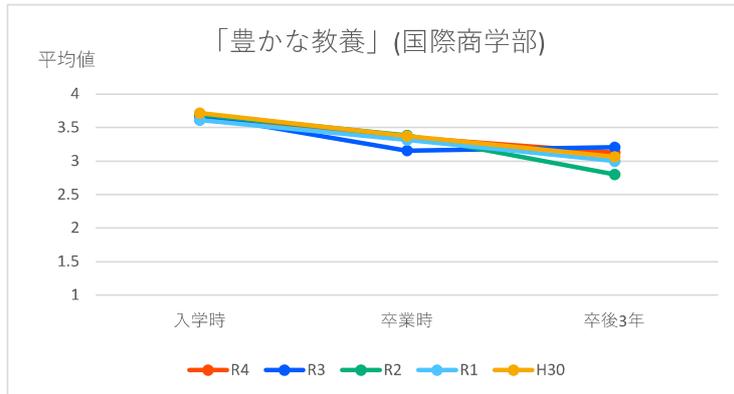
### 国際教養学部

	新入生	カリキュラム	卒業生
回答数	279	274	87
4	241	143	35
3	36	122	44
2	2	9	8
1	0	0	0
回答なし	0	0	0
平均	3.857	3.489	3.310
R03年度平均	3.923	3.159	3.154
R02年度平均	3.821	3.449	3.286
R01年度平均	3.71	3.430	3.207
H30年度平均	3.793	3.447	3.348



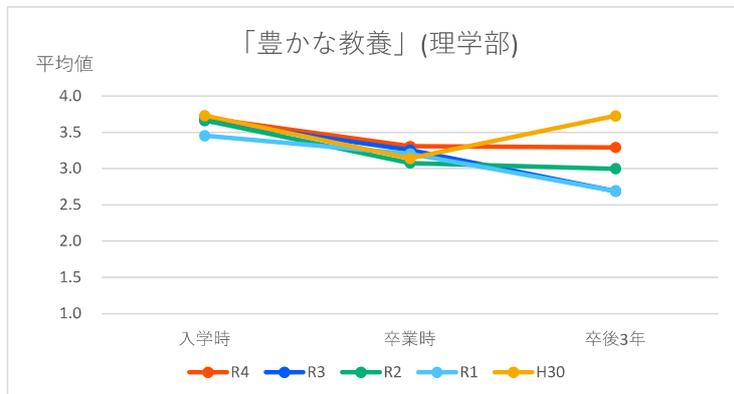
### 国際商学部

	新入生	カリキュラム	卒業生
回答数	277	268	77
4	179	116	24
3	92	138	39
2	5	7	14
1	1	7	0
回答なし	0	0	0
平均	3.621	3.354	3.13
R03年度平均	3.685	3.158	3.208
R02年度平均	3.693	3.384	2.800
R01年度平均	3.613	3.318	3.000
H30年度平均	3.718	3.377	3.065



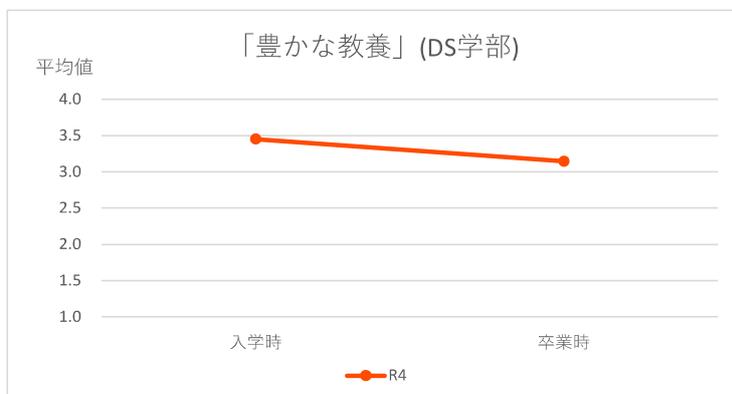
### 理学部

	新入生	カリキュラム	卒業生
回答数	121	139	24
4	88	59	11
3	30	68	9
2	3	8	4
1	0	4	0
回答なし	0	0	0
平均	3.702	3.309	3.292
R03年度平均	3.664	3.257	2.690
R02年度平均	3.669	3.079	3.000
R01年度平均	3.455	3.205	2.692
H30年度平均	3.731	3.142	3.727



### データサイエンス学部

	新入生	カリキュラム	卒業生
回答数	60	48	
4	33	14	
3	23	28	
2	3	5	
1	0	1	
回答なし	1	0	
平均	3.450	3.146	
R03年度平均	3.540	-	
R02年度平均	3.540	-	
R01年度平均	3.431	-	
H30年度平均		-	



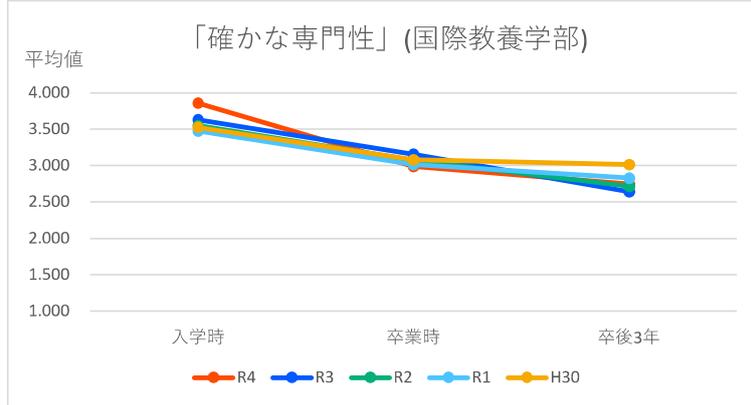
※H30年度開設のため、卒業時・卒後3年対象のアンケートは未実施あり

- ・国際教養学部・国際商学部の入学時、卒業時、卒後3年の各項目の平均値には、年度ごとの大きな差は見られない。
- ・理学部は卒後3年の数値が各年度でバラつきがあるが、回答数が少ないため、数値の変動が大きいことも考えられる。

## 各アンケートをつないだ分析 (『確かな専門性』 学部別解析結果)

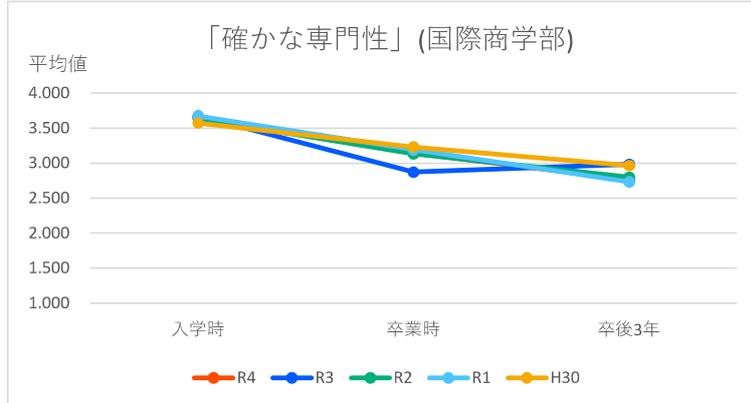
### 国際教養学部

	新入生	カリキュラム	卒業生
回答数	279	274	87
4	171	68	18
3	101	144	36
2	6	53	26
1	1	9	7
回答なし	0	0	0
平均	3.857	2.989	2.747
R03年度平均	3.630	3.154	2.641
R02年度平均	3.551	3.071	2.714
R01年度平均	3.474	3.016	2.828
H30年度平均	3.527	3.080	3.015



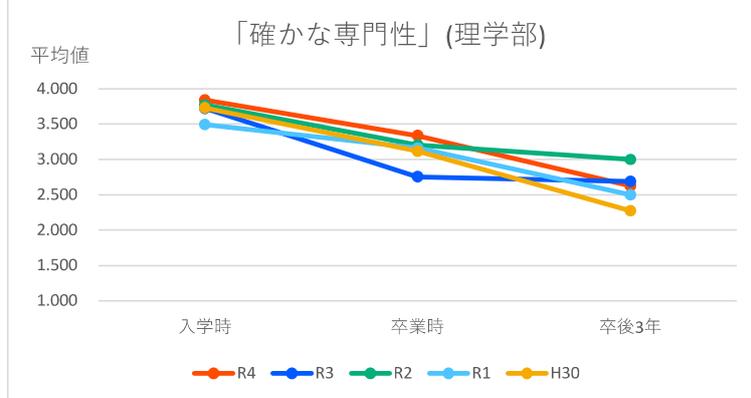
### 国際商学部

	新入生	カリキュラム	卒業生
回答数	277	268	77
4	190	83	19
3	79	149	28
2	8	28	23
1	0	8	7
回答なし	0	0	0
平均	3.657	3.146	2.766
R03年度平均	3.677	2.874	2.986
R02年度平均	3.637	3.133	2.800
R01年度平均	3.675	3.193	2.734
H30年度平均	3.575	3.234	2.968



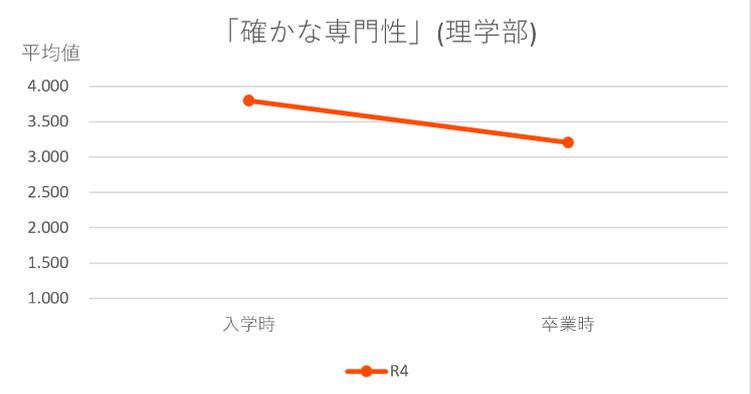
### 理学部

	新入生	カリキュラム	卒業生
回答数	121	139	24
4	103	62	6
3	17	65	7
2	1	9	7
1	0	3	4
回答なし	0	0	0
平均	3.843	3.338	2.625
R03年度平均	3.723	2.757	2.690
R02年度平均	3.772	3.205	3.000
R01年度平均	3.493	3.164	2.500
H30年度平均	3.731	3.118	2.273



### データサイエンス学部

	新入生	カリキュラム	卒業生
回答数	60	48	
4	48	17	
3	12	25	
2	0	5	
1	0	1	
回答なし	0	0	
平均	3.800	3.208	
R03年度平均	3.806	-	
R02年度平均	3.825	-	
R01年度平均	3.638	-	
H30年度平均		-	



※H30年度開設のため、卒業時・卒後3年対象のアンケートは未実施あり

- 国際商学部・理学部において、令和3年度カリキュラム評価アンケートの数値が下がっているが、令和4年度の各項目の平均値は、令和2年度以前の数値に近い結果となっている。

## 令和4年度前期授業評価アンケートにおける授業外学修時間の推移について

### 1 趣旨

大学設置基準に基づき、本学の各学部の通則において、単位については下記のように規定されており、1科目(2単位)の授業の場合、90時間の学習時間が必要となり、授業時間が30時間であれば、授業外学修時間は60時間必要となります。

令和4年度前期授業の授業評価アンケートの結果をもとに、授業外学修時間を分析し、各学部の通則に沿って授業外学修時間が確保されているか確認を行います。

#### 【各学部通則抜粋】

(単位)

第4条 授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準によることを原則とする。

- (1) 講義科目及び演習科目については、15時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習、実技及び語学科目については、30時間の授業をもって1単位とする。

### 2 分析対象データ

平成30年度から令和4年度の授業評価アンケートデータ

(分析対象の設問)

問2：授業時間以外に学修を一週間にどのくらいしましたか。

選択肢：1. ほとんどしなかった 2. 1時間未満 3. 1時間以上2時間未満

4. 2時間以上3時間未満 5. 3時間以上4時間未満 6. 4時間以上

※選択肢6は令和2年度より追加

アンケート回答率（前期）

※令和元年度までは紙媒体、令和2年度からはWEBでアンケート実施

	H30	R元	R2	R3	R4
学部 講義全体 (DAT科目を除く)	74.2%	74.3%	35.7%	33.5%	28.8%
学部 演習全体	85.3%	84.5%	40.9%	47.8%	40.4%
データサイエンス学部系講義 (科目コード先頭3桁がDATの科目)	78.9%	78.8%	37.5%	25.1%	31.2%

アンケート実施科目数（前期）

※令和元年度までは紙媒体、令和2年度はWEBでアンケート実施

	H30	R元	R2	R3	R4
学部 講義全体 (DAT科目を除く)	283	270	308	247	224
学部 演習全体	368	379	324	444	259
データサイエンス学部系講義 (科目コード先頭3桁がDATの科目)	7	15	39	58	30

## 1. 授業外学修時間の推移

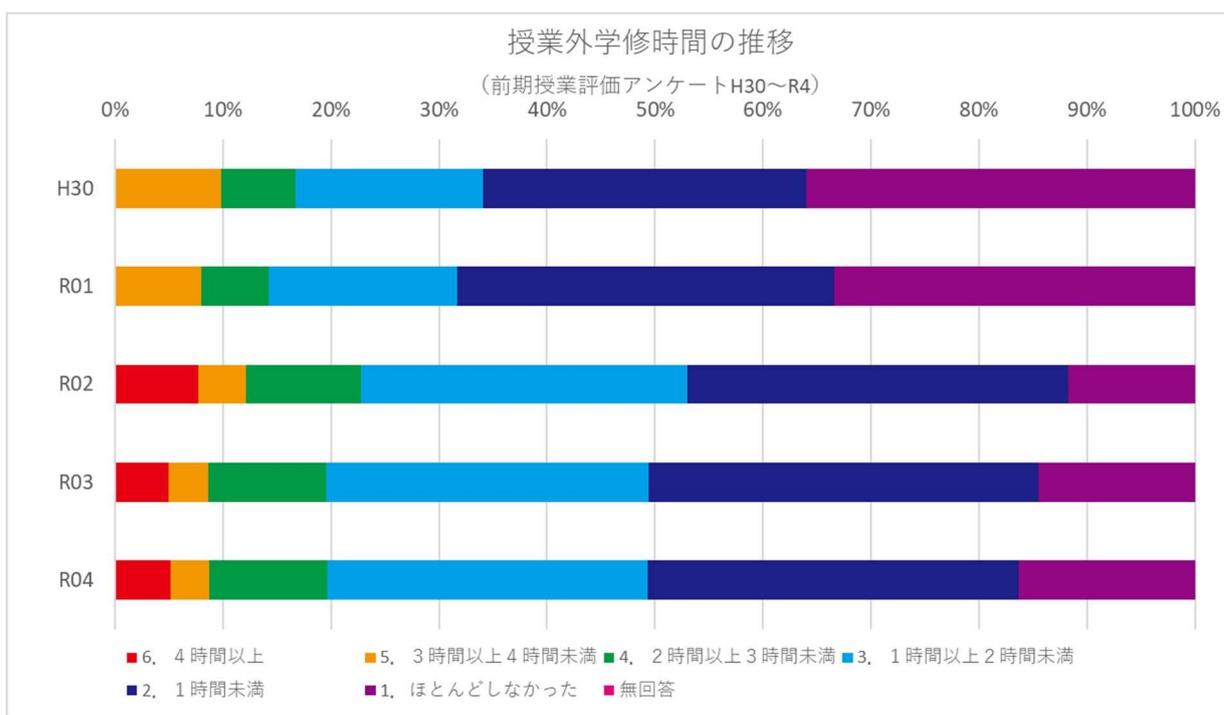
### (1) 回答数比較

#### ① 全体について

5年分の回答数について、それぞれの年度で占める割合を確認した。令和2年度に「3. 1時間以上2時間未満」より上位の回答割合が増加したものの、それ以降は減少傾向となり、令和3年度と令和4年度の回答割合は横ばいとなっている。

	6. 4時間以上	5. 3時間以上 4時間未満	4. 2時間以上 3時間未満	3. 1時間以上 2時間未満	2. 1時間未満	1. ほとんどし なかった	計
H30		2021 件	1419 件	3558 件	6153 件	7388 件	20539 件
		9.84%	6.91%	17.32%	29.96%	35.97%	100.00%
R01		1572 件	1251 件	3446 件	6903 件	6613 件	19785 件
		7.95%	6.32%	17.42%	34.89%	33.42%	100.00%
R02	645 件	548 件	1409 件	3479 件	3657 件	1219 件	10957 件
	7.75%	4.34%	10.68%	30.26%	35.24%	11.74%	100.00%
R03	433 件	318 件	949 件	2588 件	3134 件	1256 件	8678 件
	4.99%	3.66%	10.94%	29.82%	36.11%	14.47%	100.00%
R04	406 件	291 件	868 件	2357 件	2736 件	1299 件	7957 件
	5.10%	3.66%	10.91%	29.62%	34.38%	16.33%	100.00%

※令和2年度について、選択肢6及び5の合算値は「1193 件 (10.89%)」、令和3年度は「751 件 (8.65%)」、令和4年度は「697 件 (8.76%)」



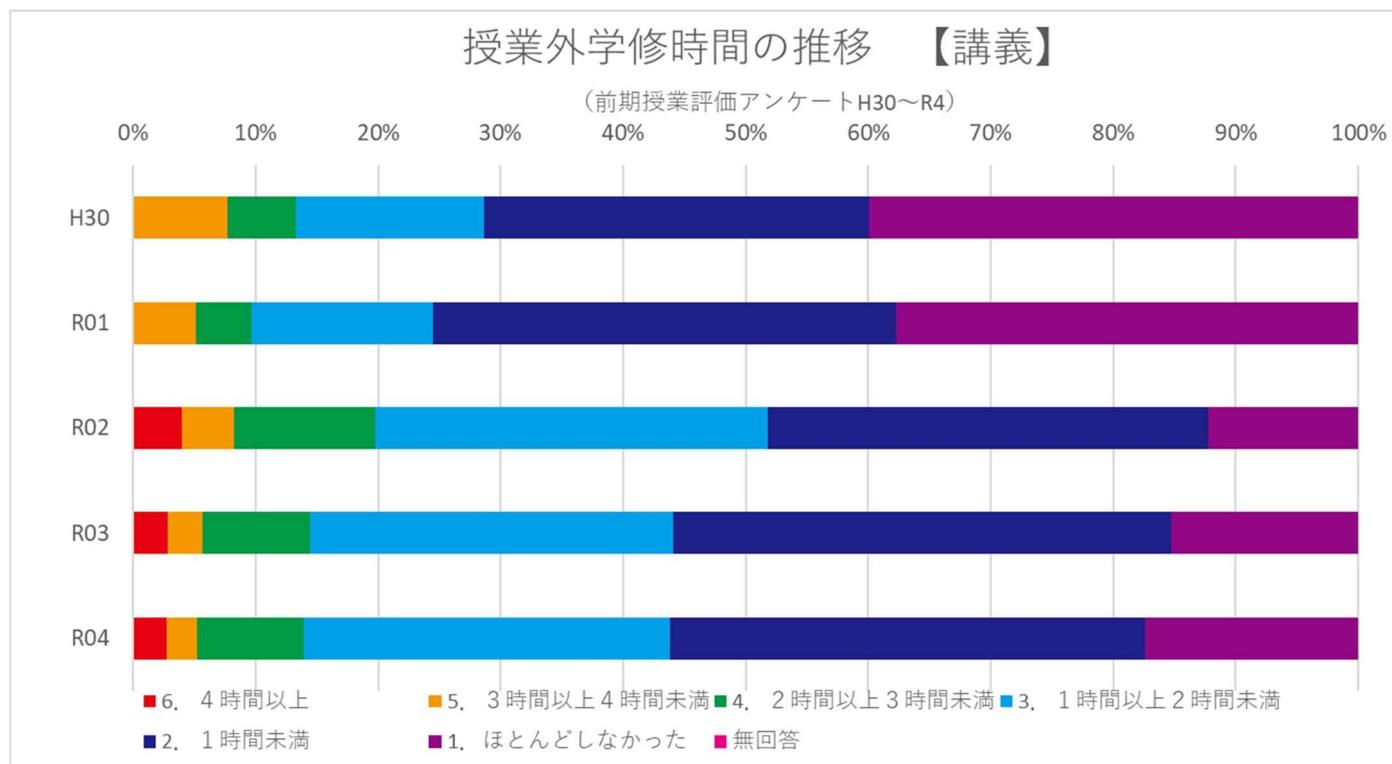
## ② 講義について

令和3年度と令和4年度の選択肢3～6の回答割合はほぼ横ばいとなっている。

	6. 4時間以上	5. 3時間以上 4時間未満	4. 2時間以上 3時間未満	3. 1時間以上 2時間未満	2. 1時間未満	1. ほとんどし なかった	計
H30 講義		1224 件	884 件	2431 件	4976 件	6326 件	15841 件
		7.73%	5.58%	15.35%	31.41%	39.93%	100.00%
R01 講義		775 件	696 件	2253 件	5754 件	5747 件	15225 件
		5.09%	4.57%	14.80%	37.79%	37.75%	100.00%
R02 講義	354 件	376 件	1017 件	2823 件	3168 件	1081 件	8819 件
	4.01%	4.26%	11.53%	32.01%	35.92%	12.26%	100.00%
R03 講義	183 件	187 件	572 件	1927 件	2643 件	993 件	6322 件
	2.81%	2.87%	8.79%	29.62%	40.63%	15.27%	100.00%
R04 講義	160 件	146 件	502 件	1739 件	2257 件	1012 件	5816 件
	2.75%	2.51%	8.63%	29.90%	38.81%	17.40%	100.00%

※選択肢6及び5の合算値

令和2年度：「730 件（8.28%）」、令和3年度：「370 件（5.85%）」、令和4年度「306 件（5.26%）」



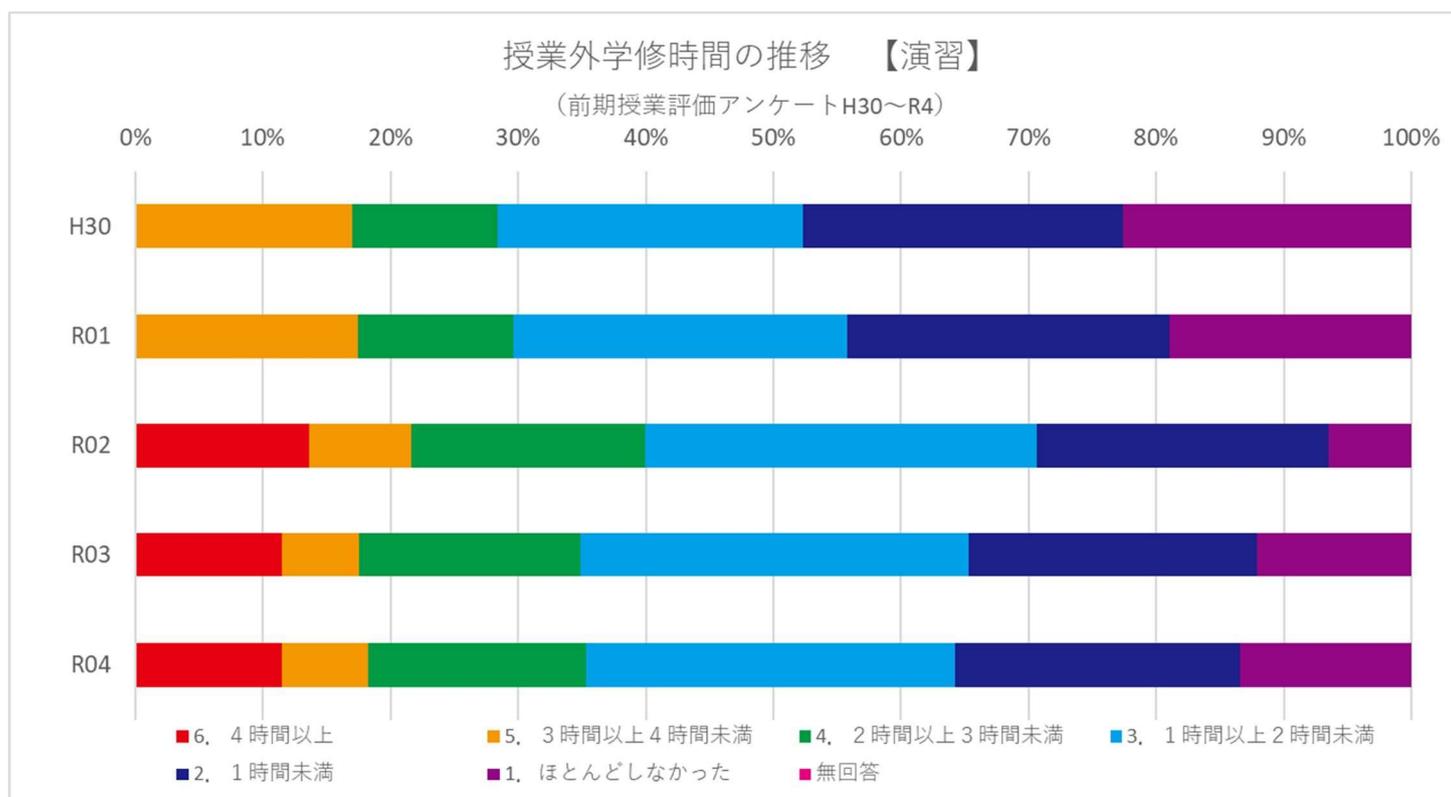
### ③ 演習について

令和3年度と比較して、令和4年度の選択肢3～6の回答割合は横ばいとなっている。

	6. 4時間以上	5. 3時間以上 4時間未満	4. 2時間以上 3時間未満	3. 1時間以上 2時間未満	2. 1時間未満	1. ほとんどし なかった	計
H30 演習		797 件	535 件	1127 件	1177 件	1062 件	4698 件
		16.96%	11.39%	23.99%	25.05%	22.61%	100.00%
R01 演習		797 件	555 件	1193 件	1149 件	866 件	4560 件
		17.48%	12.17%	26.16%	25.20%	18.99%	100.00%
R02 演習	291 件	172 件	392 件	656 件	489 件	138 件	2138 件
	13.61%	8.04%	18.33%	30.68%	22.87%	6.45%	100.00%
R03 演習	250 件	131 件	377 件	661 件	491 件	263 件	2173 件
	11.50%	6.03%	17.35%	30.42%	22.60%	12.10%	100.00%
R04 演習	246 件	145 件	366 件	618 件	479 件	287 件	2141 件
	11.49%	6.77%	17.09%	28.87%	22.37%	13.40%	100.00%

※選択肢6及び5の合算値

令和2年度：「463件(21.66%)」、令和3年度は「381件(17.53%)」、令和4年度「391件(18.26%)」



## (2) 平均比較

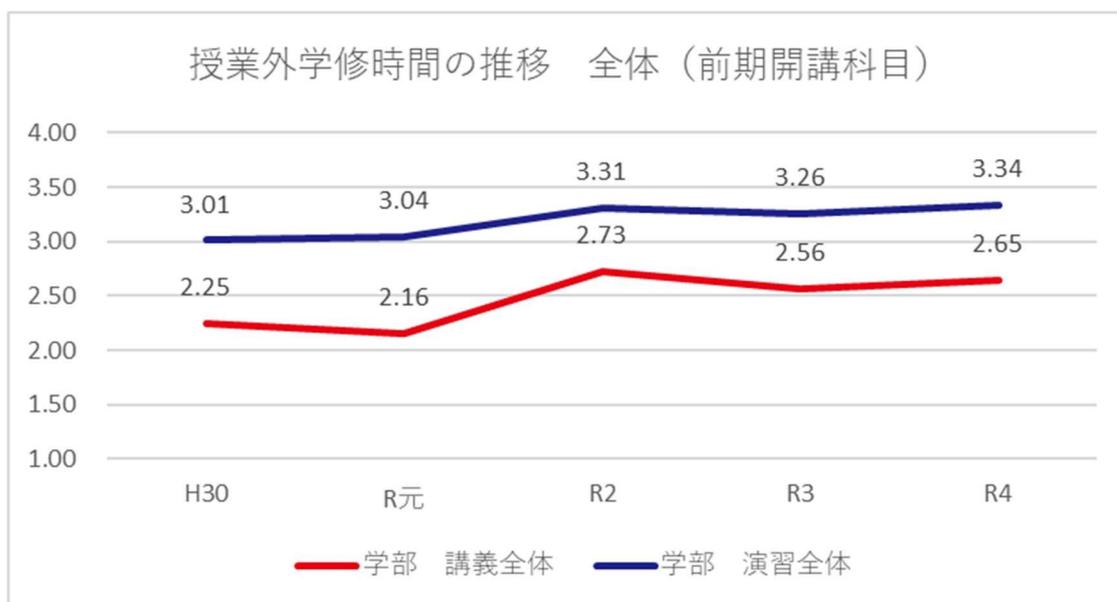
過去5年の回答の平均値を比較した。なお、令和2年度以降、「6. 4時間以上」は「5. 3時間以上4時間未満」とみなして算出している。

### ① 全体について

回答の平均値について分析した結果、対面授業を実施した令和元年度までと比較し、令和2年度には講義科目及び演習科目について授業外学修時間が増加したが、令和3年度には微減、令和4年度に微増している。

講義全体は平均値が2.0の範囲であるため、授業外学修時間は「2. 1時間未満」が平均、演習全体は平均値が3.0の範囲であるため、授業外学修時間は「3. 1時間以上2時間未満」が平均という結果になっている。

	H30	R元	R2	R3	R4
学部 講義全体	2.25	2.16	2.73	2.56	2.65
学部 演習全体	3.01	3.04	3.31	3.26	3.34

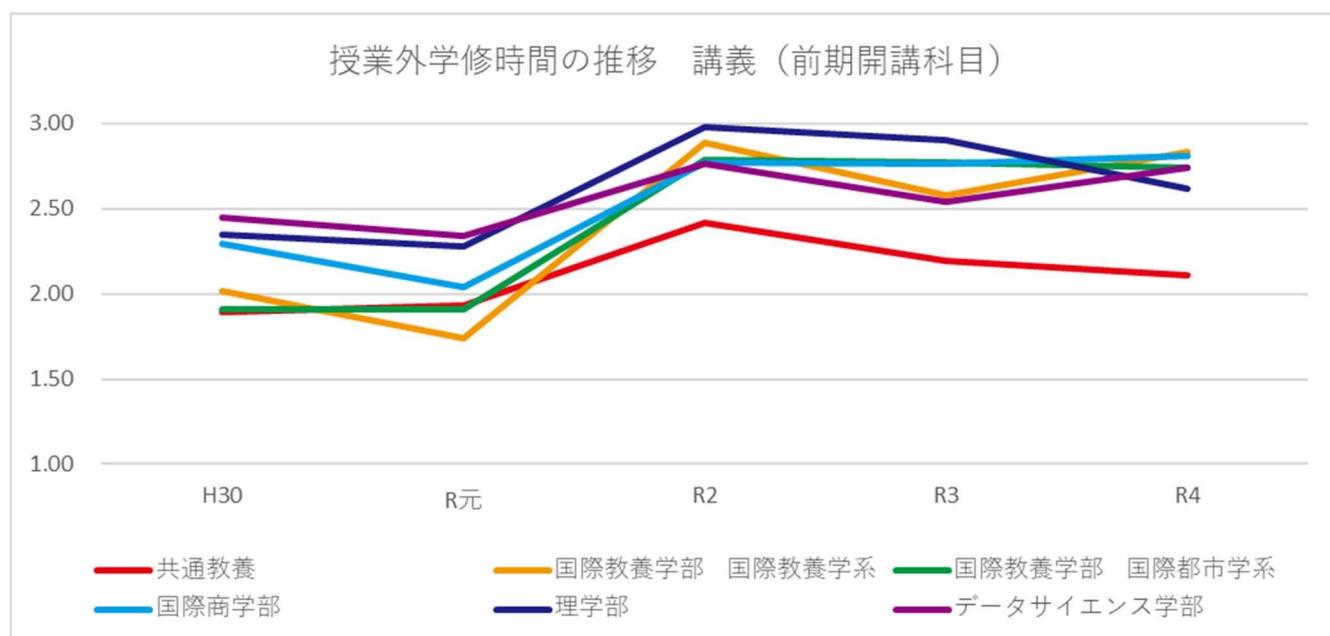


## ② 講義について

回答の平均値について分析した結果、令和3年度と比較し、令和4年度は全項目において減少傾向である。

全項目ともに平均値が2.0の範囲であるため、授業外学修時間は「2.1時間未満」が平均という結果になっている。

	H30	R元	R2	R3	R4
共通教養	1.89	1.93	2.42	2.19	2.11
国際教養学部 国際教養学系	2.02	1.74	2.89	2.58	2.83
国際教養学部 国際都市学系	1.91	1.91	2.79	2.77	2.74
国際商学部	2.29	2.04	2.77	2.76	2.81
理学部	2.35	2.28	2.98	2.90	2.62
データサイエンス学部	2.45	2.34	2.76	2.54	2.74

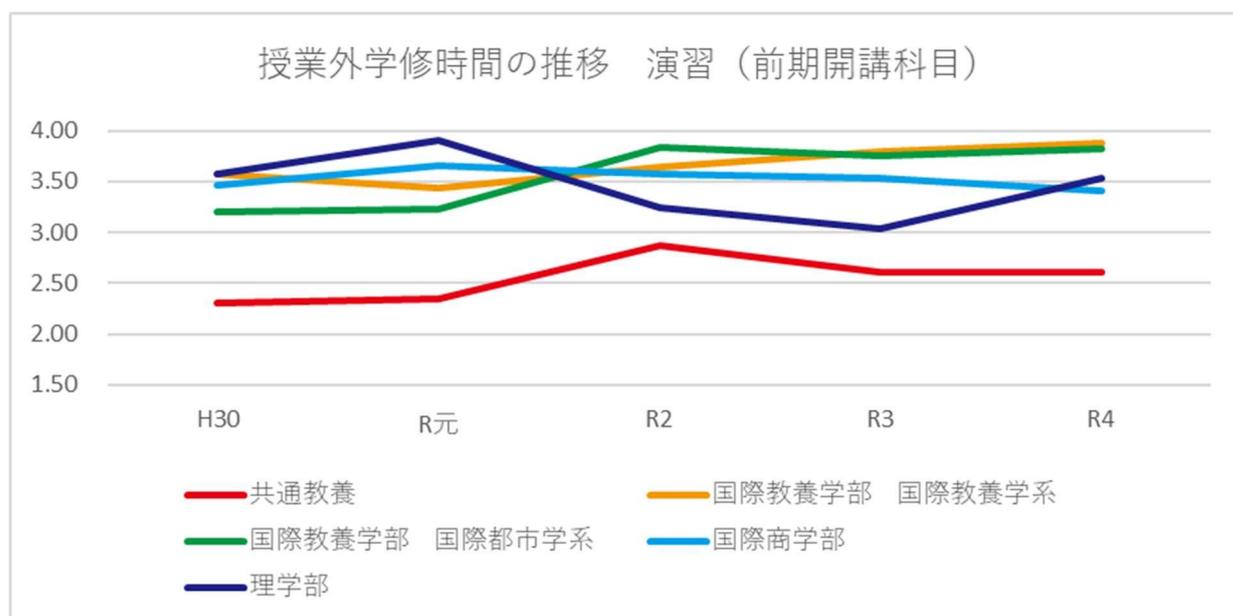


### ③ 演習について

回答の平均値について分析した結果、令和3年度と比較し、令和4年度は国際教養学部教養学系、都市学系、理学部において授業外学修時間が増加し、国際商学部において減少している。

共通教養においては、平均値が2.0の範囲であるため、授業外学修時間は「2. 1時間未満」、国際教養学部、国際商学部、理学部、データサイエンス学部においては、平均値が3.0の範囲であるため、授業外学修時間は「3. 1時間以上2時間未満」が平均という結果になっている。

	H30	R元	R2	R3	R4
共通教養	2.31	2.35	2.87	2.61	2.61
国際教養学部 国際教養学系	3.57	3.43	3.64	3.80	3.88
国際教養学部 国際都市学系	3.20	3.23	3.83	3.76	3.82
国際商学部	3.47	3.66	3.57	3.53	3.41
理学部	3.57	3.91	3.24	3.03	3.54



### ④ 科目グループごとの経年比較について

資料2：科目グループごとの経年比較表 参照

## 2. 今後の方針について

### (1) オンライン授業による授業外学修時間の変化について

令和2年度よりオンライン授業を導入したことによって、ほとんどの科目で授業外学修時間がオンライン授業導入前と比較して増加したが、令和3年度は授業外学修時間が減少し、令和4年度もほぼ同傾向となっている、

講義科目・演習科目に分けて検証すると、講義科目では授業外学習時間が減少し、演習科目では微増していることがわかった。講義科目の授業外学修時間の減少については、大学の授業実施方針が原則対面授業となったことに伴い、成績評価方法をレポート方式から試験方式に戻したこと等が一因として考えられる。

### (2) 学部通則に規定されている1単位あたりの学修時間について

大学設置基準に基づき、本学の各学部の通則で、単位は下記のように規定されている。

今回の結果により、現状では規程上十分な授業外学修時間が確保できているとは言えない状況であることから、授業外学修時間数を向上させる取組は継続すべきと考える。

(単位)

第4条 授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準によることを原則とする。

(1) 講義科目及び演習科目については、15時間の授業をもって1単位とする。

(2) 実験、実習、実技及び語学科目については、30時間の授業をもって1単位とする。

### (3) 今後の方針

オンライン授業の導入以降、対面授業のみであった令和元年度以前と比較して、授業外学修時間は増加しているものの、令和5年度からは原則対面で授業を実施するため、授業方法の変更による授業外学修時間数の変化については引き続き分析を行い、授業外学修時間を確保する方法の検討を進める。

また、データ分析元である授業評価アンケートの回答率が講義科目で28.8%、演習科目で40.4%と低い結果となっており、全学生の状況が反映されていない。授業評価アンケートの回答率を上げるため、質問内容の再検討、授業時間内で回答を依頼する等、対応を引き続き検討する。

## 授業評価アンケート設問

Q1. この授業にどの程度出席していましたか。

ほぼ 100%/80%以上/60%以上 80%未満/60%未満/ほとんど欠席

Q2. 授業時間以外に学修を一週間にどのくらいしましたか。

4 時間以上/3 時間以上 4 時間未満/2 時間以上 3 時間未満/1 時間以上 2 時間未満  
/1 時間未満/ほとんどしなかった

<以下、Q3～Q17 の選択肢は共通>

① そう思う ② どちらかといえばそう思う ③ どちらともいえない

④ どちらかといえば思わない ⑤ そう思わない

Q3. この授業に積極的に参加していましたか。

Q4. 事前に Web シラバスを十分に確認しましたか。

Q5. 教科書や資料等は授業の理解に役立ちましたか。

Q6. 教員の声の大きさやスピードは適切でしたか。

Q7. シラバスにもとづいて授業の学習到達目標について説明がありましたか

Q8. 教員は授業の秩序を維持していましたか。

Q9. 教員は熱意をもって授業の指導に当たっていましたか。

Q10. 授業は定刻通り開始されていましたか。

Q11. 学習到達目標は達成できましたか。

Q12. この授業で知的好奇心が刺激されましたか。

Q13. 今後の勉学に役立つと思いますか。

Q14. 総合的に見て満足できる授業でしたか。

Q15. 教員独自の質問①

Q16. 教員独自の質問②

Q17. 教員独自の質問③

Q18. (自由記述) 特に良かった点

Q19. (自由記述) 改善すべき点、提案

Q20. (自由記述) 大学について意見や要望

Q21. この授業をオンラインで受講して、良かった点はありましたか。(複数回答可)

① 教員や受講者間のコミュニケーションがとりやすい

② 集中力が続きやすい

③ オンライン上の資料や動画により、効率的な予習復習ができた

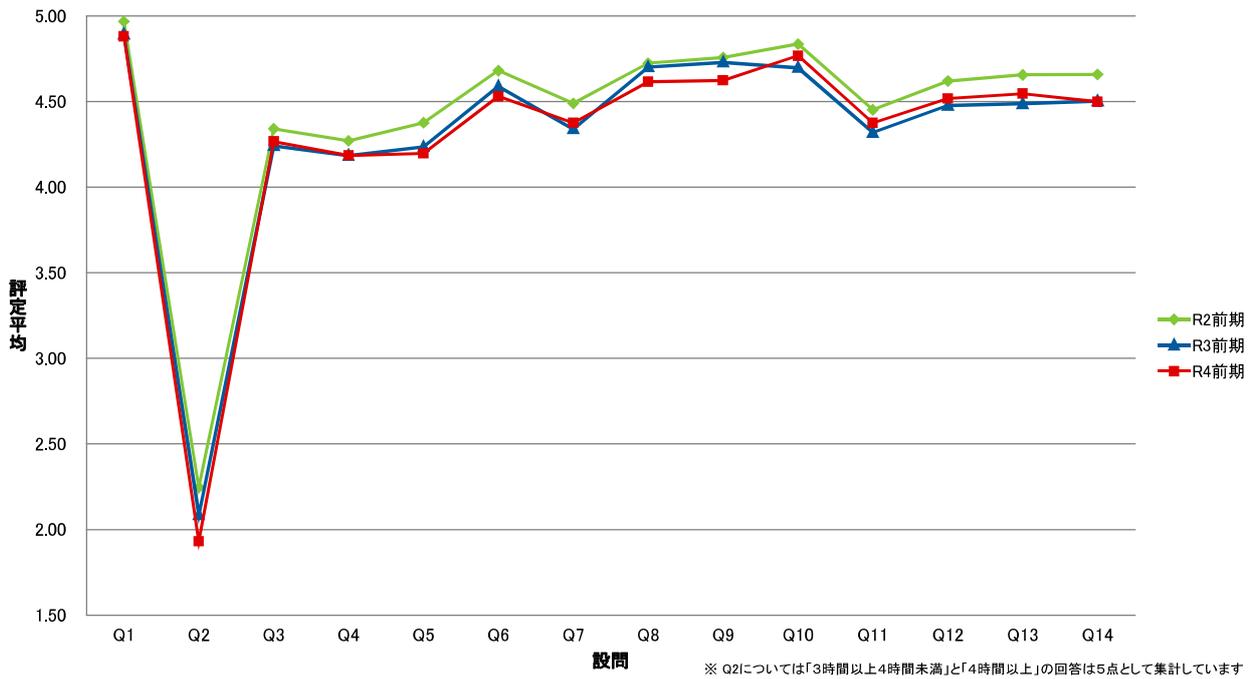
④ 自分のペースで学修できる

⑤ その他 (自由記述欄に記載してください)

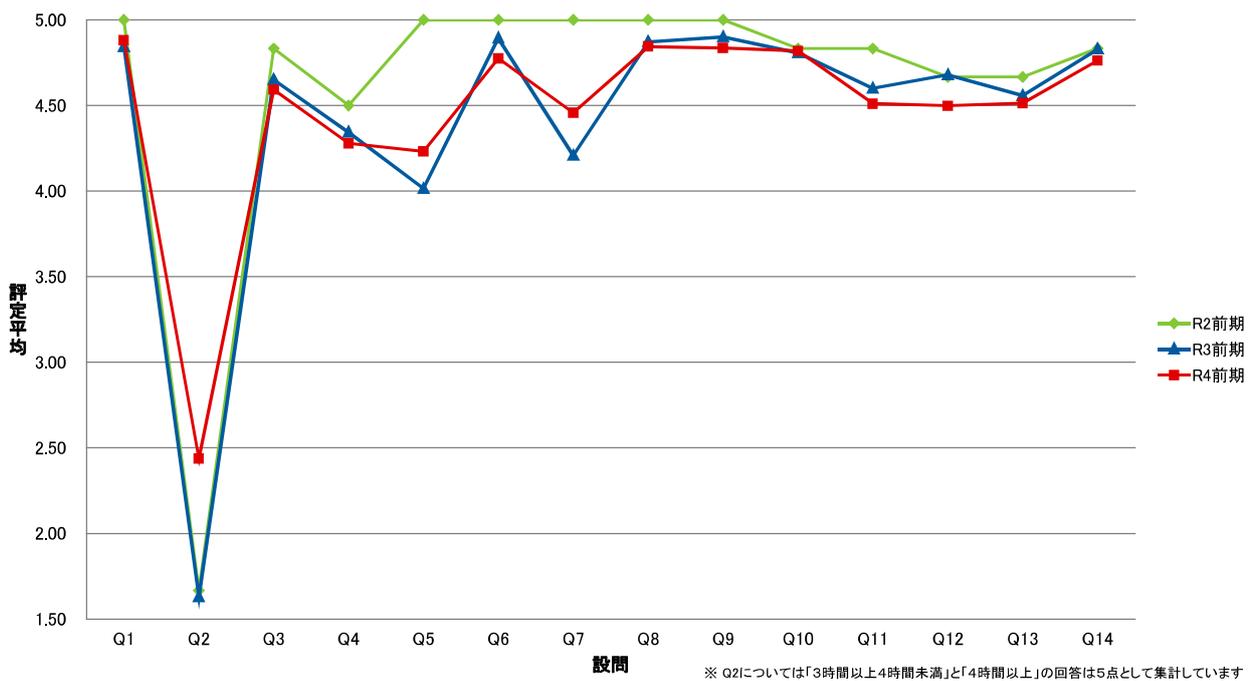
Q22 この授業をオンラインで受講して、不安な点がありましたか。(複数回答可)

- ① 教員や受講者間のコミュニケーションがとりづらい
- ② 集中力が続かない
- ③ 講義に対する負担(課題等)が大きい
- ④ 学修のペースが掴みにくい
- ⑤ 通信環境等や設備面での不安
- ⑥ その他(自由記述欄に記載してください)

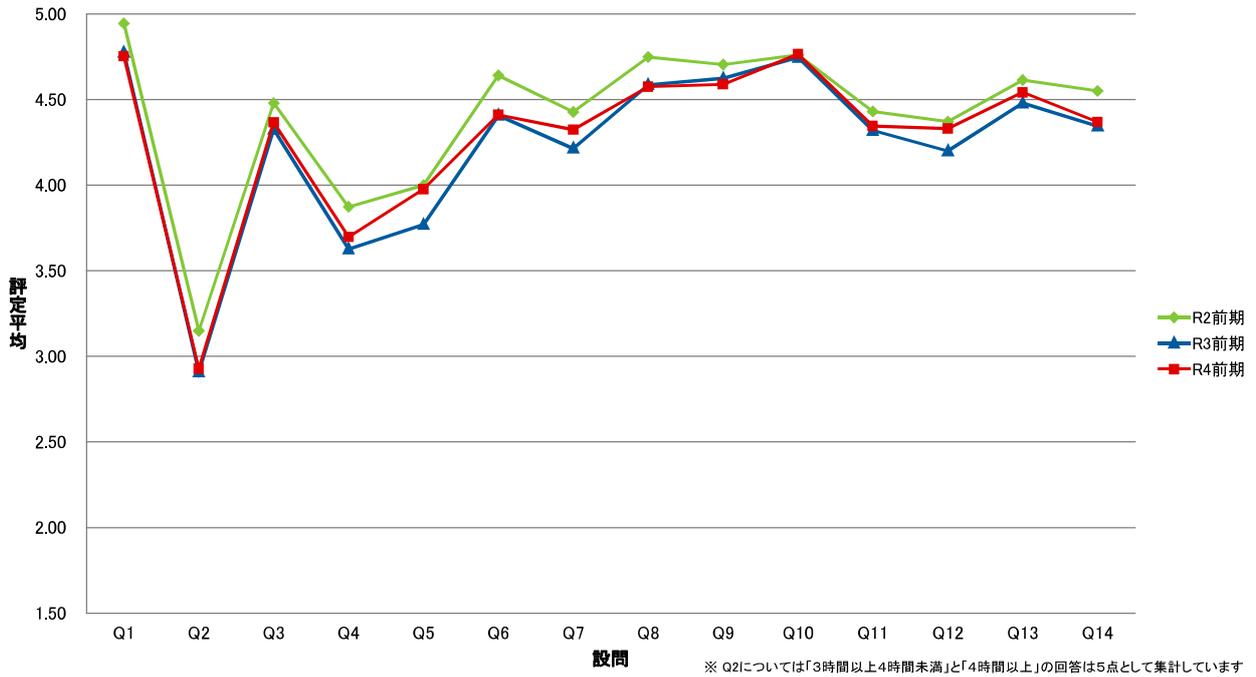
### LSG 共一総合講義【講】



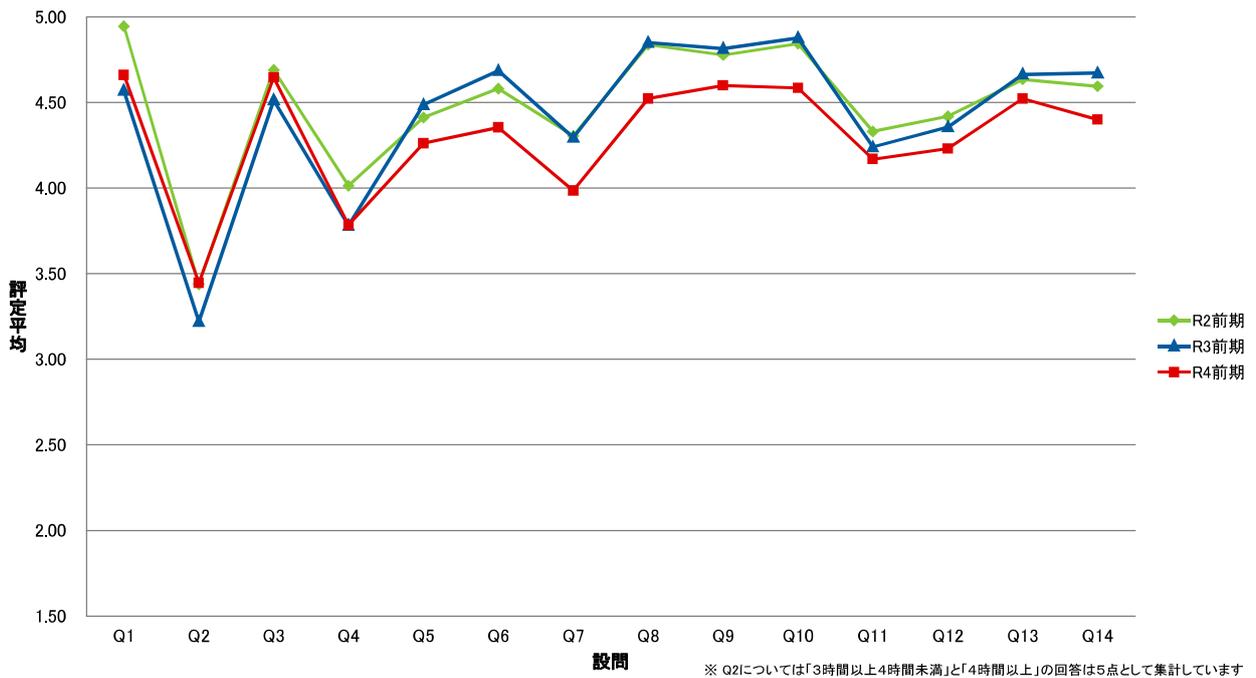
### LGI 共一実践科目【演】



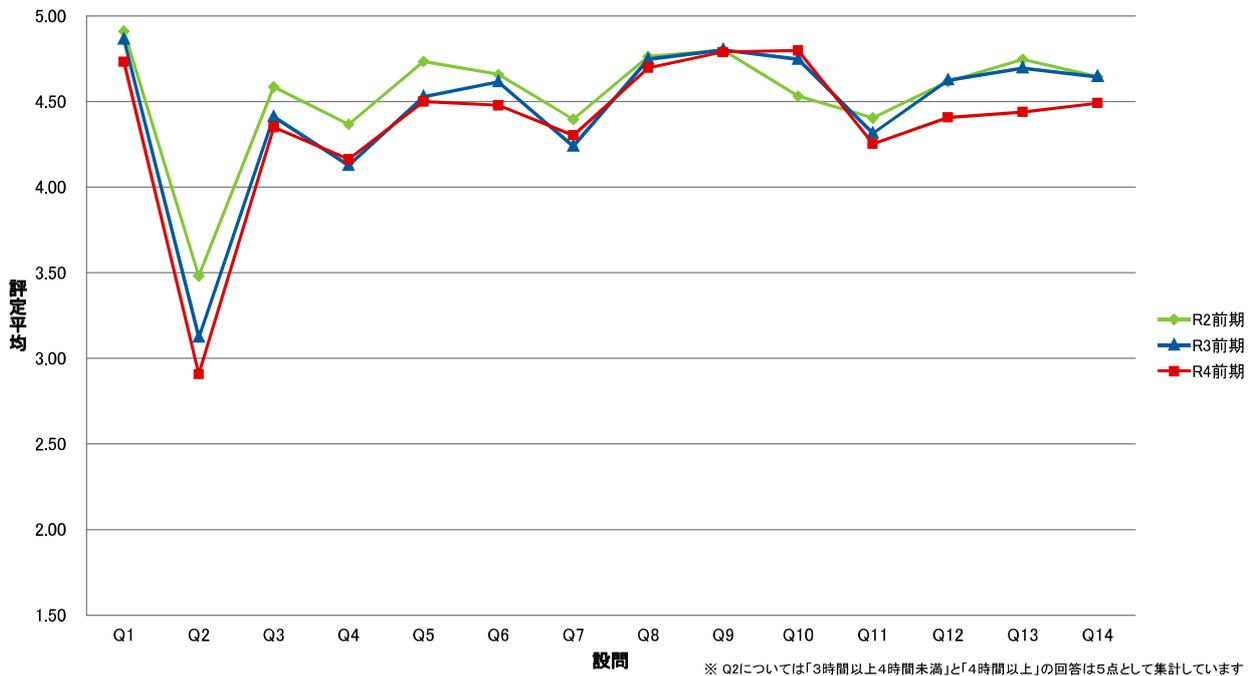
### LKY 共一教養ゼミ【演】



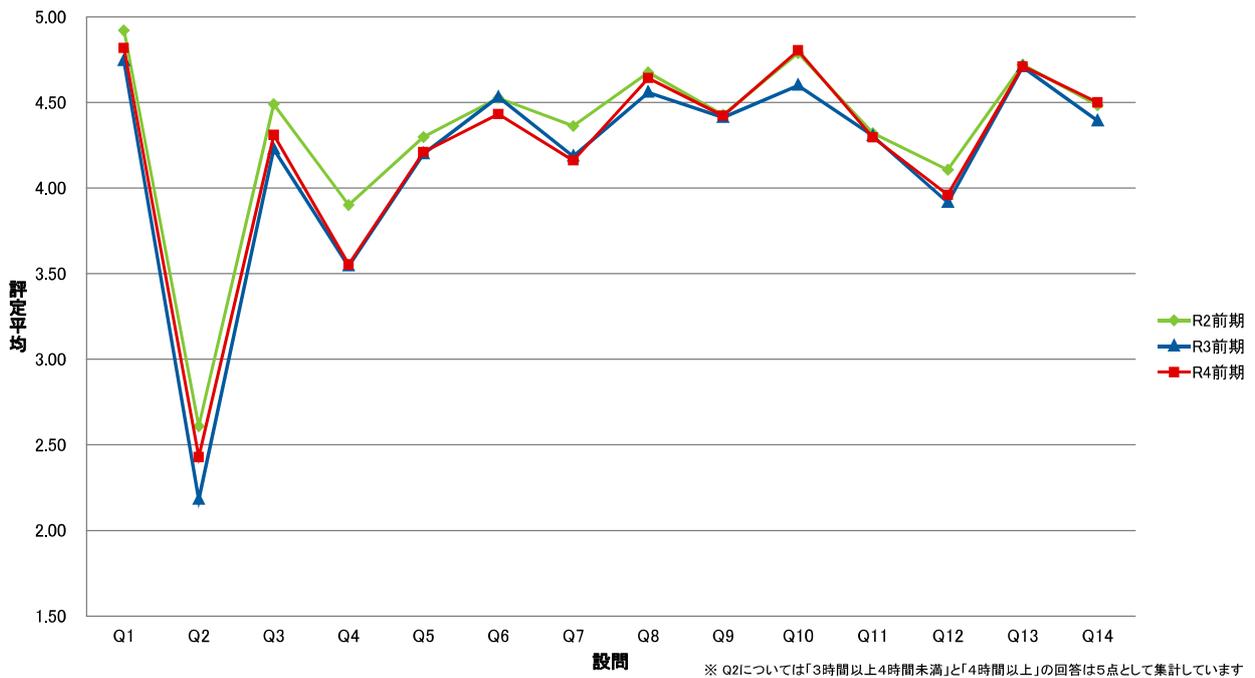
### LPE 共一PE【演】



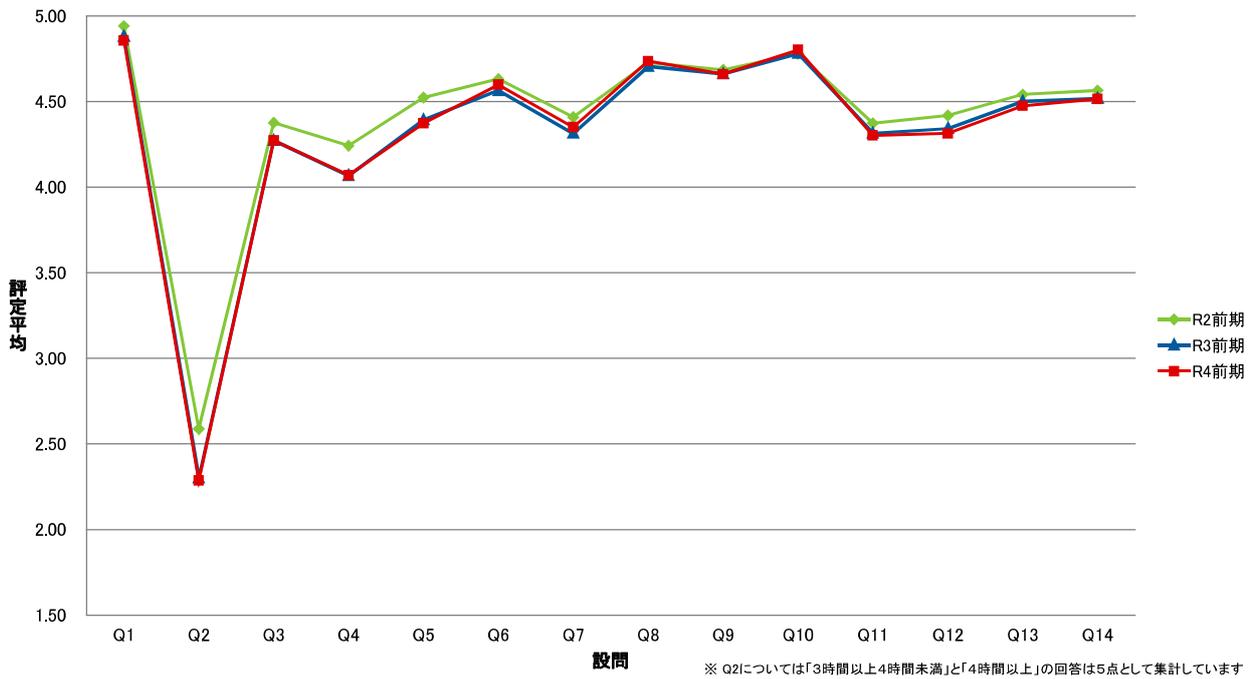
### LGO 共一語学(PE)以外【演】



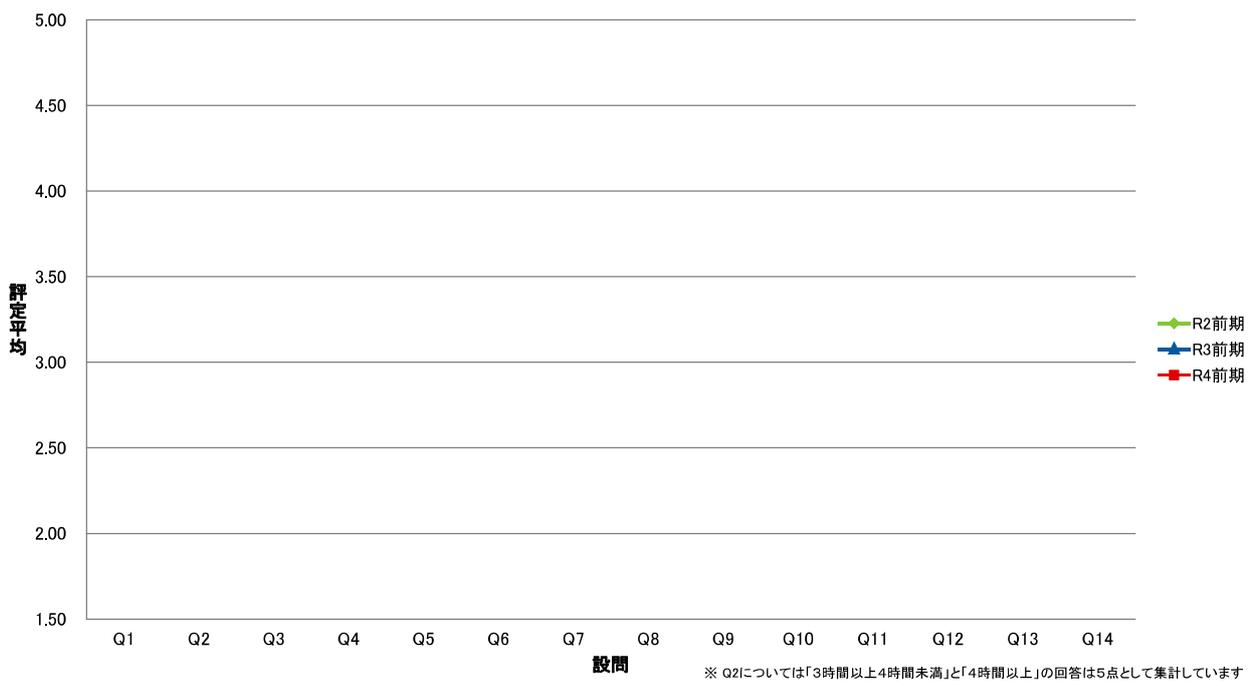
### LJO 共一情報コミュニケーション【演】



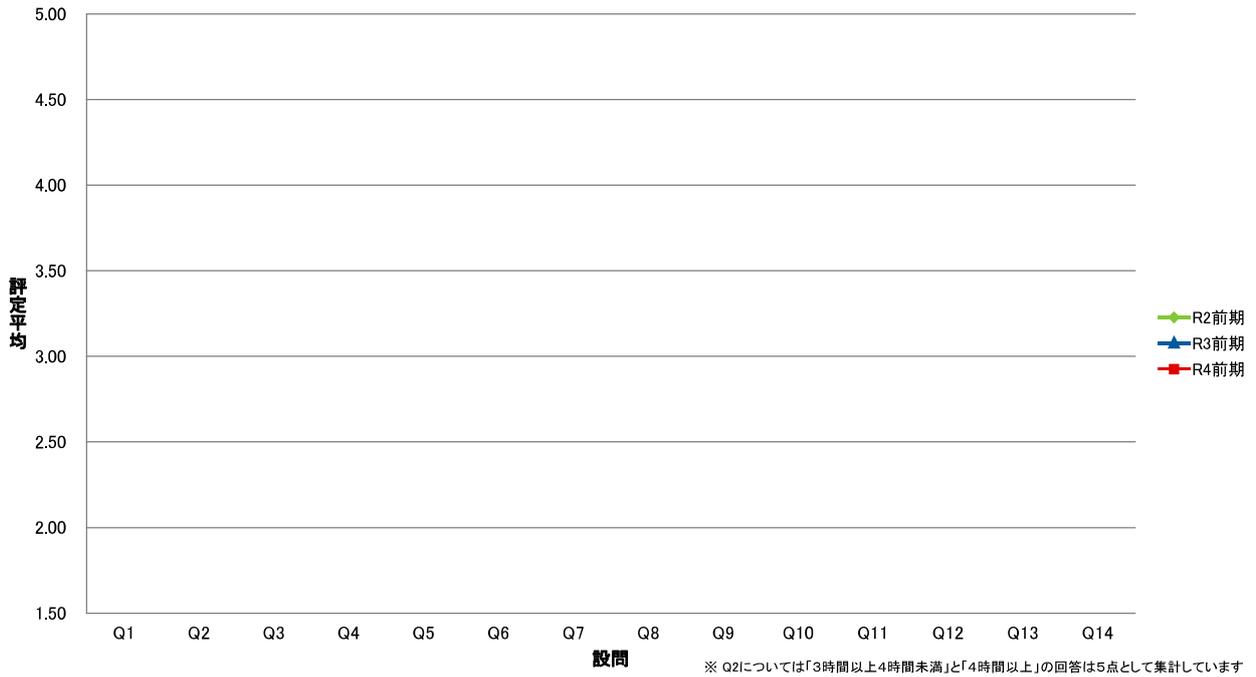
### LTK 共一専門連携・多文化交流ゼミ【講】



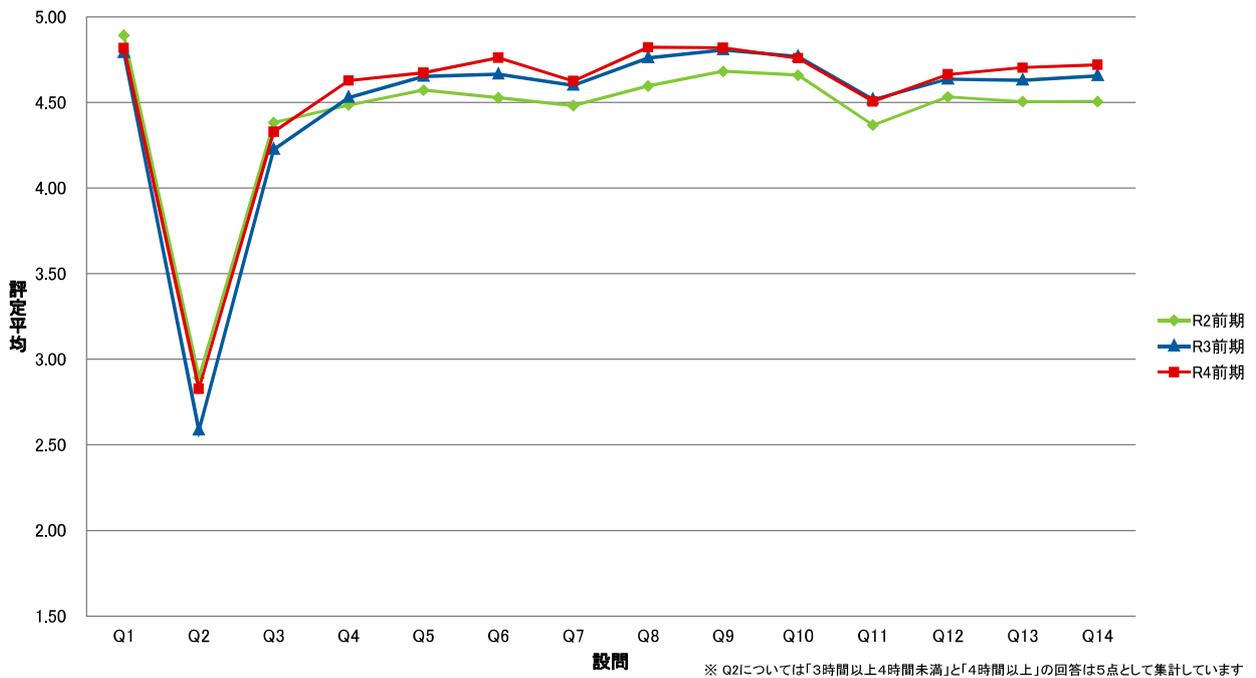
### LTE 共一専門連携・多文化交流ゼミ【演】



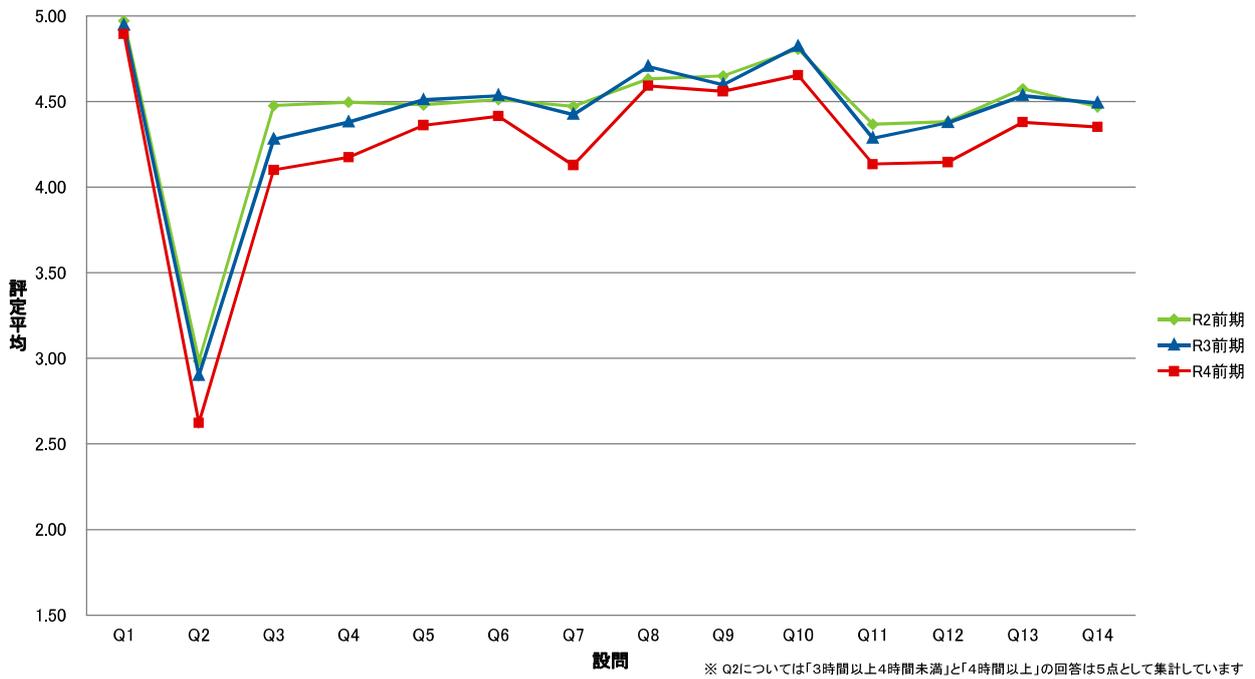
### LKE 共一基礎ゼミ【演】



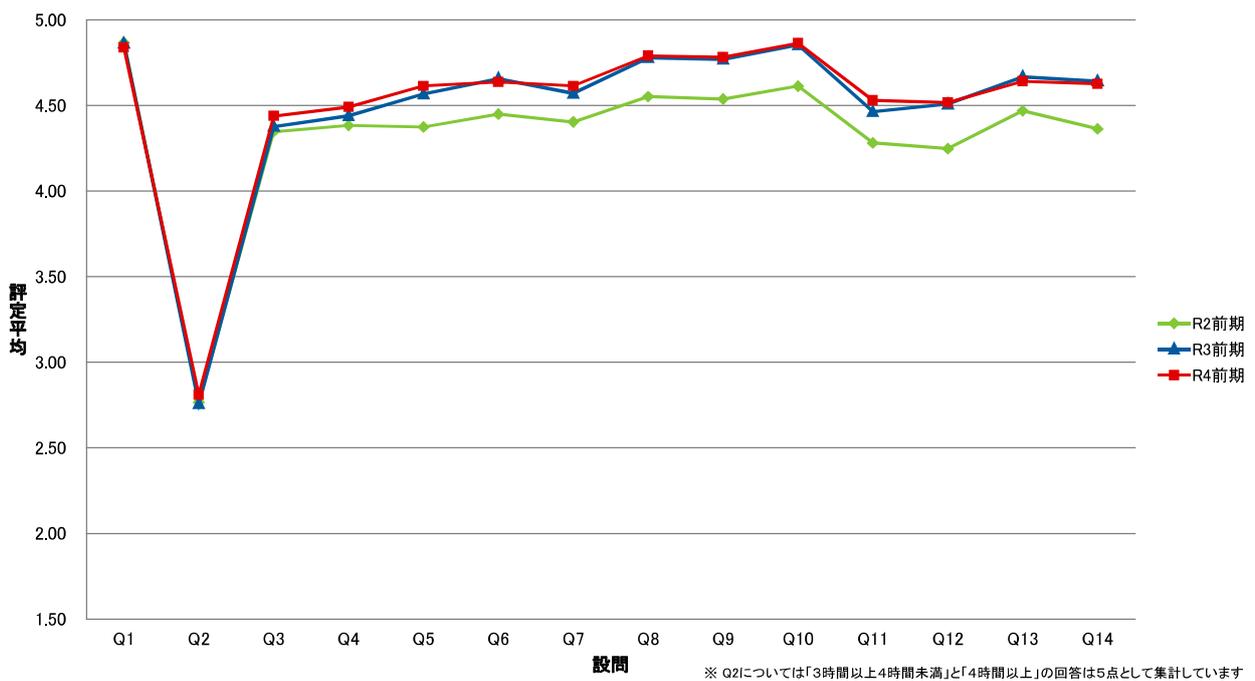
### SCO 専一国際教養学系/国際教養学部【講】



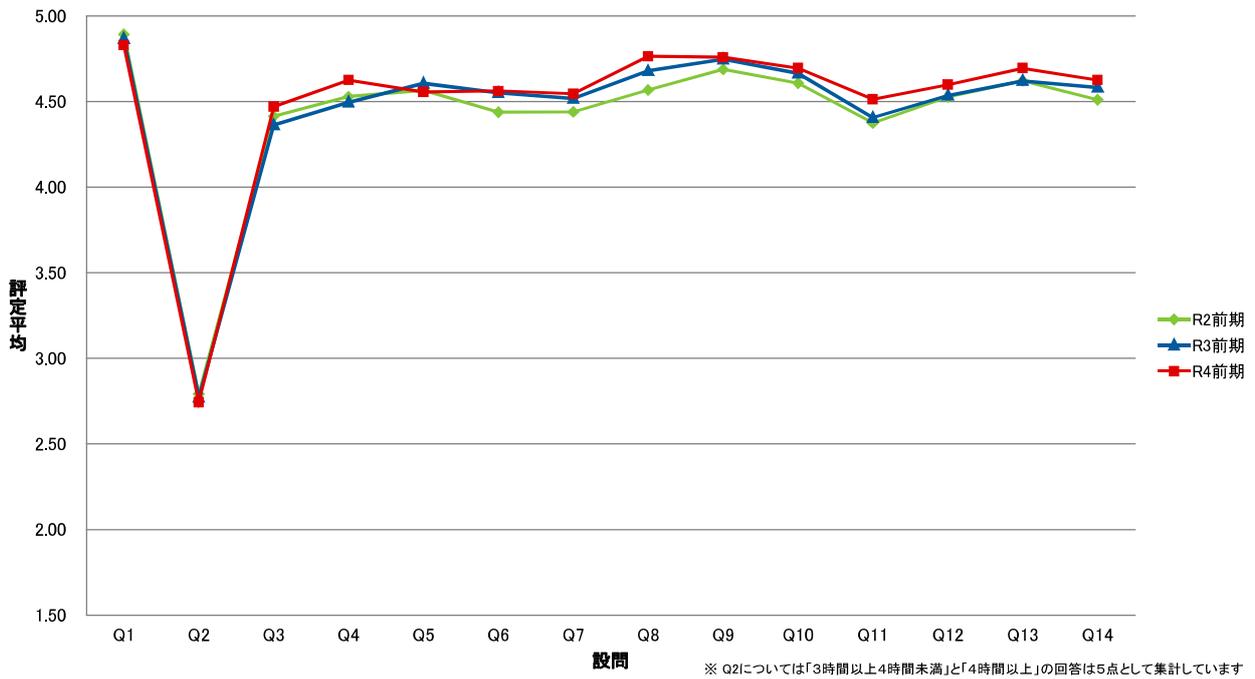
### SRI 専一理学系/理学部【講】



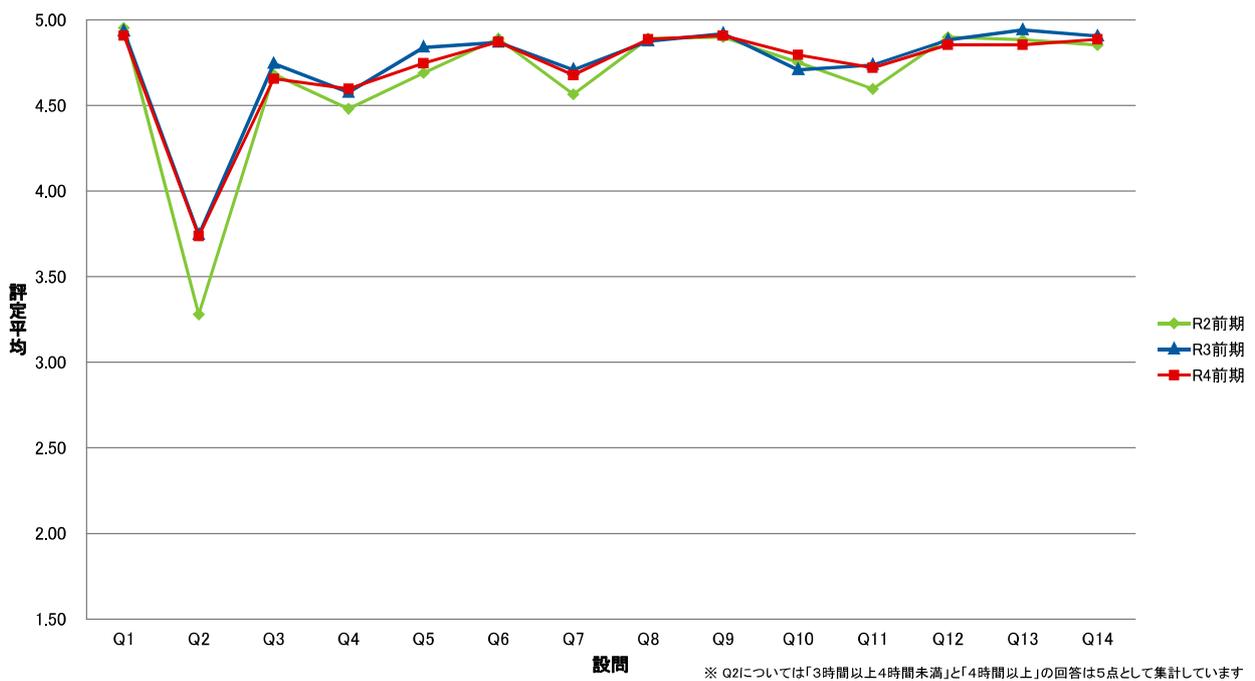
### SKK 専一経営科学系/国際商学部【講】



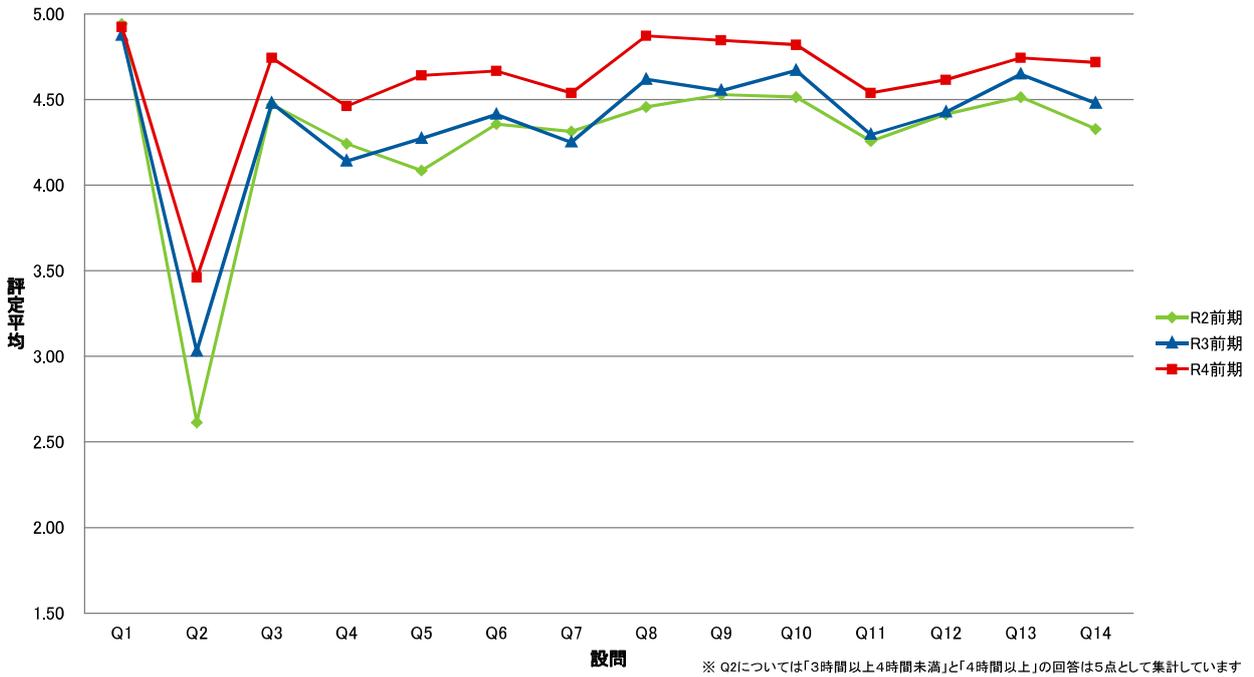
### STO 専一国際都市学系/国際教養学部【講】



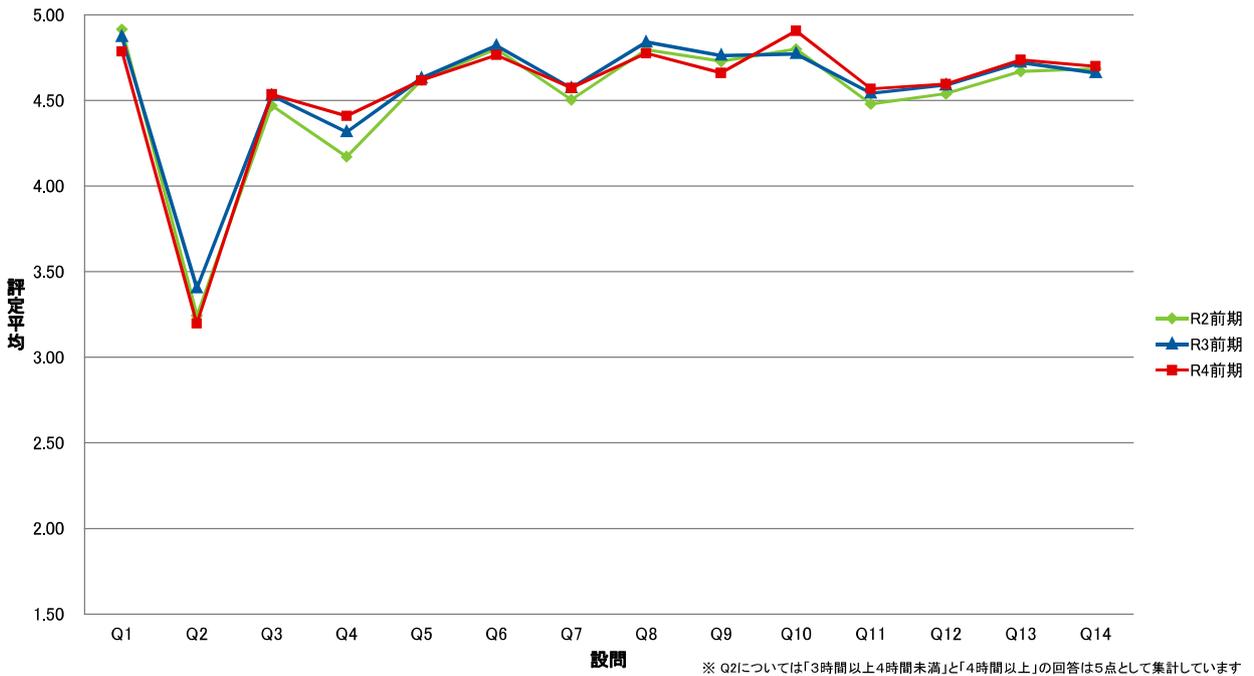
### SCE 専一国際教養学系/国際教養学部【演】



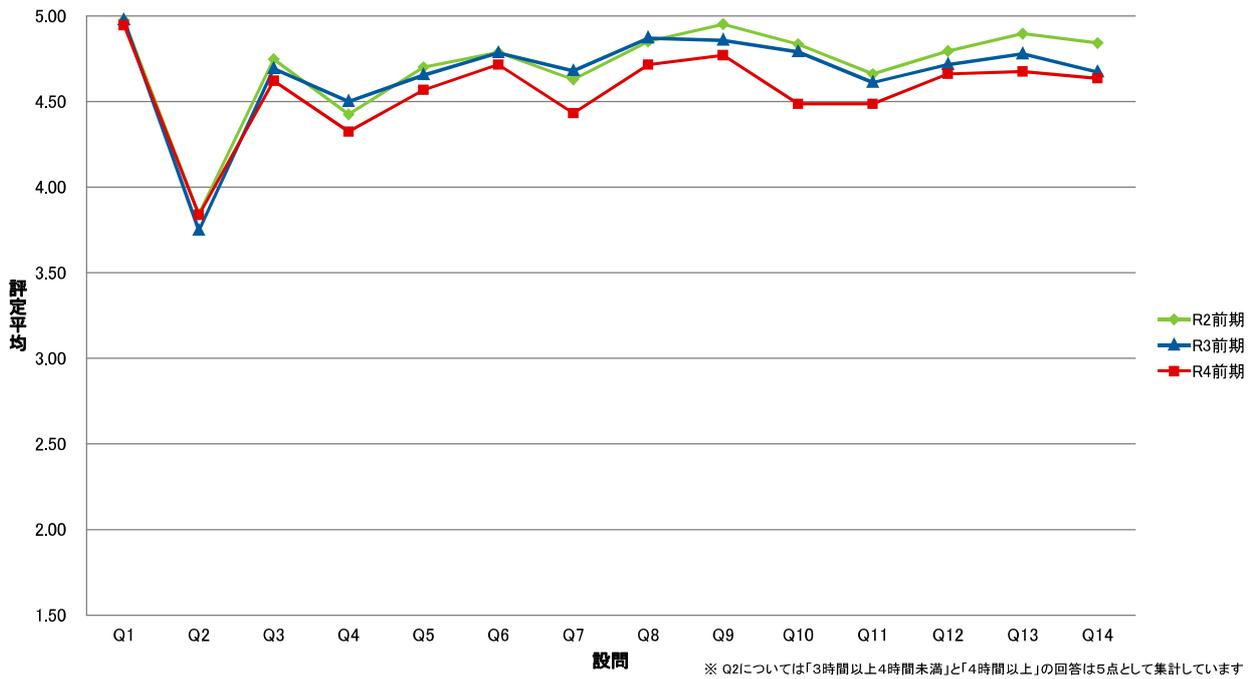
### SRE 専一理学系/理学部【演】



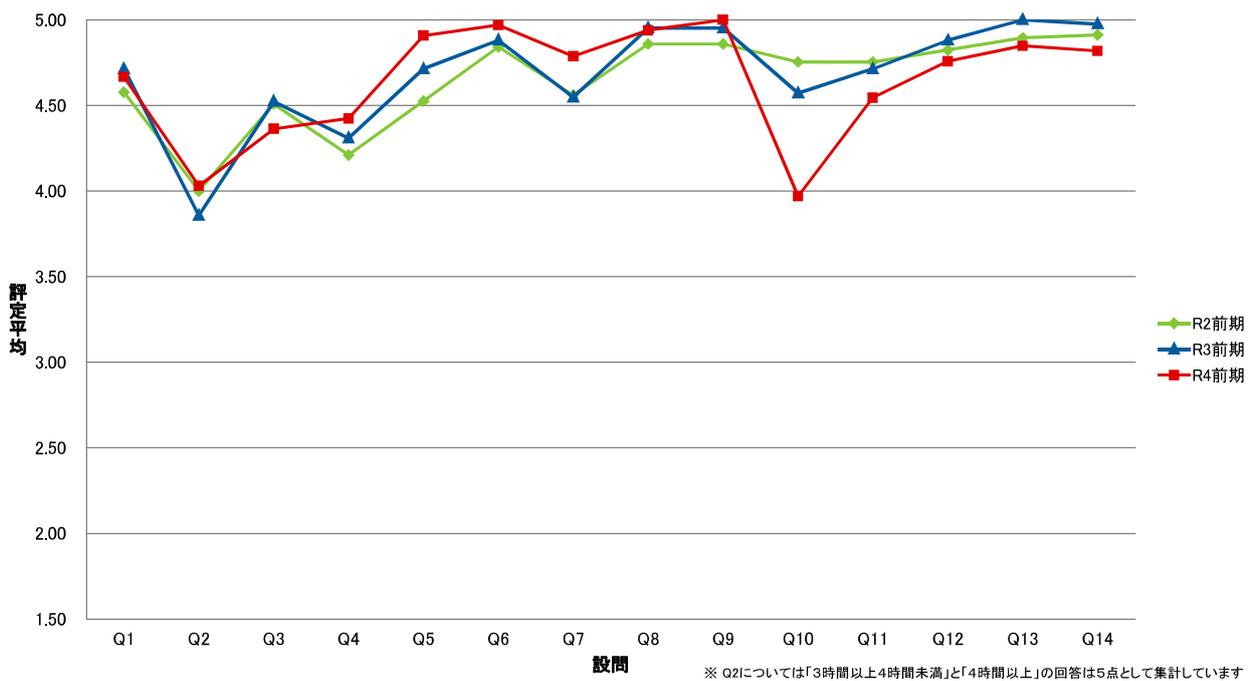
### SKE 専一経営科学系/国際商学部【演】



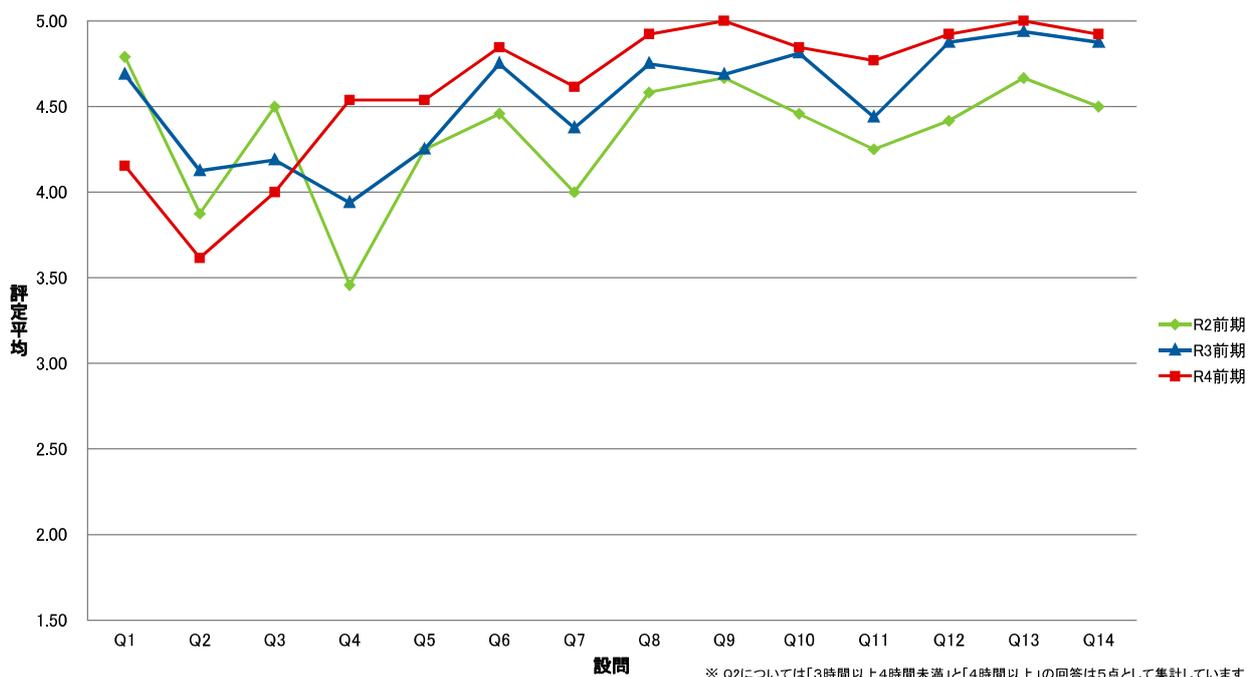
### STE 専一国際都市学系/国際教養学部【演】



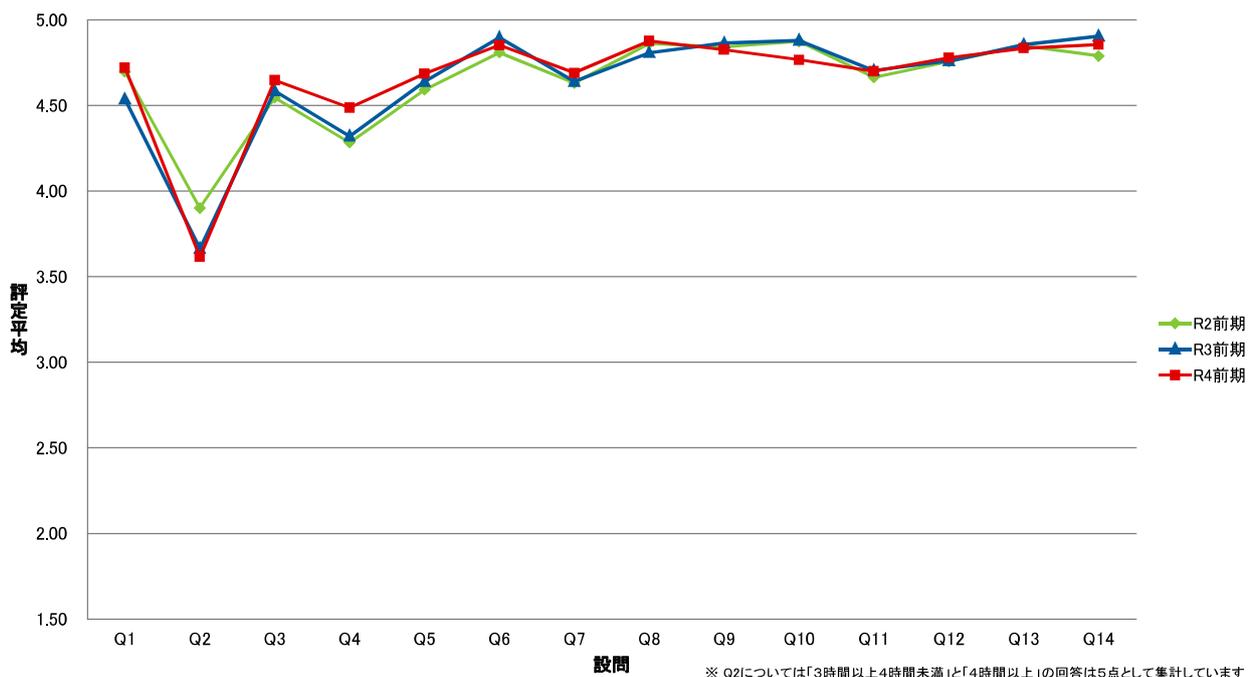
### ZCO 専・卒ゼミー国際教養学系【演】

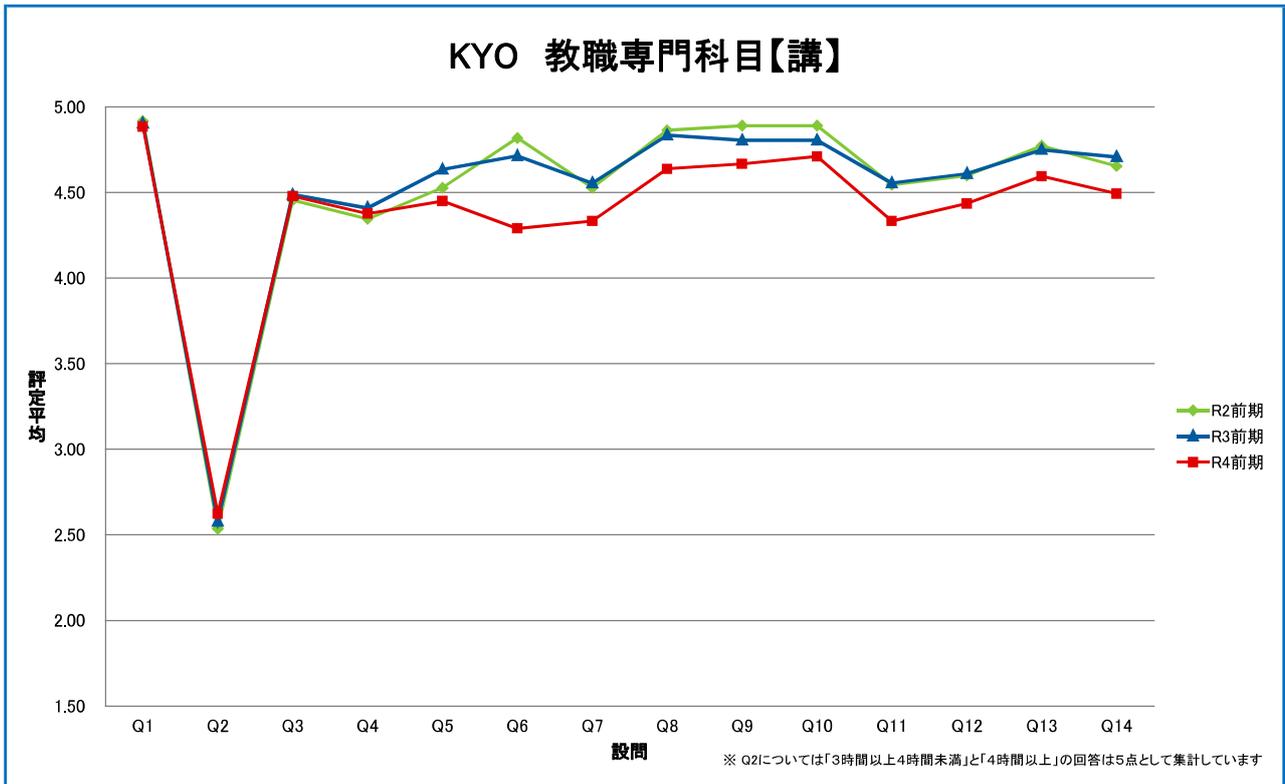
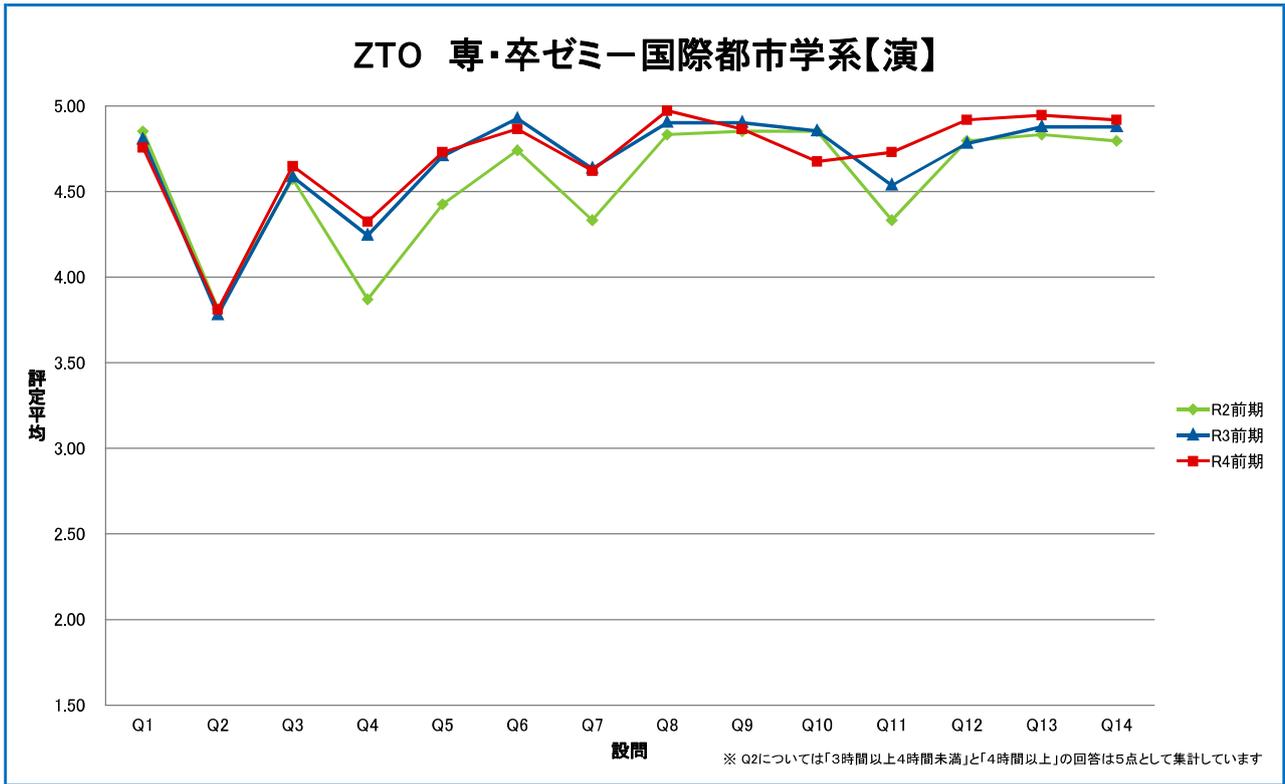


### ZRI 専・卒ゼミー理学系【演】

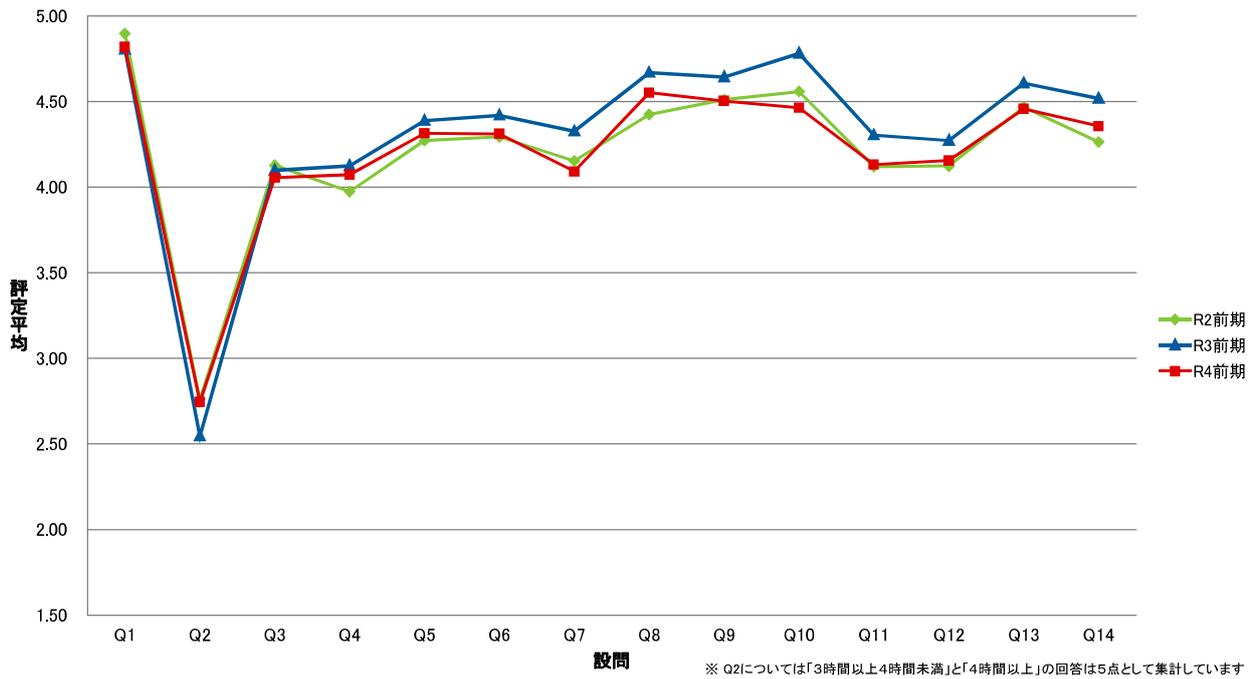


### ZKK 専・卒ゼミー経営科学系【演】





### DAT 共ーデータサイエンス学部系【講】



# 令和4年度前期科目における成績評価について

## 1 趣旨

令和4年度前期科目の成績評価について分析を実施しましたので、報告いたします。

## 2 分析対象データ

令和4年度前期科目のうち、下記条件をすべて満たす科目を対象としました。

- ・ 学部で開講された科目
- ・ 成績登録のあった科目
- ・ 講義科目（演習、実験、実習、インターンシップ、留学等ではない科目）
- ・ 「留学生対象の日本語に関する科目」ではない科目
- ・ 教職科目ではない科目
- ・ 成績が「秀」、「優」、「良」、「可」、「不合格」で判定される科目

## 3 分析方法

- ・ 成績を下表の通り GP に変換し、GP の平均値を算出しました。

成績	GP (数値)
秀	4.0
優	3.0
良	2.0
可	1.0
不可	0.0

- ・ 科目の所属学部別、分野別（科目コード※1先頭3桁で分類）に GP の平均値と、「秀」、「優」、「良」、「可」、「不合格」の割合をグラフにしました。

※1 科目コード…科目の学問分野や難易度を示した授業科目に付される番号

## 4 ご確認いただきたいポイント

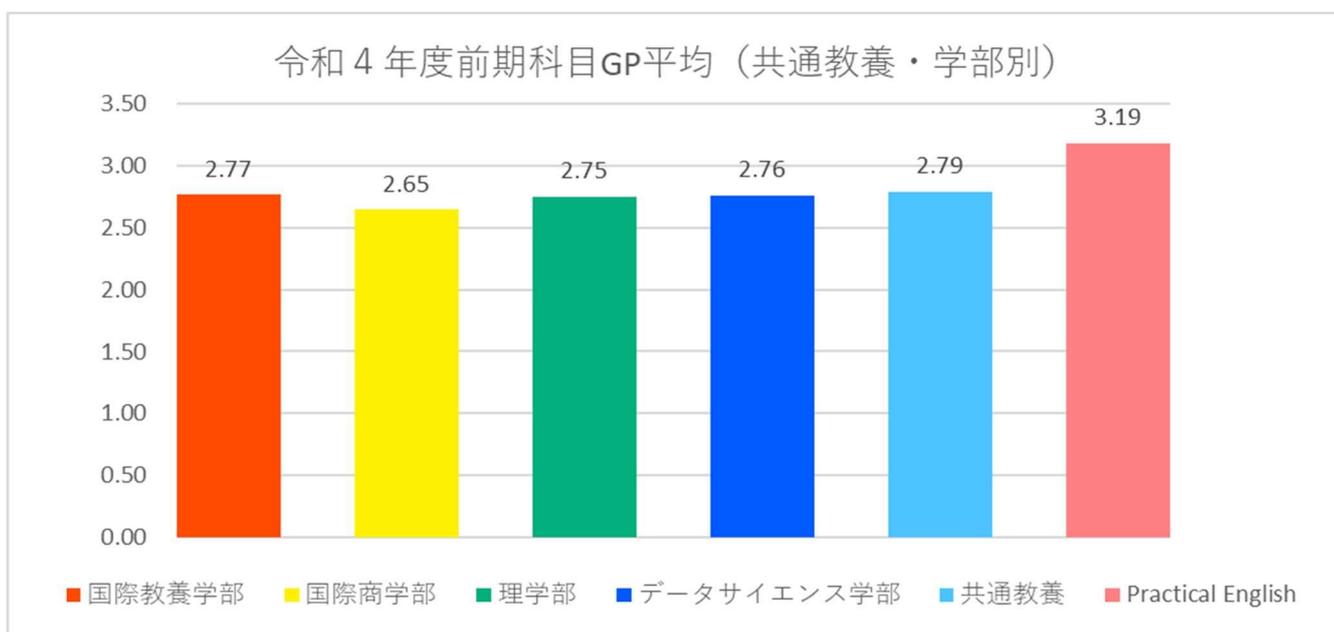
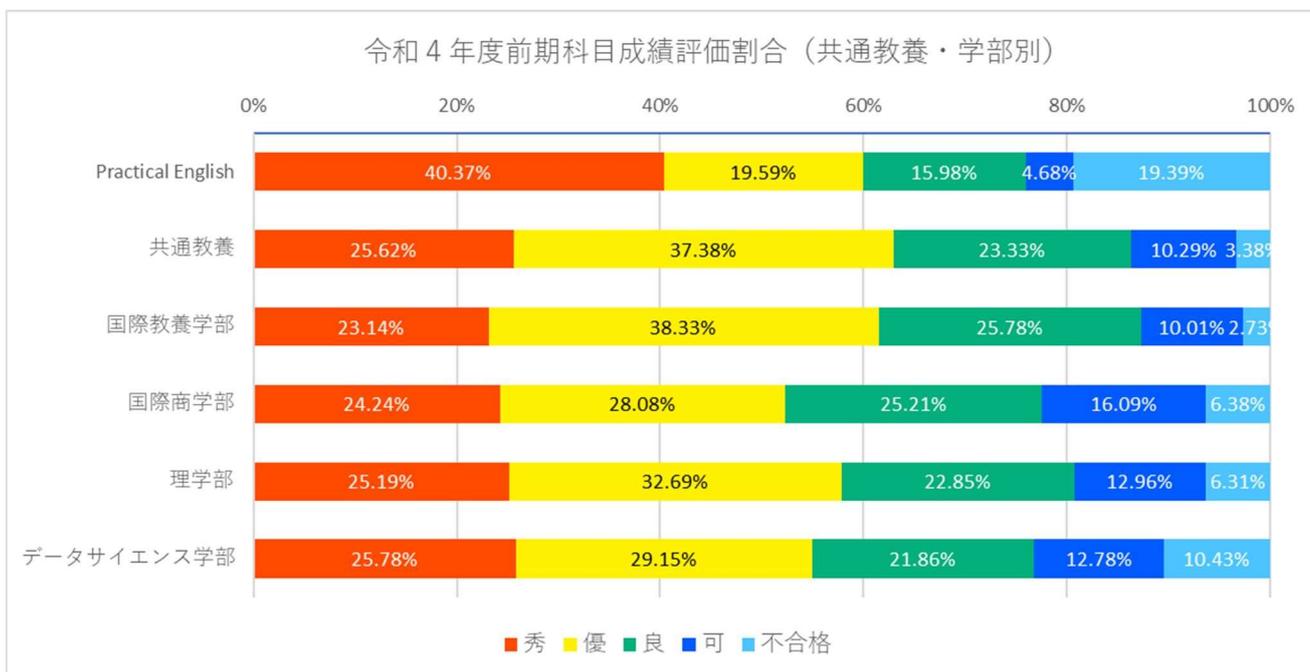
- ・ 現状の成績評価は「厳格かつ客観的に実施されている」といえるか。  
(例) 併行クラス間の成績等
- ・ 分野によって成績分布に差が見られるか。それは適正と判断できるものか。

## 5 分析結果

・ 全学部 ※()内は昨年度値

所属学部	科目数	GP 平均値	秀	優	良	可	不合格	成績登録者数
Practical English	36 (32)	3.19 (3.21)	40.37%	19.59%	15.98%	4.68%	19.39%	1206 (1187)
共通教養	167 (185)	2.79 (2.76)	25.62%	37.38%	23.33%	10.29%	3.38%	8776 (8882)
国際教養学部	145 (171)	2.77 (2.87)	23.14%	38.33%	25.78%	10.01%	2.73%	4565 (4700)
国際商学部	120 (125)	2.65 (2.61)	24.24%	28.08%	25.21%	16.09%	6.38%	4638 (4492)
理学部	60 (118)	2.75 (2.71)	25.19%	32.69%	22.85%	12.96%	6.31%	2198 (2493)
データサイエンス学部	29 (35)	2.76 (3.04)	25.78%	29.15%	21.86%	12.78%	10.43%	799 (1012)

・ 昨年度の GP 平均値と大幅な増減は見られなかった。



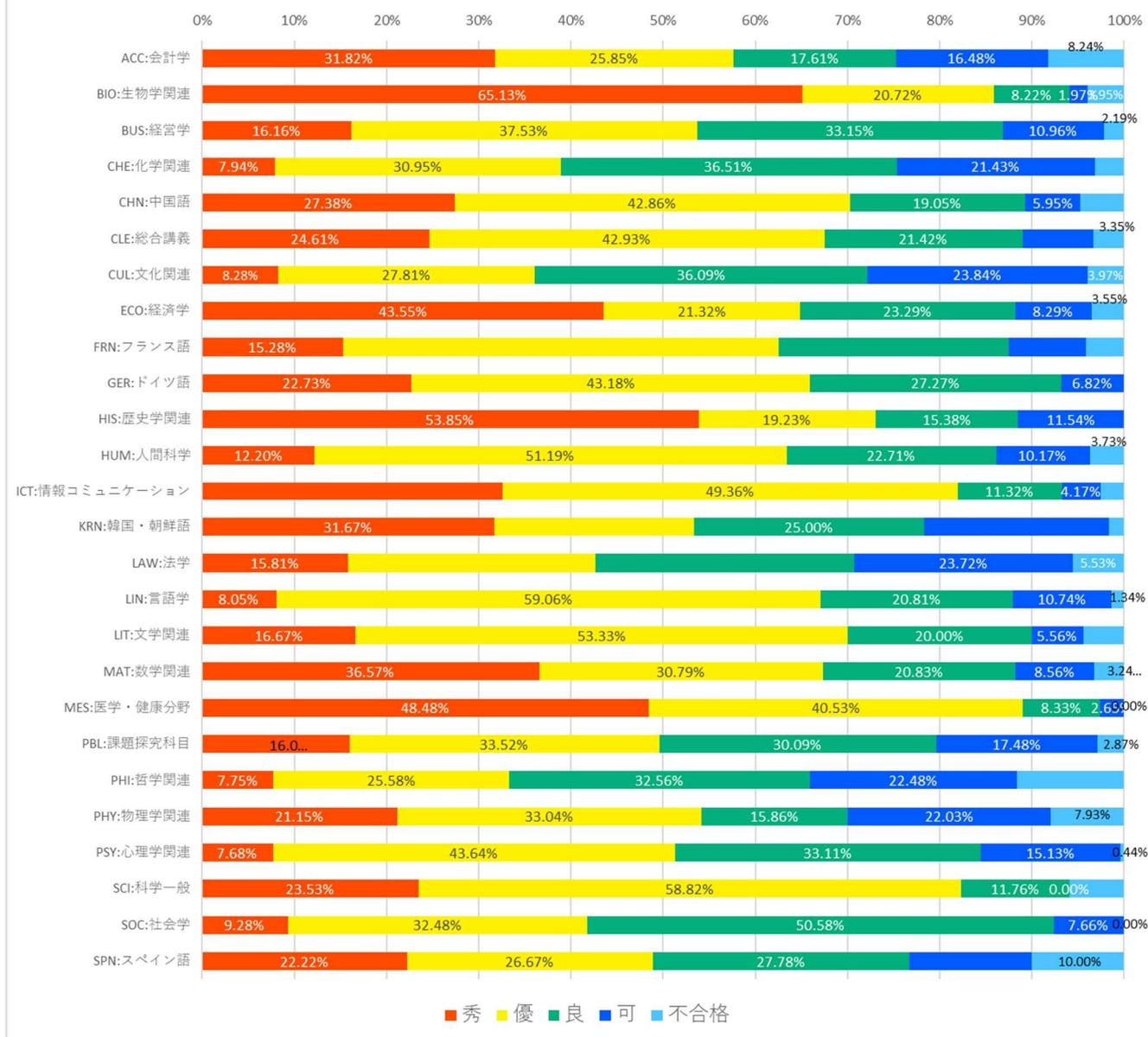
学部・分野別の平均値について

① 共通教養

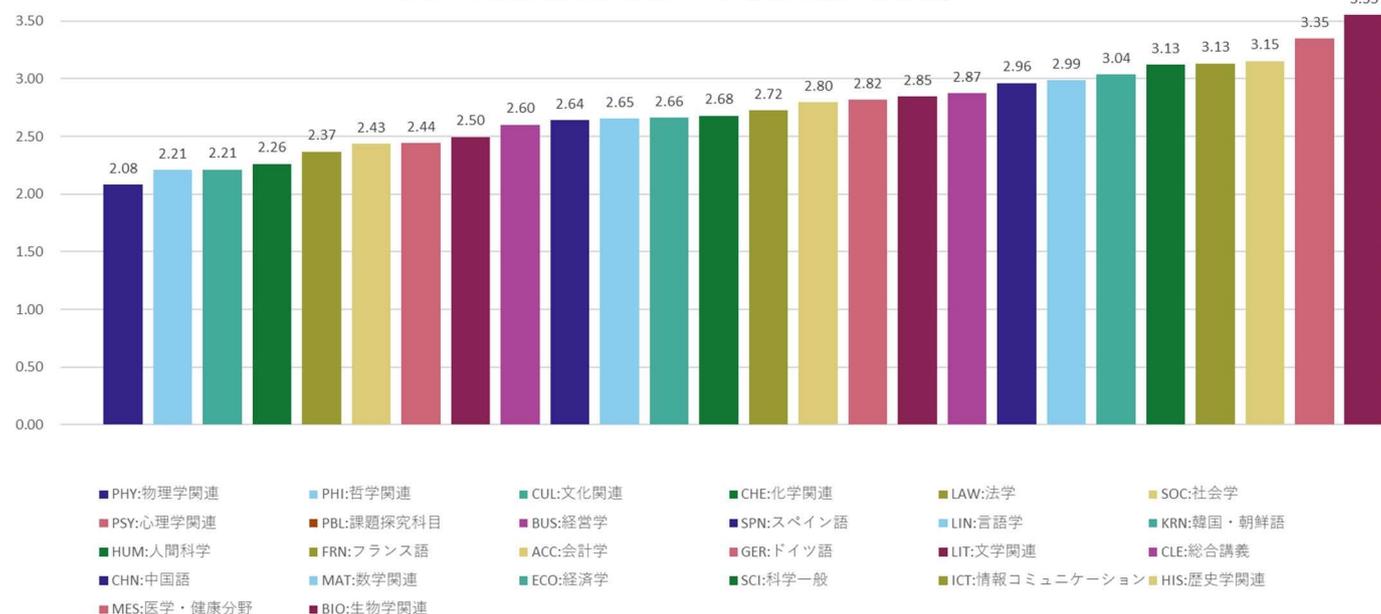
所属学部	科目数	GP 平均値	秀	優	良	可	不合格	成績登録者数
共通教養	167 (185)	2.79 (2.87)	25.62%	37.38%	23.33%	10.29%	3.38%	8776 (8882)
ACC:会計学	8 (8)	2.80 (2.28)	31.82%	25.85%	17.61%	16.48%	8.24%	323 (314)
BIO:生物学関連	4 (4)	3.55 (1.88)	65.13%	20.72%	8.22%	1.97%	3.95%	292 (279)
BUS:経営学	6 (6)	2.60 (3.26)	16.16%	37.53%	33.15%	10.96%	2.19%	357 (359)
CHE:化学関連	1 (2)	2.26 (2.40)	7.94%	30.95%	36.51%	21.43%	3.17%	122 (124)
CHN:中国語	10 (10)	2.96 (2.88)	27.38%	42.86%	19.05%	5.95%	4.76%	80 (90)
CLE:総合講義	23 (21)	2.87 (2.78)	24.61%	42.93%	21.42%	7.69%	3.35%	2337 (2400)
CUL:文化関連	1 (1)	2.21 (2.40)	8.28%	27.81%	36.09%	23.84%	3.97%	290 (289)
ECO:経済学	13 (14)	3.04 (2.89)	43.55%	21.32%	23.29%	8.29%	3.55%	733 (707)
FRN:フランス語	5 (7)	2.72 (2.69)	15.28%	47.22%	25.00%	8.33%	4.17%	69 (69)
GER:ドイツ語	4 (5)	2.82 (3.27)	22.73%	43.18%	27.27%	6.82%	0.00%	44 (57)
HIS:歴史学関連	2 (2)	3.15 (2.20)	53.85%	19.23%	15.38%	11.54%	0.00%	26 (51)
HUM:人間科学	1 (1)	2.68 (2.87)	12.20%	51.19%	22.71%	10.17%	3.73%	284 (291)
ICT:情報コミュニケーション	24 (32)	3.13 (3.04)	32.59%	49.36%	11.32%	4.17%	2.56%	912 (923)
KRN:韓国・朝鮮語	6 (7)	2.66 (2.82)	31.67%	21.67%	25.00%	20.00%	1.67%	59 (44)
LAW:法学	6 (6)	2.37 (2.70)	15.81%	26.88%	28.06%	23.72%	5.53%	239 (267)
LIN:言語学	2 (2)	2.65 (2.46)	8.05%	59.06%	20.81%	10.74%	1.34%	147 (141)
LIT:文学関連	4 (4)	2.85 (2.53)	16.67%	53.33%	20.00%	5.56%	4.44%	86 (103)
MAT:数学関連	7 (10)	2.99 (2.99)	36.57%	30.79%	20.83%	8.56%	3.24%	418 (397)
MES:医学・健康分野	2 (2)	3.35 (2.48)	48.48%	40.53%	8.33%	2.65%	0.00%	264 (273)
PBL:課題探究科目	14 (15)	2.50 (2.75)	16.05%	33.52%	30.09%	17.48%	2.87%	339 (522)
PHI:哲学関連	1 (2)	2.21 (2.36)	7.75%	25.58%	32.56%	22.48%	11.63%	114 (134)
PHY:物理学関連	6 (6)	2.08 (2.05)	21.15%	33.04%	15.86%	22.03%	7.93%	259 (274)
PSY:心理学関連	6 (6)	2.44 (2.74)	7.68%	43.64%	33.11%	15.13%	0.44%	454 (336)
SCI:科学一般	1 (1)	3.13 (3.50)	23.53%	58.82%	11.76%	0.00%	5.88%	16 (6)
SOC:社会学	4 (4)	2.43 (2.73)	9.28%	32.48%	50.58%	7.66%	0.00%	431 (359)
SPN:スペイン語	6 (7)	2.64 (2.50)	22.22%	26.67%	27.78%	13.33%	10.00%	81 (73)

・「ACC:会計学」「BIO:生物学関連」「HIS:歴史学関連」「MES:医学・健康分野」において、GP 平均値が上昇し、「BUS:経営学」「SCI:科学一般」において低下している。

令和4年度前期科目成績評価割合（共通教養・分野別）



令和4年度前期科目科目GP平均（共通教養・分野別）



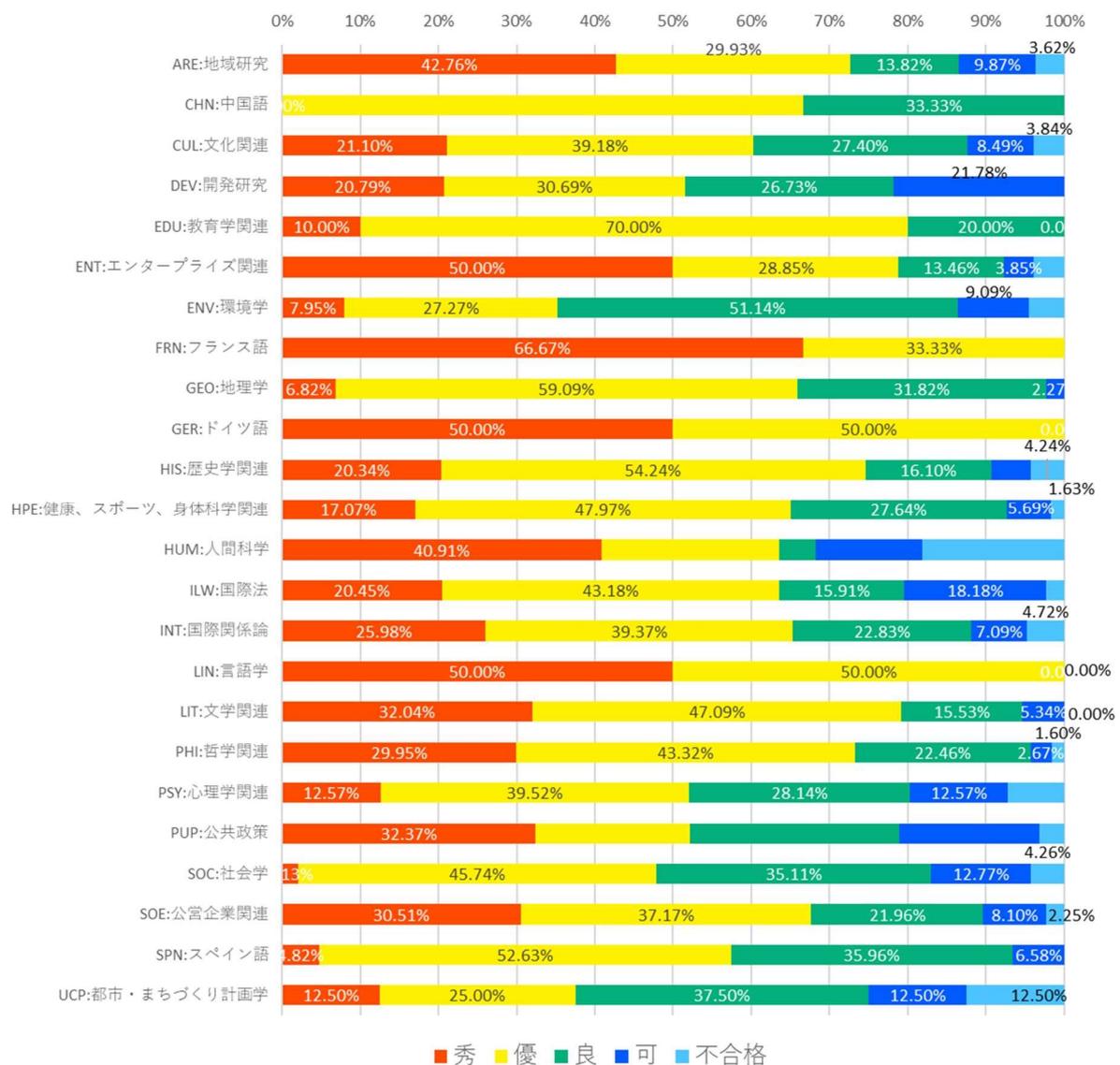
## 1. 分析結果

・国際教養学部 ※()内は昨年度値

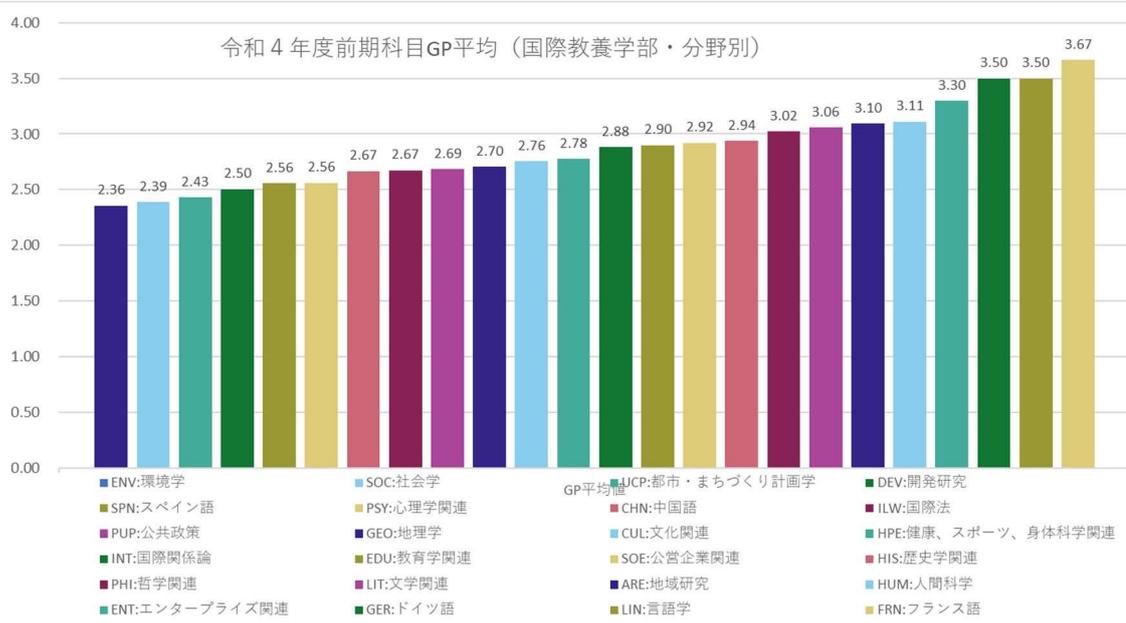
所属学部	科目数	GP 平均値	秀	優	良	可	不合格	成績登録者数
国際教養学部	145 (171)	2.77 (2.85)	23.14%	38.33%	25.78%	10.01%	2.73%	4565 (4700)
ARE:地域研究	7 (8)	3.10 (3.09)	42.76%	29.93%	13.82%	9.87%	3.62%	293 (258)
CHN:中国語	1 (1)	2.67 (2.00)	0.00%	66.67%	33.33%	0.00%	0.00%	3 (1)
CUL:文化関連	22 (23)	2.76 (2.76)	21.10%	39.18%	27.40%	8.49%	3.84%	351 (397)
DEV:開発研究	2 (1)	2.50 (2.63)	20.79%	30.69%	26.73%	21.78%	0.00%	101 (72)
EDU:教育学関連	1 (2)	2.90 (3.00)	10.00%	70.00%	20.00%	0.00%	0.00%	10 (10)
ENT:エンタープライズ関連	2 (2)	3.30 (3.67)	50.00%	28.85%	13.46%	3.85%	3.85%	50 (42)
ENV:環境学	3 (4)	2.36 (3.12)	7.95%	27.27%	51.14%	9.09%	4.55%	84 (82)
FRN:フランス語	1 (1)	3.67 (3.67)	66.67%	33.33%	0.00%	0.00%	0.00%	3 (3)
GEO:地理学	2 (5)	2.70 (2.40)	6.82%	59.09%	31.82%	2.27%	0.00%	44 (82)
GER:ドイツ語	1 (1)	3.50 (3.00)	50.00%	50.00%	0.00%	0.00%	0.00%	2 (5)
HIS:歴史学関連	8 (10)	2.94 (2.63)	20.34%	54.24%	16.10%	5.08%	4.24%	113 (178)
HPE:健康、スポーツ、身体科学関連	2 (2)	2.78 (2.77)	17.07%	47.97%	27.64%	5.69%	1.63%	121 (127)
HUM:人間科学	2 (3)	3.11 (1.53)	40.91%	22.73%	4.55%	13.64%	18.18%	18 (17)
ILW:国際法	4 (2)	2.67 (2.96)	20.45%	43.18%	15.91%	18.18%	2.27%	43 (32)
INT:国際関係論	9 (14)	2.88 (2.96)	25.98%	39.37%	22.83%	7.09%	4.72%	121 (114)
KRN:韓国・朝鮮語	1 (-)	3.50 (-)	50.00%	50.00%	0.00%	0.00%	0.00%	6 (-)
LIN:言語学	6 (8)	3.06 (3.09)	32.04%	47.09%	15.53%	5.34%	0.00%	206 (92)
LIT:文学関連	12 (14)	3.02 (3.25)	29.95%	43.32%	22.46%	2.67%	1.60%	184 (224)
PHI:哲学関連	6 (9)	2.56 (2.86)	12.57%	39.52%	28.14%	12.57%	7.19%	155 (132)
PSY:心理学関連	7 (8)	2.69 (2.66)	32.37%	19.73%	26.83%	17.96%	3.10%	437 (569)
PUP:公共政策	2 (3)	2.39 (2.44)	2.13%	45.74%	35.11%	12.77%	4.26%	90 (84)
SOC:社会学	22 (25)	2.92 (2.92)	30.51%	37.17%	21.96%	8.10%	2.25%	1086 (996)
SOE:公営企業関連	6 (7)	2.56 (3.06)	4.82%	52.63%	35.96%	6.58%	0.00%	228 (243)
SPN:スペイン語	1 (1)	2.43 (2.50)	12.50%	25.00%	37.50%	12.50%	12.50%	7 (12)
UCP:都市・まちづくり計画学	15 (17)	2.49 (2.86)	23.14%	38.33%	25.78%	10.01%	2.73%	809 (928)

・「CHN:中国語」「HUM:人間科学」において GP 平均値が上昇し、「ENV:環境学」「SOE:公営企業関連」において GP 平均値が低下している。

### 令和4年度前期科目成績評価割合（国際教養学部・分野別）



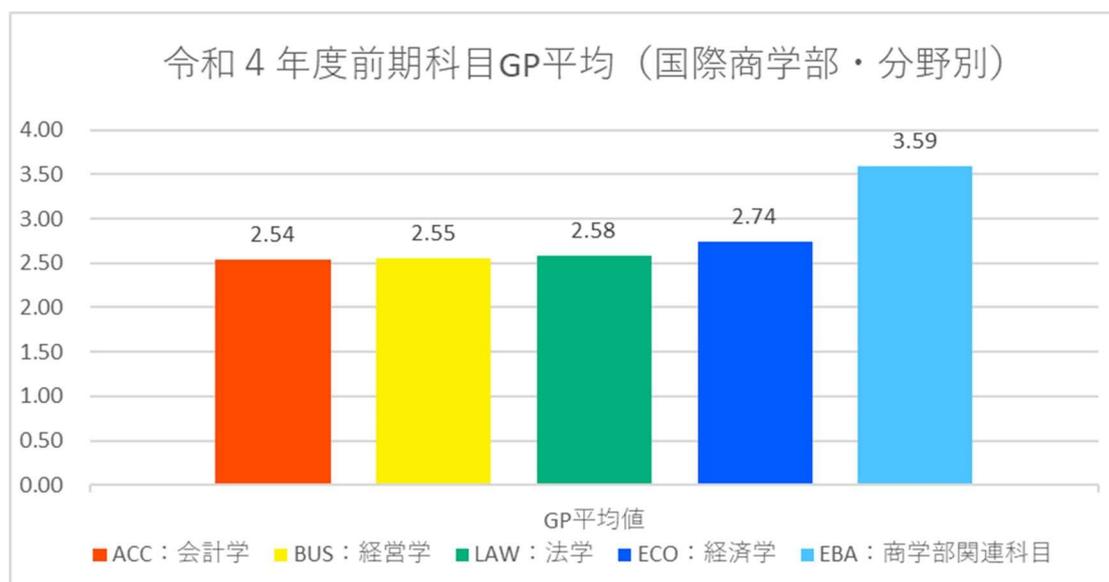
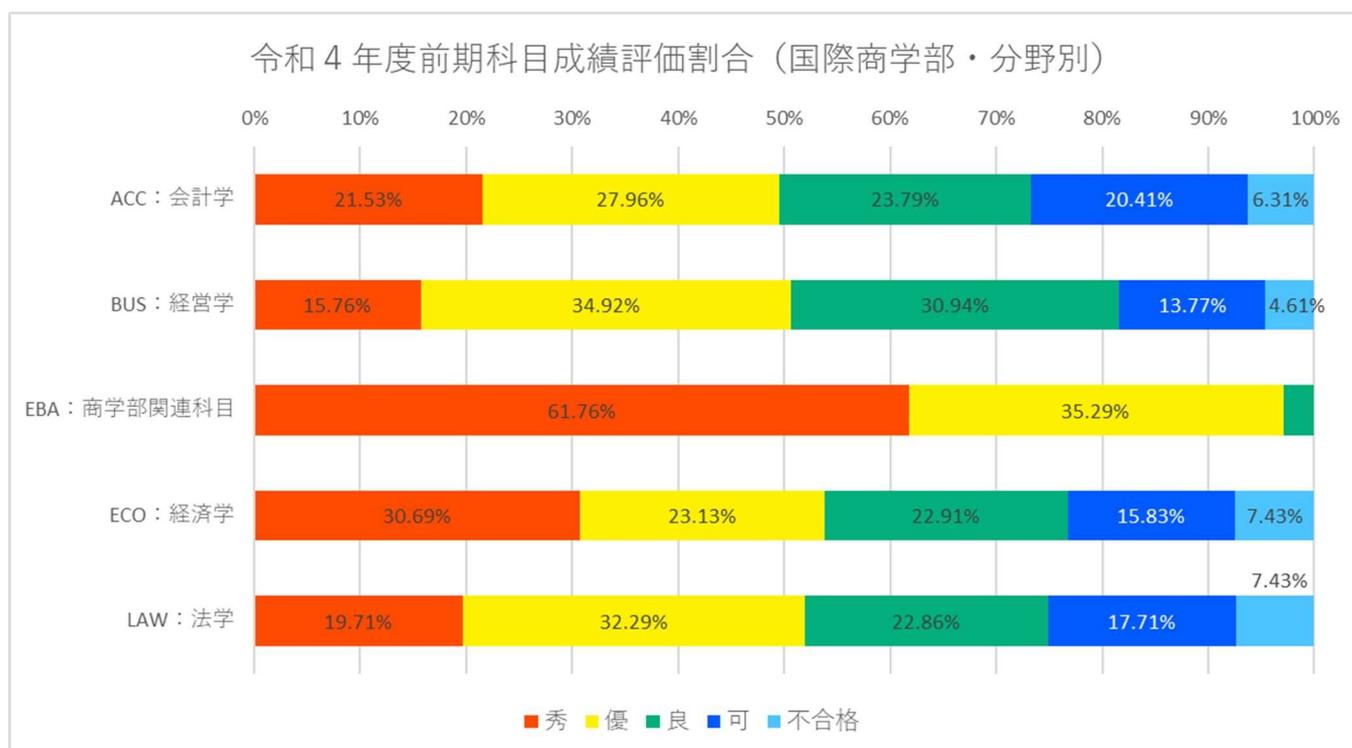
### 令和4年度前期科目GP平均（国際教養学部・分野別）



・国際商学部 ※()内は昨年度値

所属学部	科目数	GP 平均値	秀	優	良	可	不合格	成績登録者数
国際商学部	120 (125)	2.65 (2.61)	24.24%	28.08%	25.21%	16.09%	6.38%	4638 (4492)
ACC:会計学	24 (26)	2.54 (2.28)	21.53%	27.96%	23.79%	20.41%	6.31%	831 (712)
BUS:経営学	23 (33)	2.55 (2.76)	15.76%	34.92%	30.94%	13.77%	4.61%	1344 (1775)
EBA:商学部関連科目	2 (2)	3.59 (3.58)	61.76%	35.29%	2.94%	0.00%	0.00%	34 (36)
ECO:経済学	56 (50)	2.74 (2.47)	30.69%	23.13%	22.91%	15.83%	7.43%	2105 (1678)
LAW:法学	15 (14)	2.58 (2.28)	19.71%	32.29%	22.86%	17.71%	7.43%	324 (291)

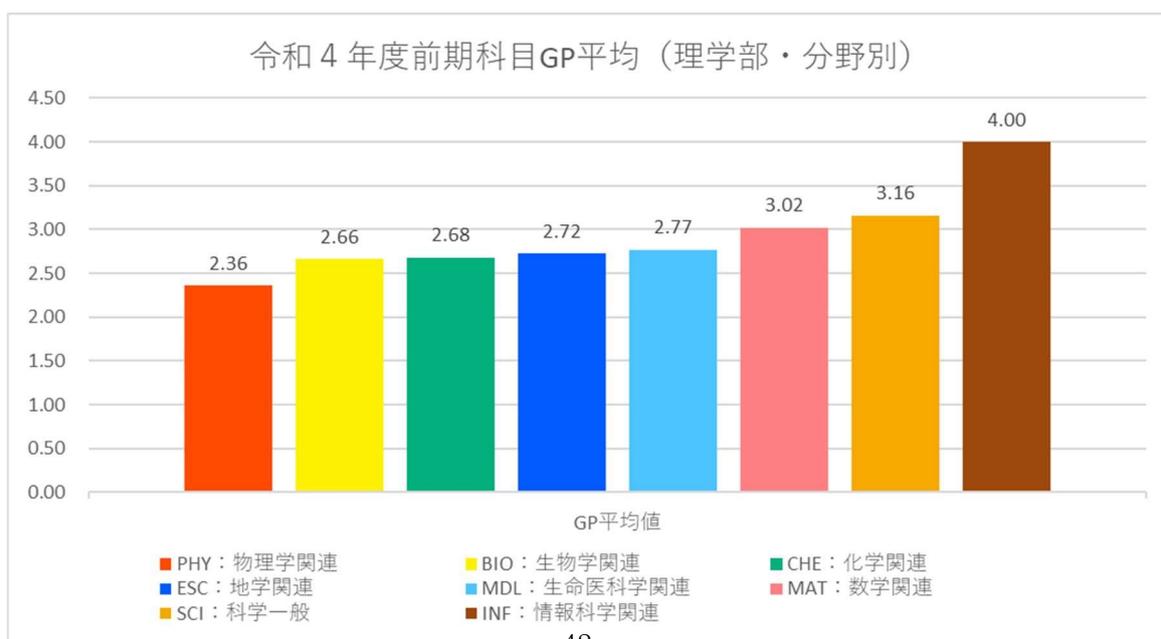
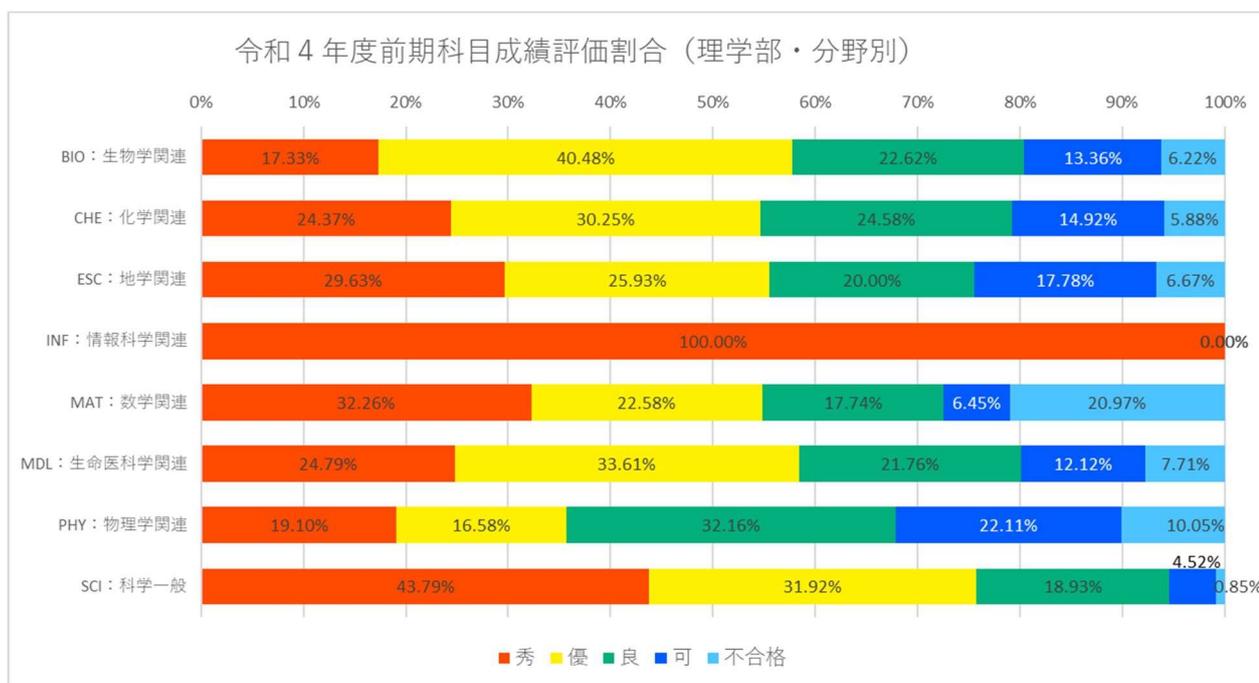
・「ACC：会計学」において、GP 平均値が上昇している。



・理学部 ※()内は昨年度値

所属学部	科目数	GP 平均値	秀	優	良	可	不合格	成績登録者数
理学部	60 (118)	2.75 (2.71)	25.19%	32.69%	22.85%	12.96%	6.31%	2198 (2493)
BIO : 生物学関連	18 (45)	2.66 (2.74)	17.33%	40.48%	22.62%	13.36%	6.22%	709 (832)
CHE : 化学関連	9 (14)	2.68 (2.40)	24.37%	30.25%	24.58%	14.92%	5.88%	448 (545)
ESC : 地学関連	3 (4)	2.72 (2.96)	29.63%	25.93%	20.00%	17.78%	6.67%	126 (113)
INF : 情報科学関連	1 (5)	4.00 (3.88)	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1 (6)
MAT : 数学関連	4 (6)	3.02 (2.65)	32.26%	22.58%	17.74%	6.45%	20.97%	49 (79)
MDL : 生命医科学関連	10 (28)	2.77 (2.62)	24.79%	33.61%	21.76%	12.12%	7.71%	335 (397)
PHY : 物理学関連	8 (10)	2.36 (2.41)	19.10%	16.58%	32.16%	22.11%	10.05%	179 (217)
SCI : 科学一般	7 (6)	3.16 (3.49)	43.79%	31.92%	18.93%	4.52%	0.85%	351 (304)

・昨年度の GP 平均値と大幅な増減は見られなかった。



⑤

## データサイエンス学部

科目コードが「DAT (データサイエンス)」のみであるため、個別のグラフを割愛  
(全学分析結果のグラフを参照)

- ・昨年度の GP 平均値と大幅な増減は見られなかった。

# 令和3年度成績評価について

## 1 令和3年度成績評価結果の分布

(1) 令和3年度成績評価結果をもとに、共通教養・PE・各学部の成績分布を確認しました。

### (2) 分析対象データ

令和3年度科目のうち、下記条件をすべて満たす科目を対象としました。

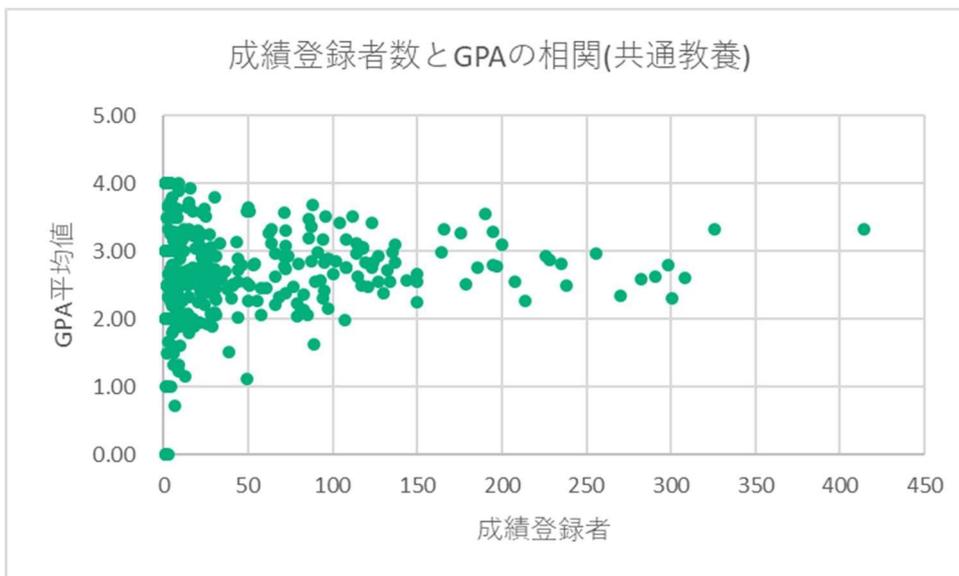
- ・ 学部で開講された科目
- ・ 成績登録のあった科目
- ・ 講義科目（演習、実験、実習、インターンシップ、留学等ではない科目）
- ・ 「留学生対象の日本語に関する科目」ではない科目
- ・ 教職科目ではない科目
- ・ 成績が「秀」、「優」、「良」、「可」、「不合格」で判定される科目

### (3) 算出方法

成績を下表の通り GP に変換し、GP の平均値を算出しました。

成績	GP (数値)
秀	4.0
優	3.0
良	2.0
可	1.0
不可	0.0

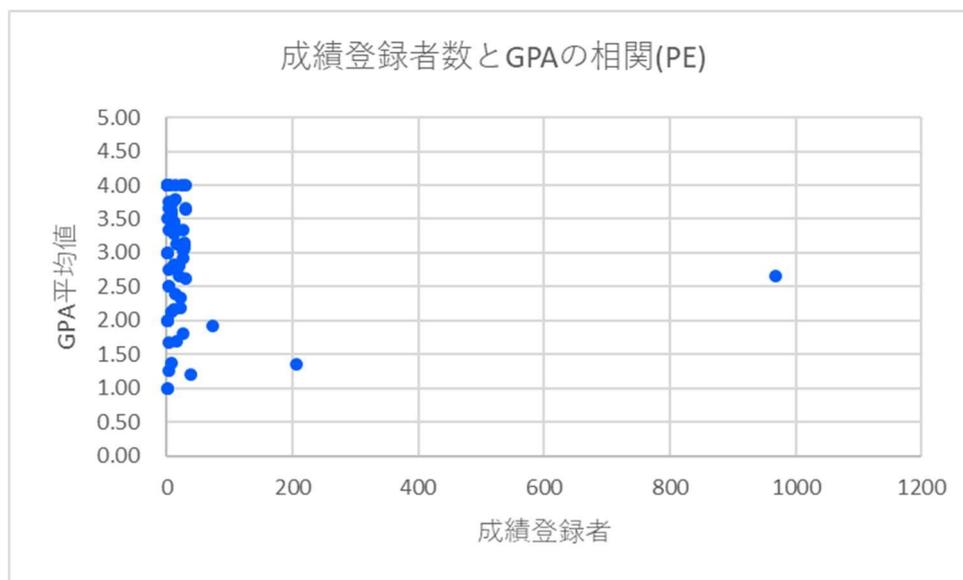
## 共通教養



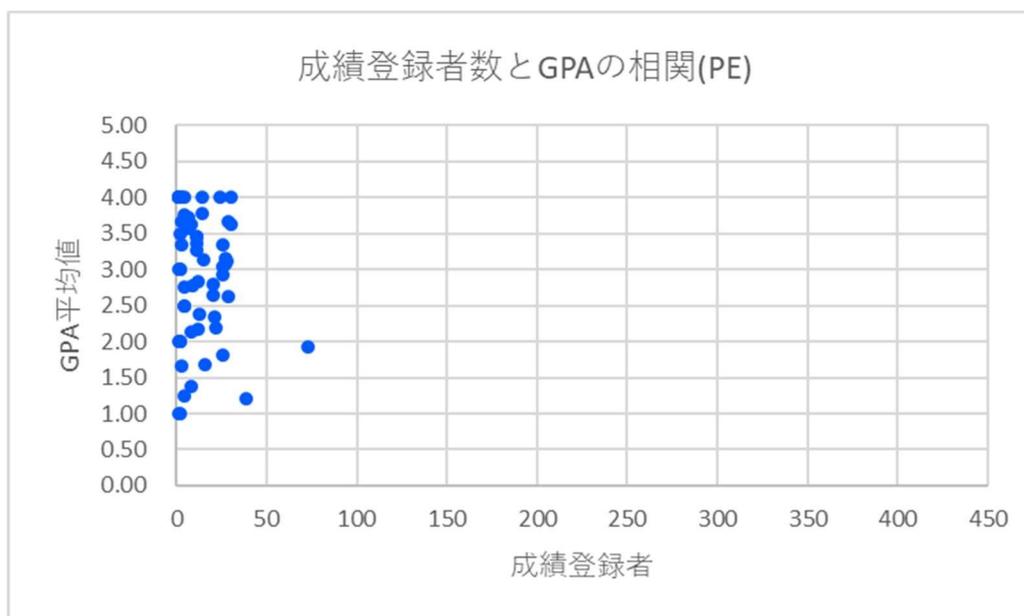
1

成績登録者数が少ない科目ではばらつきがあるが、50人以上の科目はGPA平均値「2.0～3.5」に推移している。

## Practical English

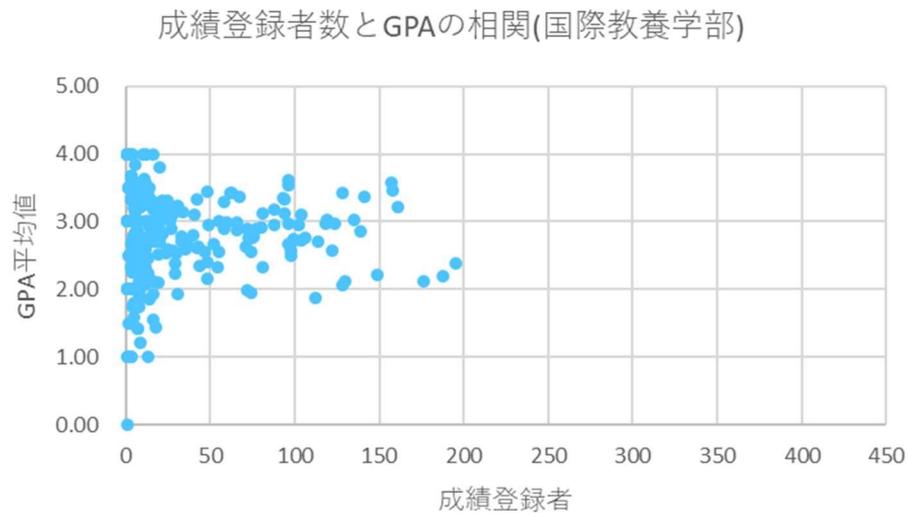


1科目、PE成績登録用の科目が混じっているため、該当科目を除外し、改めて確認を行った。



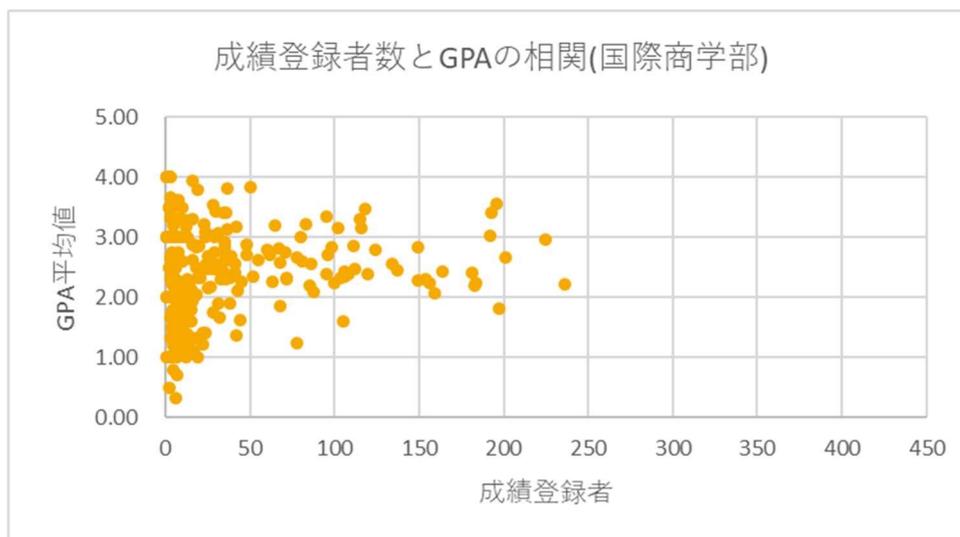
成績登録者数が少ない科目ではばらつきがあるが、10人以上の科目のGPA平均値は「1.5～4.0」となっている。

## 国際教養学部



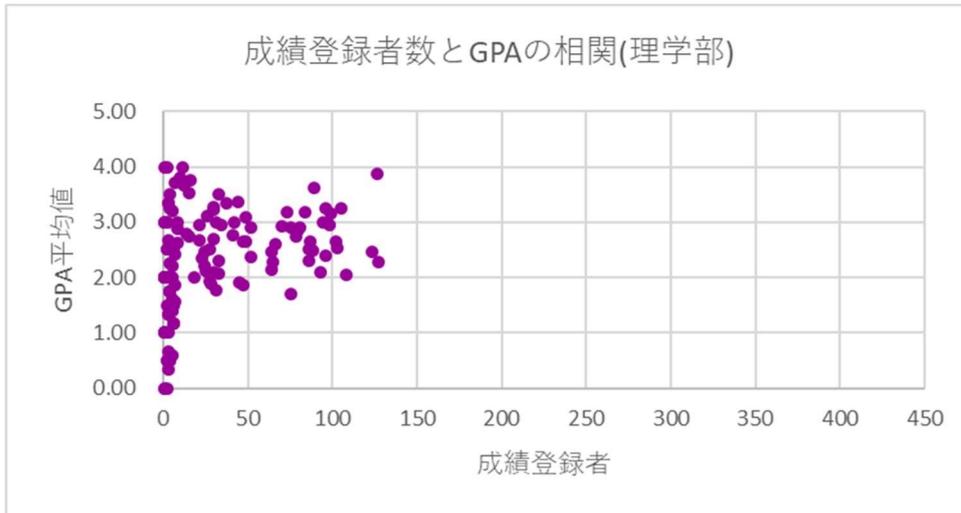
成績登録者数が少ない科目ではばらつきがあるが、50人以上の科目のGPA平均値は「2.0～3.5」となっている。

## 国際商学部



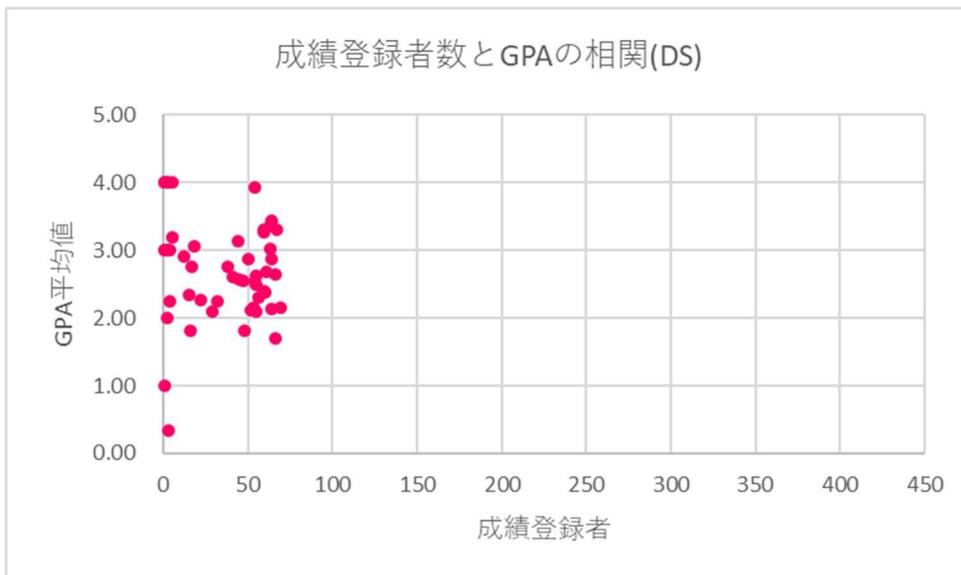
成績登録者数が少ない科目ではばらつきがあるが、50人以上の科目のGPA平均値は「1.0～3.5」となっている。

## 理学部



成績登録者数が少ない科目ではばらつきがあるが、25人以上の科目のGPA平均値は「2.0～3.5」となっている。

## データサイエンス学部



成績登録者数が少ない科目ではばらつきがあるが、10人以上の科目のGPA平均値は「1.5～3.5」となっている。

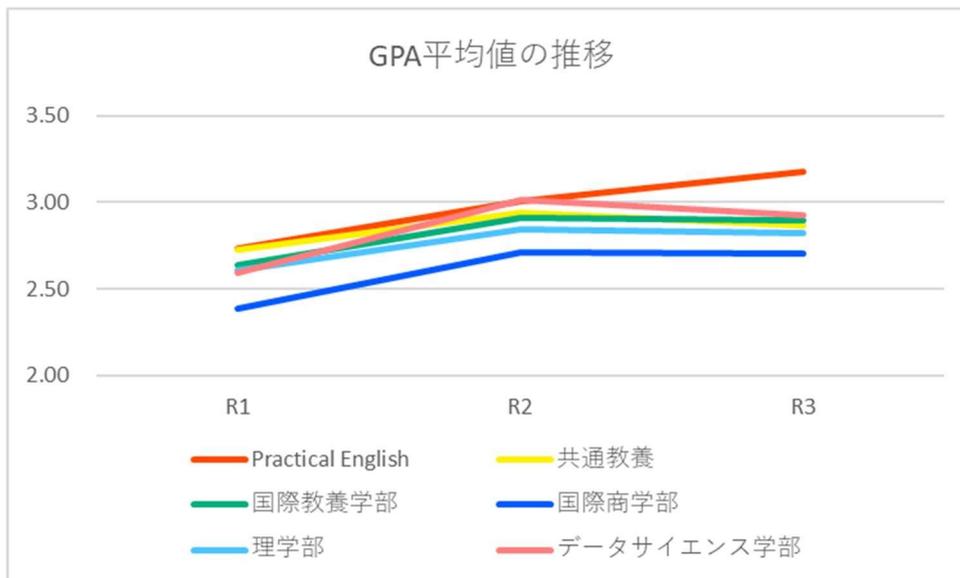
## 2 過去3年間のGPA平均値の推移

各学部全体のGPA平均値の推移を確認した。

なお、本集計は各科目の所属別に対象件数を計算し、GPA平均値を算出している。

過去3年間のGPA平均値

所属	令和元年度	令和2年度	令和3年度
Practical English	2.74	3.01	3.17
共通教養	2.73	2.94	2.87
国際教養学部	2.64	2.91	2.90
国際商学部	2.38	2.71	2.71
理学部	2.61	2.85	2.82
データサイエンス学部	2.59	3.01	2.93



- ・ 対面授業中心であった令和元年度と比較して、遠隔授業中心の令和2年度は、全体的にGPA平均値が上昇傾向となっている。
- ・ 令和3年度は原則対面授業、一部科目を遠隔授業で実施したが、学部によってGPA平均値の増減の違いが見られた。
- ・ 令和4年度は後期成績登録が完了次第、集計を実施する。

# YCU 指標等の学修成果の AI 分析について

## 1 趣旨

令和2年度に採択された文部科学省「デジタル活用教育高度化事業」の中で、LMSを導入し、学期初めの学修目標の登録、学修管理、キャリア形成上の活動履歴に関するデータを蓄積することで、将来的には学生の履修計画やキャリア形成に関する助言等をAIによりサポートする制度またはシステムの構築を目指しています。

今年度は、YCU指標を活用した試行分析テーマを決定し、分析・報告作業を進めましたので、結果を報告します。

## 2 今年度のテーマ

- (1) 学生の入試区分(学部・学系別)と学修成果項目の相関分析
- (2) 学生の海外留学思考と学修成果項目の相関分析

## 3 分析対象データ

### (1) 対象者

令和4年度に在籍している国際教養学部、国際商学部、理学部、データサイエンス学部の学生

### (2) 対象項目

- ・ YCU 指標得点
- ・ 入試区分
- ・ 留学経験
- ・ 総取得単位数
- ・ GPA 平均値

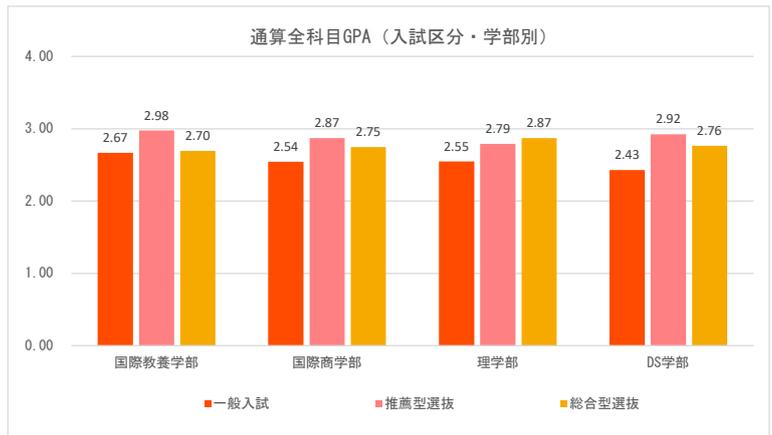
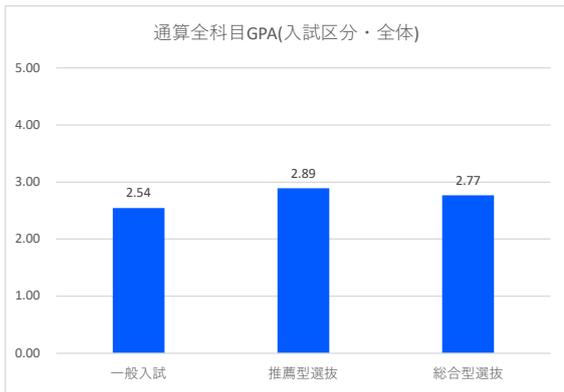
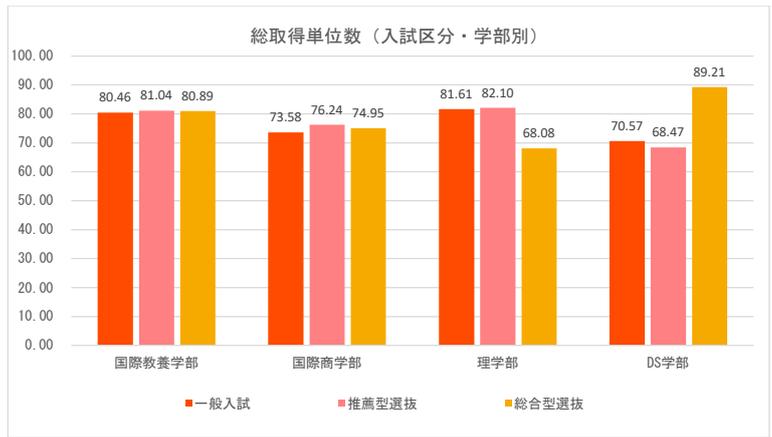
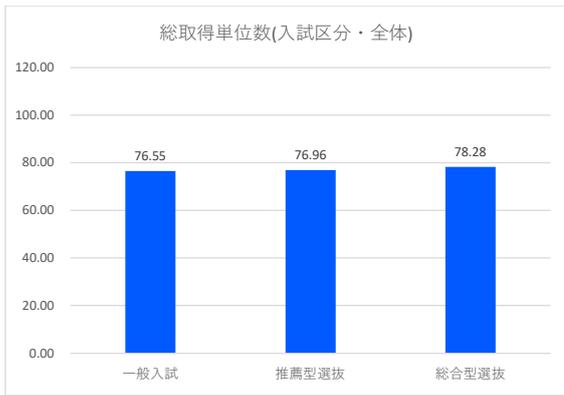
## 4 分析結果

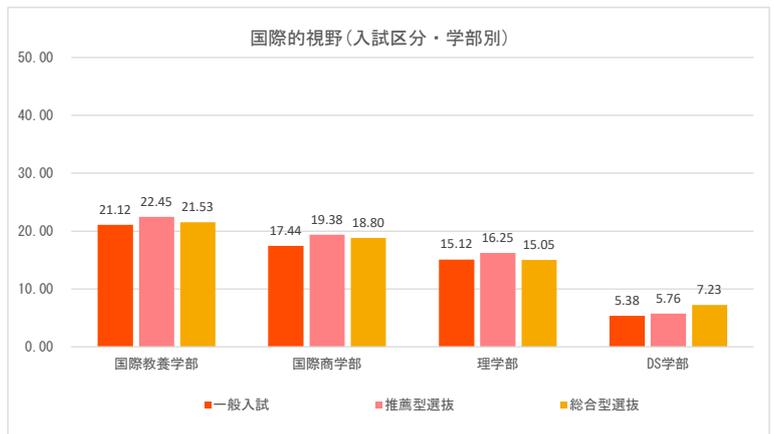
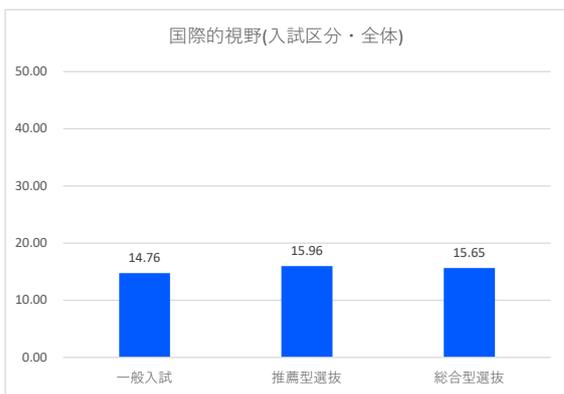
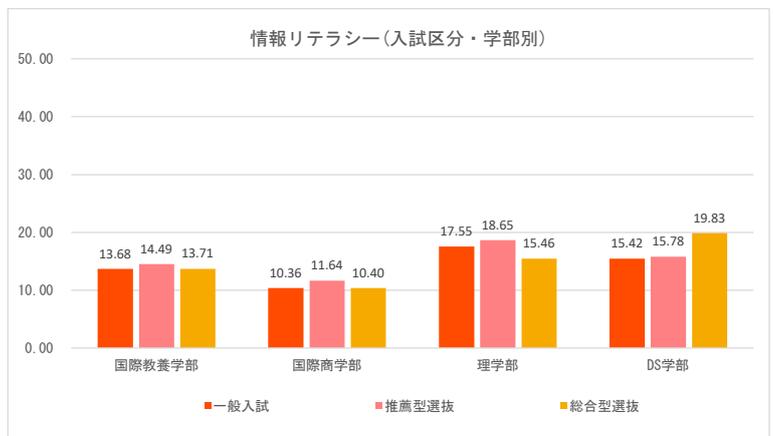
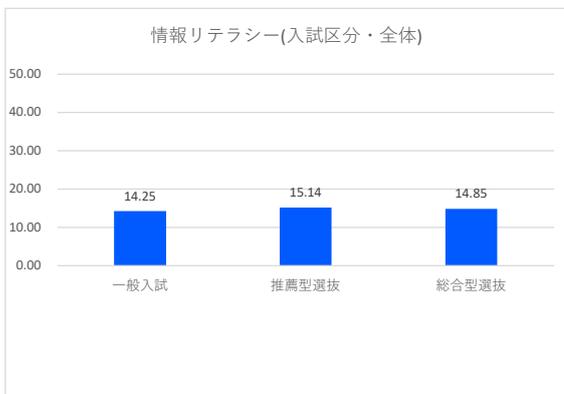
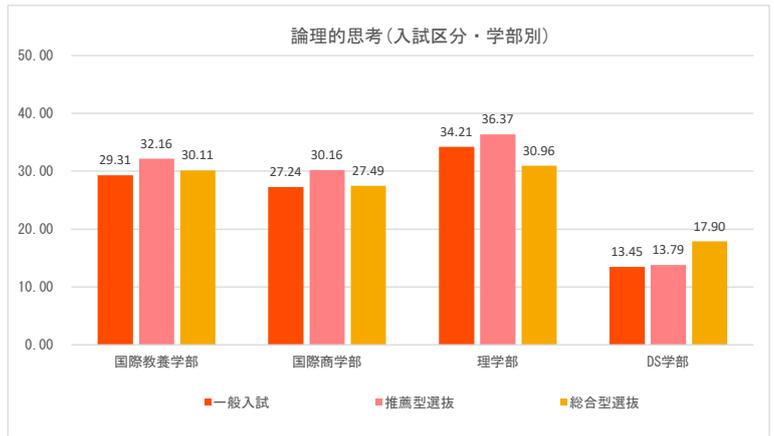
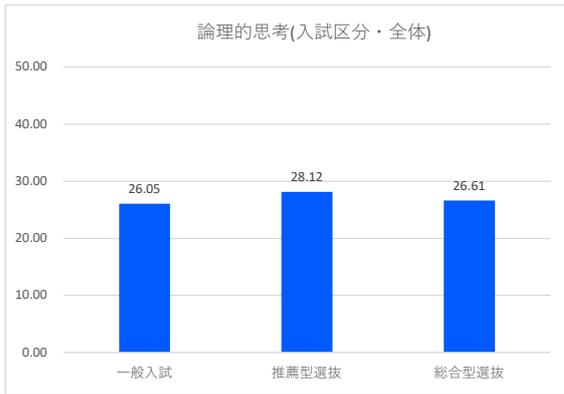
次ページ「AI 試行分析」結果のとおり

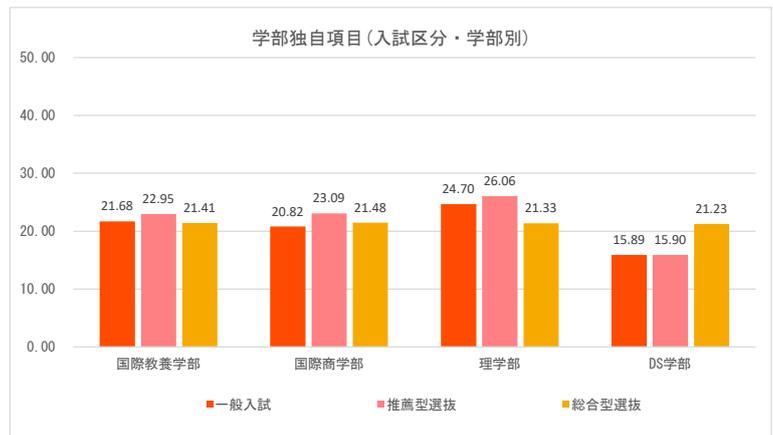
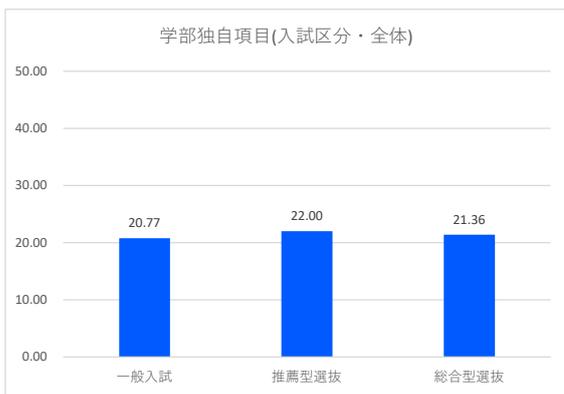
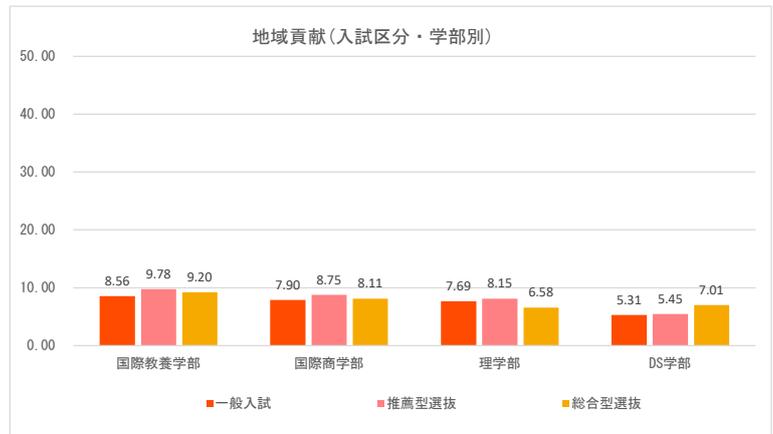
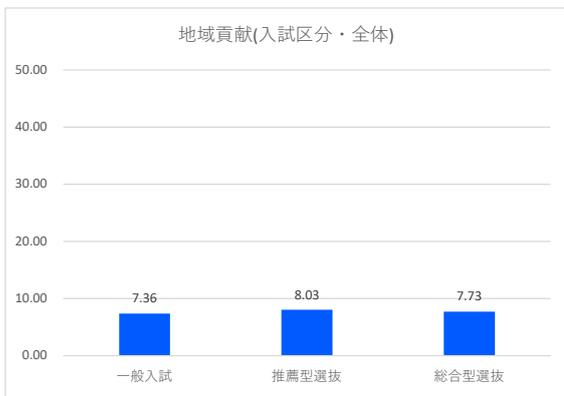
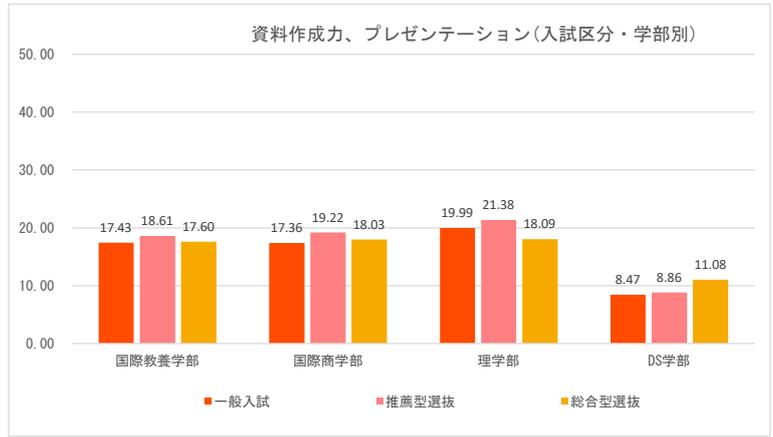
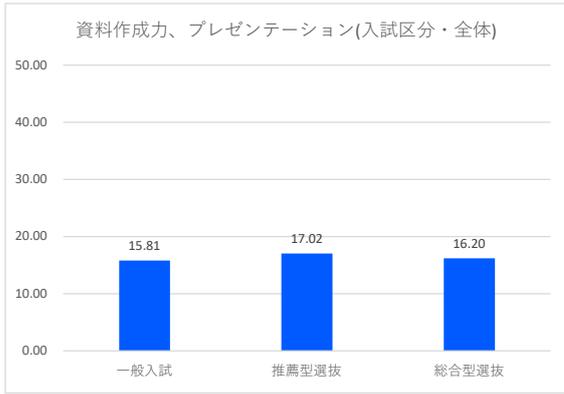
## 5 その他

令和4年度文部科学省補助金により、YCU-BoardのシステムからYCU指標と各項目のデータをダウンロードできる使用を構築した。併せてBIツールを用いたAI分析グラフ(散布図)の作成を試行的に委託実施した。こちらについては年度をまたいで教学IR検討ワーキングに報告を予定している。

# (1) 学生の入試区分(学部別・3区分・全体)と学修成果項目の相関分析



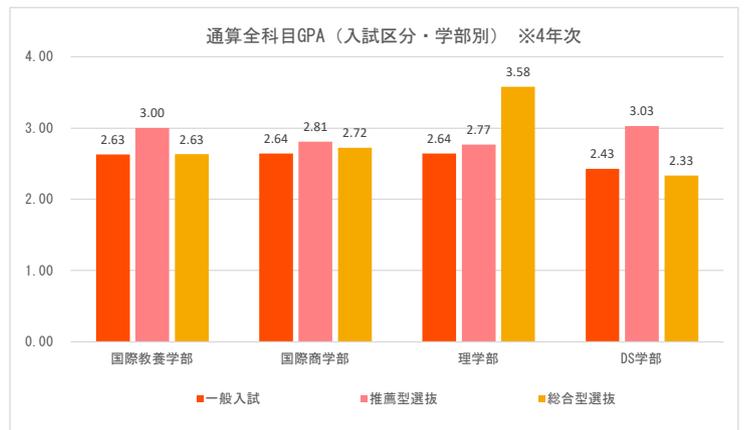
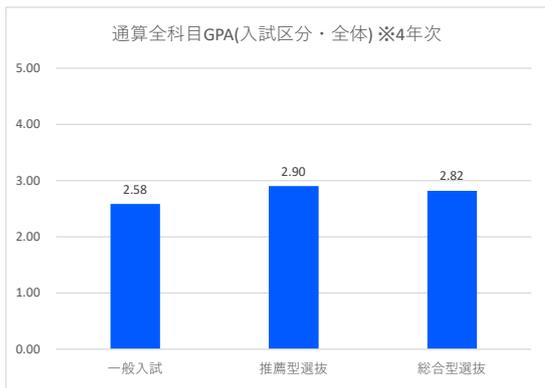
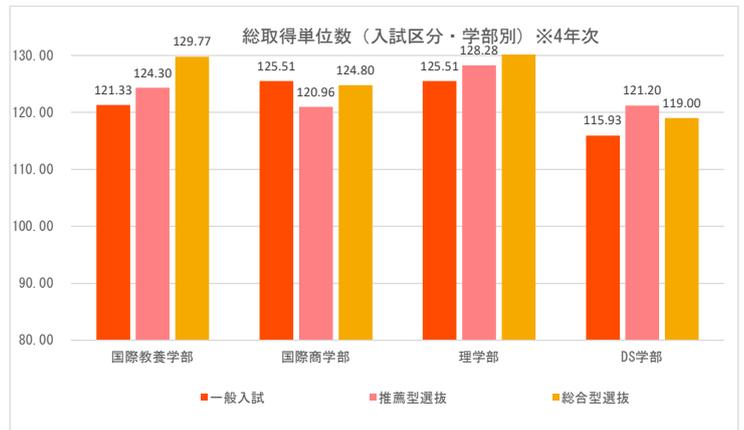
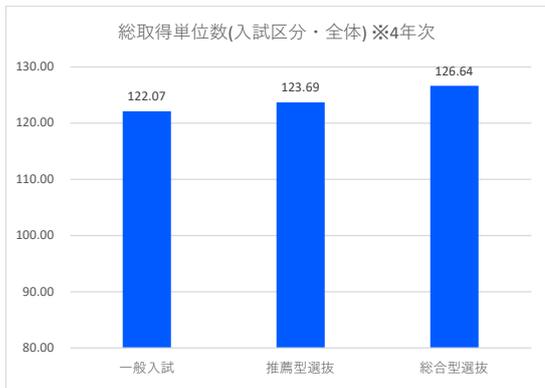


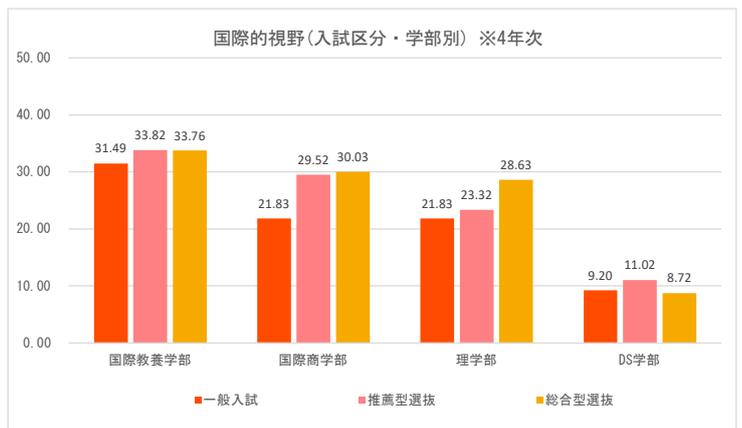
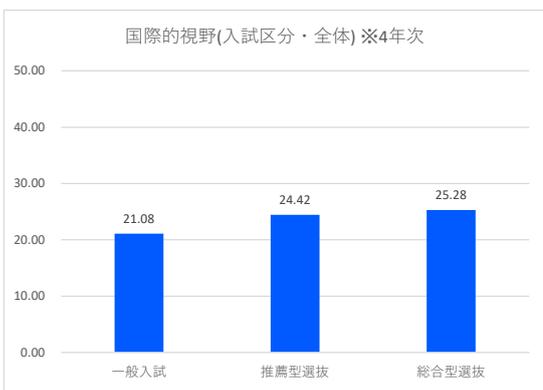
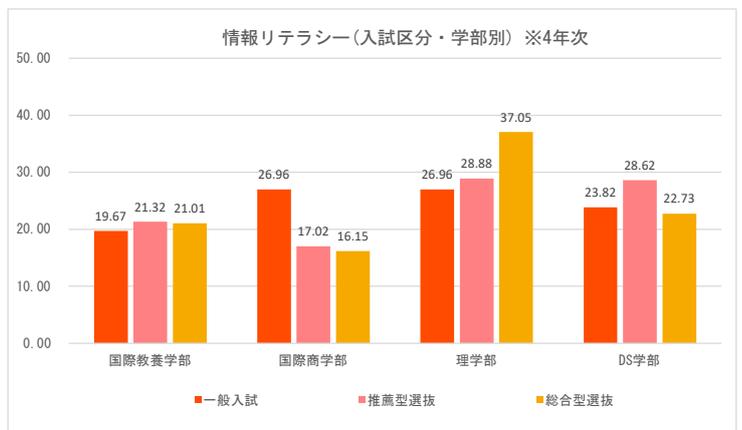
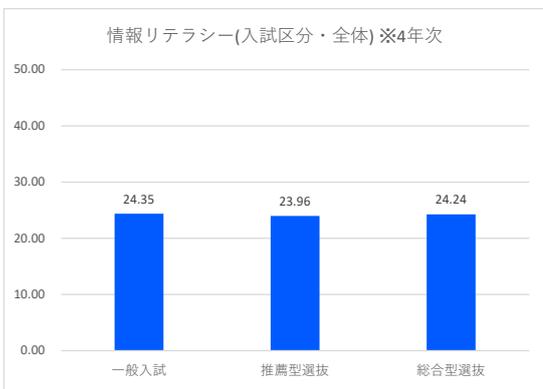
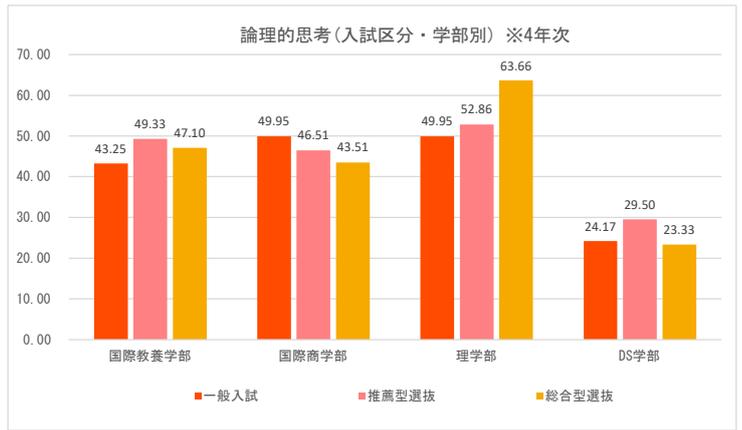
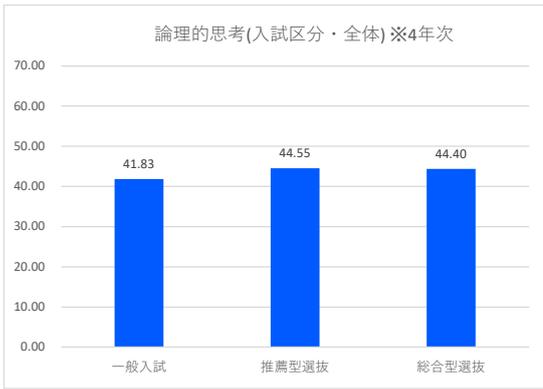


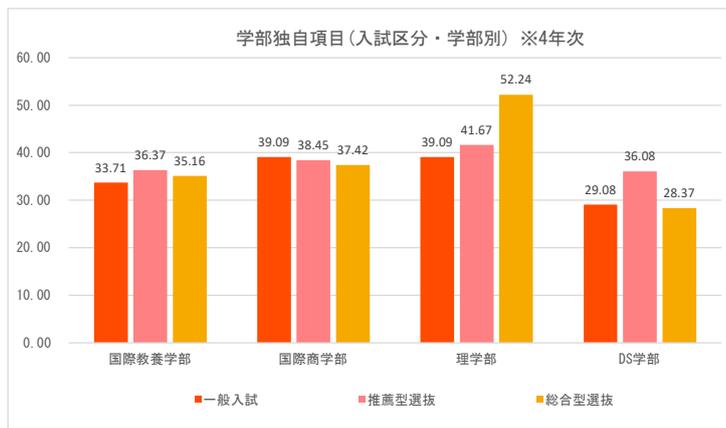
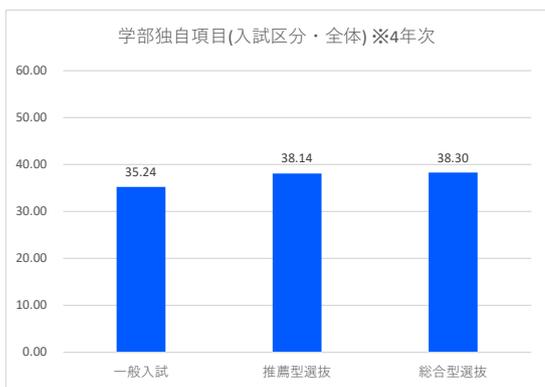
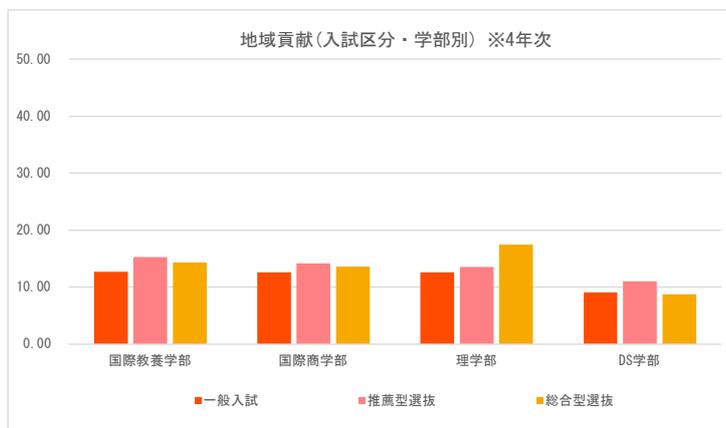
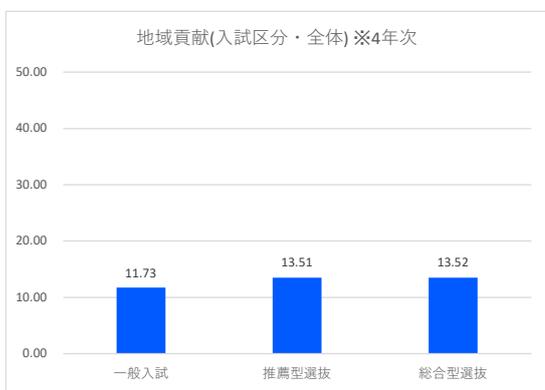
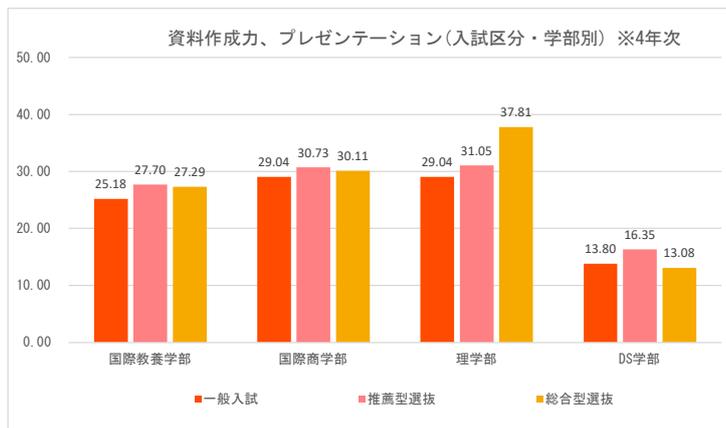
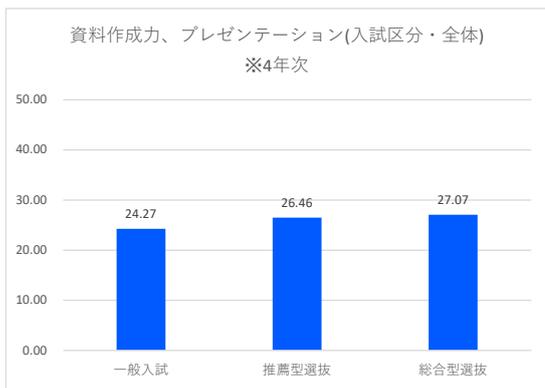
### (1) 学生の入試区分(学部別・3区分・全体)と学修成果項目の相関分析

当該入試区分の学生が100名以上の区分(一般入試、推薦型選抜、総合型選抜)に絞って集計を行った。若干推薦型選抜の数値が高くみられるが、大きな差は見られなかった。

# (1) 学生の入試区分(学部別・3区分・4年次生)と学修成果項目の相関分析





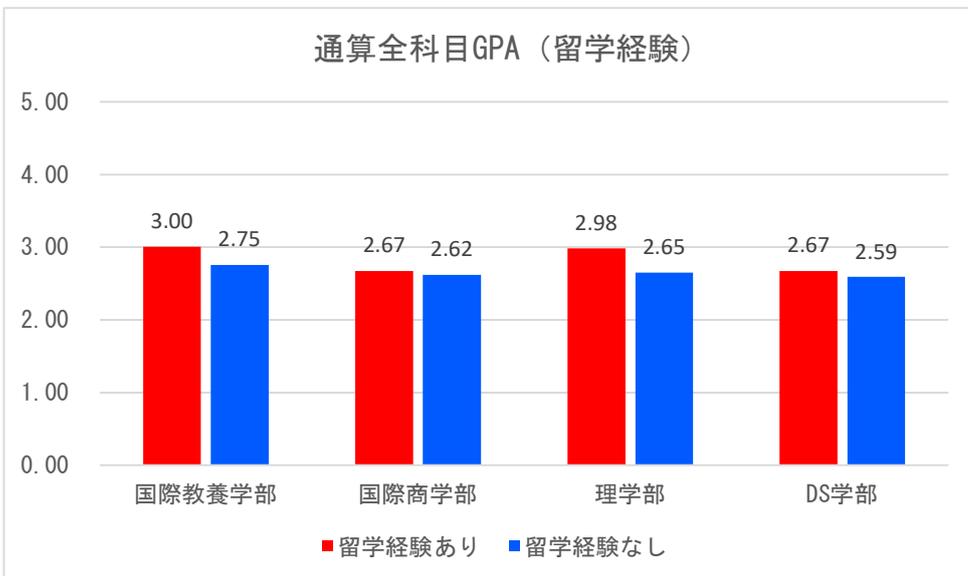
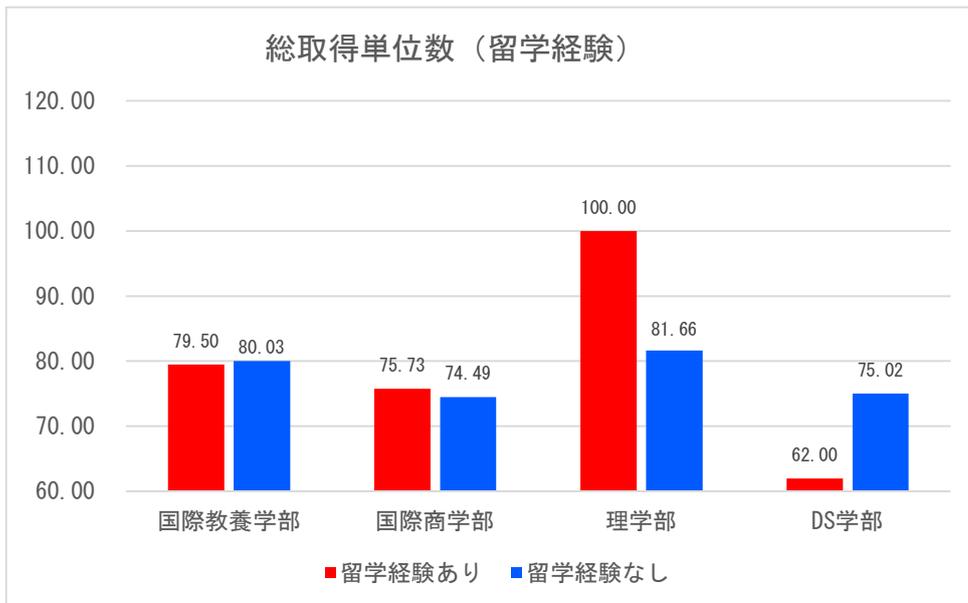


### (1) 学生の入試区分(学部別・3区分・4年次生)と学修成果項目の相関分析

学修成果配分は学年が上がるごとに数値が上がるため、4年生に絞って集計を行った。

若干推薦型選抜の数値が高くみられるが、大きな差は見られなかった。

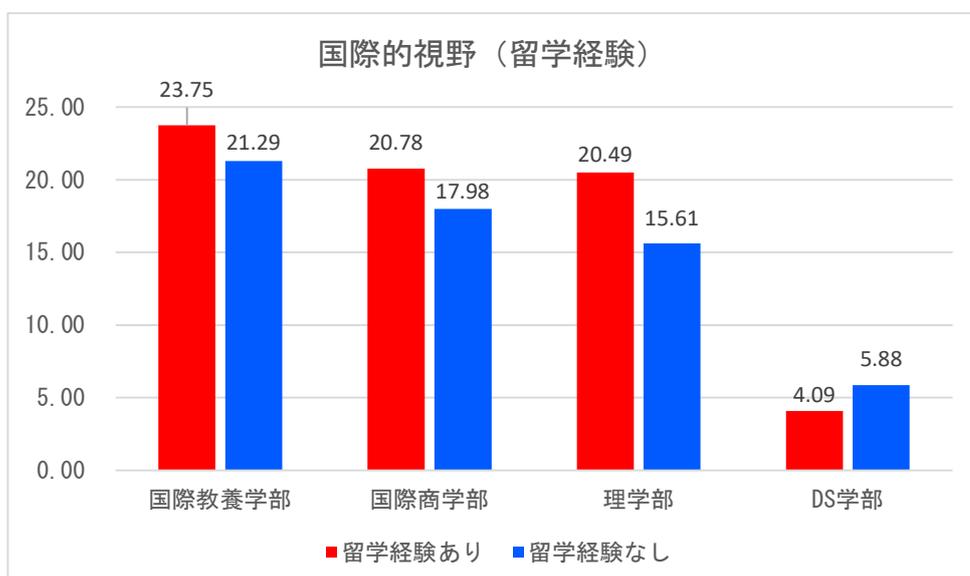
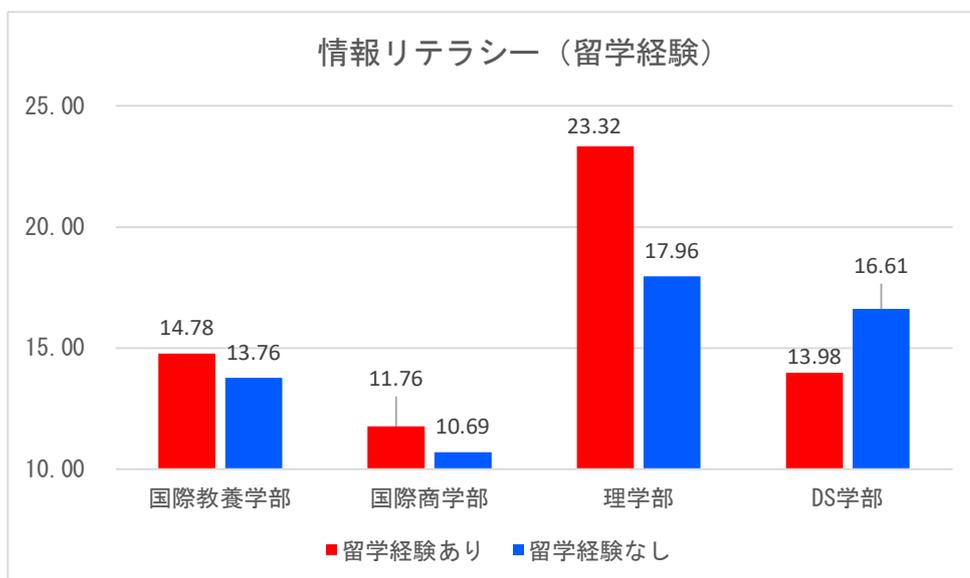
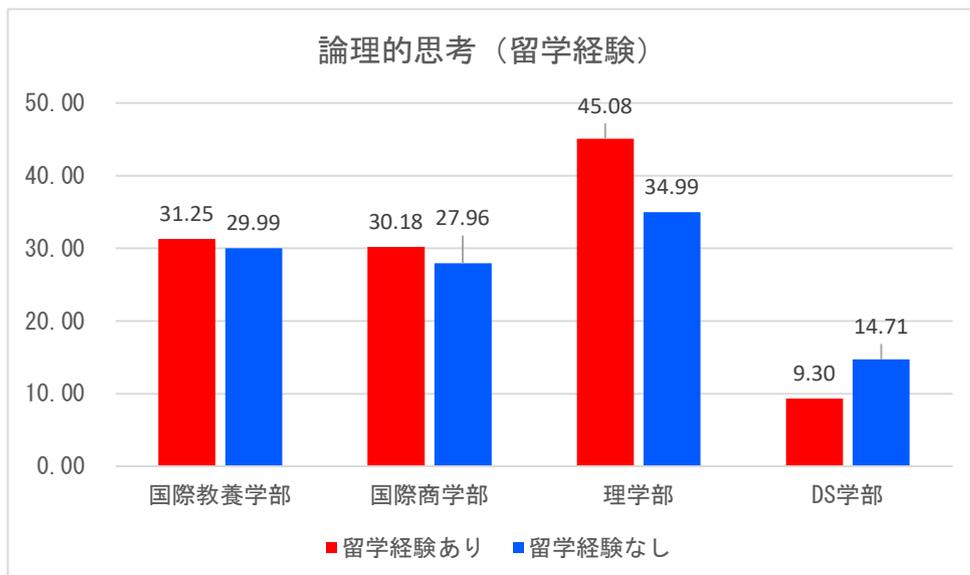
(2) 学生の海外留学思考と学修成果項目の相関分析（学部別・全体）

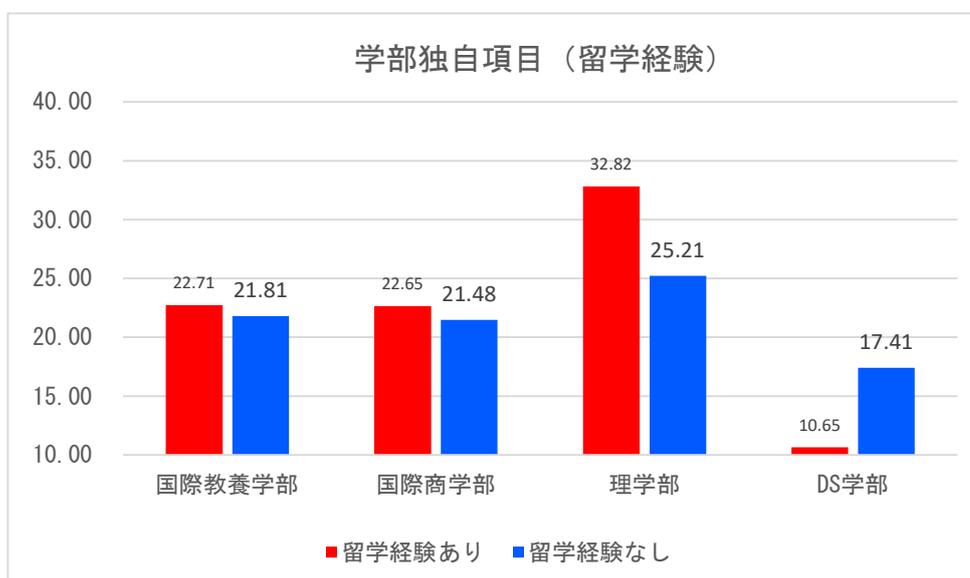
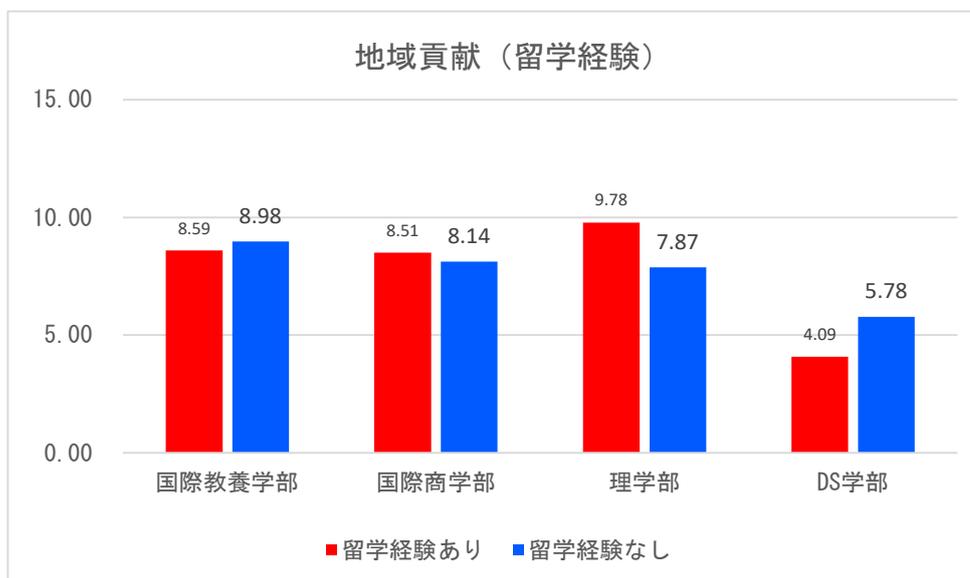
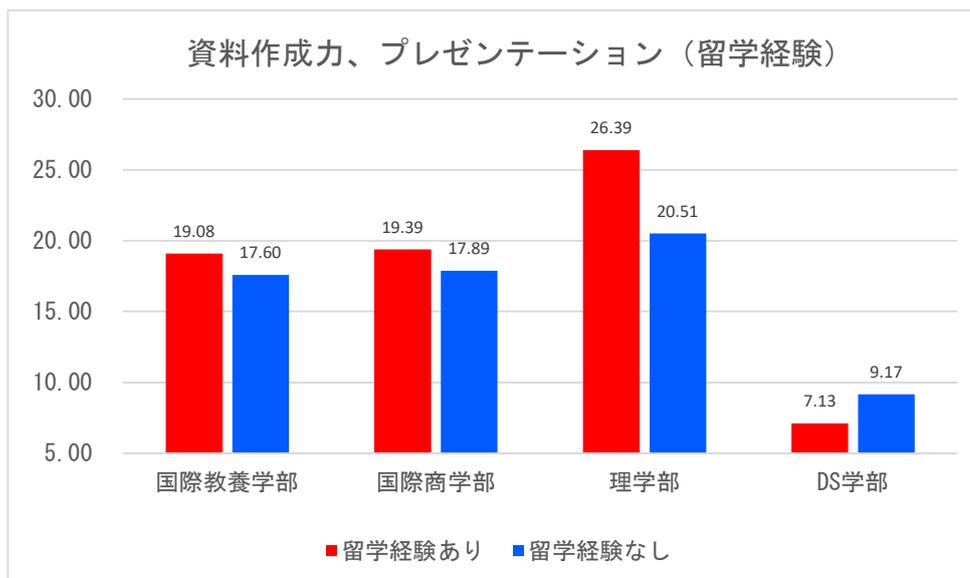


(2) 学生の海外留学思考と学修成果項目の相関分析（学部別・全体）

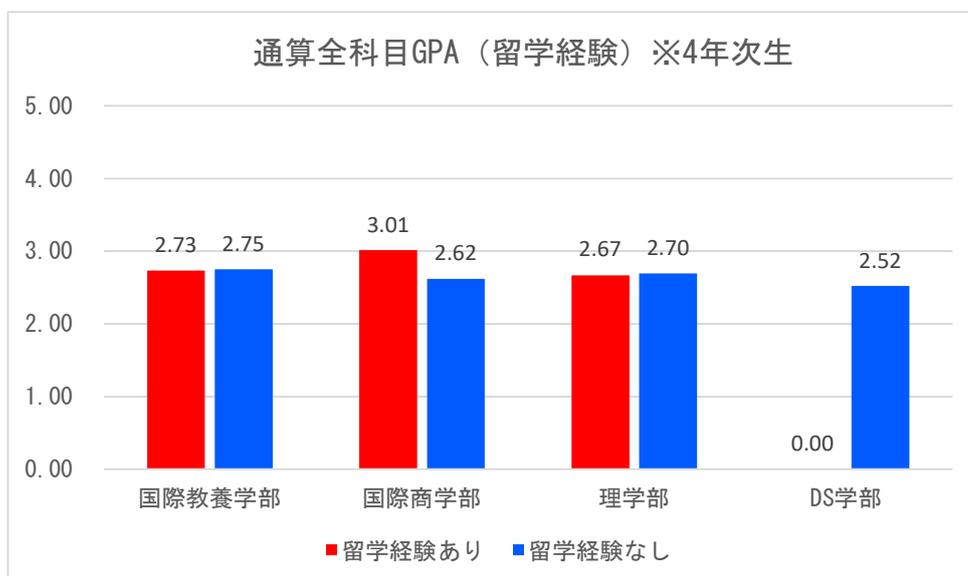
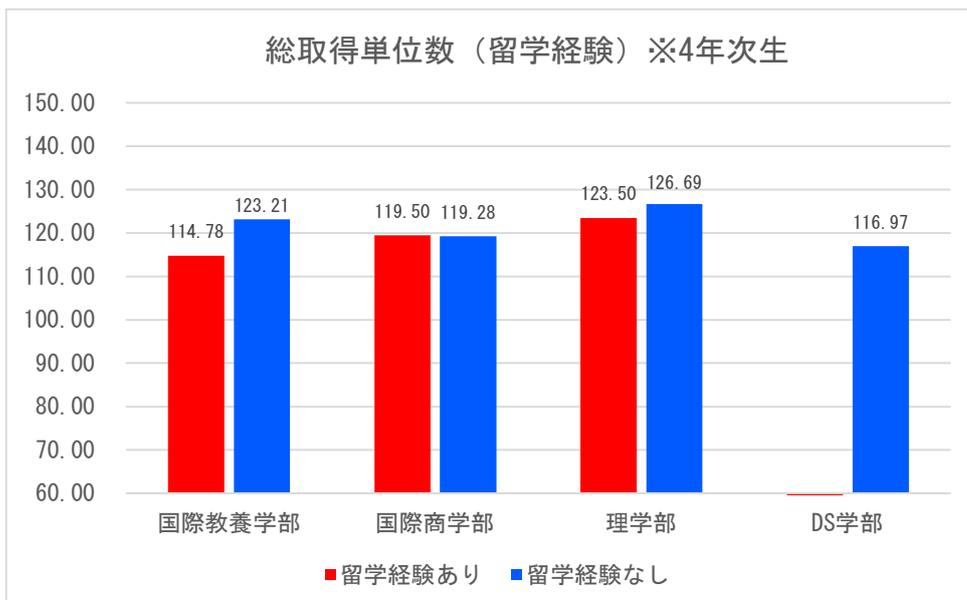
理学部、DS学部は留学経験者数が少なく、また理学部は3，4年生、DS学部は1，2年生の留学経験者が多いため、総取得単位数や学修成果配分の数値に影響が見られることから、学年別の比較を行う必要がある。

（検討結果はP59以降参照）





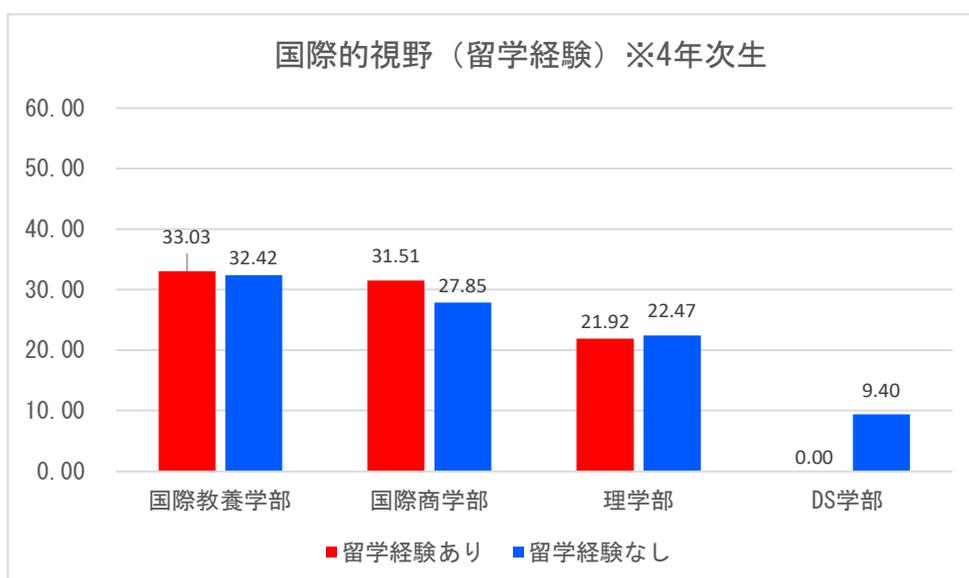
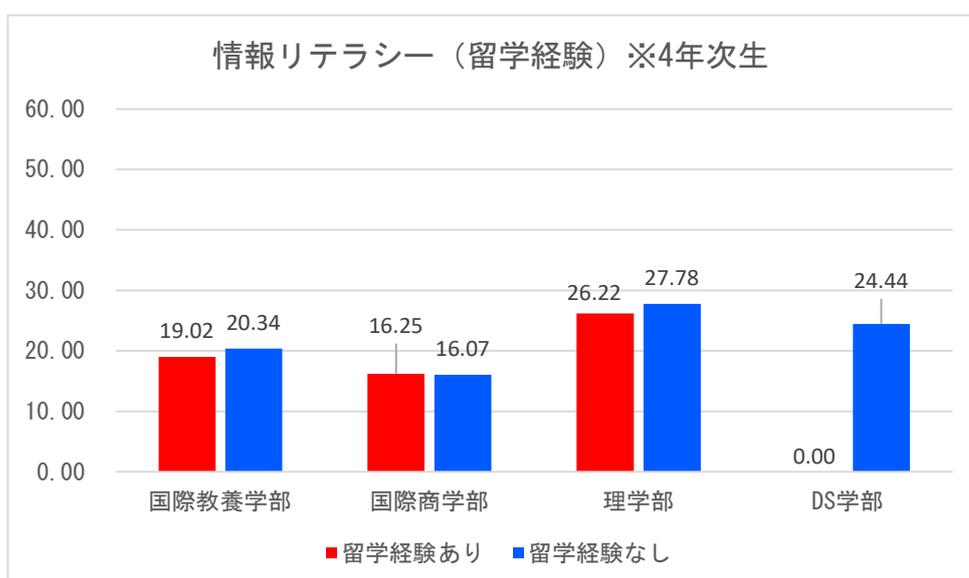
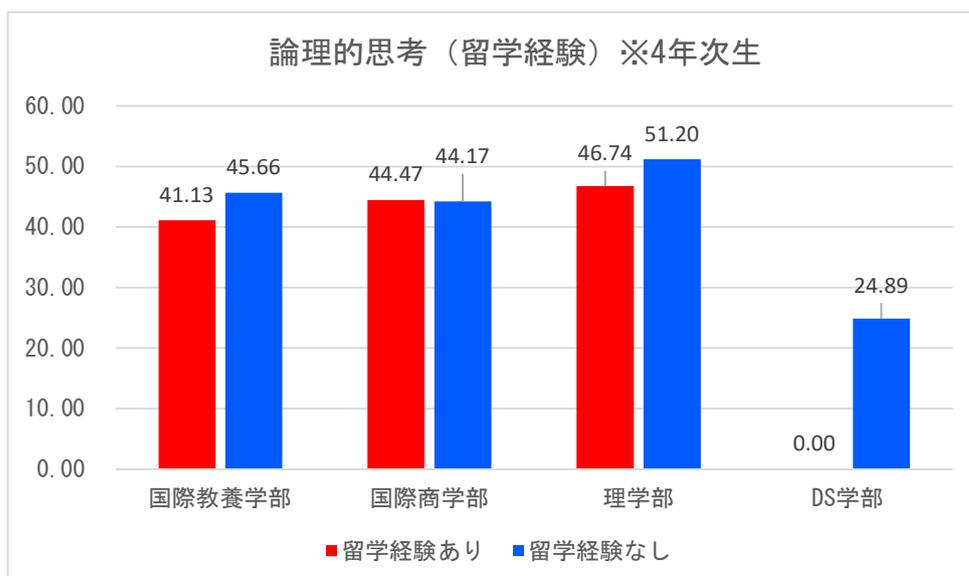
(2) 学生の海外留学思考と学修成果項目の相関分析(学部別・4年次生)

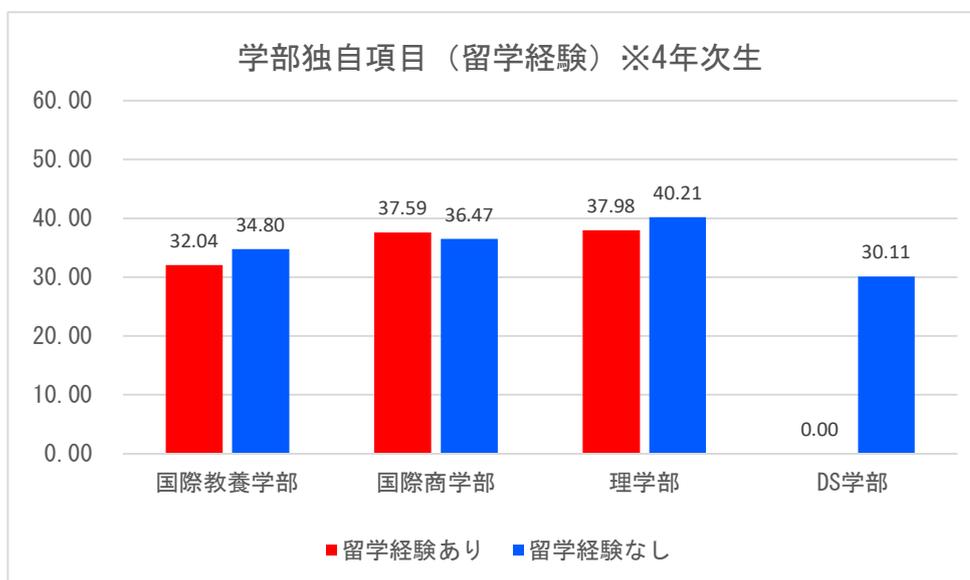
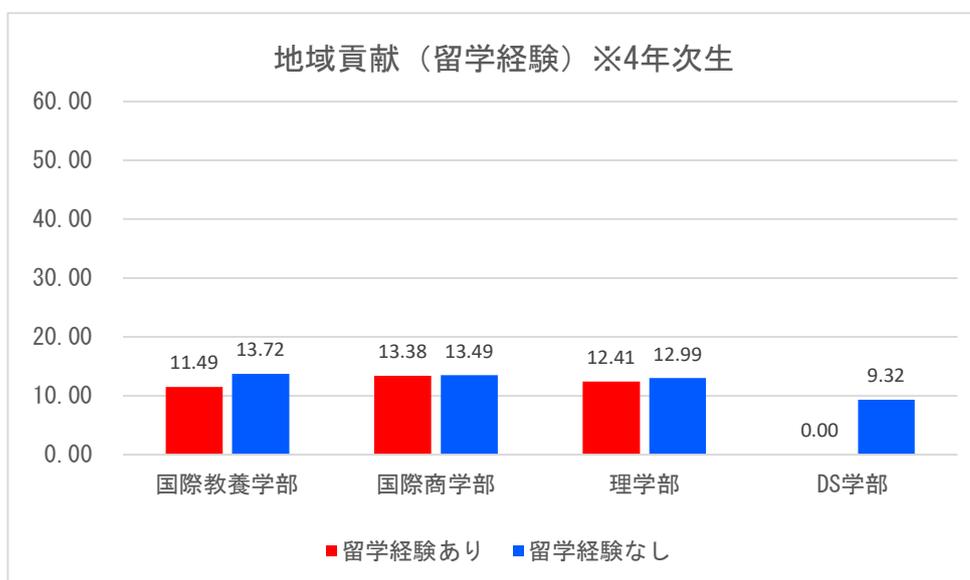
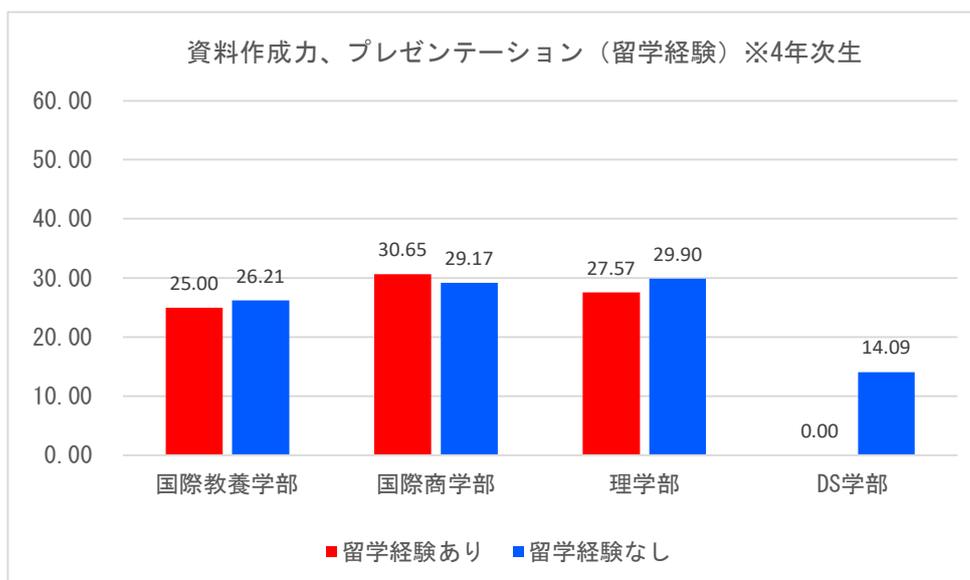


(2) 学生の海外留学思考と学修成果項目の相関分析（学部別・4年次生）

4年次生のみで集計を行ったところ、一部学修成果項目(国際的視野)で留学経験者の数値が高くなってはいたが、それ以外には大きな差は見られなかった。

なお、DS学部は4年次生の留学経験者がいなかったため、算出ができなかった。





## 1 ALCS 学修行動比較調査 2021 年度調査について

### ◆ ALCS 学修行動比較調査について

教学比較 IR コモンズ<sup>※1</sup>に加入する各大学の1及び3学年に対し、共通の設問(87 問)について実施します。学生はインターネット上から調査期間中いつでも回答することができるため、授業時間を実施する必要がなく、教員が関与することなく調査の実施及び集計が可能となります。また、調査結果についてコモンズに加入する他大学と比較することが可能です。

※1 教学比較 IR コモンズ:

入り会いの各大学における学生の学修行動の比較調査とその分析、そして教学関連の情報を比較閲覧するためのデータベース構築とその提供を行う組織

### ◆ 本学における調査実施体制

#### ・ 対象者

2019 年および 2021 年入学の学部生で在籍している 1933 名

※ 実際に3年生に進級しているかに関わらず、入学年によって調査対象学年を定義しました。

※ ALCS 学修行動比較調査の集計単位は学部が基本ですが、本学の医学部(医学科・看護学科)はその特殊性に鑑み学科単位で集計することとします。また国際総合科学部については、学系単位で改組後の新学部にあわせて集計します。

#### ・ 調査実施期間

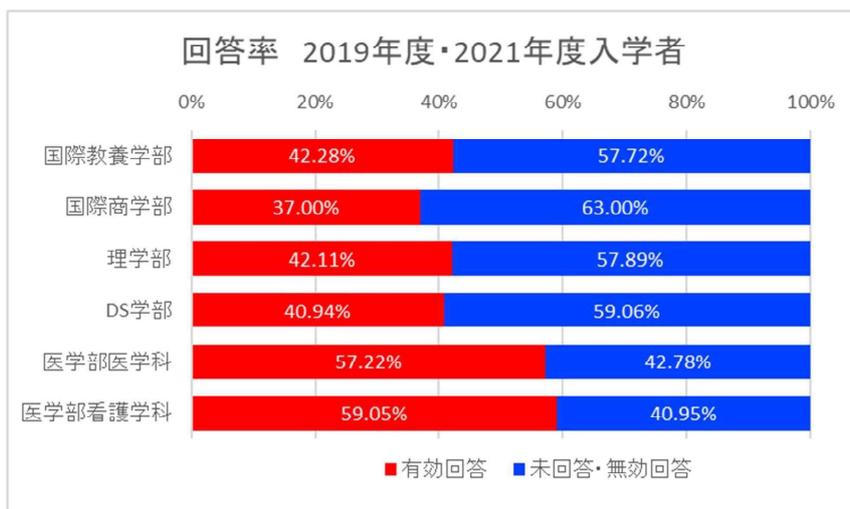
2021/11/30(火)～12/20(月)

#### ・ 回答率

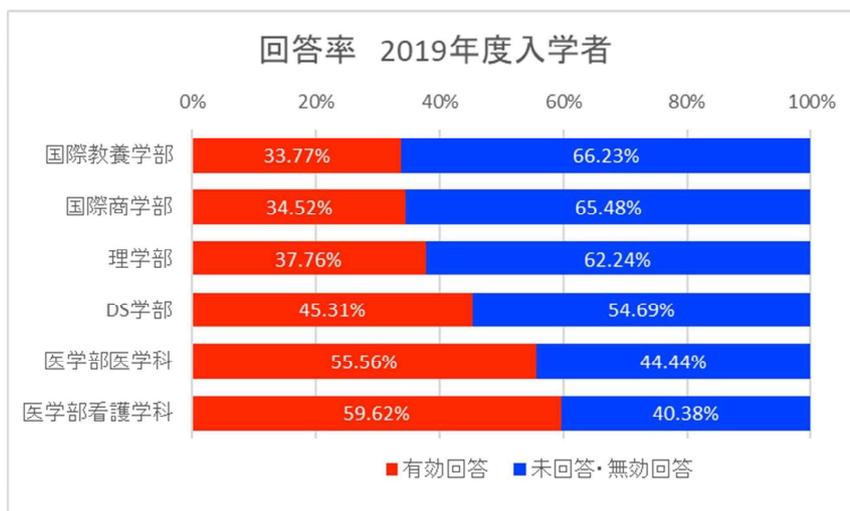
入学年度		国際教養 学部 (教養学系・ 都市学系)	国際商学部 (経営科学 系)	理学部 (理学系)	DS 学部	医学部		全学部合計
						医学科	看護 学科	
2019 年度 ・ 2021 年度 入学者	対象者	596 名	554 名	266 名	127 名	180 名	210 名	1933 名
	<b>有効回答</b>	<b>252 名</b>	<b>205 名</b>	<b>112 名</b>	<b>52 名</b>	<b>103 名</b>	<b>124 名</b>	<b>848 名</b>
		<b>42.28%</b>	<b>37.00%</b>	<b>42.11%</b>	<b>40.94%</b>	<b>57.22%</b>	<b>59.05%</b>	<b>43.87%</b>
	未回答・ 無効回答	344 名	349 名	154 名	75 名	77 名	86 名	1085 名
		57.72%	63.00%	57.89%	59.06%	42.78%	40.95%	56.13%
2019 年度 入学者 (3 年次相 当)	対象者	308 名	281 名	143 名	64 名	90 名	104 名	990 名
	<b>有効回答</b>	<b>104 名</b>	<b>97 名</b>	<b>54 名</b>	<b>29 名</b>	<b>50 名</b>	<b>62 名</b>	<b>396 名</b>
		<b>33.77%</b>	<b>34.52%</b>	<b>37.76%</b>	<b>45.31%</b>	<b>55.56%</b>	<b>59.62%</b>	<b>40.00%</b>
	未回答・ 無効回答	204 名	184 名	89 名	35 名	40 名	42 名	594 名
		66.23%	65.48%	62.24%	54.69%	44.44%	40.38%	60.00%
2021 年度 入学者 (1 年次生)	対象者	288 名	273 名	123 名	63 名	90 名	106 名	943 名
	<b>有効回答</b>	<b>148 名</b>	<b>108 名</b>	<b>58 名</b>	<b>23 名</b>	<b>53 名</b>	<b>62 名</b>	<b>452 名</b>
		<b>51.39%</b>	<b>39.56%</b>	<b>47.15%</b>	<b>36.51%</b>	<b>58.89%</b>	<b>58.49%</b>	<b>47.93%</b>
	未回答・ 無効回答	140 名	165 名	65 名	40 名	37 名	44 名	491 名
		48.61%	60.44%	52.85%	63.49%	41.11%	41.51%	52.07%

・ 本アンケートは 87 設問への回答率が 60% 以上等、教学比較 IR コモンズ側の有効回収基準を満たしたものを「有効回答」とします。

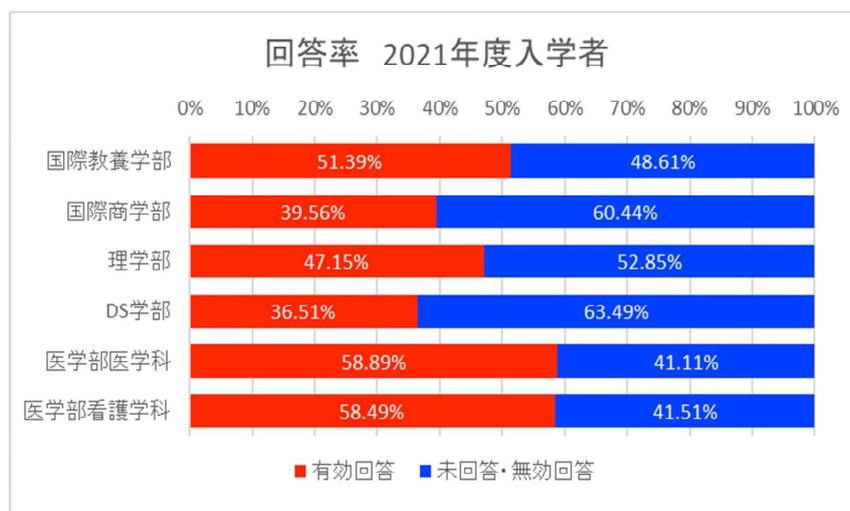
・ 2019年度・2021年度



・ 2019年度



・ 2021年度



## 2 学部間回答平均値比較

(1)「大学の授業や学びに関する経験」に関連する設問

### <設問の内容が肯定的な設問群>

回答選択肢: 3:かなりよくあった、2:よくあった、1:たまにあった、-1:あまりなかった、  
-2:ほとんどなかった、-3:まったくなかった

※赤塗りつぶし: 最も「経験した」と回答した学部(学科)、

青塗りつぶし: 最も「経験しなかった」と回答した学部(学科)

設問 No	設問内容	全学部	国際教養学部	国際商学部	理学部	D S学部	医学科	看護学科
1	授業内での学生間のディスカッション	1	1.27	0.92	0.23	0.08	0.24	2.27
3	授業中に質問をして、よかったと思えた経験	0.29	0.44	0.31	0.27	0.35	-0.32	0.47
4	よく学ぶ学生に刺激されて学修が促されたこと	0.71	0.7	0.53	0.4	0.56	0.78	1.32
5	大学からの学修に関する情報提供や案内が役立っている実感	0.26	0.4	0.23	0.17	0.38	-0.26	0.5
6	自発的に文献や資料を調べること	0.67	0.8	0.39	1.07	0.81	0.63	0.48
7	小テストの実施やレポートなどの課題提出	2.35	2.31	2.26	2.53	2.29	2.32	2.47
8	提出物に対する教員からの添削やコメント	0.16	0.38	-0.43	0.33	0.33	0.35	0.3
9	課題発表の機会	1.02	1.16	1.16	0.95	0.41	0.33	1.39
12	図書館の活用	0.17	0.55	0.16	0.73	0.13	-0.48	-0.53
13	インターネットや学内 LAN を使った授業資料・課題の受けとりや提出	2.25	2.37	1.98	2.4	2.5	2.06	2.4
17	授業内容に刺激されて自主的にあらたな勉強や探究をしたこと	0.18	0.42	-0.06	0.11	0.52	0.07	0.14
18	教職員やアドバイザーに学修に関連したことを尋ねたり相談したこと	-1.13	-0.91	-1.22	-1.09	-0.69	-1.7	-1.16
19	大学内外で勉強会、研究会、講演会に参加したこと	-1.5	-1.33	-1.54	-1.81	-0.83	-1.11	-2.1
20	授業時間外に友だちと授業に関する学修をしたこと	0.42	0.27	0.44	0.4	0.58	0.63	0.44
21	学内に設けられている自由に学べる場の活用	0.57	0.86	0.61	0.88	0.81	-0.37	0.33
22	思いどおりに学業ができていく実感	0.53	0.65	0.38	0.37	0.69	0.44	0.65

### <設問の内容が否定的な設問群>

回答選択肢: 3:かなりよくあった、2:よくあった、1:たまにあった、-1:あまりなかった、  
-2:ほとんどなかった、-3:まったくなかった

※赤塗りつぶし: 最も「経験しなかった」と回答した学部(学科)

青塗りつぶし: 最も「経験した」と回答した学部(学科)

設問 No	設問内容	全学部	国際教養学部	国際商学部	理学部	D S学部	医学科	看護学科
2	大学での学修に関する不公平・不公正感	-1	-0.99	-0.78	-0.76	-1.67	-1.16	-1.2
10	履修したい授業を登録できなかったこと	-1.35	-0.69	-1.07	-1.32	-1.65	-2.23	-2.29
11	大半の内容が理解できなかった授業	-0.17	-0.38	-0.2	0.5	-0.12	0.37	-0.72
14	提出期限までに授業の課題を完成できなかったこと	-1.45	-1.23	-1.23	-1.59	-1.29	-1.75	-1.98
15	授業に遅刻したこと	-1.37	-1.27	-1.19	-1.69	-1.19	-1.26	-1.73
16	授業内容がつまらなく感じたこと	0.91	0.97	1.08	1.05	0.6	0.83	0.59

(2)「入学時からの成長感」に関連する設問

回答選択肢:3:とても増えた、2:増えた、1:やや増えた、0:変化なし、-1:やや減った、-2:減った、  
-3:とても減った

※赤塗りつぶし:最も「成長した」と回答した学部(学科)、

青塗りつぶし:最も「成長しなかった」と回答した学部(学科)

設問 No	設問内容	全学部	国際教養学部	国際商学部	理学部	D S 学部	医学科	看護学科
23	教養	1.49	1.76	1.45	1.35	1.48	1.14	1.44
24	ものごとを分析する力	1.3	1.42	1.36	1.17	1.62	0.84	1.35
25	問題を論理的に考える力	1.26	1.45	1.28	1.13	1.35	0.78	1.34
26	特定の専門分野に関する理解力	1.56	1.5	1.55	1.54	1.57	1.36	1.91
27	肯定的な意味で批判的に考える力	1.23	1.46	1.24	1.05	1.04	0.98	1.19
28	自分と異なる意見や考え方を柔軟に理解する力	1.6	1.83	1.49	1.36	1.4	1.17	1.93
29	リーダーシップ	0.53	0.56	0.71	0.35	0.58	0.34	0.5
30	人間関係を築いたり調整する力	1.04	1.06	0.97	0.88	0.96	0.94	1.38
31	地域社会が抱える問題への関心や理解力	1.14	1.65	0.93	0.68	0.63	0.79	1.35
32	明快かつ簡潔に話す力	0.96	1.03	1.07	0.78	0.83	0.56	1.15
33	表現すべき内容の文章を書く力	1.15	1.32	1.24	1.05	0.94	0.67	1.25
34	英語以外の外国語の運用力	0.48	1.14	0.4	0.22	-0.06	0.1	0.02
35	プレゼンテーションを準備し発表する力	1.49	1.67	1.63	1.3	1.42	1.07	1.4
36	学術的な文献の読解力	1.21	1.38	1.21	1.31	0.96	1	1.05
37	情報技術 (ICT) の運用力	1.32	1.27	1.36	1.3	1.92	1.08	1.32
38	国際的な諸問題に対する関心や理解力	1.1	1.64	1.13	0.73	0.83	0.59	0.8
39	英語の運用力	0.19	0.27	0.18	0.34	0.17	0.13	-0.01
40	ものごとの本質をみて判断しようとする力	1.38	1.54	1.48	1.2	1.37	0.88	1.46
41	自分を律して行動する力	0.88	1.04	0.87	0.77	0.75	0.34	1.16
42	得た知識やスキルを活かして問題を解決する力	1.23	1.29	1.26	1.06	1.35	0.85	1.49

(3)「教学に関わる満足度」に関連する設問

回答選択肢:3:十分に満足、2:満足、1:すこし満足、-1:やや不満、-2:不満、-3:かなり不満

※赤塗りつぶし:最も「満足度が高い」学部(学科)、

青塗りつぶし:最も「満足度が低い」学部(学科)

設問 No	設問内容	全学部	国際教養学部	国際商学部	理学部	D S 学部	医学科	看護学科
43	大半の授業の質	1.24	1.32	0.96	1.2	1.4	1.07	1.67
44	授業の多様性	1.21	1.39	0.88	0.97	1.15	1.18	1.67
45	教育内容と将来の進路との関連性	1.17	0.94	0.95	0.86	1.33	1.32	2.1
46	カリキュラムの表現やシラバス記述のわかりやすさ	0.77	0.78	0.74	0.36	0.92	0.74	1.12
47	大半の授業に関して、その履修人数	1.68	1.67	1.45	1.66	1.85	1.66	2.01
48	図書館の蔵書内容、サービス、使いやすさ	1.3	1.35	0.97	1.5	1.42	1.18	1.59
49	総合的にみた大学での学び	1.34	1.35	1.06	1.33	1.67	1.31	1.7
50	奨学金など経済援助の制度と内容	1.11	1.09	0.84	1.09	1.47	0.82	1.74
51	授業や学習を支援する電子ネットワークシステム	0.9	0.73	0.76	0.91	1.13	0.93	1.35
52	実験・実習室や能動的な学修を進めるための設備や機器	1.14	1.06	0.8	1.57	1.08	1.16	1.52
53	一般的な教室の設備や使用感	0.78	0.81	0.45	0.86	0.92	0.46	1.41
54	学内の雰囲気や居心地、環境	1.45	1.53	1.24	1.53	1.58	1.19	1.75
55	学費に比した教育内容	1.03	0.97	0.75	1.29	1.12	1.13	1.25
56	学内に設けられている自主的に学べる場の雰囲気や使いやすさ	1.02	0.96	0.75	1.13	1.29	0.91	1.48
57	キャリアを考えるために役立つ授業や情報、機会の提供	1.14	1.19	0.97	1.1	1.32	1.03	1.36
58	学んだ成果に対する評価のされ方	1.19	1.34	1.06	1	1.56	0.9	1.4
59	教員の対応	1.39	1.51	1.15	1.23	1.81	1.17	1.7
60	事務スタッフの対応	0.98	0.96	0.66	0.73	1.22	1.06	1.6

## (4)「在学中に希望すること」に関連する設問

回答選択肢: 3:強く望んでいる、2:望んでいる、1:いくぶん望んでいる、-1:あまり望んでいない、  
-2:望んでいない、-3:まったく望んでいない

※赤塗りつぶし:最も「希望度が高い」学部(学科)、

青塗りつぶし:最も「希望度が低い」学部(学科)

設問 No	設問内容	全学部	国際教養学部	国際商学部	理学部	DS学部	医学科	看護学科
65	専門分野の内容を十分に学ぶ	2.16	2.15	1.96	2.09	2.27	2.3	2.42
66	幅広い知識、教養を身につけ視野を広げる	2.05	2.28	2.08	1.77	1.73	2.02	1.94
67	起業やその意識形成にかかわる学びをする	-0.12	-0.13	0.4	-0.5	-0.33	-0.03	-0.58
68	企業、機関など大学外で体験実習、インターンなどをおこなう	1.44	1.81	1.93	1.05	1.75	0.59	0.81
69	チームなどで取り組むプロジェクト遂行型の学びをする	1.12	1.42	1.27	0.62	1.46	0.88	0.75
70	授業以外で学問的な関心事について学びを深める	1.48	1.69	1.58	1.4	1.65	1.46	0.89
71	討論やプレゼンの訓練になり課題解決をしていくような授業を受ける	1.16	1.5	1.33	0.79	1.35	0.92	0.62
72	資格を取得するための勉強をする	1.8	1.88	1.78	1.19	1.27	1.92	2.35
73	文章の作成能力が高まるような授業を受ける	1.35	1.73	1.46	1.06	0.94	1	1.07
74	外国語の運用能力を高めることを目的にした授業を受ける	1.24	1.87	1.35	0.76	0.65	1.08	0.57
75	卒業後の進路のために、教職員やキャリア関連の部署を活用する	1.13	1.57	1.26	0.97	1.23	0.27	0.86
76	よりよい学修計画を立てる	1.61	1.8	1.6	1.4	1.85	1.43	1.47
77	本学以外の教育機関・施設で学ぶ	0.45	0.48	0.53	0.35	0.31	0.75	0.17
78	なんらかのボランティア活動に従事する	0.85	1.42	0.67	0.32	0.21	0.82	0.74
79	短期の留学や海外語学研修に参加する	0.69	1.31	0.92	-0.16	-0.18	0.92	-0.06
80	1年間程度、あるいはそれ以上の長期留学をする	-0.13	0.38	0.16	-0.84	-0.54	-0.1	-0.82

大学間の中間活動体である学修比較IRコモンズでは、2015年からコモンズ参加大学において共通のウェブ・サーベイを用いた学修行動比較調査を実施しています。その結果は参加各大学において個別にそれぞれの目的に適った分析がおこなわれると共に、参加大学内で適宜有用性を判断しつつ比較分析・検討が施されています。ここでは調査実施母体である学修比較IRコモンズとして、個別大学に抛らず、参加大学全学生を総計した結果の一端について公開します。今回は7年目の調査です。参加大学は24大学、当調査では最多の約2万7千名余りの大学生たちが寄せた有効回収の結果から、またいくつもの発見と確認ができました。

なお、他の結果や情報、方法の詳細についてはコモンズのwebページ（Google検索などで「学修比較IR」と）をご覧ください。

実査期間（全体）2021年7月～22年2月

調査実施方法 ALCS独自のスマート・ウェブ・サーベイ

調査大学数 24

有効回収数 27481

有効回収とは80設問への回答率が60%以上等、ALCSの有効回収3基準を満たした回収

回答者学年構成 1年生57% 3年生43% 1、3年生間での比率

性別構成 男性20% 女性80%

27481  
名

有効回収数

58%

回収率

24大学間平均

93%

全回収数中の有効回収率

この調査は、3年生を調査対象にすることを基本にしていますが、大学によっては別の学年でも実施しています。

参加大学（名称の50音順） 跡見学園女子大学 大阪女子学院大学 大妻女子大学 お茶の水女子大学 嘉悦大学 川崎医科大学 京都看護大学 京都光華女子大学 京都女子大学 共立女子大学 金城学院大学 就実大学 椋山女子学園大学 津田塾大学 帝京大学 田園調布学園大学 東京女子大学 長崎県立大学 奈良女子大学 日本女子大学 フェリス学院大学 宮城大学 明星大学 横浜国立大学

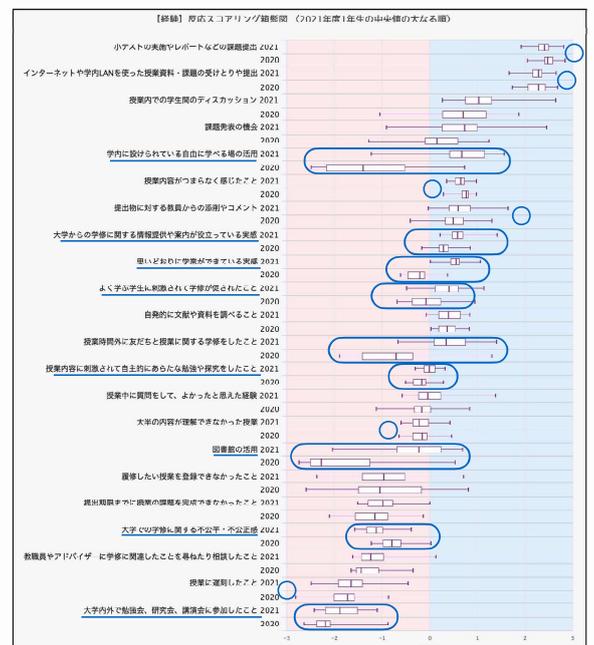
## 経験 大学の授業や学びに関する経験

以下4つの設問群の箱ひげ図は、調査対象各大学の昨年度と今年度の1年生の各設問についてのスコアリング・データの平均値を用い、それらを今年度の中央値の大なる順に表示した結果です。本年度も大学の学修状況は昨年度と同様の制約がつかまりました。ただし昨年度に比して大学によりその対応には相違があり、その違いが学修行動に反映された可能性がかなりありそうです。そこでここでは前年度との1年生間の比較をとりあげました。

昨年度とのデータ構成は2大学があらたに加わった24大学でした。箱ひげ図の特性を利用して、比較対の箱の部分に完全、またはほぼ重なりがなかった（一方の箱前半部の後半と他方の箱後半部の前半が重なる）ケースを差異として認めるといった基準で、今年度の回答結果が教学のうえで一般的にみて良い方向に変化したところを青、その反対方向に変化した設問を赤色で囲って表現しました（実際には存在しなかった）。また昨年度あきらかに改善を示した項目で今年度もその改善水準が維持されたところは青の円を記しました。

「経験」群では22設問中9設問で、肯定的な方向に明白な差異をみました。また、6設問では昨年度、その前の年より明白に改善をみたその水準を維持しました。つまり、昨年度生じた感染対策による遠隔授業の実施やネットワーク・コミュニケーションの活用による教学上の質的な変容が学生の学修経験上は、改善を促すことにつながり（典型的には小テストの実施やレポートなどの課題提出、それらに対する教員からの添削やコメント、あるいは授業がつまらなく感じるこの少なさや大半の内容が理解できない授業の存在など）、また昨年度、経験において損失を被ったことがらについては、本年度、全体的には従前の水準に、ほぼ改善復帰したことが認められました（典型的には学内に設けられている自由に学ぶ場や図書館の活用、あるいは思いどおりの学修ができていく実感【全体的には否定域に陥った昨年度から肯定域への移行】など）。

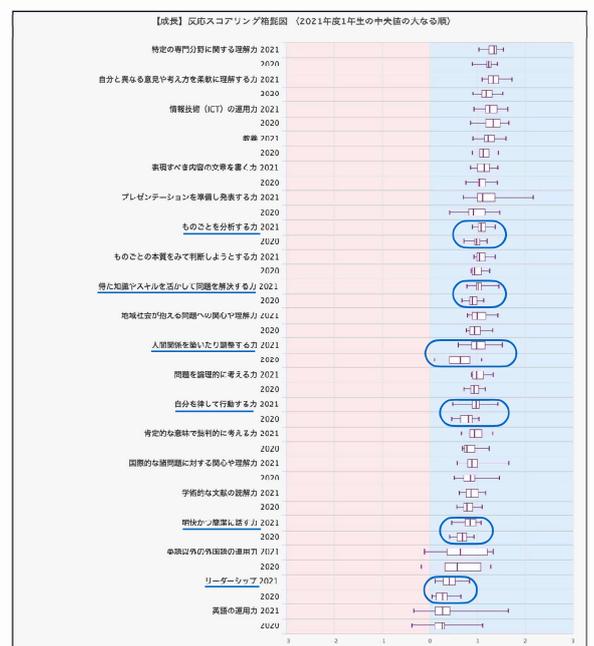
ただし、復調をみた項目でも、とくに施設利用関連については、大学により対応がかなり異なったことが箱ひげの長さの大きさに、そのまま反映されたようすもうかがえます。学生のことを慮った利用制限も過度であれば、学生自身の学修環境を損ない、それが実際に大学間格差につながる、そうした読みが教学マネジメントの現実感覚として求められるといえそうです。



## 成長 入学時からの成長感

この設問群は入学時に比した成長感を問うています。ですから、例年1年生の回答は、全体に肯定域にありながら大学間差異は小さくなく、前年度との差異もほとんど認められない傾向にあります。ところが、本年度は同様の傾向を維持しつつも、20項目中7項目、およそ1/3の項目で前年度よりも肯定方向に差異のある結果をみました。

昨年度の特異な学修状況の影響は、一昨年度との比較で成長感にはさほど影響をみませんでした。しかし、今年度は大学によっては昨年度の学修状況から離脱し、キャンパスに活気が戻ったことで反動的に元気を取り戻したところが多かったようすがうかがえました。箱ひげの箱部分が明白にずれて差異を示した項目は「人間関係を築いたり調整する力」でした。在宅学修が強い昨年度から、今年度は直に同輩と触れあう機会が増え、人間関係の価値をあらためて実感できたことが多かったのかもしれない。この設問への回答ぶりが成長感で昨年度よりも一層肯定的な反応を得た他の設問にも反映された観があります。すなわち「自分と異なる意見や考え方を柔軟に理解する力」「自分を律して行動する力」「明快かつ簡潔に話す力」「リーダーシップ」、いずれも対人関係の行動特性にかかわる項で、普段は年度間で差異が生じるような設問ではありません。また、「ものごとを分析する力」「得た知識やスキルを活かして問題を解決する力」にも前年度より一層の肯定感が増しました。しかし、もしこれらが反動的に形成されたとすれば、来年度以降の回答にはいささか不安があるかもしれません。



# 時間 日あたり、または週あたり平均値

昨年度の教学状況の異常事態で在宅学習が全般化した結果、それがそのまま授業に関する授業時間外の学修時間を伸張させるという結果を生み、その前年度の一日あたり1時間半という大学間平均値は、当調査、というよりおそらく史上初めて、2時間を超えるという、すなわち多くの大学の1コマの授業時間を超えるという画期的な結果をもたらしました。むしろそれが異常事態そのままの反映にすぎず、数値自体が異常以外のなものでもないという受け止めは容易にできます。授業に関連しない学習時間については年度がかわり、回答する対象学生が全員入れ替わっても両学年ともに、驚くほど恒常的だからです。

ただ、それでもそこに一抹の可能性を探るとすれば、人間の習慣形成にその拠りどころを求めることができそうです。昨年度に比較すれば、教学環境の異常性は正常に戻つつあった今年度の結果が授業時間外にも授業に関する学修時間を相応にとったという事実があったことで、それがそう簡単には後戻りしないだろう、という希望は、今年度の回答結果に読めるかもしれません。両学年ともに前年度より減少傾向にあったものの、ほぼ2時間というところは維持されました。

アルバイトの雇用環境は昨年度来、芳しくないとは聞くものの、実勢的にはその就労時間報告にそれと相関した動きは少なくとも1年生については明白には認められませんでした。週5日就労が平均的な姿ではないとしても仮にそうであったとして、いわゆる学修や学習と認識される時間よりもアルバイトに費やしている時間の方が長いという現状をみると、先の項でみた「人間関係を中心とした成長感」をもたらしているのは、大学における学びに由来するというよりも、アルバイト先で培われている学びに依拠しているところが大きいのかもしれません。

## 授業に関する授業外学修時間



## 授業に関連しない学習時間



## アルバイトなどの就労時間



# 満足 教学に関わる満足度

昨年度「満足」群の設問は18設問中8設問で、その前年度よりも明白な下落にみまわれました。突然にして大幅な教学環境の制約を受けての当然の結果で、大学にとっては大きな損失となりました。「総合的にみた大学での学び」「大半の授業の質」においてあきらかな満足度の低下をみたことは、その集約としての結果でした。

これに対して今年度は一転して右図で確認できるように、前年度の評定を下回った設問は皆無。「総合的にみた大学での学び」「大半の授業の質」を含めたこの群の8割弱の設問であきらかな改善評価を得ました。大学によっては今年度の教学環境が昨年度とさして変化せず、在宅学習主体でキャンパス施設利用もままならない状態がつかまりましたが、多くの大学で昨年度の制約が一部ないし大幅に解かれたことによる解放感が、この全面的な満足度の高揚につながったと考えられます。ただし、高揚・改善とはいっても、たとえば昨年度大学平均で不満足域に落ちた「学費に比した教育内容」が今年度は平均も箱も肯定域に改善をみた例がそれにあたりますが、その多くの改善とは一昨年度までの従前の水準を取り戻したという改善です。

したがって、これをたとえば授業実施におけるオン・オフライン・ハイブリッド型への評価であるとか、CMS等による授業支援システム活用の効果などとして捉えることは拙速でしょう。一種の解き放たれによる改善効果であるとするれば、来年度はある程度の揺り戻しがあるかもしれません。今年度の満足度評価はこの後の年度の評価経過をみることで正当な解釈ができるといえそうです。



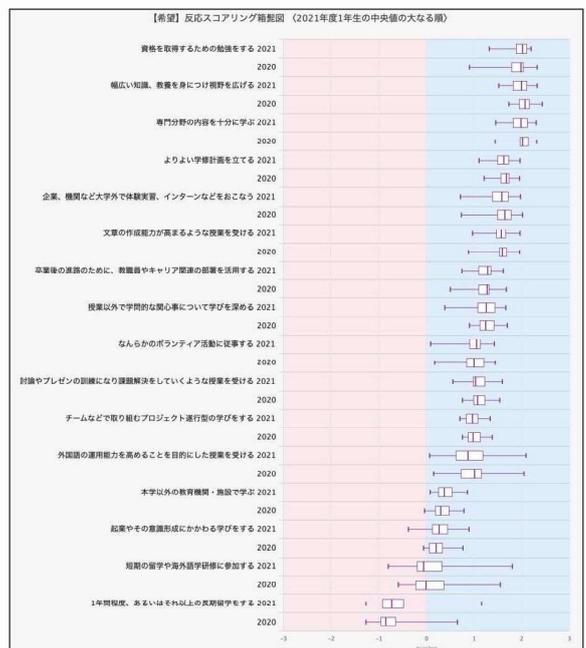
# 希望 在学中に望むこと

学生たちが在学中の学修において「最も」望んでいることは例年、大方の大学間の差異がそれほどなく、最も安定した評価ポジションを得ています。昨年度の下況下でも、さすがに在宅に制約されたことで「チーム学習」への求めが従前よりも高まるという結果を認めましたが、その他の設問への回答には明白な差異が認められません。本年度も同様で、全設問において前年度に比した変化は認められませんでした。

ただ、これは偶然による差異の範囲といえそうなところですが、大学間平均値の順位づけで、これまで一貫して、学生が最も強く希望していることが、第一に「幅広い知識や教養を身につけ視野を広げること」、第二に「専門分野の内容を十分に学ぶ」といえたことが、これまで第三にあった「資格を取得するための勉強をすること」が本年度、順位上は第一に来たという変化はありました。

もともとこの上位3項目はほとんど差異なく常に高い希望が示されてきたことから、換言すればこれも偶然、第一に教養、第二に専門、第三に資格といえてきただけのこともいえます。ですから、今年度のこの変化をあたかも社会情勢の不安定性を感じ取った学生の志向変化を反映したかのように受け止めることはいささか、でしょう。

なお、本年度の対象学生を確認しておけば、前年度大学のすべてに加えてあらたに2大学が加わりましたが、その有効回収総数に占めた新参加大学の有効回収数が占めた割合は7%でした。



## 全国学生調査について

### 1 趣旨

「学修者本位の教育への転換」を目指す取組の一環として、全国共通の質問項目により、学生目線から大学教育や学びの実態を把握し、大学の教育改善や国の政策立案など、大学・国の双方において様々な用途に活用することを目的として、全国学生調査を実施しており、本学も参加しています。

今年度は、令和3年度全国学生調査の集計及び令和4年度全国学生調査の周知を実施しました。

### 2 調査対象

全学部の2年次及び最終年次生

国際総合科学部（2年、4年）、国際教養学部（2年）、国際商学部（2年）、理学部（2年）、データサイエンス学部（2年、4年）、医学部医学科（2年、6年）、医学部看護学科（2年、4年）

回答状況：

学部（分野）	学年	回答数	在籍者数	回答率
国際総合科学部 （その他）	2年	1	17	5.9%
	4年	170	894	19.0%
国際教養学部（人文）	2年	53	299	17.7%
国際商学部（社会）	2年	48	275	17.5%
理学部（理学・工学）	2年	35	134	26.1%
データサイエンス学部 （理学・工学）	2年	13	63	20.6%
	4年	12	55	21.8%
医学部医学科 （医学（6年制））	2年	35	97	36.1%
	6年	31	74	41.9%
医学部看護学科 （保健）	2年	9	98	9.2%
	4年	38	103	36.9%
<b>本学合計</b>		<b>445</b>	<b>2,109</b>	<b>21.1%</b>

### 3 質問項目

大学で受けた授業の状況、大学での経験とその有用さ、大学を通じて知識や能力が身に付いたか、平均的な1週間の生活時間、授業形態等、全60問（その他、自由記述（任意）2問）

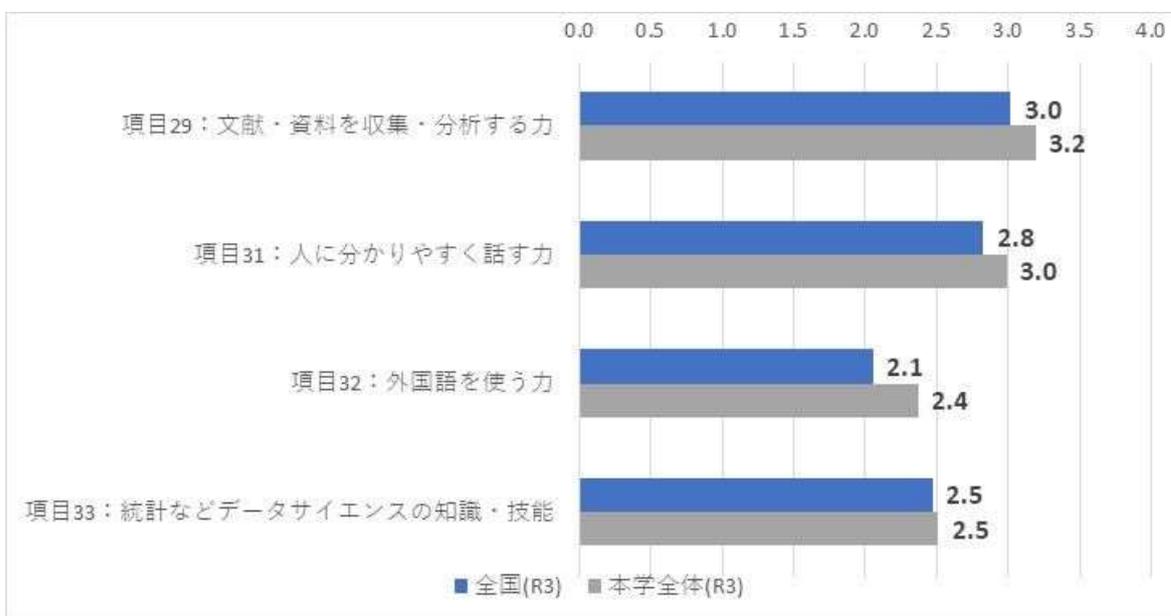
### 4 分析結果

次ページ「令和3年度全国学生調査」結果のとおり

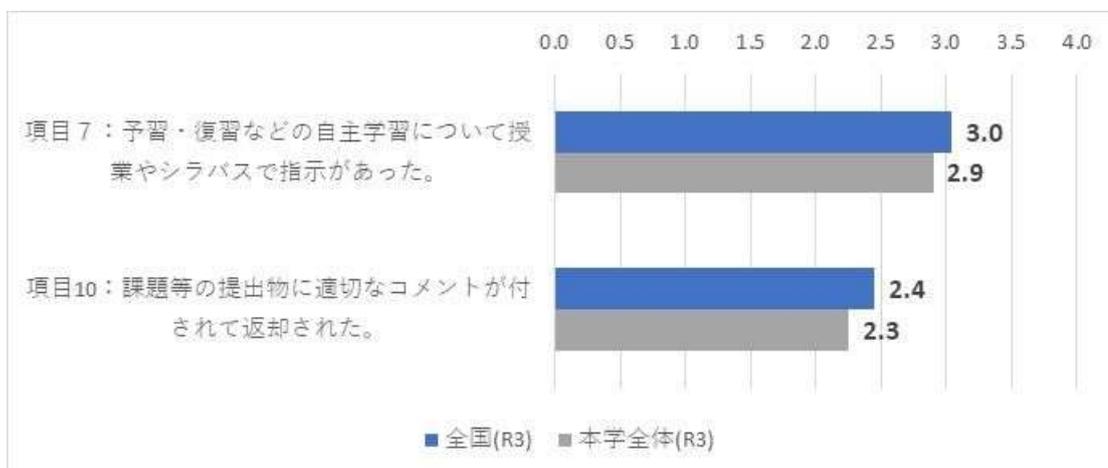
## 5 結果概要

### 【考察結果の概要】

- ・ 本学では論理的な思考や、研究を進める上で必要とされるスキルを問う項目で全国平均を上回る傾向があった。（「項目 29 文献・資料を収集・分析する力」、「項目 30：論理的に文章を書く力」、「項目 31：人に分かりやすく話す力」）本学の研究力向上に資する本学の強みに繋がる回答である。
- ・ 本学の注力項目である、グローバル人材及びデータサイエンス人材の育成に関する項目でも、全国平均と同等または上回る水準であった。特に「項目 32：外国語を使う力」では、全国平均 2.1 に対し、本学平均は 2.4 と良好な結果であった。データサイエンスに関わる「項目 33：統計などデータサイエンスの知識・技能」も、令和 3 年度は全国平均と全学平均は同水準であったが、令和 4 年度より ADEPT プログラムの積極的な周知により今後調査結果上でも習得度の向上が見られることが期待される。



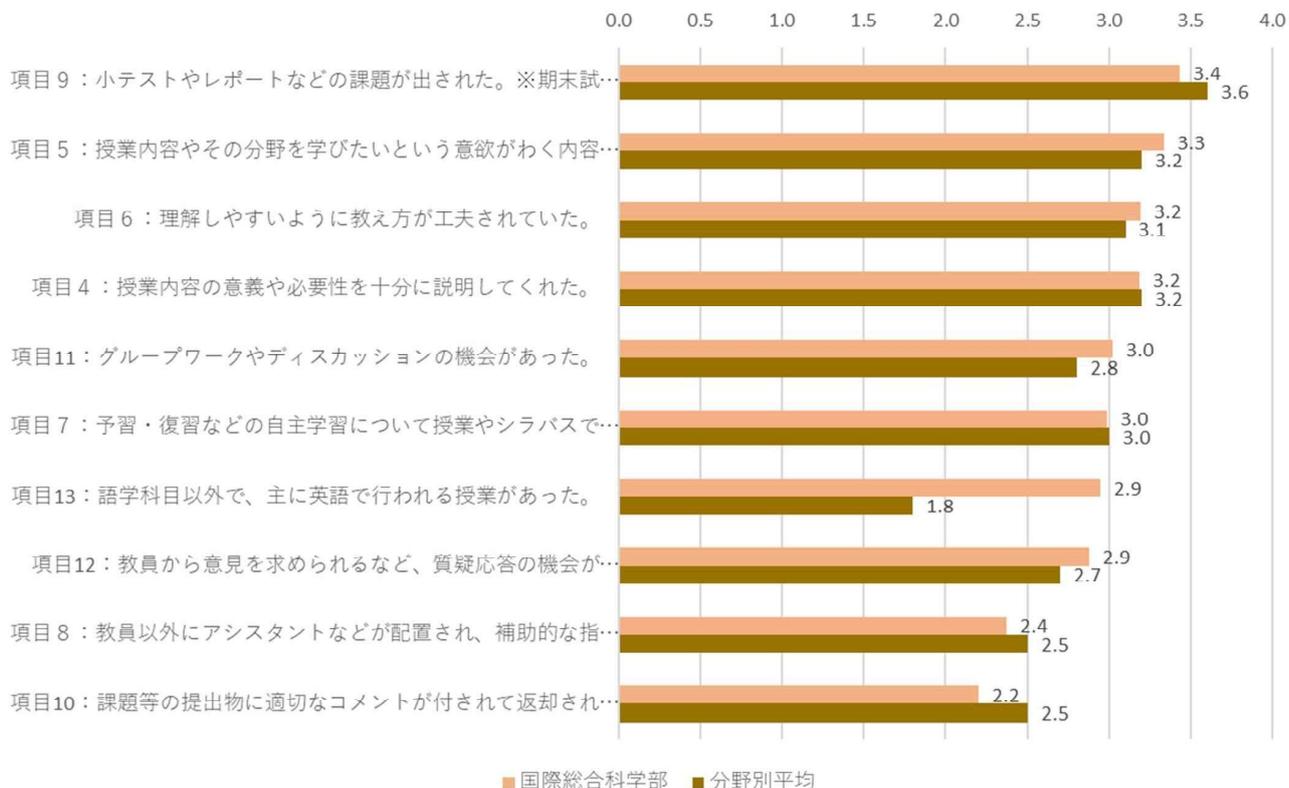
- ・ 一方で、全国平均を下回った項目は「項目 7：予習・復習などの自主学習について授業やシラバスで指示があった」、「項目 10：課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却された」であった。今後の授業運営に対しての課題と捉え、関係会議体等で検討していきたい。



令和3年度 全国学生調査（第2回試行実施）回答集計～国際総合科学部～

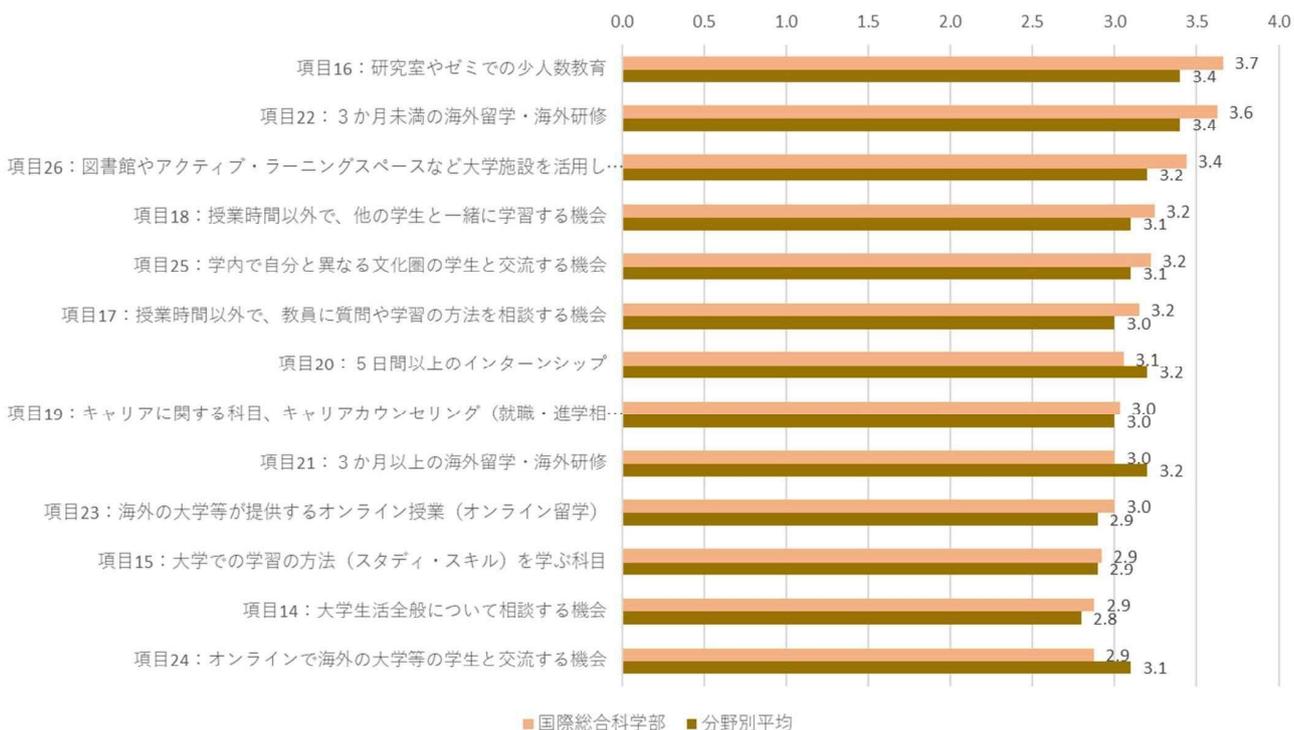
【国際総合科学部】

問1 大学に入ってから受けた授業で、次の項目はどのくらいありましたか



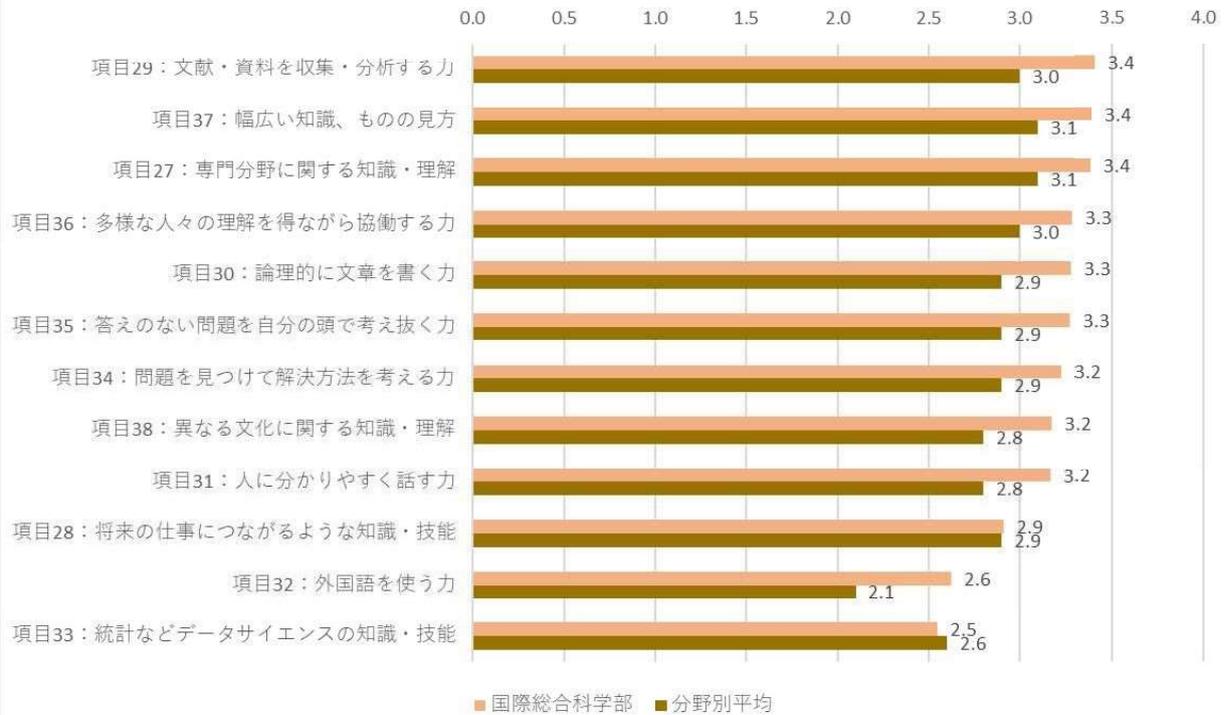
【国際総合科学部】

問2 大学に入ってから次のような経験はありましたか。また、その経験は有用でしたか



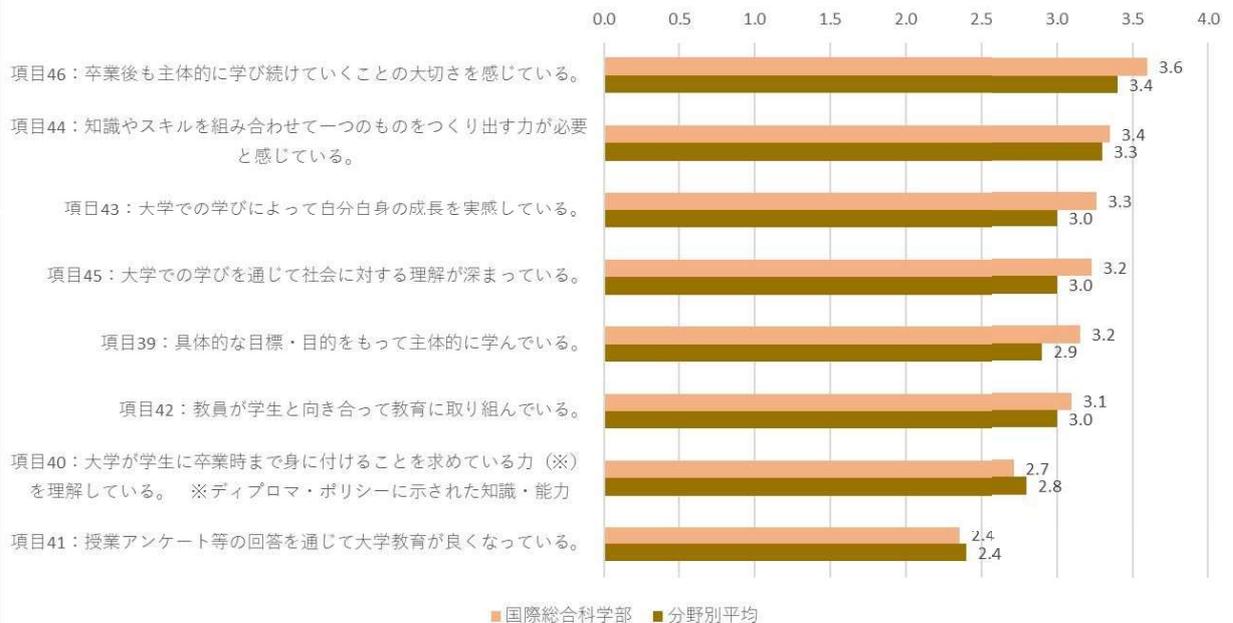
【国際総合科学部】

問3 大学教育を通じて、次のような知識や能力が身に付いたと思いますか



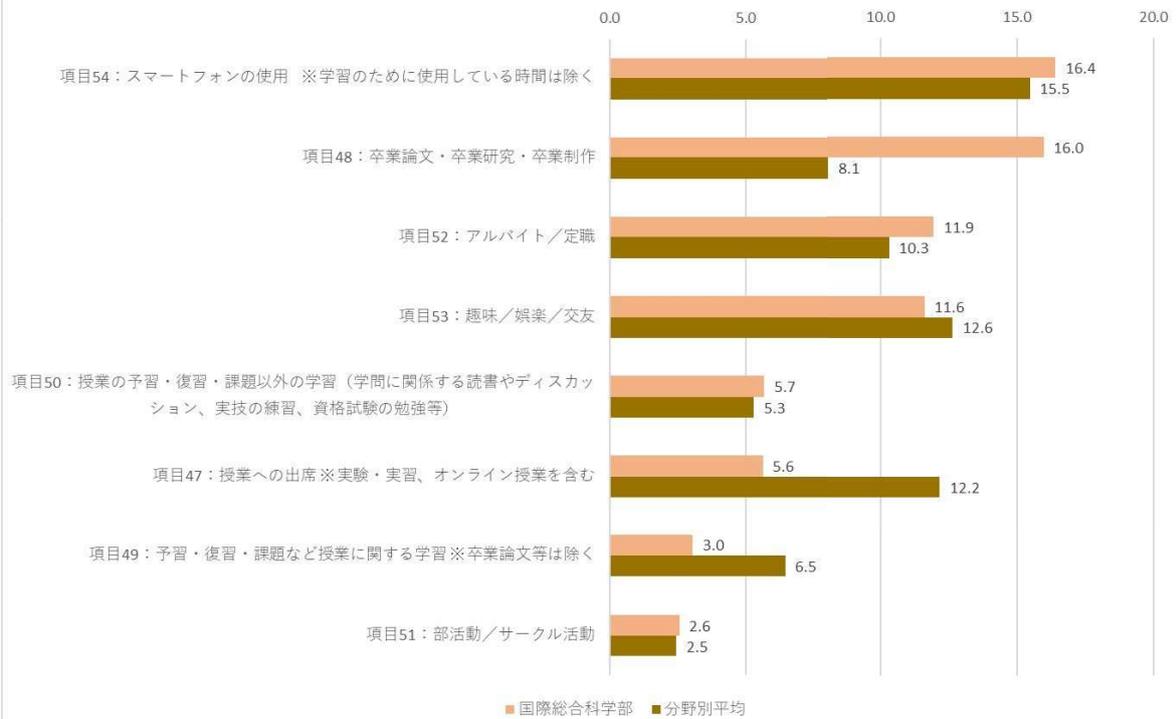
【国際総合科学部】

問4 これまでの大学での学び全体を振り返って、次の項目についてどのように思いますか



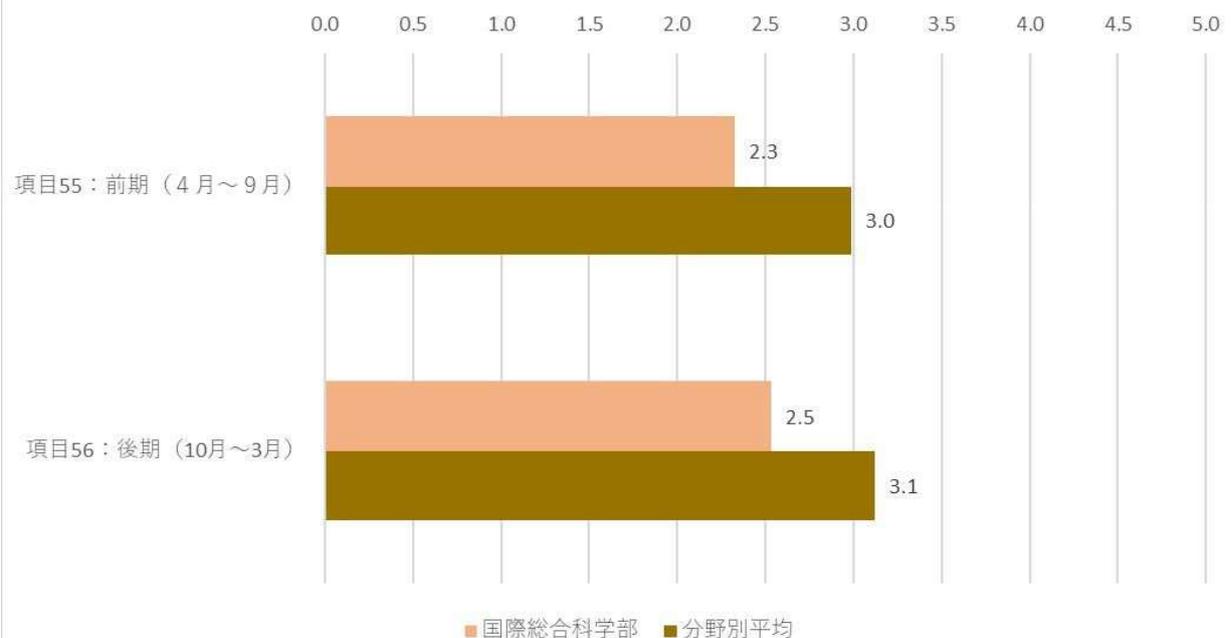
【国際総合科学部】

問5 今年度後期の授業期間中の平均的な1週間（7日間）の生活時間は、それぞれどのくらいですか



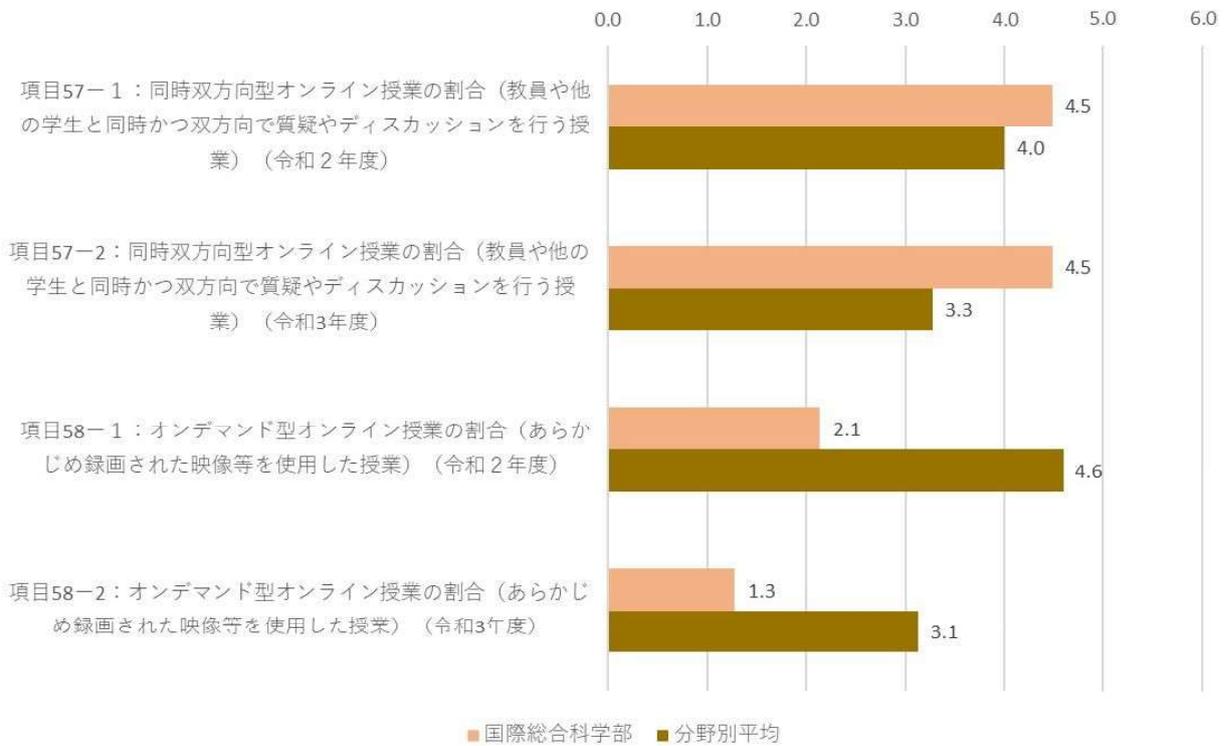
【国際総合科学部】

問6 今年度の授業期間中にキャンパスへ通った日数は、1週間でそれぞれ何日くらいですか



【国際総合科学部】

問7 昨年度と今年度に受けた授業のうち、次の授業形態の割合はそれぞれどのくらいですか

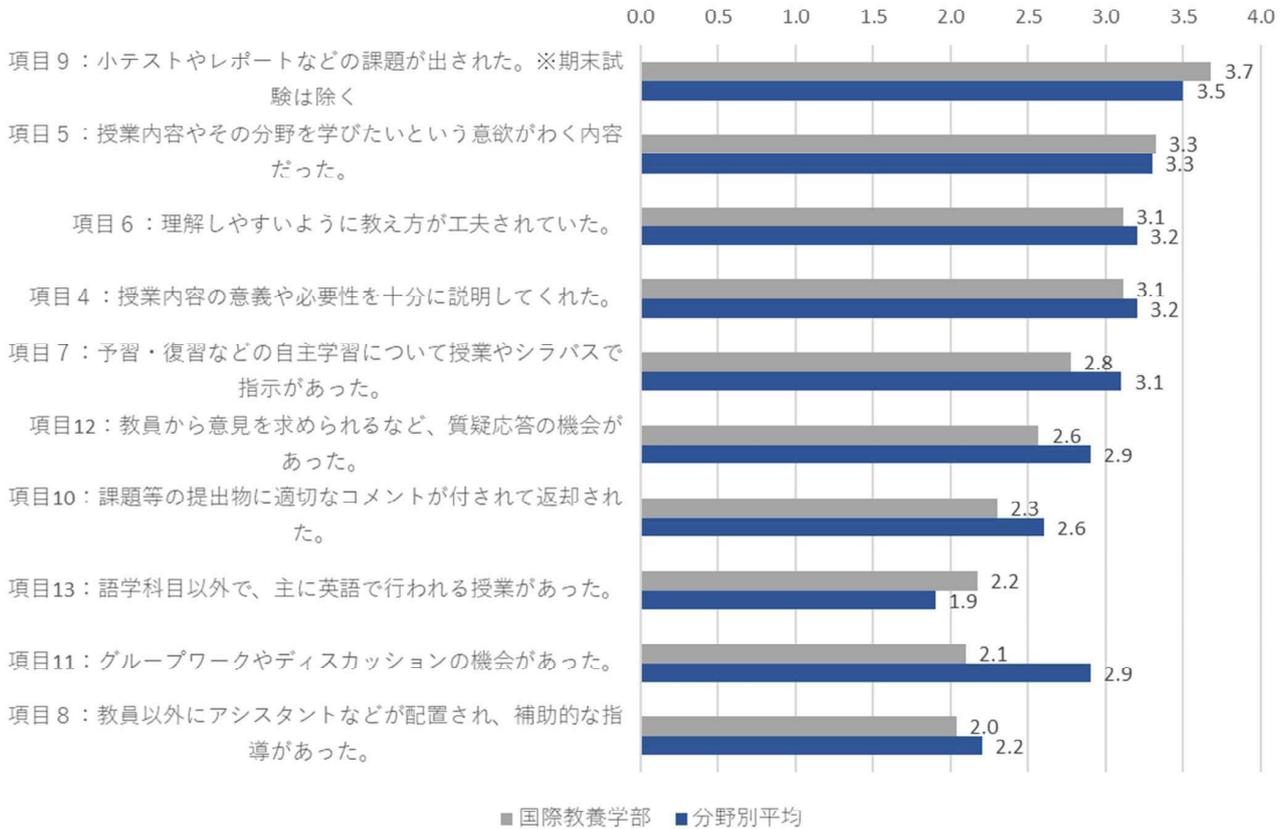


問	設問	全国	国際総合科学部	本学全体	分野別平均 (その他)
1	項目4：授業内容の意義や必要性を十分に説明してくれた。	3.2	3.2	3.2	3.2
1	項目5：授業内容やその分野を学びたいという意欲がわく内容だった。	3.2	3.3	3.3	3.2
1	項目6：理解しやすいように教え方が工夫されていた。	3.1	3.2	3.1	3.1
1	項目7：予習・復習などの自主学習について授業やシラバスで指示があった。	3.0	3.0	2.9	3.0
1	項目8：教員以外にアシスタントなどが配置され、補助的な指導があった。	2.5	2.4	2.4	2.5
1	項目9：小テストやレポートなどの課題が出された。※期末試験は除く	3.5	3.4	3.5	3.6
1	項目10：課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却された。	2.4	2.2	2.3	2.5
1	項目11：グループワークやディスカッションの機会があった。	2.8	3.0	2.8	2.8
1	項目12：教員から意見を求められるなど、質疑応答の機会があった。	2.8	2.9	2.9	2.7
1	項目13：語学科目以外で、主に英語で行われる授業があった。	1.8	2.9	2.4	1.8
2	項目14：大学生生活全般について相談する機会	2.8	2.9	2.8	2.8
2	項目15：大学での学習の方法（スタディ・スキル）を学ぶ科目	2.9	2.9	2.8	2.9
2	項目16：研究室やゼミでの少人数教育	3.3	3.7	3.3	3.4
2	項目17：授業時間以外で、教員に質問や学習の方法を相談する機会	3.0	3.2	3.1	3.0
2	項目18：授業時間以外で、他の学生と一緒に学習する機会	3.2	3.2	3.3	3.1
2	項目19：キャリアに関する科目、キャリアアカウンセリング（就職・進学相談）	3.0	3.0	2.9	3.0
2	項目20：5日間以上のインターンシップ	3.2	3.1	2.9	3.2
2	項目21：3か月以上の海外留学・海外研修	3.2	3.0	2.8	3.2
2	項目22：3か月未満の海外留学・海外研修	3.4	3.6	3.5	3.4
2	項目23：海外の大学等が提供するオンライン授業（オンライン留学）	3.0	3.0	3.0	2.9
2	項目24：オンラインで海外の大学等の学生と交流する機会	3.0	2.9	3.1	3.1
2	項目25：学内で自分と異なる文化圏の学生と交流する機会	3.1	3.2	3.2	3.1
2	項目26：図書館やアクティブ・ラーニングスペースなど大学施設を活用した学習	3.3	3.4	3.3	3.2
3	項目27：専門分野に関する知識・理解	3.1	3.4	3.3	3.1
3	項目28：将来の仕事につながるような知識・技能	3.0	2.9	3.0	2.9
3	項目29：文献・資料を収集・分析する力	3.0	3.4	3.2	3.0
3	項目30：論理的に文章を書く力	2.9	3.3	3.1	2.9
3	項目31：人に分かりやすく話す力	2.8	3.2	3.0	2.8
3	項目32：外国語を使う力	2.1	2.6	2.4	2.1
3	項目33：統計などデータサイエンスの知識・技能	2.5	2.5	2.5	2.6
3	項目34：問題を見つけて解決方法を考える力	2.9	3.2	3.1	2.9
3	項目35：答えのない問題を自分の頭で考え抜く力	2.9	3.3	3.0	2.9
3	項目36：多様な人々の理解を得ながら協働する力	3.0	3.3	3.1	3.0
3	項目37：幅広い知識、ものの見方	3.1	3.4	3.3	3.1
3	項目38：異なる文化に関する知識・理解	2.8	3.2	2.9	2.8
4	項目39：具体的な目標・目的をもって主体的に学んでいる。	3.0	3.2	3.1	2.9
4	項目40：大学が学生に卒業時まで身に付けることを求めている力（※）を理解している。	2.8	2.7	2.7	2.8
4	項目41：授業アンケート等の回答を通じて大学教育が良くなっている。	2.3	2.4	2.3	2.4
4	項目42：教員が学生と向き合って教育に取り組んでいる。	2.9	3.1	3.1	3.0
4	項目43：大学での学びによって自分自身の成長を実感している。	3.0	3.3	3.1	3.0
4	項目44：知識やスキルを組み合わせ一つのものをつくり出す力が必要と感じている。	3.3	3.4	3.4	3.3
4	項目45：大学での学びを通じて社会に対する理解が深まっている。	3.0	3.2	3.1	3.0
4	項目46：卒業後も主体的に学び続けていくことの大切さを感じている。	3.5	3.6	3.6	3.4
5	項目47：授業への出席 ※実験・実習、オンライン授業を含む	13.7	5.6	13.1	12.2
5	項目48：卒業論文・卒業研究・卒業制作	7.3	16.0	7.9	8.1
5	項目49：予習・復習・課題など授業に関する学習 ※卒業論文等は除く	7.2	3.0	6.5	6.5
5	項目50：授業の予習・復習・課題以外の学習（学問に関係する読書やディスカッション、実	6.3	5.7	6.7	5.3
5	項目51：部活動／サークル活動	2.5	2.6	3.2	2.5
5	項目52：アルバイト／定職	9.7	11.9	10.0	10.3
5	項目53：趣味／娯楽／交友	12.0	11.6	11.2	12.6
5	項目54：スマートフォンの使用 ※学習のために使用している時間は除く	14.7	16.4	15.5	15.5
6	項目55：前期（4月～9月）	3.2	2.3	2.5	3.0
6	項目56：後期（10月～3月）	3.4	2.5	2.5	3.1
7	項目57-1：同時双方向型オンライン授業の割合（令和2年度）	4.0	4.5	4.6	4.0
7	項目57-2：同時双方向型オンライン授業の割合（令和3年度）	3.2	4.5	4.4	3.3
7	項目58-1：オンデマンド型オンライン授業の割合（令和2年度）	4.2	2.1	2.3	4.6
7	項目58-2：オンデマンド型オンライン授業の割合（令和3年度）	2.7	1.3	1.5	3.1

令和3年度 全国学生調査（第2回試行実施）回答集計～国際教養学部～

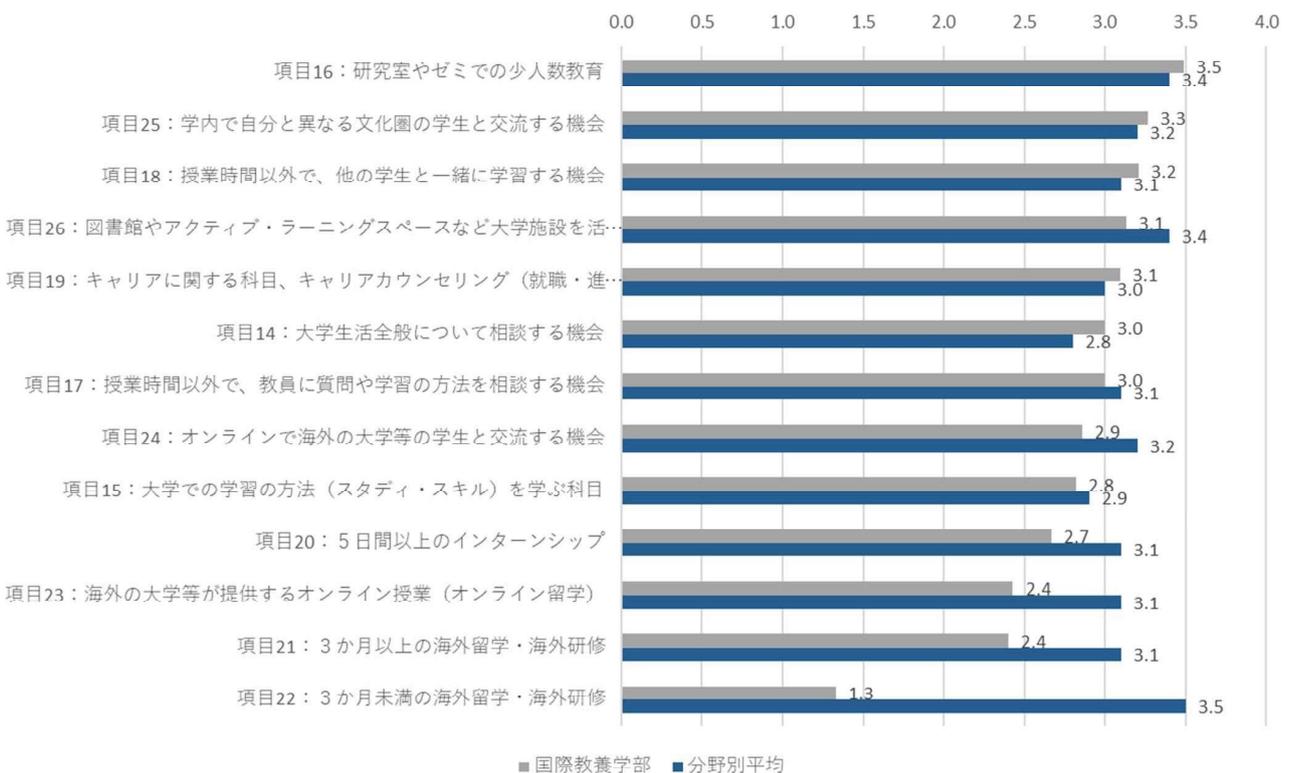
【国際教養学部】

問1 大学に入ってから受けた授業で、次の項目はどのくらいありましたか



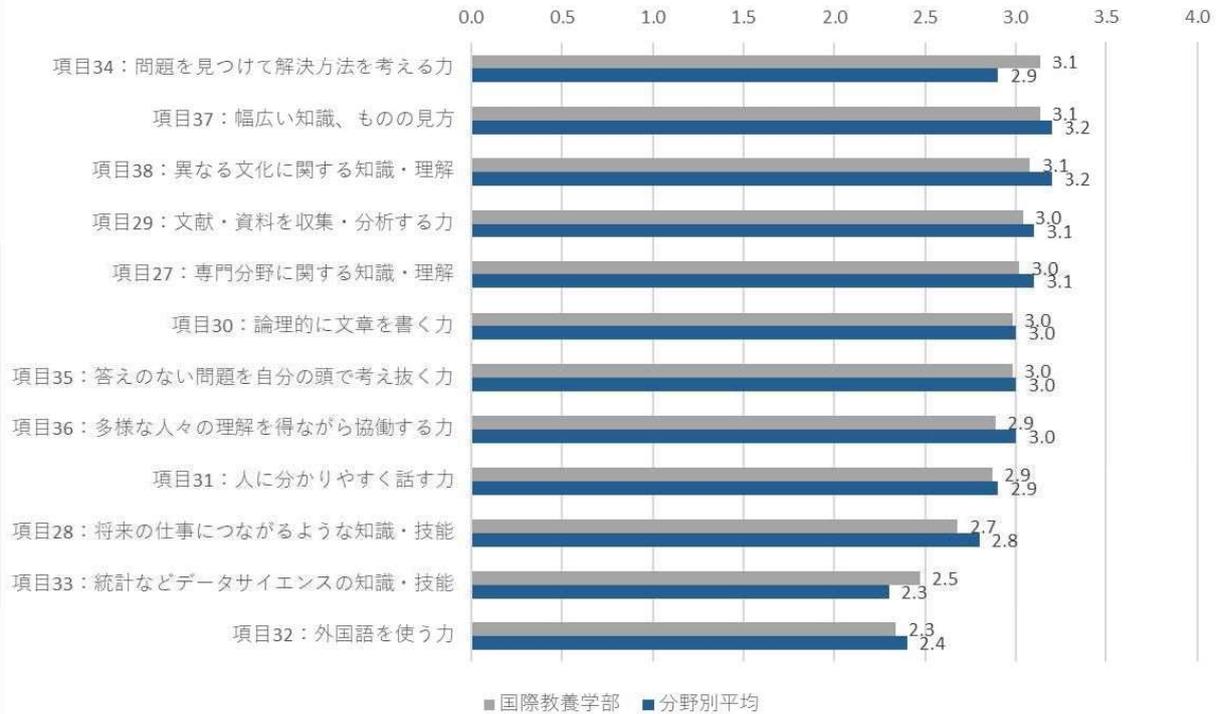
【国際教養学部】

問2 大学に入ってから次のような経験はありましたか。また、その経験は有用でしたか



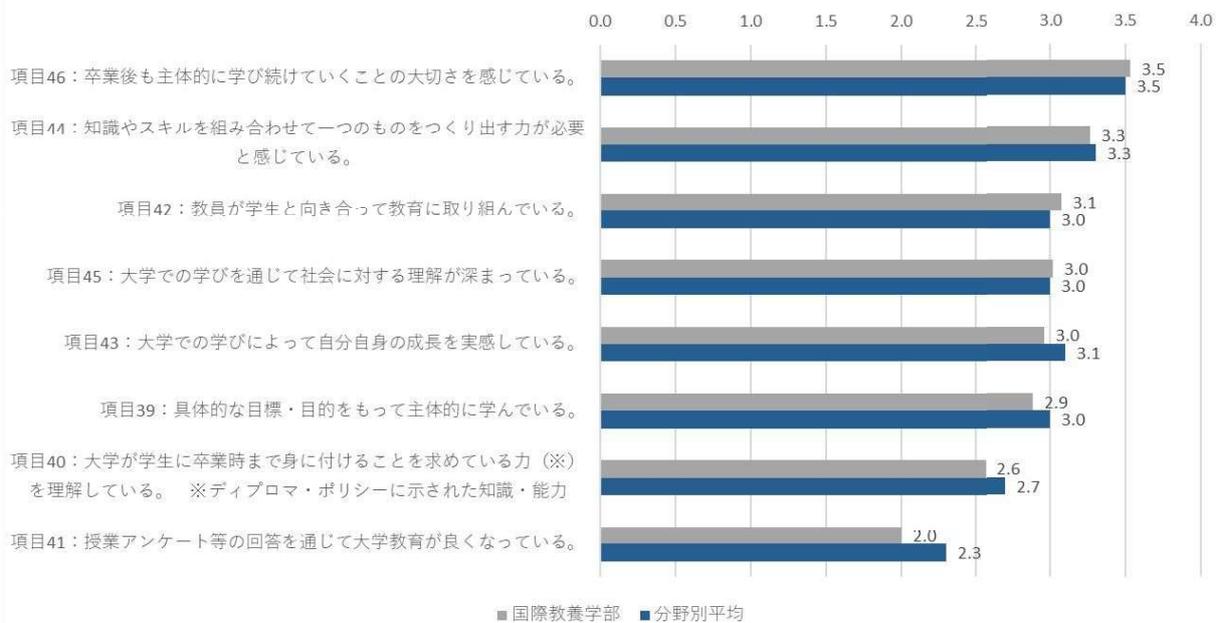
【国際教養学部】

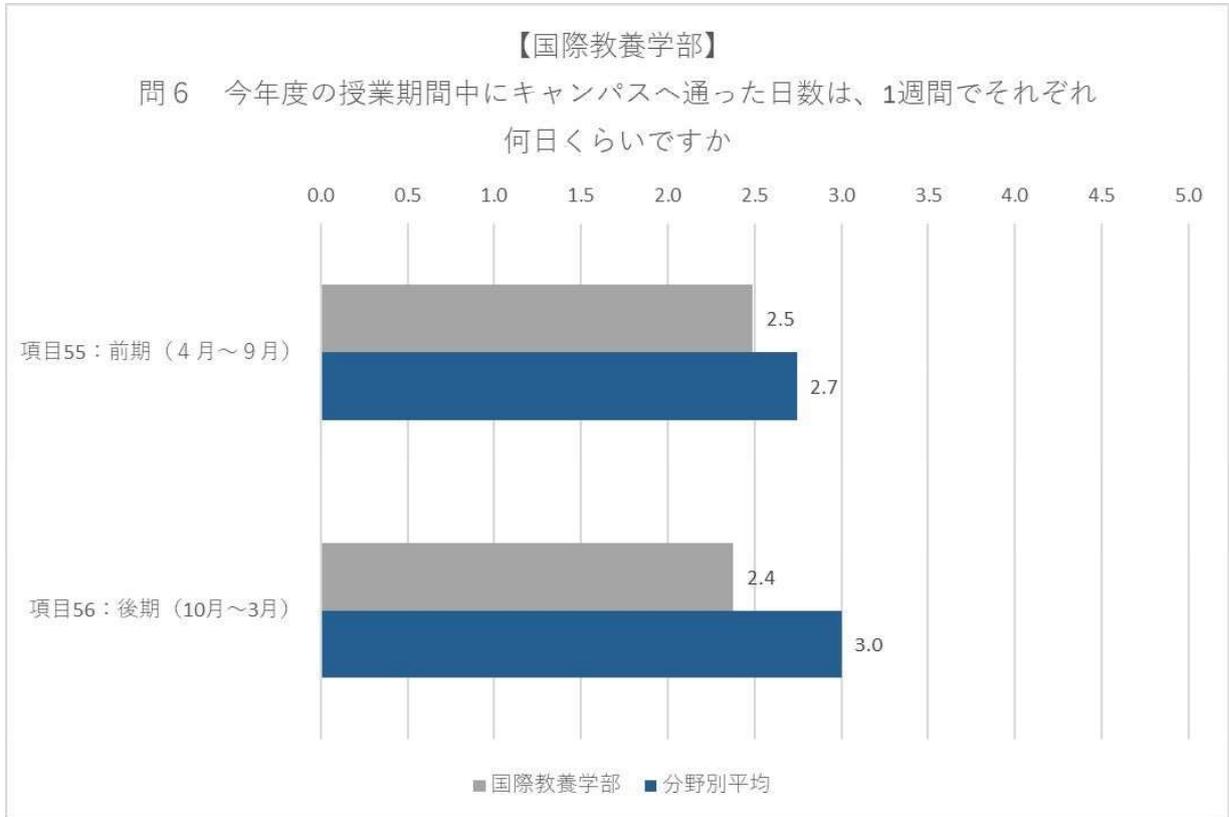
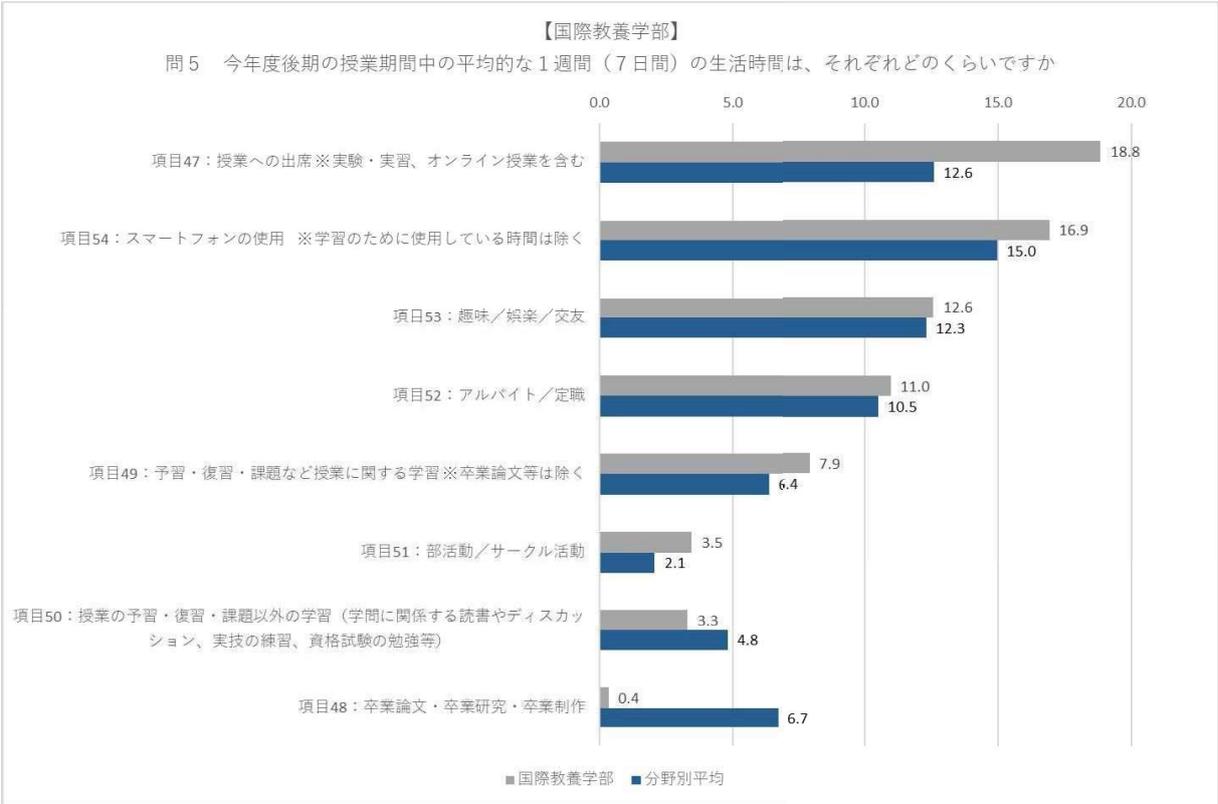
問3 大学教育を通じて、次のような知識や能力が身に付いたと思いますか



【国際教養学部】

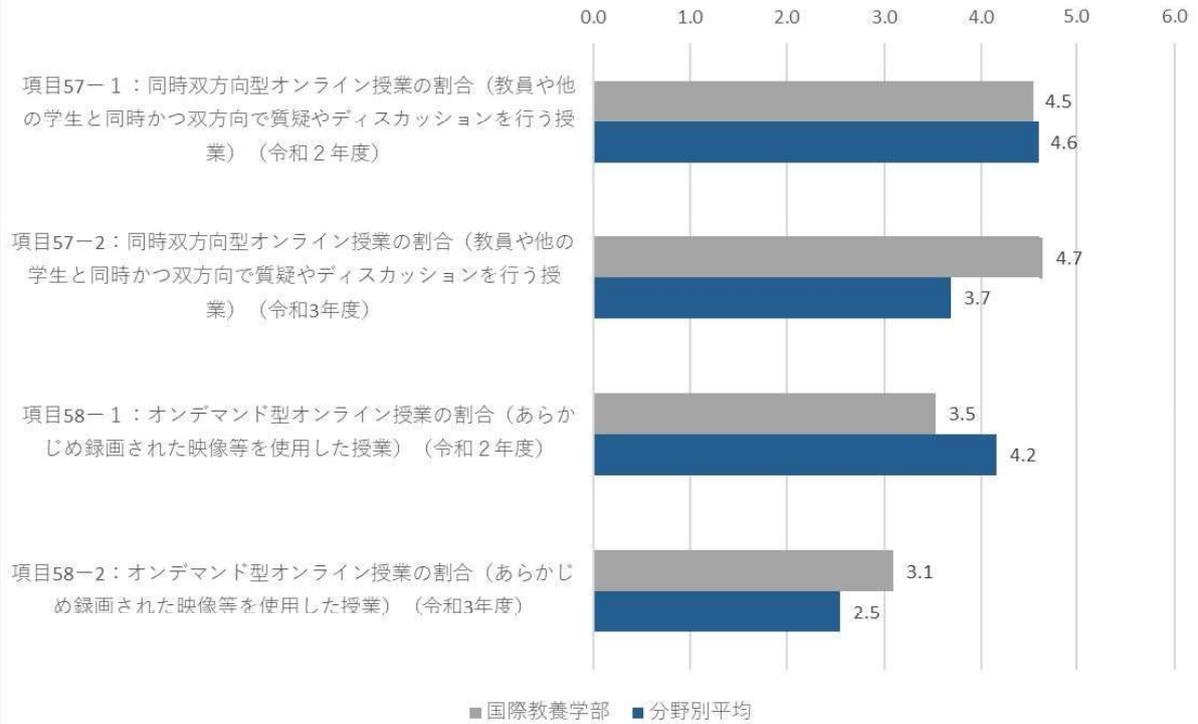
問4 これまでの大学での学び全体を振り返って、次の項目についてどのように思いますか





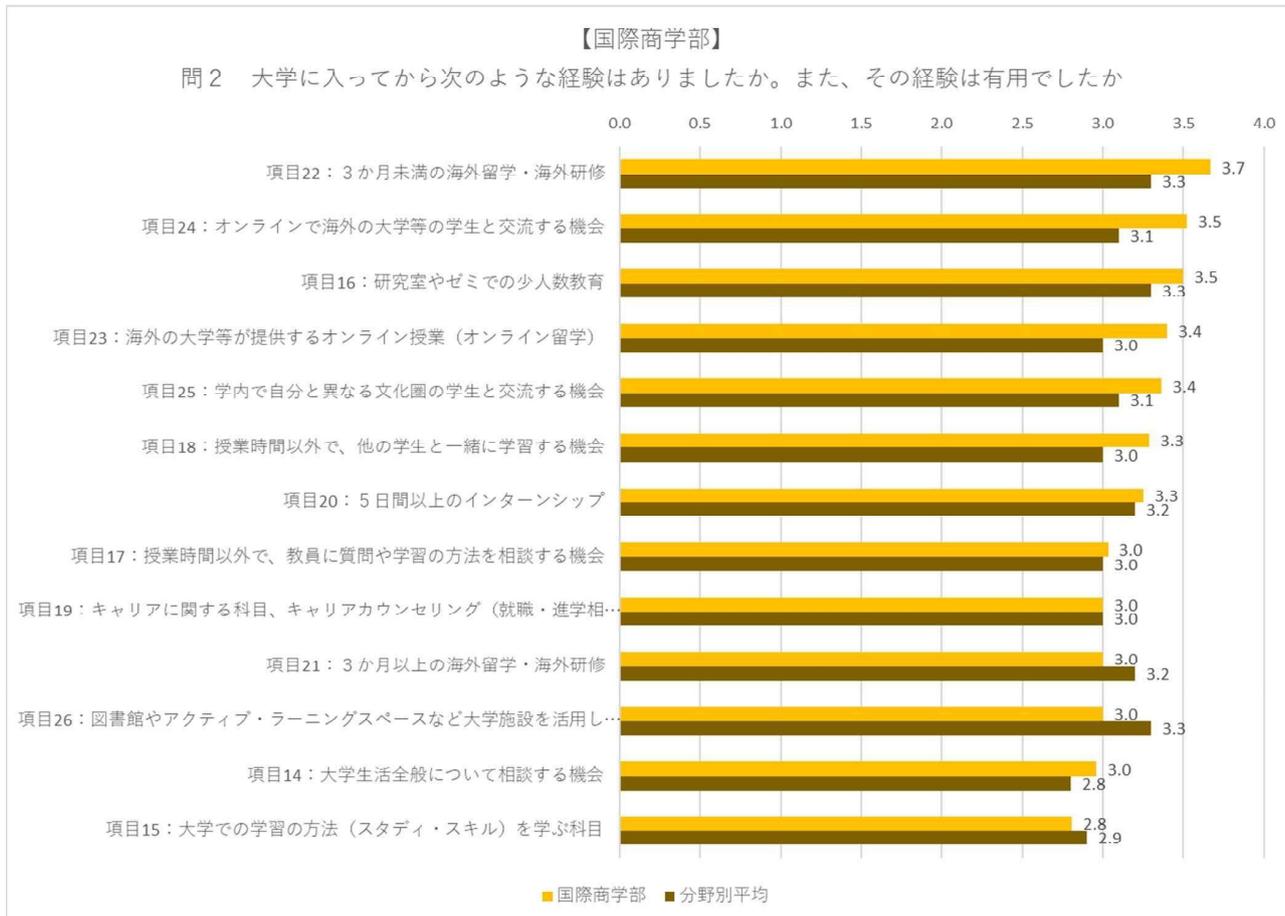
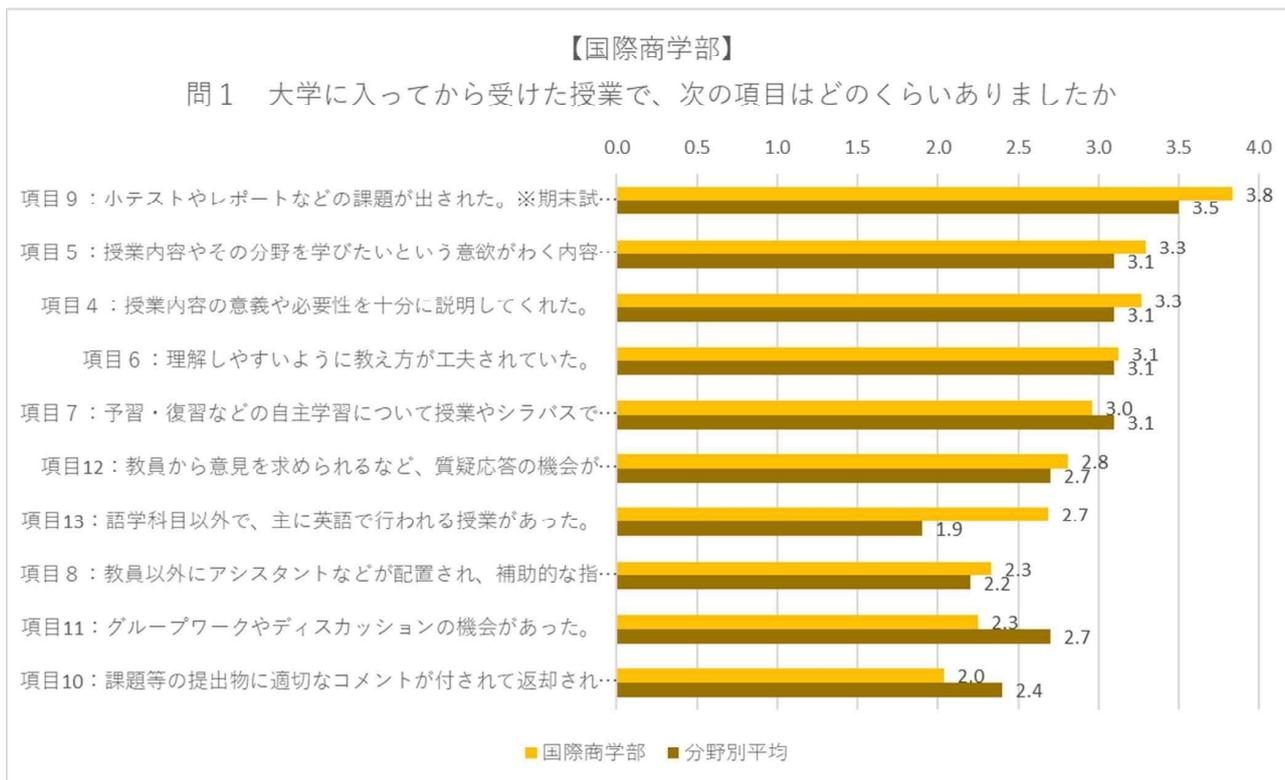
【国際教養学部】

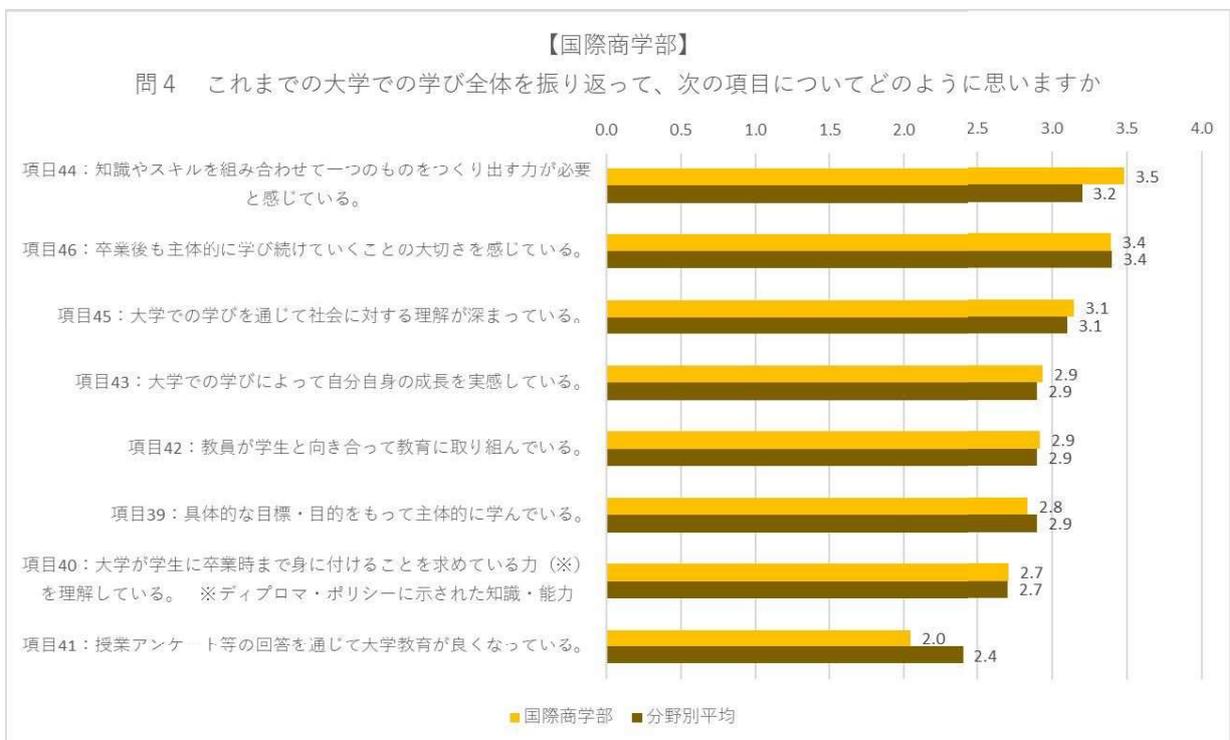
問7 昨年度と今年度に受けた授業のうち、次の授業形態の割合はそれぞれどのくらいですか



問	設問	全国	国際 教養学部	本学合計	分野別平均 (人文)
1	項目4：授業内容の意義や必要性を十分に説明してくれた。	3.2	3.1	3.2	3.2
1	項目5：授業内容やその分野を学びたいという意欲がわく内容だった。	3.2	3.3	3.3	3.3
1	項目6：理解しやすいように教え方が工夫されていた。	3.1	3.1	3.1	3.2
1	項目7：予習・復習などの自主学習について授業やシラバスで指示があった。	3.0	2.8	2.9	3.1
1	項目8：教員以外にアシスタントなどが配置され、補助的な指導があった。	2.5	2.0	2.4	2.2
1	項目9：小テストやレポートなどの課題が出された。※期末試験は除く	3.5	3.7	3.5	3.5
1	項目10：課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却された。	2.4	2.3	2.3	2.6
1	項目11：グループワークやディスカッションの機会があった。	2.8	2.1	2.8	2.9
1	項目12：教員から意見を求められるなど、質疑応答の機会があった。	2.8	2.6	2.9	2.9
1	項目13：語学科目以外で、主に英語で行われる授業があった。	1.8	2.2	2.4	1.9
2	項目14：大学生活全般について相談する機会	2.8	3.0	2.8	2.8
2	項目15：大学での学習の方法（スタディ・スキル）を学ぶ科目	2.9	2.8	2.8	2.9
2	項目16：研究室やゼミでの少人数教育	3.3	3.5	3.3	3.4
2	項目17：授業時間以外で、教員に質問や学習の方法を相談する機会	3.0	3.0	3.1	3.1
2	項目18：授業時間以外で、他の学生と一緒に学習する機会	3.2	3.2	3.3	3.1
2	項目19：キャリアに関する科目、キャリアカウンセリング（就職・進学相談）	3.0	3.1	2.9	3.0
2	項目20：5日間以上のインターンシップ	3.2	2.7	2.9	3.1
2	項目21：3か月以上の海外留学・海外研修	3.2	2.4	2.8	3.1
2	項目22：3か月未満の海外留学・海外研修	3.4	1.3	3.5	3.5
2	項目23：海外の大学等が提供するオンライン授業（オンライン留学）	3.0	2.4	3.0	3.1
2	項目24：オンラインで海外の大学等の学生と交流する機会	3.0	2.9	3.1	3.2
2	項目25：学内で自分と異なる文化圏の学生と交流する機会	3.1	3.3	3.2	3.2
2	項目26：図書館やアクティブ・ラーニングスペースなど大学施設を活用した学習	3.3	3.1	3.3	3.4
3	項目27：専門分野に関する知識・理解	3.1	3.0	3.3	3.1
3	項目28：将来の仕事につながるような知識・技能	3.0	2.7	3.0	2.8
3	項目29：文献・資料を収集・分析する力	3.0	3.0	3.2	3.1
3	項目30：論理的に文章を書く力	2.9	3.0	3.1	3.0
3	項目31：人に分かりやすく話す力	2.8	2.9	3.0	2.9
3	項目32：外国語を使う力	2.1	2.3	2.4	2.4
3	項目33：統計などデータサイエンスの知識・技能	2.5	2.5	2.5	2.3
3	項目34：問題を見つけて解決方法を考える力	2.9	3.1	3.1	2.9
3	項目35：答えのない問題を自分の頭で考え抜く力	2.9	3.0	3.0	3.0
3	項目36：多様な人々の理解を得ながら協働する力	3.0	2.9	3.1	3.0
3	項目37：幅広い知識、ものの見方	3.1	3.1	3.3	3.2
3	項目38：異なる文化に関する知識・理解	2.8	3.1	2.9	3.2
4	項目39：具体的な目標・目的をもって主体的に学んでいる。	3.0	2.9	3.1	3.0
4	項目40：大学が学生に卒業時まで身に付けることを求めている力（※）を理解している。 ※ディプロマ・ポリシーに示された知識・能力	2.8	2.6	2.7	2.7
4	項目41：授業アンケート等の回答を通じて大学教育が良くなっている。	2.3	2.0	2.3	2.3
4	項目42：教員が学生と向き合って教育に取り組んでいる。	2.9	3.1	3.1	3.0
4	項目43：大学での学びによって自分自身の成長を実感している。	3.0	3.0	3.1	3.1
4	項目44：知識やスキルを組み合わせる一つのものをつくり出す力が必要と感じている。	3.3	3.3	3.4	3.3
4	項目45：大学での学びを通じて社会に対する理解が深まっている。	3.0	3.0	3.1	3.0
4	項目46：卒業後も主体的に学び続けていくことの大切さを感じている。	3.5	3.5	3.6	3.5
5	項目47：授業への出席 ※実験・実習、オンライン授業を含む	13.7	18.8	13.1	12.6
5	項目48：卒業論文・卒業研究・卒業制作	7.3	0.4	7.9	6.7
5	項目49：予習・復習・課題など授業に関する学習 ※卒業論文等は除く	7.2	7.9	6.5	6.4
5	項目50：授業の予習・復習・課題以外の学習（学問に関係する読書やディスカッション、実技の練習、資格試験の勉強等）	6.3	3.3	6.7	4.8
5	項目51：部活動／サークル活動	2.5	3.5	3.2	2.1
5	項目52：アルバイト／定職	9.7	11.0	10.0	10.5
5	項目53：趣味／娯楽／交友	12.0	12.6	11.2	12.3
5	項目54：スマートフォンの使用 ※学習のために使用している時間は除く	14.7	16.9	15.5	15.0
6	項目55：前期（4月～9月）	3.2	2.5	2.5	2.7
6	項目56：後期（10月～3月）	3.4	2.4	2.5	3.0
7	項目57-1：同時双方向型オンライン授業の割合（令和2年度）	4.0	4.5	4.6	4.6
7	項目57-2：同時双方向型オンライン授業の割合（令和3年度）	3.2	4.7	4.4	3.7
7	項目58-1：オンデマンド型オンライン授業の割合（令和2年度）	4.2	3.5	2.3	4.2
7	項目58-2：オンデマンド型オンライン授業の割合（令和3年度）	2.7	3.1	1.5	2.5

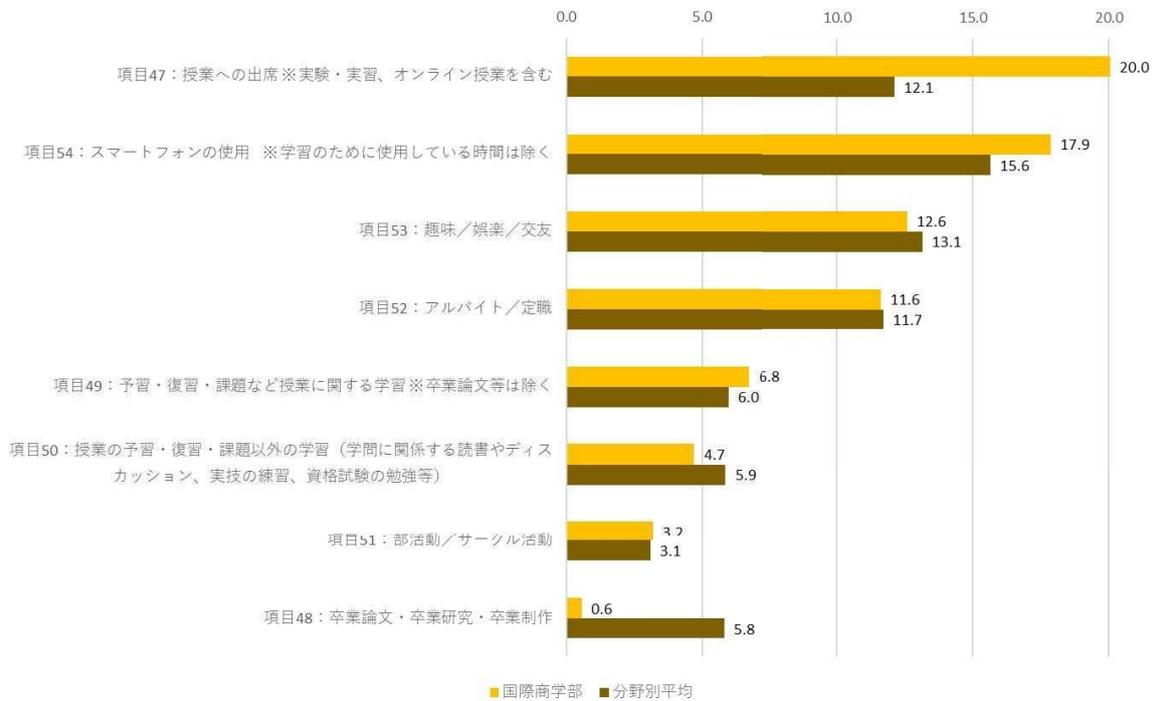
令和3年度 全国学生調査（第2回試行実施）回答集計～国際商学部～





【国際商学部】

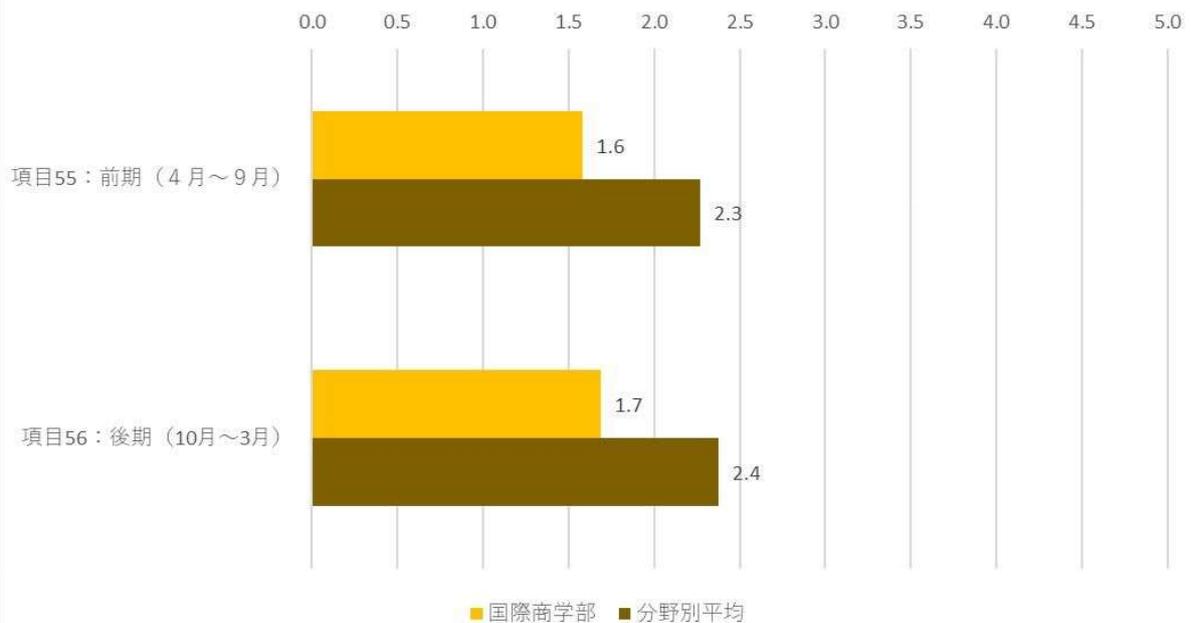
問5 今年度後期の授業期間中の平均的な1週間（7日間）の生活時間は、それぞれのどれくらいですか



■ 国際商学部 ■ 分野別平均

【国際商学部】

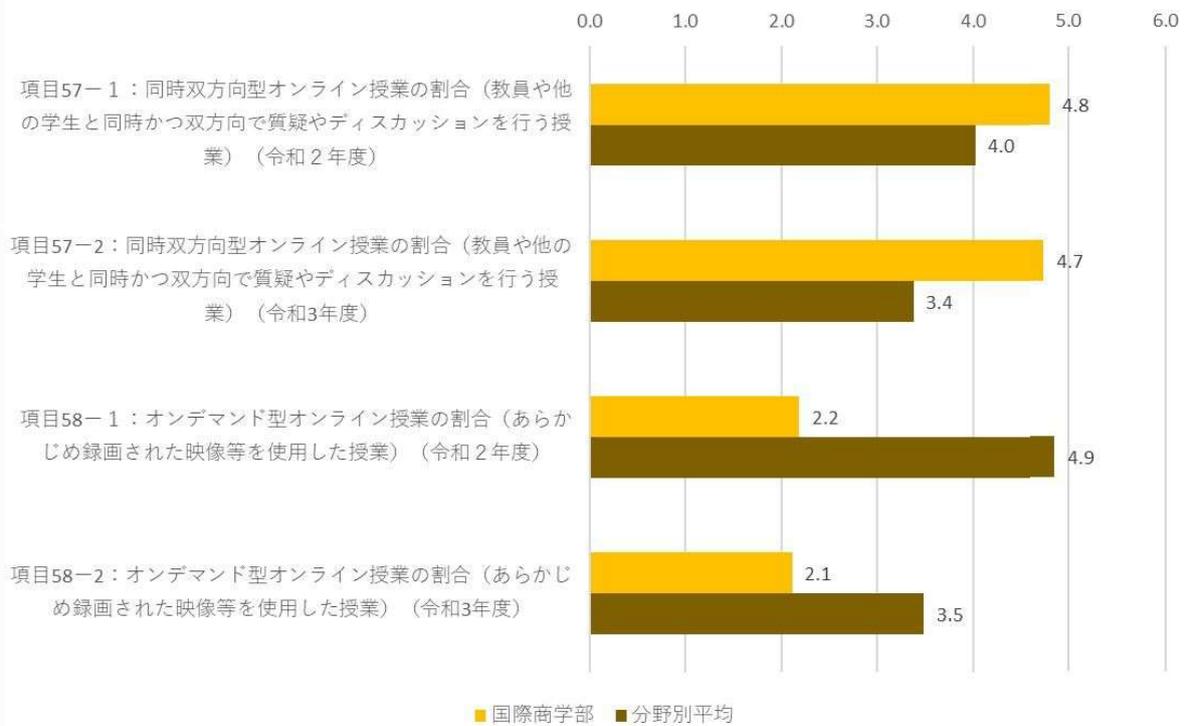
問6 今年度の授業期間中にキャンパスへ通った日数は、1週間でそれぞれ何日くらいですか



■ 国際商学部 ■ 分野別平均

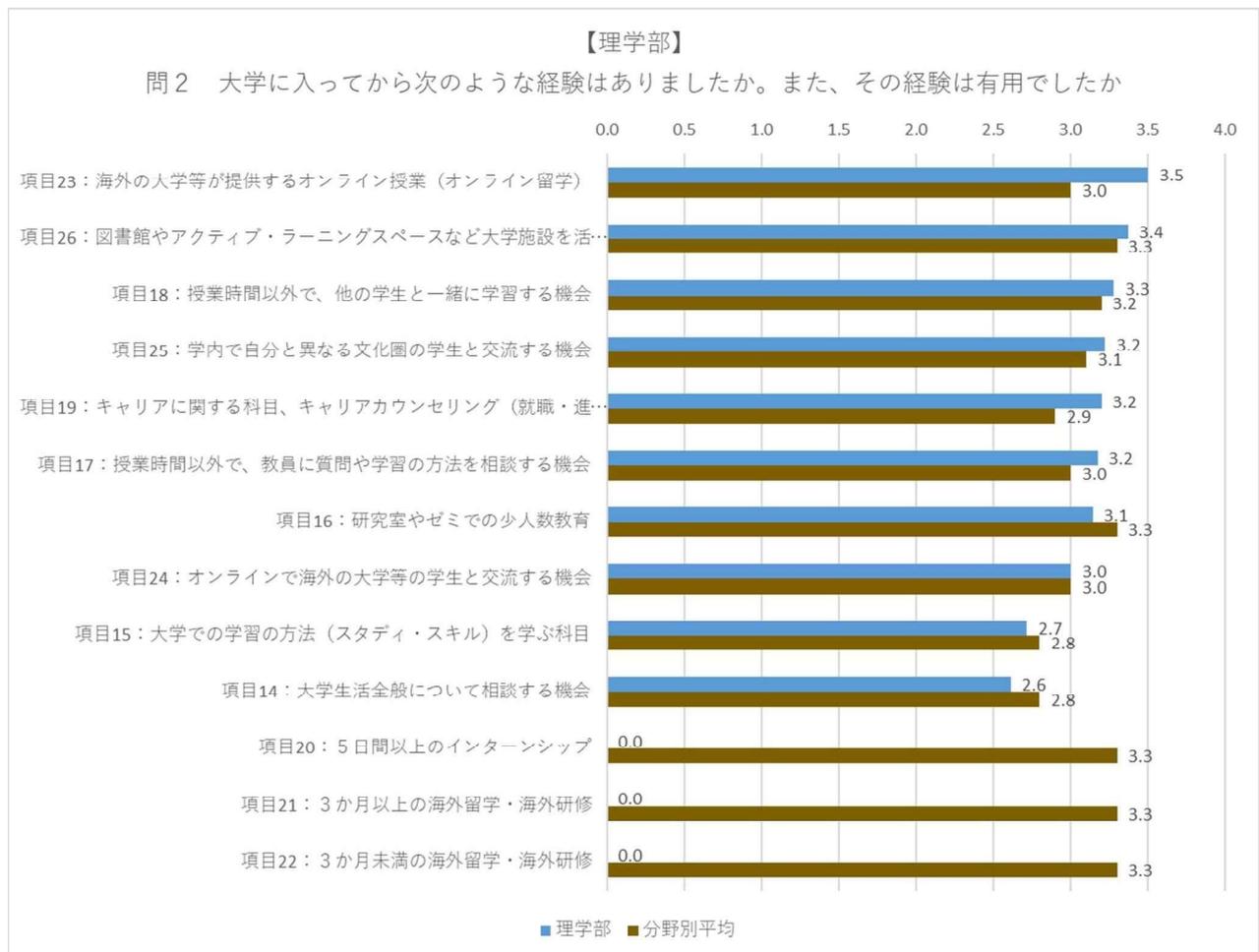
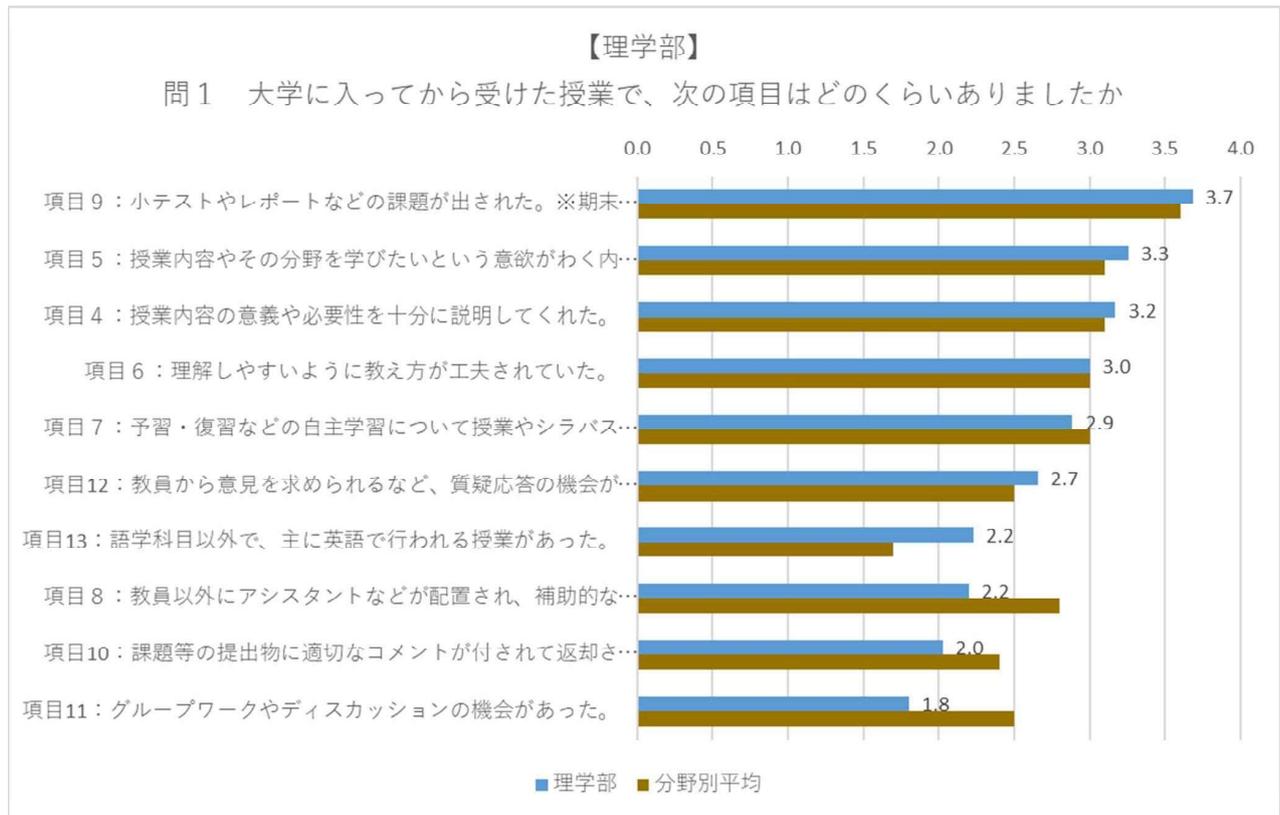
【国際商学部】

問7 昨年度と今年度に受けた授業のうち、次の授業形態の割合はそれぞれ  
のくらいですか



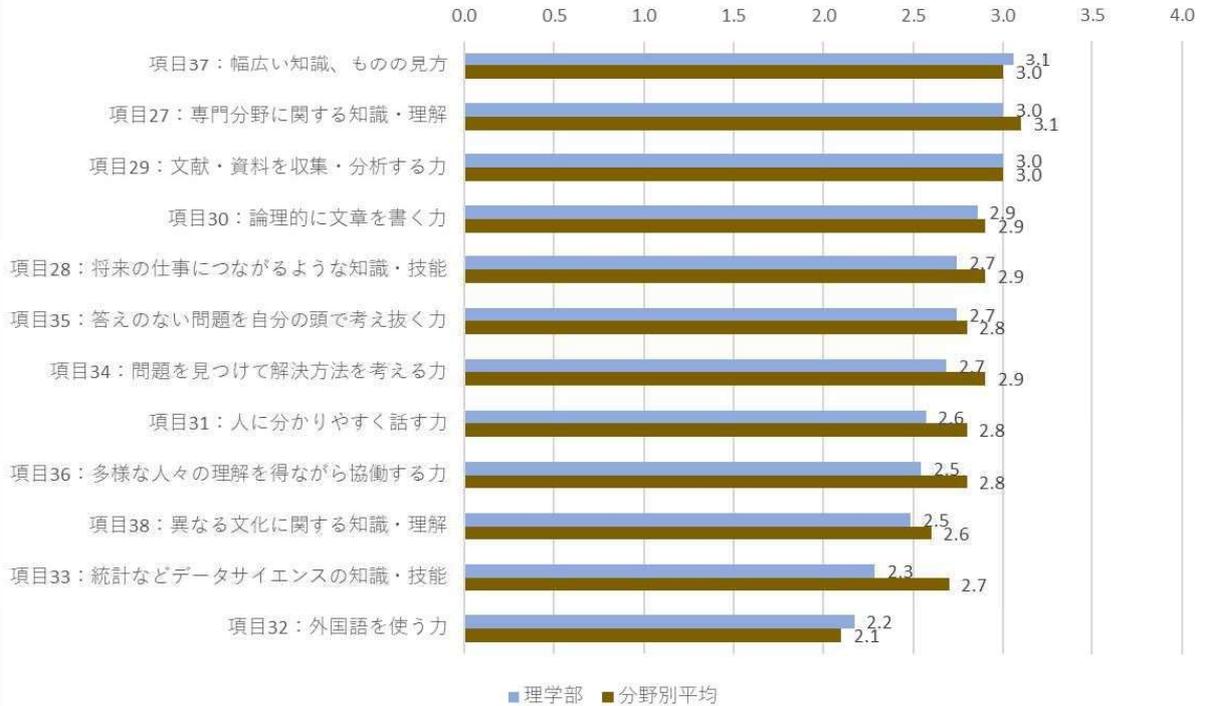
問	設問	全国	国際 商学部	本学合計	分野別平均 (社会)
1	項目4：授業内容の意義や必要性を十分に説明してくれた。	3.2	3.3	3.2	3.1
1	項目5：授業内容やその分野を学びたいという意欲がわく内容だった。	3.2	3.3	3.3	3.1
1	項目6：理解しやすいように教え方が工夫されていた。	3.1	3.1	3.1	3.1
1	項目7：予習・復習などの自主学習について授業やシラバスで指示があった。	3.0	3.0	2.9	3.1
1	項目8：教員以外にアシスタントなどが配置され、補助的な指導があった。	2.5	2.3	2.4	2.2
1	項目9：小テストやレポートなどの課題が出された。※期末試験は除く	3.5	3.8	3.5	3.5
1	項目10：課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却された。	2.4	2.0	2.3	2.4
1	項目11：グループワークやディスカッションの機会があった。	2.8	2.3	2.8	2.7
1	項目12：教員から意見を求められるなど、質疑応答の機会があった。	2.8	2.8	2.9	2.7
1	項目13：語学科目以外で、主に英語で行われる授業があった。	1.8	2.7	2.4	1.9
2	項目14：大学生生活全般について相談する機会	2.8	3.0	2.8	2.8
2	項目15：大学での学習の方法（スタディ・スキル）を学ぶ科目	2.9	2.8	2.8	2.9
2	項目16：研究室やゼミでの少人数教育	3.3	3.5	3.3	3.3
2	項目17：授業時間以外で、教員に質問や学習の方法を相談する機会	3.0	3.0	3.1	3.0
2	項目18：授業時間以外で、他の学生と一緒に学習する機会	3.2	3.3	3.3	3.0
2	項目19：キャリアに関する科目、キャリアアカウンセリング（就職・進学相談）	3.0	3.0	2.9	3.0
2	項目20：5日間以上のインターンシップ	3.2	3.3	2.9	3.2
2	項目21：3か月以上の海外留学・海外研修	3.2	3.0	2.8	3.2
2	項目22：3か月未満の海外留学・海外研修	3.4	3.7	3.5	3.3
2	項目23：海外の大学等が提供するオンライン授業（オンライン留学）	3.0	3.4	3.0	3.0
2	項目24：オンラインで海外の大学等の学生と交流する機会	3.0	3.5	3.1	3.1
2	項目25：学内で自分と異なる文化圏の学生と交流する機会	3.1	3.4	3.2	3.1
2	項目26：図書館やアクティブ・ラーニングスペースなど大学施設を活用した学習	3.3	3.0	3.3	3.3
3	項目27：専門分野に関する知識・理解	3.1	3.2	3.3	3.0
3	項目28：将来の仕事につながるような知識・技能	3.0	2.9	3.0	2.8
3	項目29：文献・資料を収集・分析する力	3.0	3.1	3.2	3.0
3	項目30：論理的に文章を書く力	2.9	3.0	3.1	3.0
3	項目31：人に分かりやすく話す力	2.8	3.0	3.0	2.9
3	項目32：外国語を使う力	2.1	2.4	2.4	2.2
3	項目33：統計などデータサイエンスの知識・技能	2.5	2.6	2.5	2.5
3	項目34：問題を見つけて解決方法を考える力	2.9	3.0	3.1	2.9
3	項目35：答えのない問題を自分の頭で考え抜く力	2.9	2.8	3.0	2.9
3	項目36：多様な人々の理解を得ながら協働する力	3.0	3.2	3.1	3.0
3	項目37：幅広い知識、ものの見方	3.1	3.1	3.3	3.1
3	項目38：異なる文化に関する知識・理解	2.8	3.0	2.9	2.9
4	項目39：具体的な目標・目的をもって主体的に学んでいる。	3.0	2.8	3.1	2.9
4	項目40：大学が学生に卒業時まで身に付けることを求めている力（※）を理解している。 ※ディプロマ・ポリシーに示された知識・能力	2.8	2.7	2.7	2.7
4	項目41：授業アンケート等の回答を通じて大学教育が良くなっている。	2.3	2.0	2.3	2.4
4	項目42：教員が学生と向き合って教育に取り組んでいる。	2.9	2.9	3.1	2.9
4	項目43：大学での学びによって自分自身の成長を実感している。	3.0	2.9	3.1	2.9
4	項目44：知識やスキルを組み合わせる一つのものをつくり出す力が必要と感じている。	3.3	3.5	3.4	3.2
4	項目45：大学での学びを通じて社会に対する理解が深まっている。	3.0	3.1	3.1	3.1
4	項目46：卒業後も主体的に学び続けていくことの大切さを感じている。	3.5	3.4	3.6	3.4
5	項目47：授業への出席 ※実験・実習、オンライン授業を含む	13.7	20.0	13.1	12.1
5	項目48：卒業論文・卒業研究・卒業制作	7.3	0.6	7.9	5.8
5	項目49：予習・復習・課題など授業に関する学習 ※卒業論文等は除く	7.2	6.8	6.5	6.0
5	項目50：授業の予習・復習・課題以外の学習（学問に関する読書やディスカッション、実技の練習、資格試験の勉強等）	6.3	4.7	6.7	5.9
5	項目51：部活動／サークル活動	2.5	3.2	3.2	3.1
5	項目52：アルバイト／定職	9.7	11.6	10.0	11.7
5	項目53：趣味／娯楽／交友	12.0	12.6	11.2	13.1
5	項目54：スマートフォンの使用 ※学習のために使用している時間は除く	14.7	17.9	15.5	15.6
6	項目55：前期（4月～9月）	3.2	1.6	2.5	2.3
6	項目56：後期（10月～3月）	3.4	1.7	2.5	2.4
7	項目57-1：同時双方向型オンライン授業の割合（令和2年度）	4.0	4.8	4.6	4.0
7	項目57-2：同時双方向型オンライン授業の割合（令和3年度）	3.2	4.7	4.4	3.4
7	項目58-1：オンデマンド型オンライン授業の割合（令和2年度）	4.2	2.2	2.3	4.9
7	項目58-2：オンデマンド型オンライン授業の割合（令和3年度）	2.7	2.1	1.5	3.5

令和3年度 全国学生調査（第2回試行実施）回答集計～理学部～



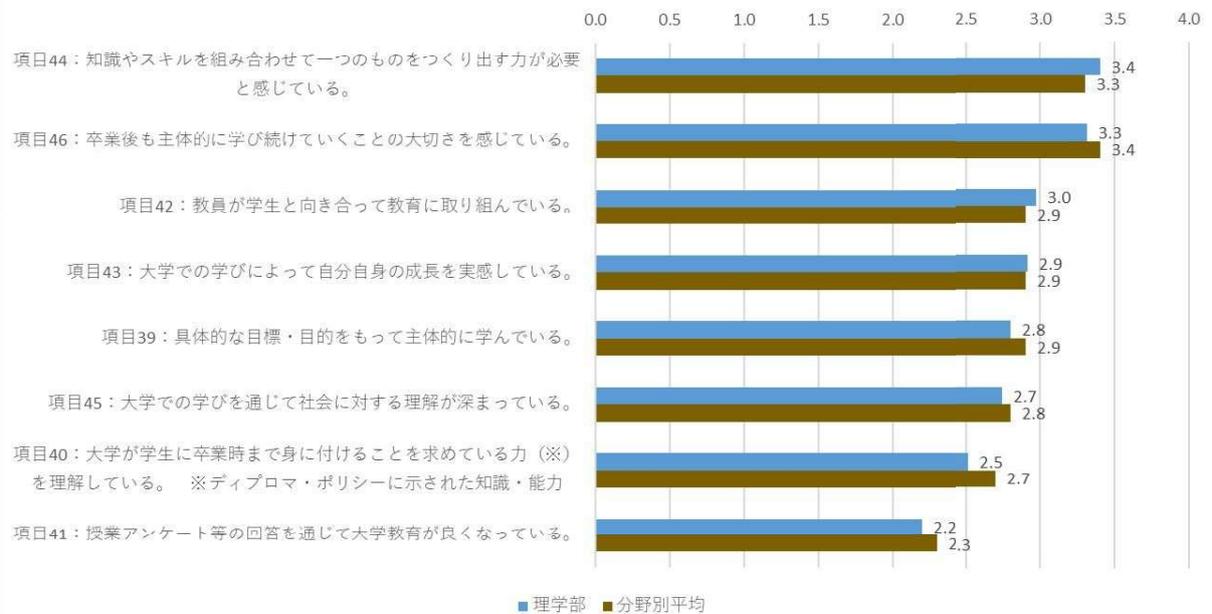
【理学部】

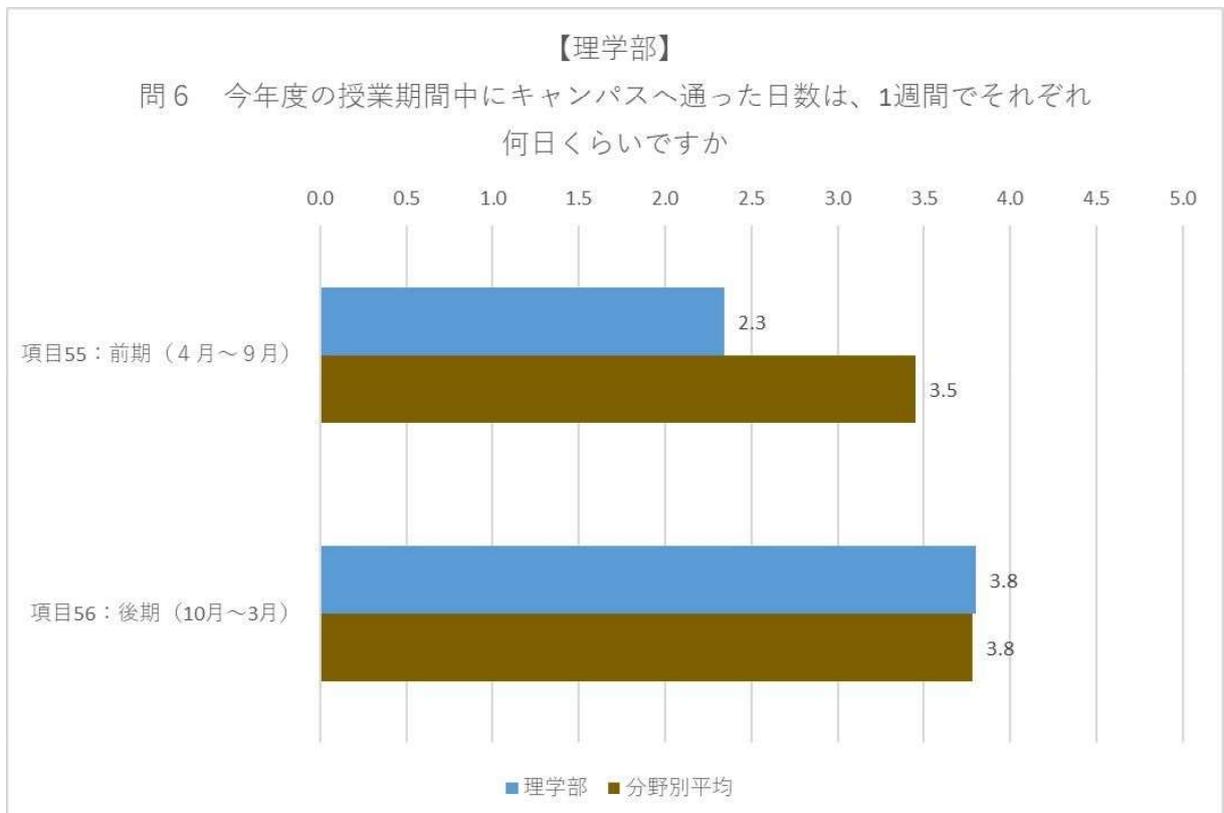
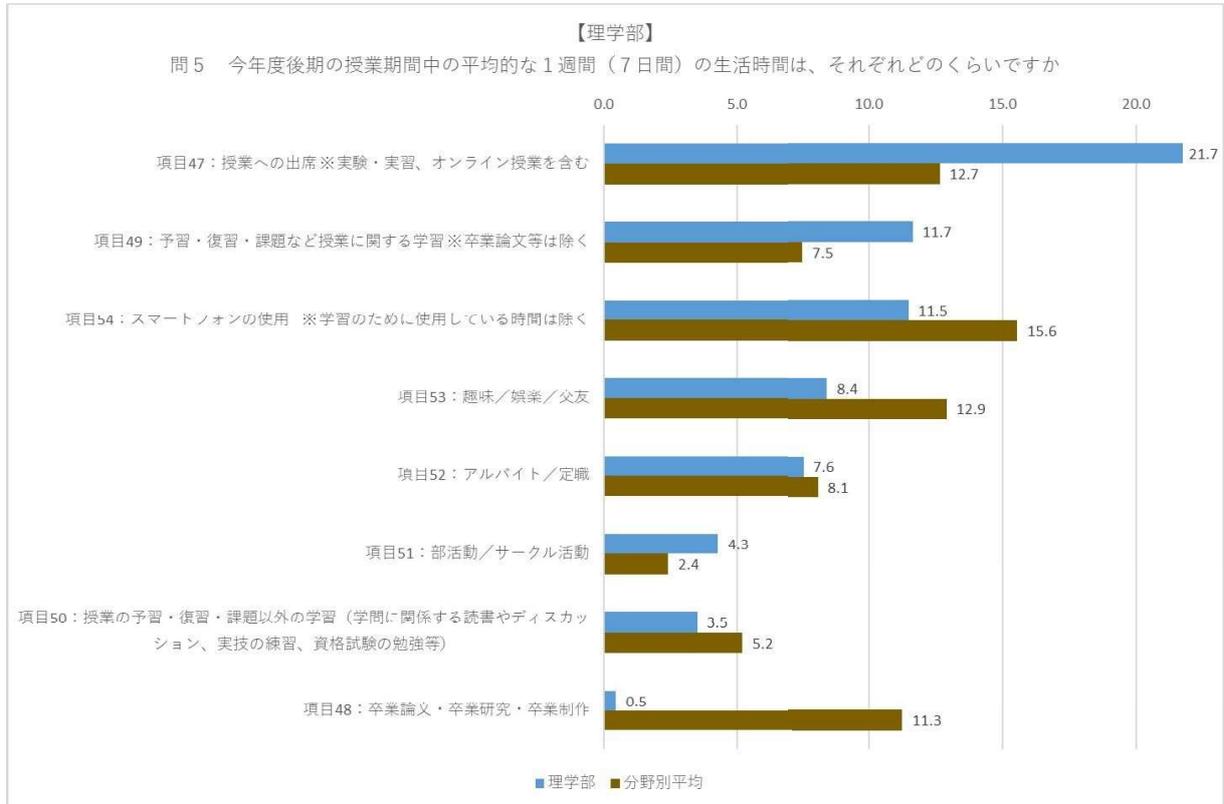
問3 大学教育を通じて、次のような知識や能力が身に付いたと思いますか



【理学部】

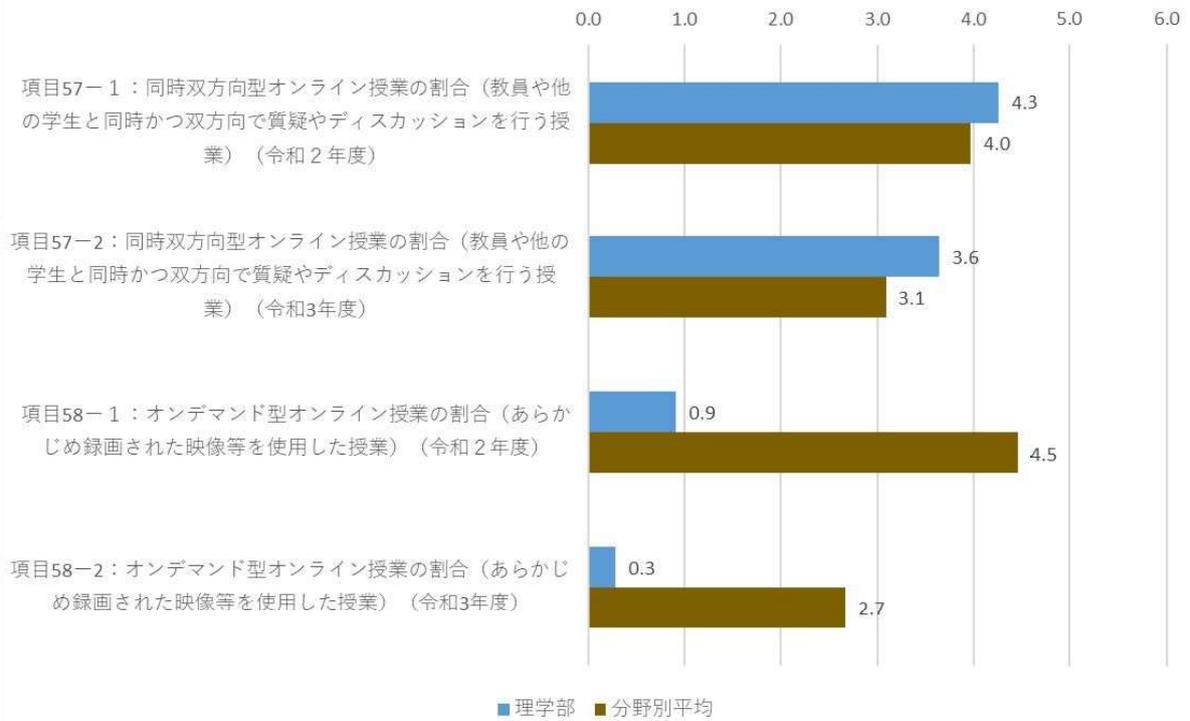
問4 これまでの大学での学び全体を振り返って、次の項目についてどのように思いますか





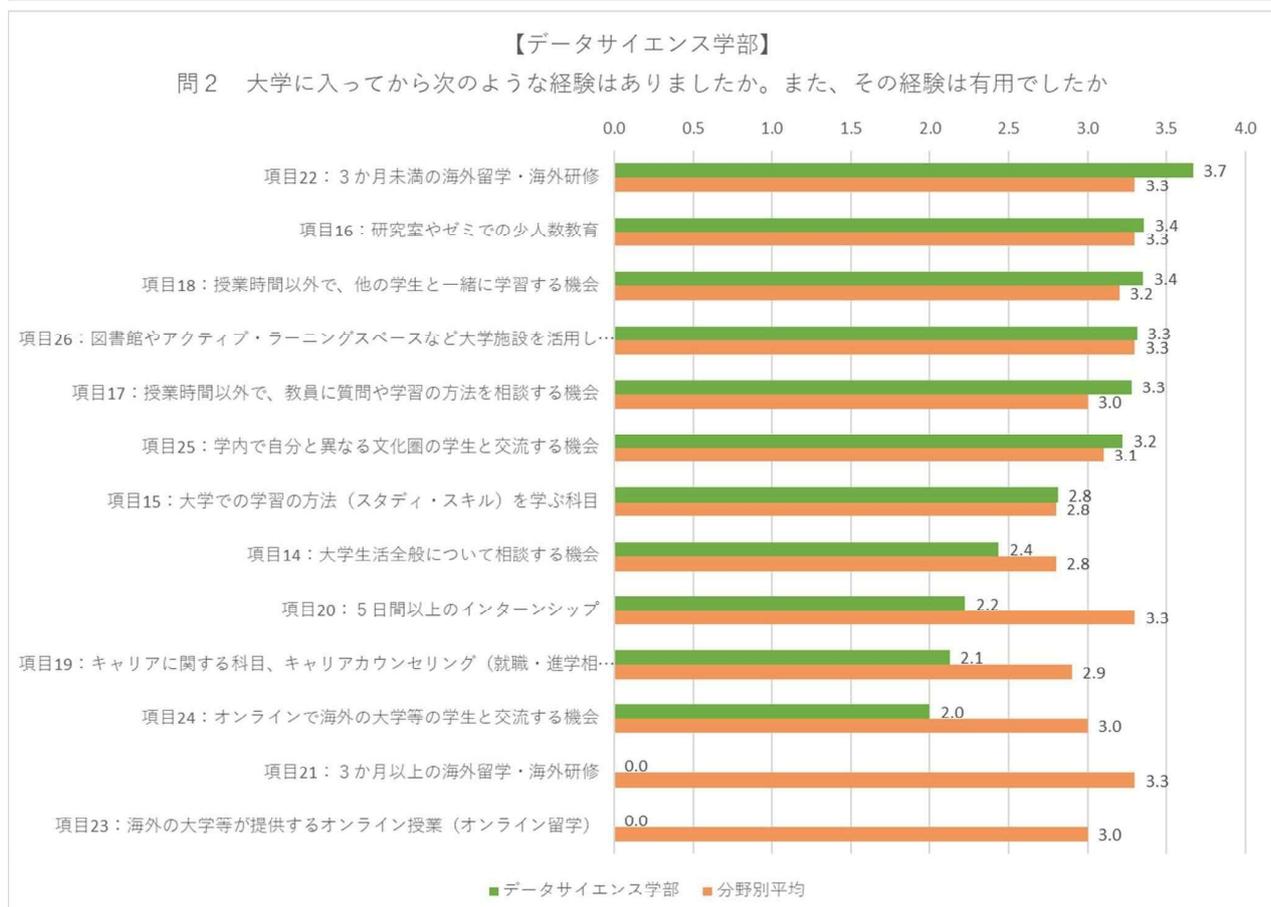
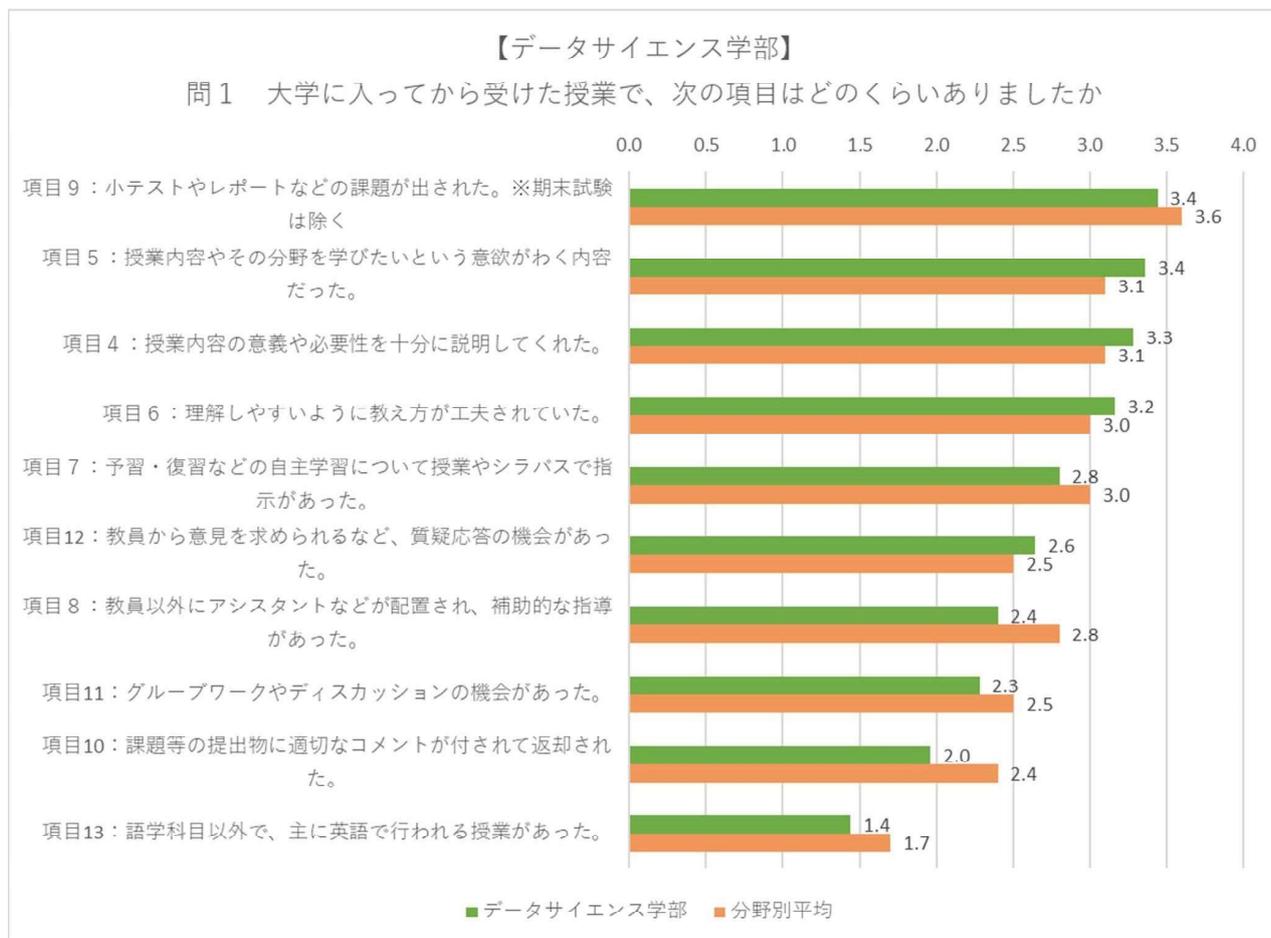
【理学部】

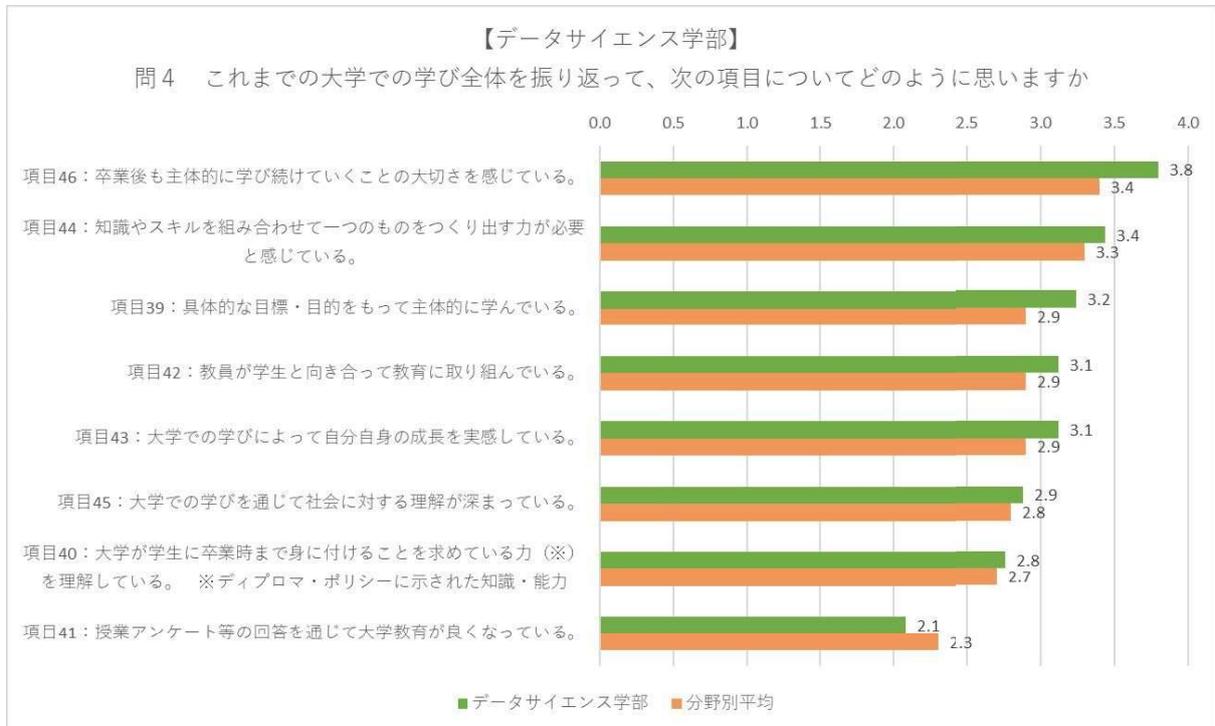
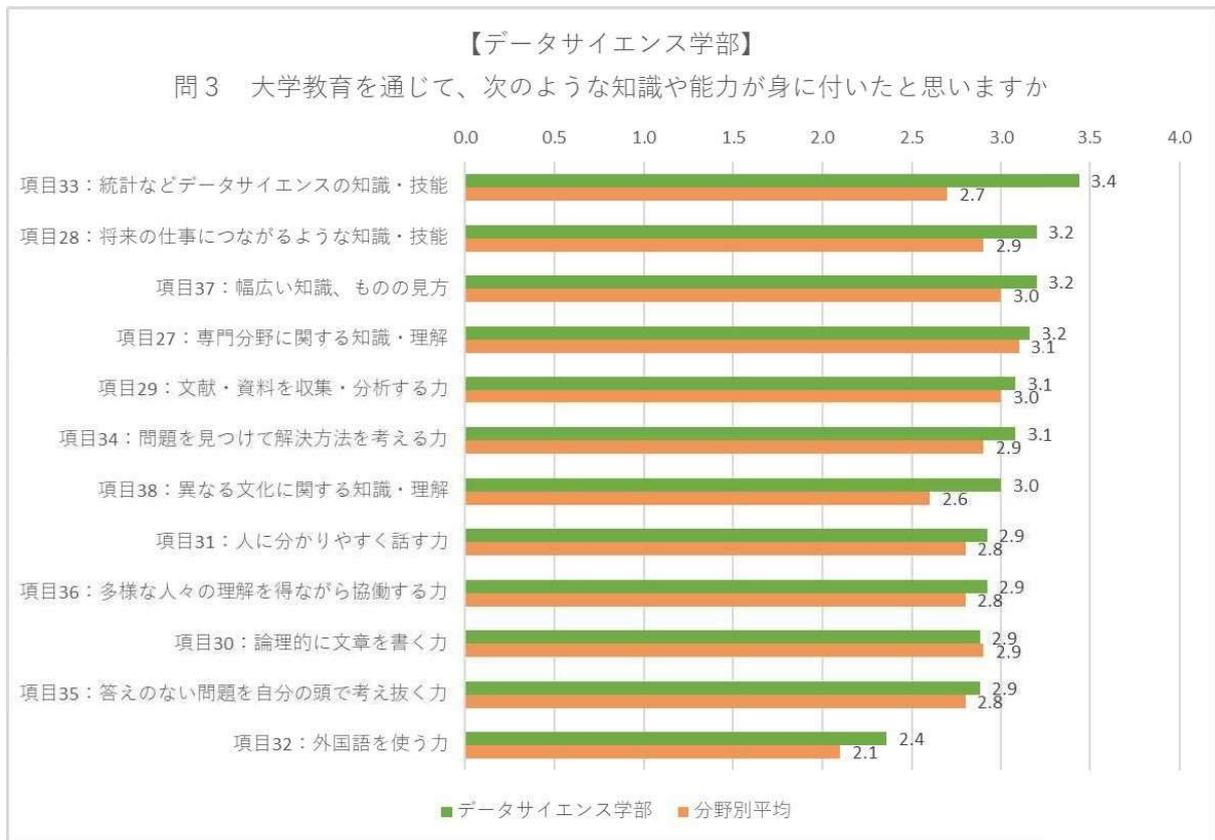
問7 昨年度と今年度に受けた授業のうち、次の授業形態の割合はそれぞれ  
のくらいですか



問	設問	全国	理学部	本学合計	分野別平均 (理・工)
1	項目4：授業内容の意義や必要性を十分に説明してくれた。	3.2	3.2	3.2	3.1
1	項目5：授業内容やその分野を学びたいという意欲がわく内容だった。	3.2	3.3	3.3	3.1
1	項目6：理解しやすいように教え方が工夫されていた。	3.1	3.0	3.1	3.0
1	項目7：予習・復習などの自主学習について授業やシラバスで指示があった。	3.0	2.9	2.9	3.0
1	項目8：教員以外にアシスタントなどが配置され、補助的な指導があった。	2.5	2.2	2.4	2.8
1	項目9：小テストやレポートなどの課題が出された。※期末試験は除く	3.5	3.7	3.5	3.6
1	項目10：課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却された。	2.4	2.0	2.3	2.4
1	項目11：グループワークやディスカッションの機会があった。	2.8	1.8	2.8	2.5
1	項目12：教員から意見を求められるなど、質疑応答の機会があった。	2.8	2.7	2.9	2.5
1	項目13：語学科目以外で、主に英語で行われる授業があった。	1.8	2.2	2.4	1.7
2	項目14：大学生生活全般について相談する機会	2.8	2.6	2.8	2.8
2	項目15：大学での学習の方法（スタディ・スキル）を学ぶ科目	2.9	2.7	2.8	2.8
2	項目16：研究室やゼミでの少人数教育	3.3	3.1	3.3	3.3
2	項目17：授業時間以外で、教員に質問や学習の方法を相談する機会	3.0	3.2	3.1	3.0
2	項目18：授業時間以外で、他の学生と一緒に学習する機会	3.2	3.3	3.3	3.2
2	項目19：キャリアに関する科目、キャリアアカウンセリング（就職・進学相談）	3.0	3.2	2.9	2.9
2	項目20：5日間以上のインターンシップ	3.2	-	2.9	3.3
2	項目21：3か月以上の海外留学・海外研修	3.2	-	2.8	3.3
2	項目22：3か月未満の海外留学・海外研修	3.4	-	3.5	3.3
2	項目23：海外の大学等が提供するオンライン授業（オンライン留学）	3.0	3.5	3.0	3.0
2	項目24：オンラインで海外の大学等の学生と交流する機会	3.0	3.0	3.1	3.0
2	項目25：学内で自分と異なる文化圏の学生と交流する機会	3.1	3.2	3.2	3.1
2	項目26：図書館やアクティブ・ラーニングスペースなど大学施設を活用した学習	3.3	3.4	3.3	3.3
3	項目27：専門分野に関する知識・理解	3.1	3.0	3.3	3.1
3	項目28：将来の仕事につながるような知識・技能	3.0	2.7	3.0	2.9
3	項目29：文献・資料を収集・分析する力	3.0	3.0	3.2	3.0
3	項目30：論理的に文章を書く力	2.9	2.9	3.1	2.9
3	項目31：人に分かりやすく話す力	2.8	2.6	3.0	2.8
3	項目32：外国語を使う力	2.1	2.2	2.4	2.1
3	項目33：統計などデータサイエンスの知識・技能	2.5	2.3	2.5	2.7
3	項目34：問題を見つけて解決方法を考える力	2.9	2.7	3.1	2.9
3	項目35：答えのない問題を自分の頭で考え抜く力	2.9	2.7	3.0	2.8
3	項目36：多様な人々の理解を得ながら協働する力	3.0	2.5	3.1	2.8
3	項目37：幅広い知識、ものの見方	3.1	3.1	3.3	3.0
3	項目38：異なる文化に関する知識・理解	2.8	2.5	2.9	2.6
4	項目39：具体的な目標・目的をもって主体的に学んでいる。	3.0	2.8	3.1	2.9
4	項目40：大学が学生に卒業時まで身に付けることを求めている力（※）を理解している。 ※ディプロマ・ポリシーに示された知識・能力	2.8	2.5	2.7	2.7
4	項目41：授業アンケート等の回答を通じて大学教育が良くなっている。	2.3	2.2	2.3	2.3
4	項目42：教員が学生と向き合って教育に取り組んでいる。	2.9	3.0	3.1	2.9
4	項目43：大学での学びによって自分自身の成長を実感している。	3.0	2.9	3.1	2.9
4	項目44：知識やスキルを組み合わせる一つのものをつくり出す力が必要と感じている。	3.3	3.4	3.4	3.3
4	項目45：大学での学びを通じて社会に対する理解が深まっている。	3.0	2.7	3.1	2.8
4	項目46：卒業後も主体的に学び続けていくことの大切さを感じている。	3.5	3.3	3.6	3.4
5	項目47：授業への出席 ※実験・実習、オンライン授業を含む	13.7	21.7	13.1	12.7
5	項目48：卒業論文・卒業研究・卒業制作	7.3	0.5	7.9	11.3
5	項目49：予習・復習・課題など授業に関する学習 ※卒業論文等は除く	7.2	11.7	6.5	7.5
5	項目50：授業の予習・復習・課題以外の学習（学問に関する読書やディスカッション、実技の練習、資格試験の勉強等）	6.3	3.5	6.7	5.2
5	項目51：部活動／サークル活動	2.5	4.3	3.2	2.4
5	項目52：アルバイト／定職	9.7	7.6	10.0	8.1
5	項目53：趣味／娯楽／交友	12.0	8.4	11.2	12.9
5	項目54：スマートフォンの使用 ※学習のために使用している時間は除く	14.7	11.5	15.5	15.6
6	項目55：前期（4月～9月）	3.2	2.3	2.5	3.5
6	項目56：後期（10月～3月）	3.4	3.8	2.5	3.8
7	項目57-1：同時双方向型オンライン授業の割合（令和2年度）	4.0	4.3	4.6	4.0
7	項目57-2：同時双方向型オンライン授業の割合（令和3年度）	3.2	3.6	4.4	3.1
7	項目58-1：オンデマンド型オンライン授業の割合（令和2年度）	4.2	0.9	2.3	4.5
7	項目58-2：オンデマンド型オンライン授業の割合（令和3年度）	2.7	0.3	1.5	2.7

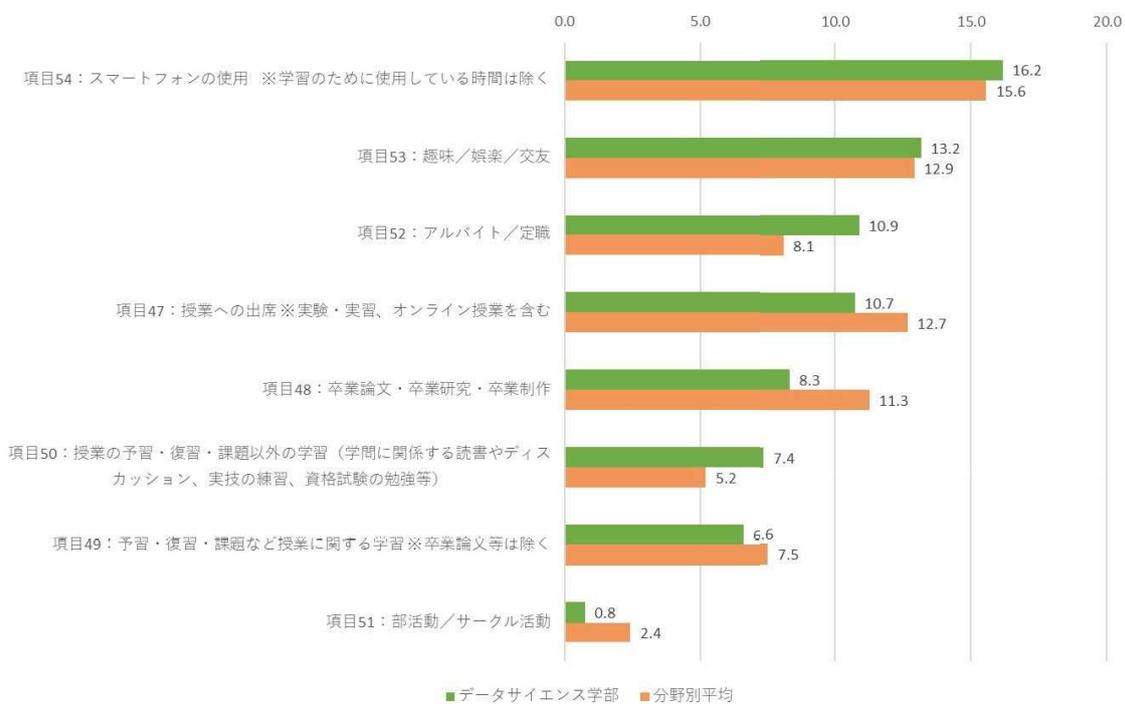
令和3年度 全国学生調査（第2回試行実施）回答集計～データサイエンス学部～





【データサイエンス学部】

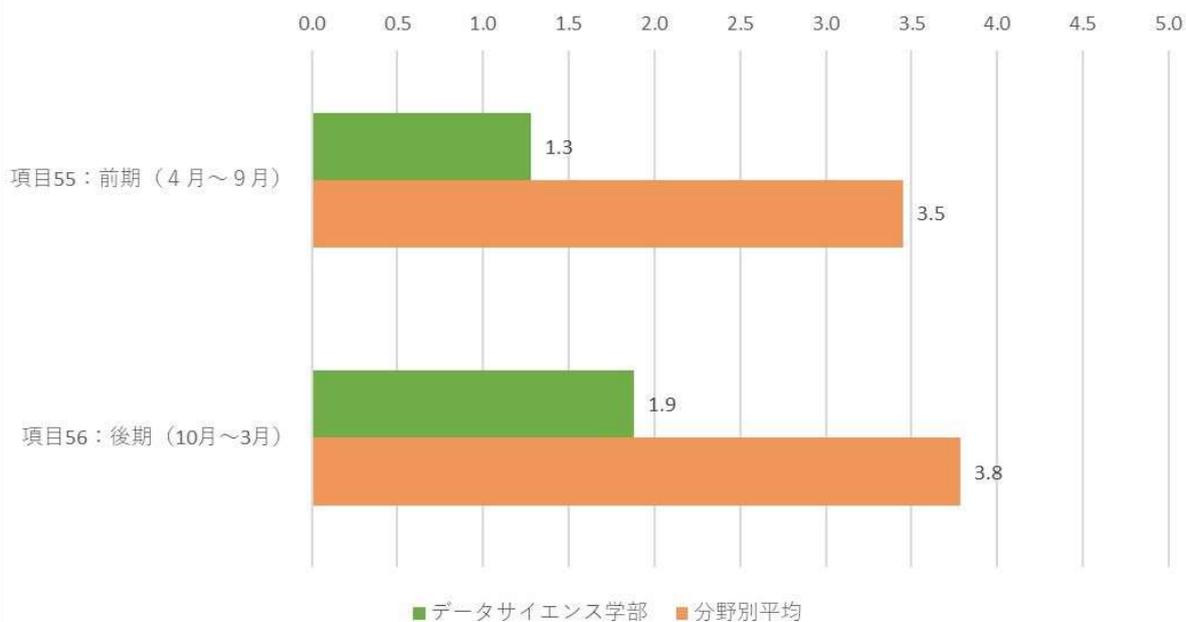
問5 今年度後期の授業期間中の平均的な1週間（7日間）の生活時間は、それぞれのくらいですか



■データサイエンス学部 ■分野別平均

【データサイエンス学部】

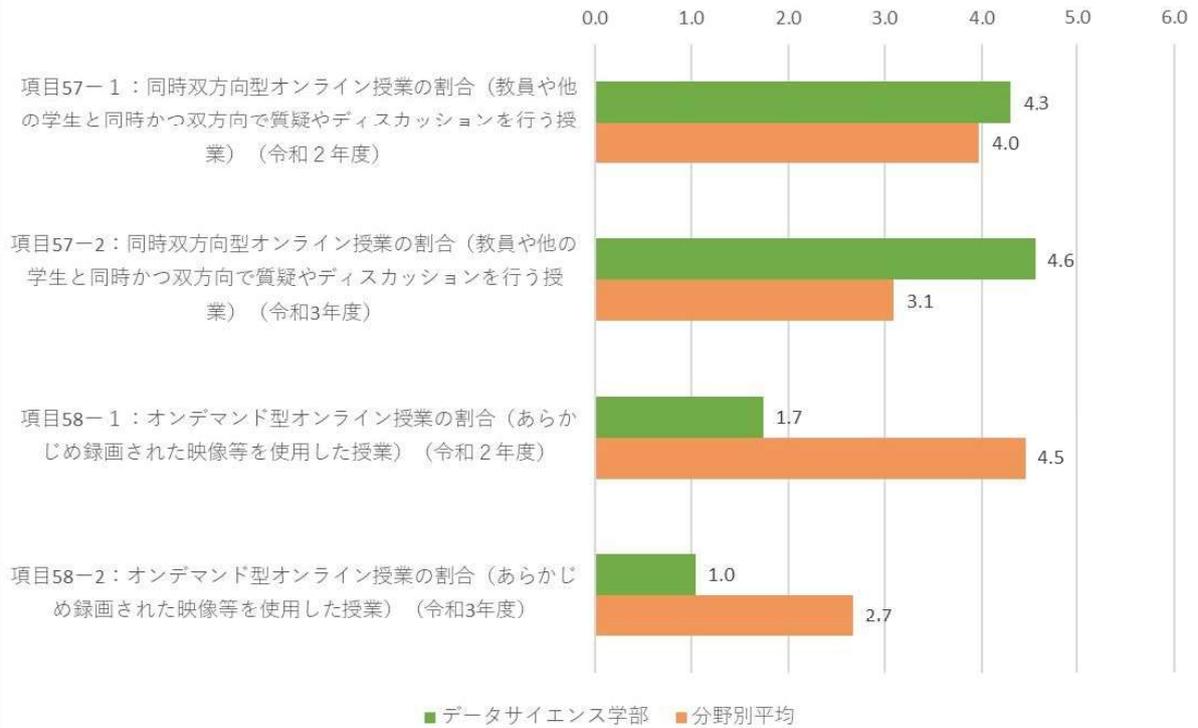
問6 今年度の授業期間中にキャンパスへ通った日数は、1週間でそれぞれ何日くらいですか



■データサイエンス学部 ■分野別平均

【データサイエンス学部】

問7 昨年度と今年度に受けた授業のうち、次の授業形態の割合はそれぞれどのくらいですか

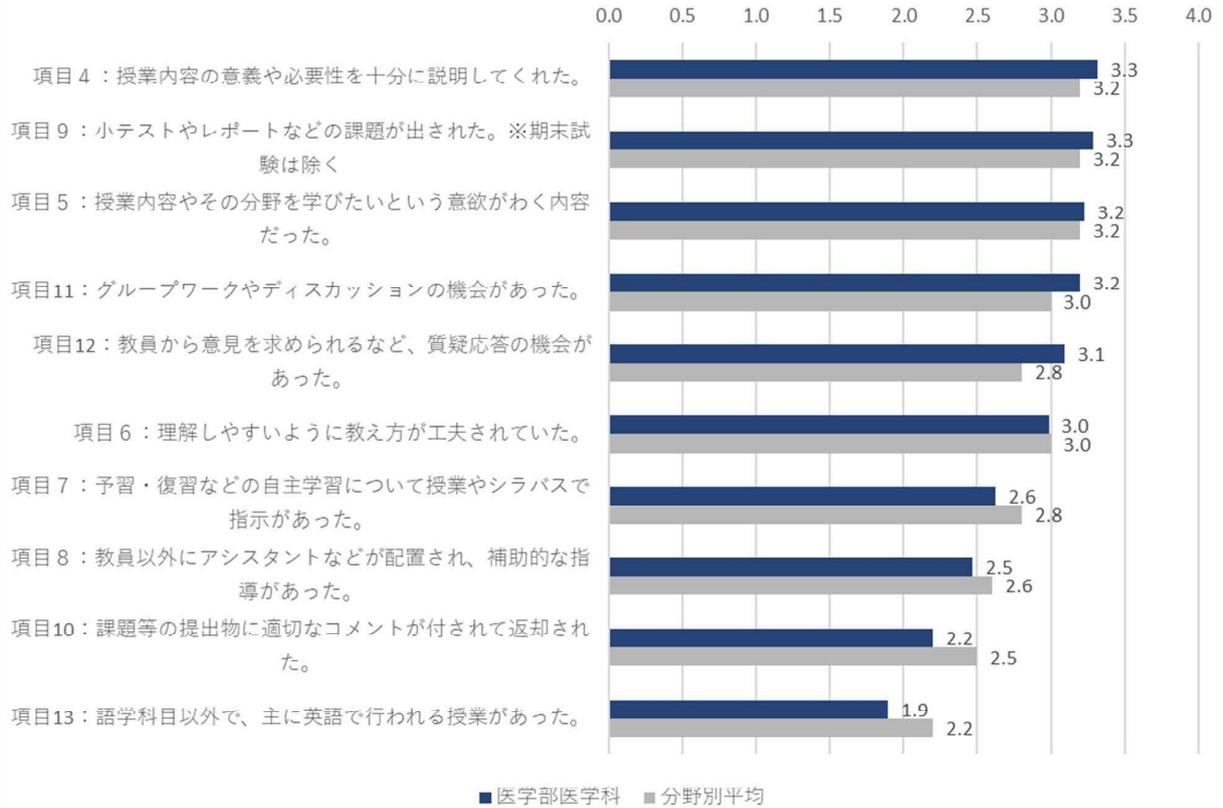


問	設問	全国	DS 学部	本学合計	分野別平均 (理・工)
1	項目4：授業内容の意義や必要性を十分に説明してくれた。	3.2	3.3	3.2	3.1
1	項目5：授業内容やその分野を学びたいという意欲がわく内容だった。	3.2	3.4	3.3	3.1
1	項目6：理解しやすいように教え方が工夫されていた。	3.1	3.2	3.1	3.0
1	項目7：予習・復習などの自主学習について授業やシラバスで指示があった。	3.0	2.8	2.9	3.0
1	項目8：教員以外にアシスタントなどが配置され、補助的な指導があった。	2.5	2.4	2.4	2.8
1	項目9：小テストやレポートなどの課題が出された。※期末試験は除く	3.5	3.4	3.5	3.6
1	項目10：課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却された。	2.4	2.0	2.3	2.4
1	項目11：グループワークやディスカッションの機会があった。	2.8	2.3	2.8	2.5
1	項目12：教員から意見を求められるなど、質疑応答の機会があった。	2.8	2.6	2.9	2.5
1	項目13：語学科目以外で、主に英語で行われる授業があった。	1.8	1.4	2.4	1.7
2	項目14：大学生活全般について相談する機会	2.8	2.4	2.8	2.8
2	項目15：大学での学習の方法（スタディ・スキル）を学ぶ科目	2.9	2.8	2.8	2.8
2	項目16：研究室やゼミでの少人数教育	3.3	3.4	3.3	3.3
2	項目17：授業時間以外で、教員に質問や学習の方法を相談する機会	3.0	3.3	3.1	3.0
2	項目18：授業時間以外で、他の学生と一緒に学習する機会	3.2	3.4	3.3	3.2
2	項目19：キャリアに関する科目、キャリアカウンセリング（就職・進学相談）	3.0	2.1	2.9	2.9
2	項目20：5日間以上のインターンシップ	3.2	2.2	2.9	3.3
2	項目21：3か月以上の海外留学・海外研修	3.2	-	2.8	3.3
2	項目22：3か月未満の海外留学・海外研修	3.4	3.7	3.5	3.3
2	項目23：海外の大学等が提供するオンライン授業（オンライン留学）	3.0	-	3.0	3.0
2	項目24：オンラインで海外の大学等の学生と交流する機会	3.0	2.0	3.1	3.0
2	項目25：学内で自分と異なる文化圏の学生と交流する機会	3.1	3.2	3.2	3.1
2	項目26：図書館やアクティブ・ラーニングスペースなど大学施設を活用した学習	3.3	3.3	3.3	3.3
3	項目27：専門分野に関する知識・理解	3.1	3.2	3.3	3.1
3	項目28：将来の仕事につながるような知識・技能	3.0	3.2	3.0	2.9
3	項目29：文献・資料を収集・分析する力	3.0	3.1	3.2	3.0
3	項目30：論理的に文章を書く力	2.9	2.9	3.1	2.9
3	項目31：人に分かりやすく話す力	2.8	2.9	3.0	2.8
3	項目32：外国語を使う力	2.1	2.4	2.4	2.1
3	項目33：統計などデータサイエンスの知識・技能	2.5	3.4	2.5	2.7
3	項目34：問題を見つけて解決方法を考える力	2.9	3.1	3.1	2.9
3	項目35：答えのない問題を自分の頭で考え抜く力	2.9	2.9	3.0	2.8
3	項目36：多様な人々の理解を得ながら協働する力	3.0	2.9	3.1	2.8
3	項目37：幅広い知識、ものの見方	3.1	3.2	3.3	3.0
3	項目38：異なる文化に関する知識・理解	2.8	3.0	2.9	2.6
4	項目39：具体的な目標・目的をもって主体的に学んでいる。	3.0	3.2	3.1	2.9
4	項目40：大学が学生に卒業時まで身に付けることを求めている力（※）を理解している。 ※ディプロマ・ポリシーに示された知識・能力	2.8	2.8	2.7	2.7
4	項目41：授業アンケート等の回答を通じて大学教育が良くなっている。	2.3	2.1	2.3	2.3
4	項目42：教員が学生と向き合って教育に取り組んでいる。	2.9	3.1	3.1	2.9
4	項目43：大学での学びによって自分自身の成長を実感している。	3.0	3.1	3.1	2.9
4	項目44：知識やスキルを組み合わせる一つのものをつくり出す力が必要と感じている。	3.3	3.4	3.4	3.3
4	項目45：大学での学びを通じて社会に対する理解が深まっている。	3.0	2.9	3.1	2.8
4	項目46：卒業後も主体的に学び続けていくことの大切さを感じている。	3.5	3.8	3.6	3.4
5	項目47：授業への出席 ※実験・実習、オンライン授業を含む	13.7	10.7	13.1	12.7
5	項目48：卒業論文・卒業研究・卒業制作	7.3	8.3	7.9	11.3
5	項目49：予習・復習・課題など授業に関する学習 ※卒業論文等は除く	7.2	6.6	6.5	7.5
5	項目50：授業の予習・復習・課題以外の学習（学問に関係する読書やディスカッション、実技の練習、資格試験の勉強等）	6.3	7.4	6.7	5.2
5	項目51：部活動／サークル活動	2.5	0.8	3.2	2.4
5	項目52：アルバイト／定職	9.7	10.9	10.0	8.1
5	項目53：趣味／娯楽／交友	12.0	13.2	11.2	12.9
5	項目54：スマートフォンの使用 ※学習のために使用している時間は除く	14.7	16.2	15.5	15.6
6	項目55：前期（4月～9月）	3.2	1.3	2.5	3.5
6	項目56：後期（10月～3月）	3.4	1.9	2.5	3.8
7	項目57-1：同時双方向型オンライン授業の割合（令和2年度）	4.0	4.3	4.6	4.0
7	項目57-2：同時双方向型オンライン授業の割合（令和3年度）	3.2	4.6	4.4	3.1
7	項目58-1：オンデマンド型オンライン授業の割合（令和2年度）	4.2	1.7	2.3	4.5
7	項目58-2：オンデマンド型オンライン授業の割合（令和3年度）	2.7	1.0	1.5	2.7

令和3年度 全国学生調査（第2回試行実施）回答集計～医学部医学科～

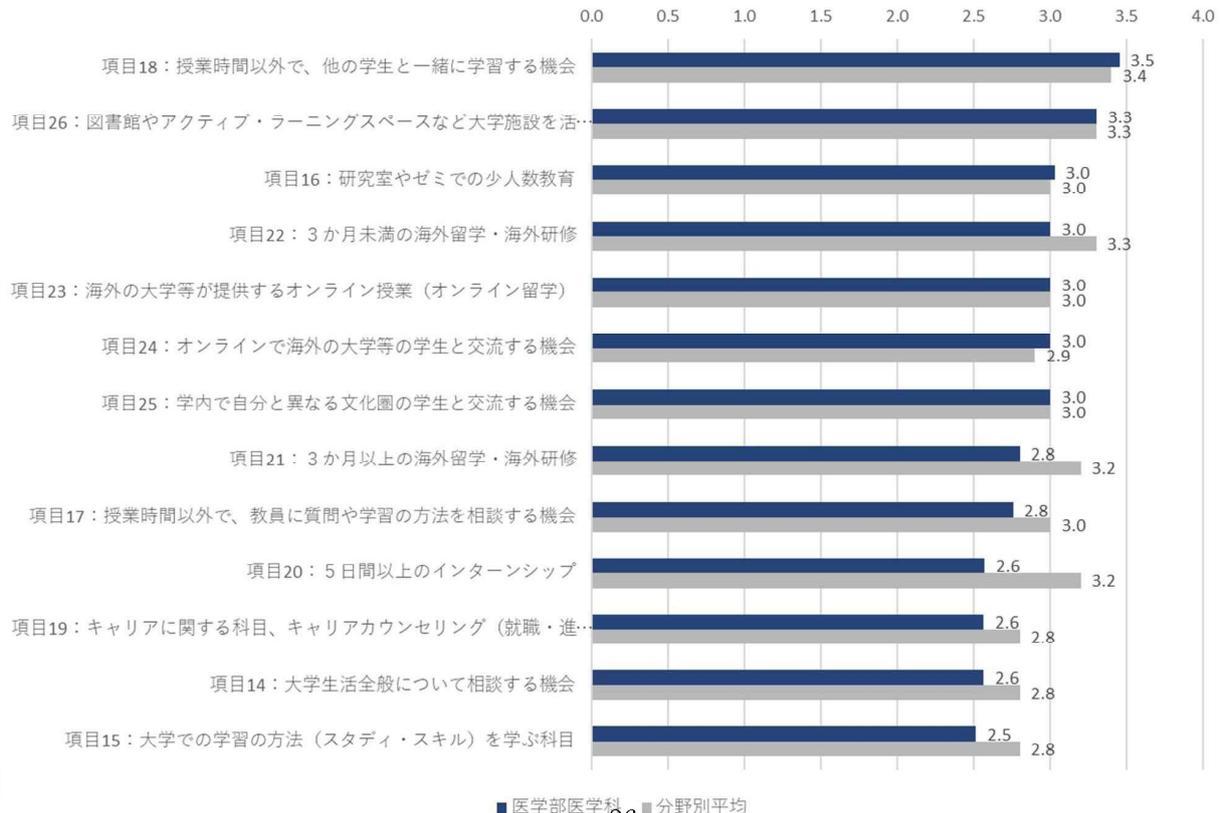
【医学部医学科】

問1 大学に入ってから受けた授業で、次の項目はどのくらいありましたか



【医学部医学科】

問2 大学に入ってから次のような経験はありましたか。また、その経験は有用でしたか



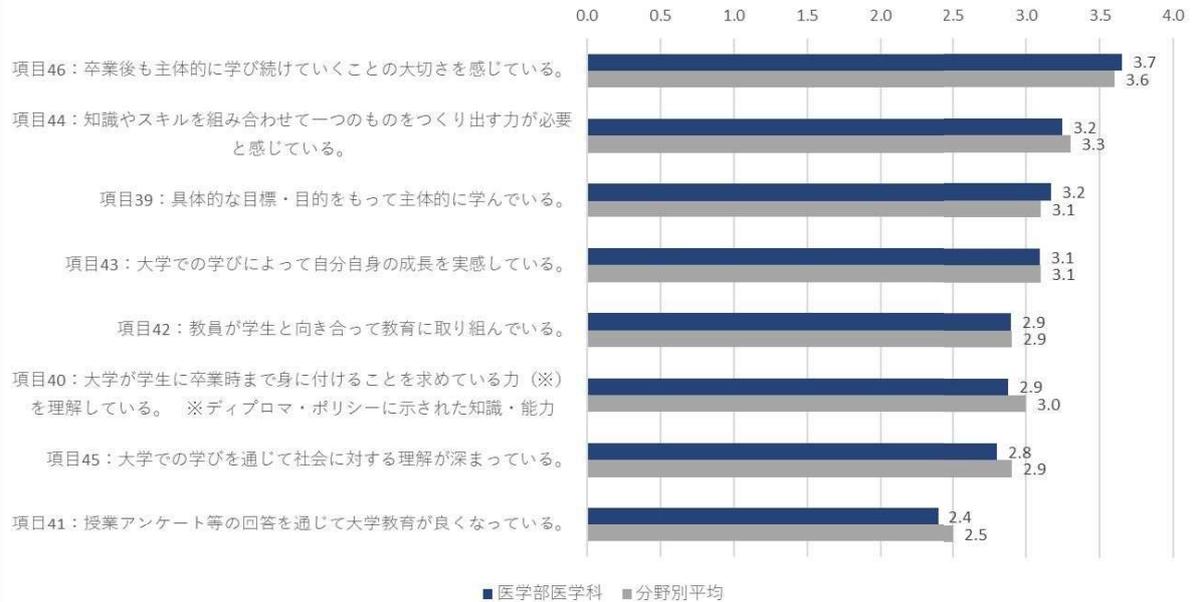
【医学部医学科】

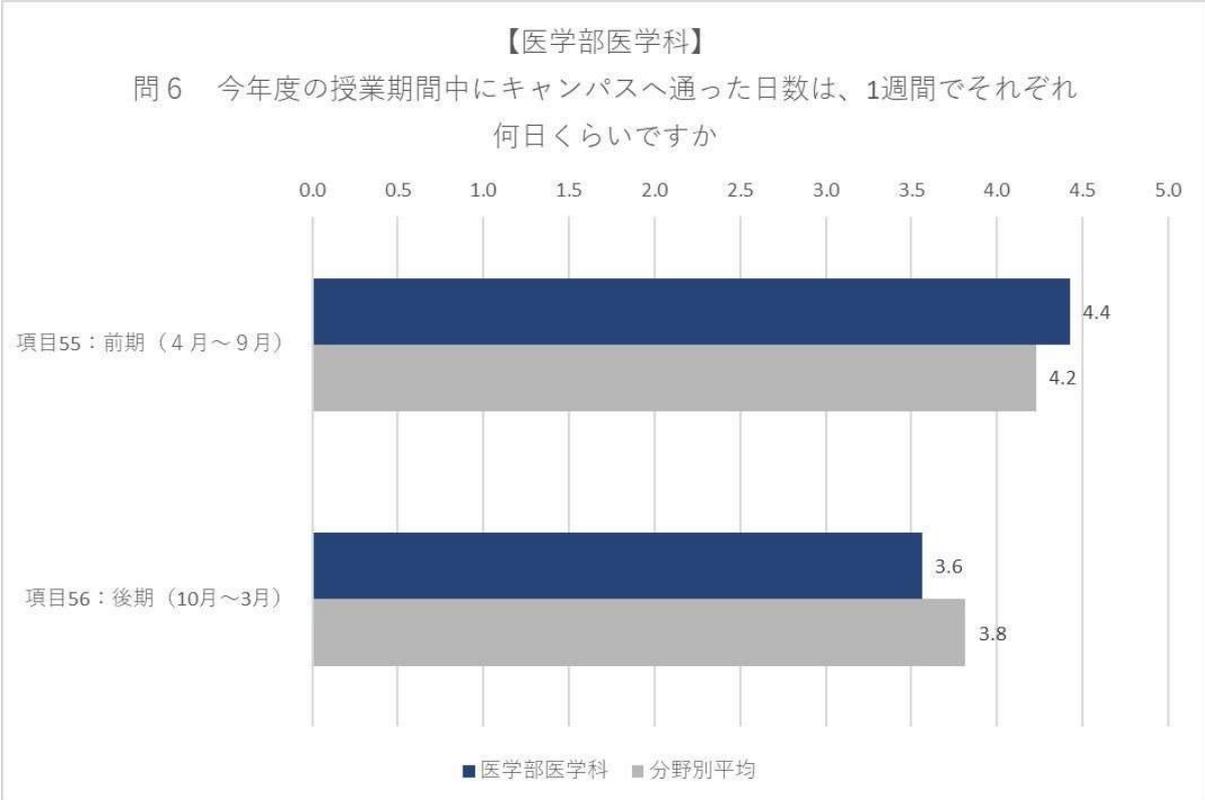
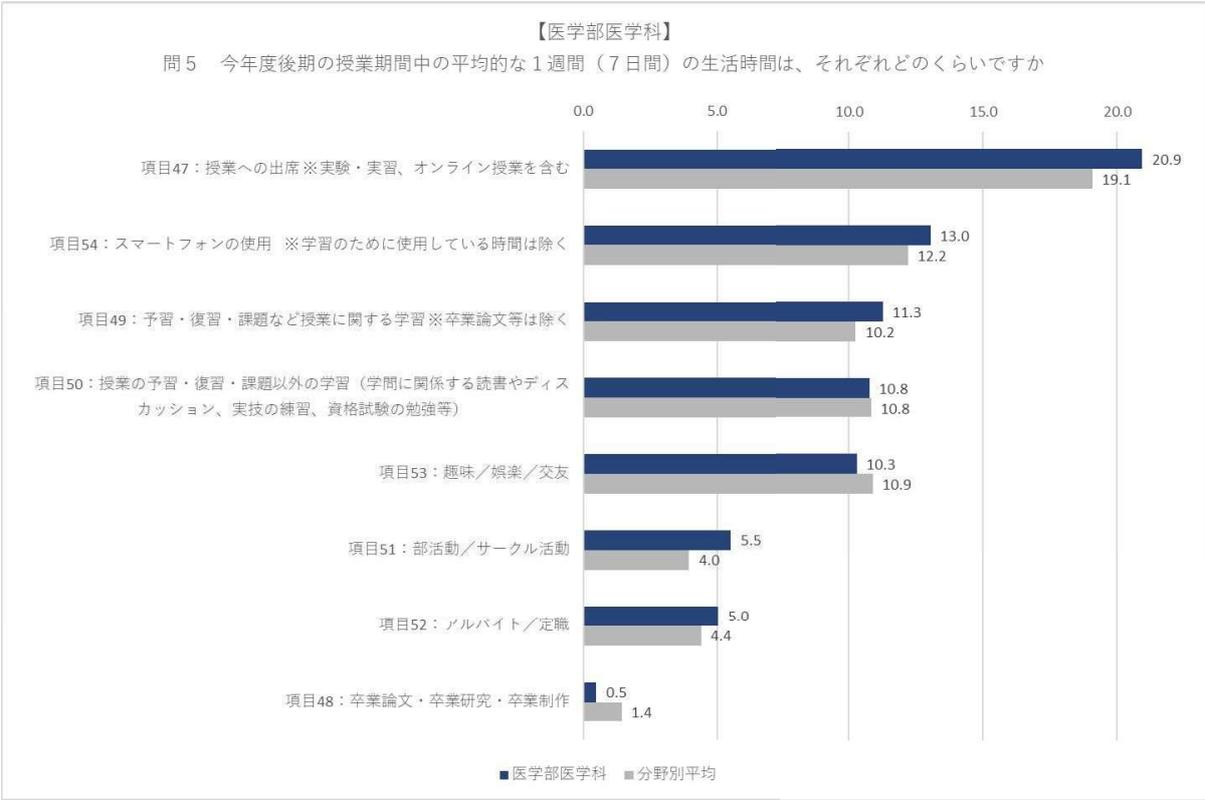
問3 大学教育を通じて、次のような知識や能力が身に付いたと思いますか



【医学部医学科】

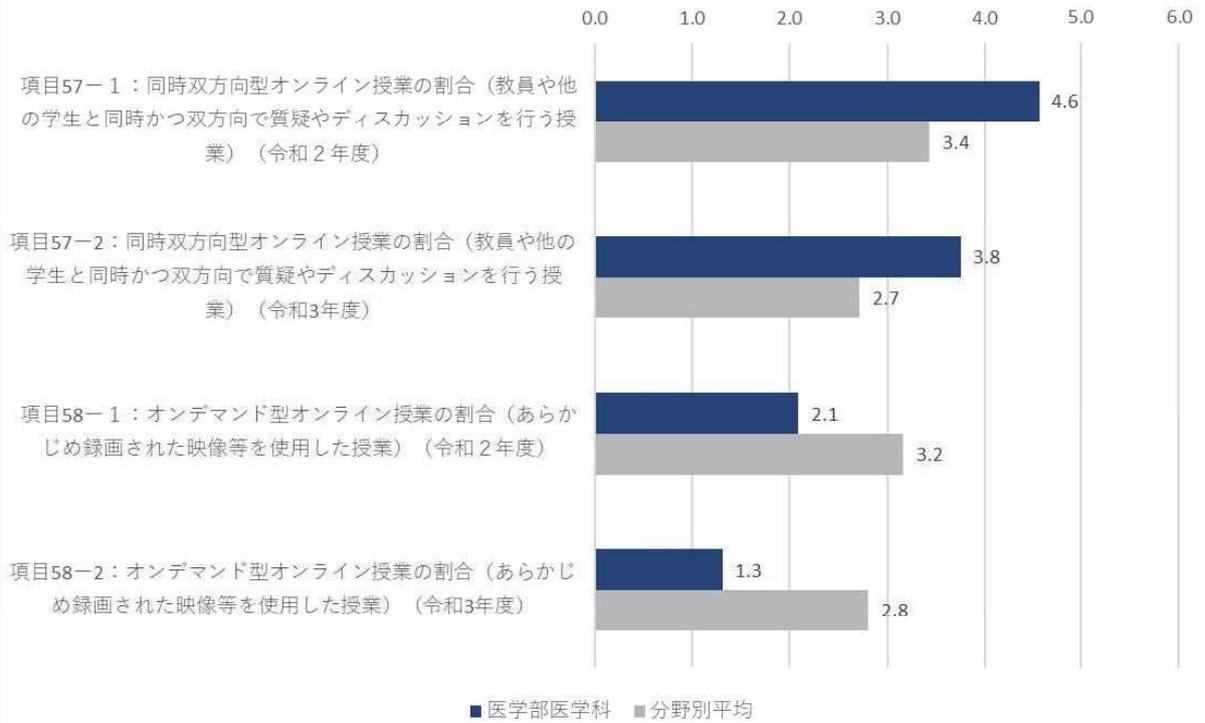
問4 これまでの大学での学び全体を振り返って、次の項目についてどのように思っていますか





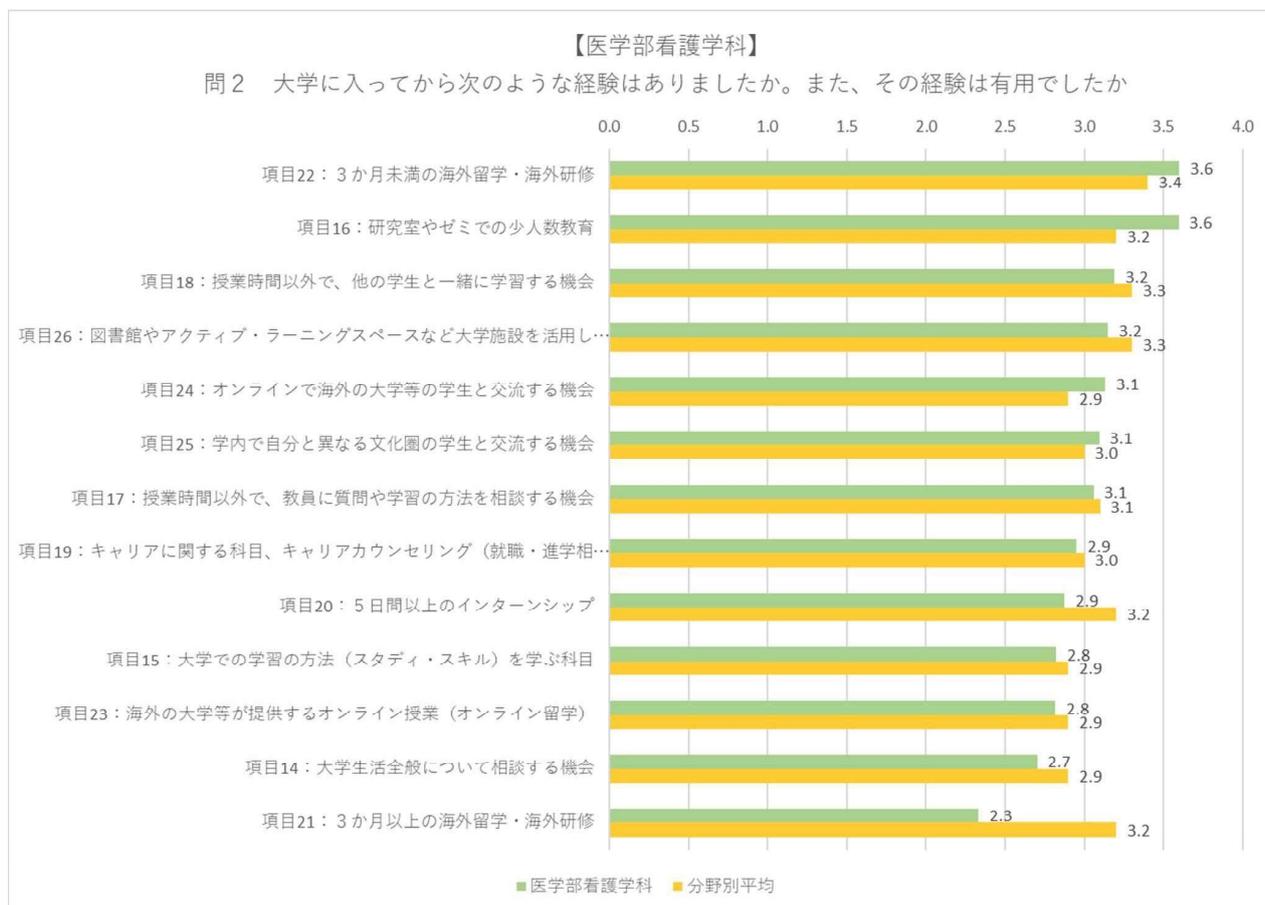
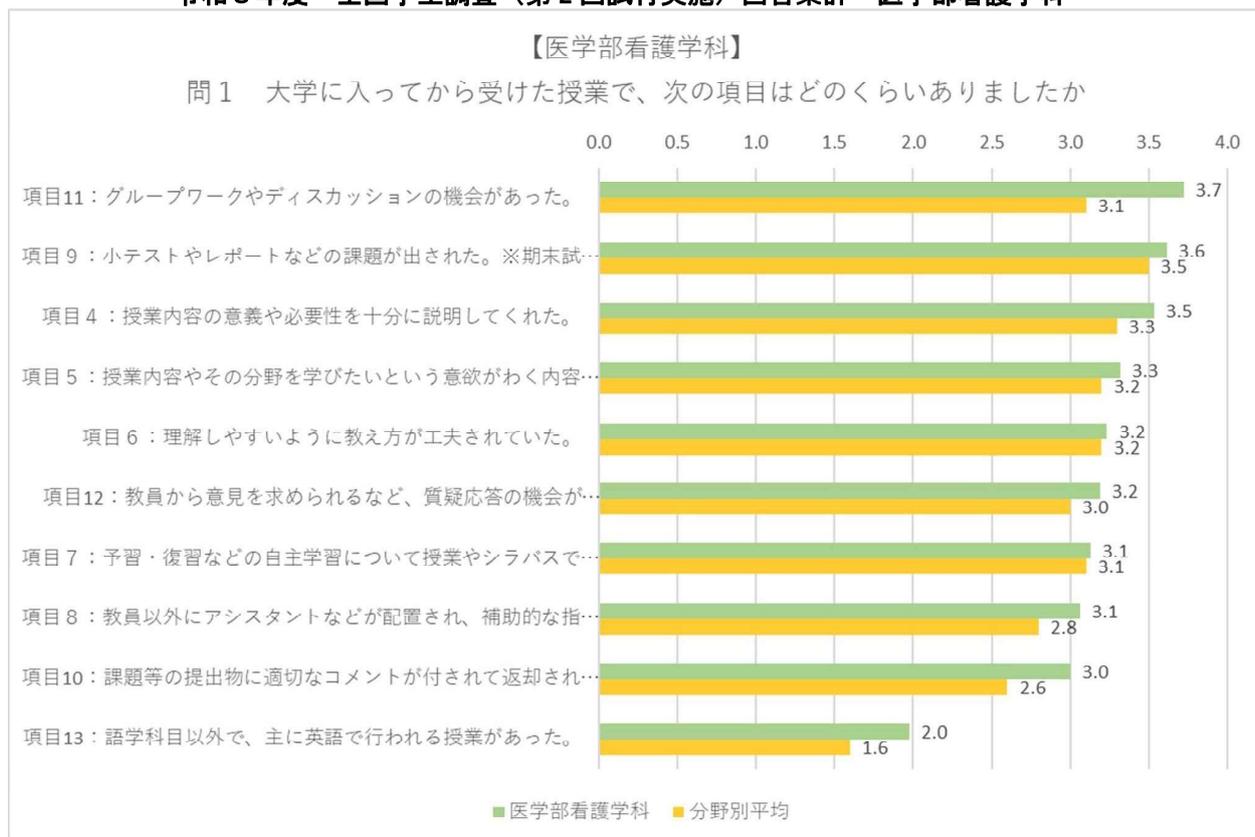
【医学部医学科】

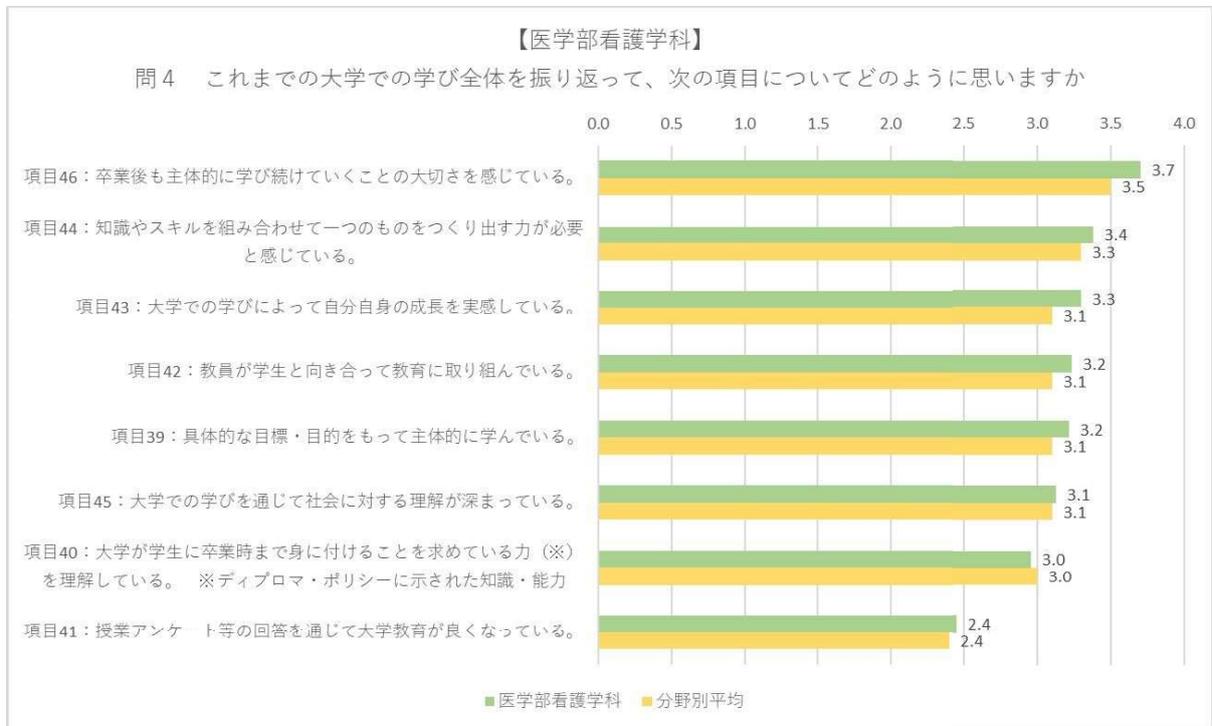
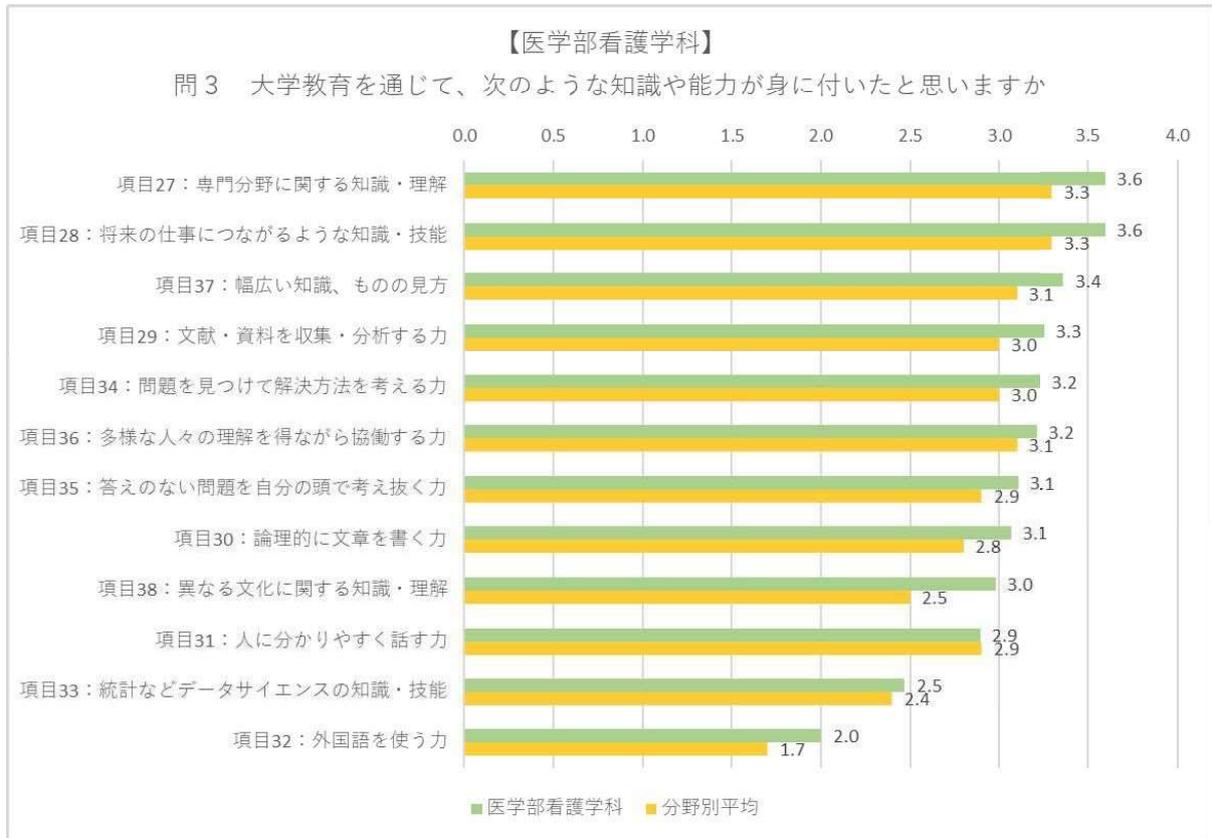
問7 昨年度と今年度に受けた授業のうち、次の授業形態の割合はそれぞれどのくらいですか



問	設問	全国	医学部 医学科	本学合計	分野別平均 (医6年制)
1	項目4：授業内容の意義や必要性を十分に説明してくれた。	3.2	3.3	3.2	3.2
1	項目5：授業内容やその分野を学びたいという意欲がわく内容だった。	3.2	3.2	3.3	3.2
1	項目6：理解しやすいように教え方が工夫されていた。	3.1	3.0	3.1	3.0
1	項目7：予習・復習などの自主学習について授業やシラバスで指示があった。	3.0	2.6	2.9	2.8
1	項目8：教員以外にアシスタントなどが配置され、補助的な指導があった。	2.5	2.5	2.4	2.6
1	項目9：小テストやレポートなどの課題が出された。※期末試験は除く	3.5	3.3	3.5	3.2
1	項目10：課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却された。	2.4	2.2	2.3	2.5
1	項目11：グループワークやディスカッションの機会があった。	2.8	3.2	2.8	3.0
1	項目12：教員から意見を求められるなど、質疑応答の機会があった。	2.8	3.1	2.9	2.8
1	項目13：語学科目以外で、主に英語で行われる授業があった。	1.8	1.9	2.4	2.2
2	項目14：大学生活全般について相談する機会	2.8	2.6	2.8	2.8
2	項目15：大学での学習の方法（スタディ・スキル）を学ぶ科目	2.9	2.5	2.8	2.8
2	項目16：研究室やゼミでの少人数教育	3.3	3.0	3.3	3.0
2	項目17：授業時間以外で、教員に質問や学習の方法を相談する機会	3.0	2.8	3.1	3.0
2	項目18：授業時間以外で、他の学生と一緒に学習する機会	3.2	3.5	3.3	3.4
2	項目19：キャリアに関する科目、キャリアカウンセリング（就職・進学相談）	3.0	2.6	2.9	2.8
2	項目20：5日間以上のインターンシップ	3.2	2.6	2.9	3.2
2	項目21：3か月以上の海外留学・海外研修	3.2	2.8	2.8	3.2
2	項目22：3か月未満の海外留学・海外研修	3.4	3.0	3.5	3.3
2	項目23：海外の大学等が提供するオンライン授業（オンライン留学）	3.0	3.0	3.0	3.0
2	項目24：オンラインで海外の大学等の学生と交流する機会	3.0	3.0	3.1	2.9
2	項目25：学内で自分と異なる文化圏の学生と交流する機会	3.1	3.0	3.2	3.0
2	項目26：図書館やアクティブ・ラーニングスペースなど大学施設を活用した学習	3.3	3.3	3.3	3.3
3	項目27：専門分野に関する知識・理解	3.1	3.3	3.3	3.2
3	項目28：将来の仕事につながるような知識・技能	3.0	3.3	3.0	3.3
3	項目29：文献・資料を収集・分析する力	3.0	2.9	3.2	3.0
3	項目30：論理的に文章を書く力	2.9	2.8	3.1	2.8
3	項目31：人に分かりやすく話す力	2.8	2.9	3.0	2.9
3	項目32：外国語を使う力	2.1	2.0	2.4	2.1
3	項目33：統計などデータサイエンスの知識・技能	2.5	2.2	2.5	2.5
3	項目34：問題を見つけて解決方法を考える力	2.9	2.9	3.1	2.9
3	項目35：答えのない問題を自分の頭で考え抜く力	2.9	2.8	3.0	2.8
3	項目36：多様な人々の理解を得ながら協働する力	3.0	3.0	3.1	3.0
3	項目37：幅広い知識、ものの見方	3.1	3.2	3.3	3.0
3	項目38：異なる文化に関する知識・理解	2.8	2.3	2.9	2.6
4	項目39：具体的な目標・目的をもって主体的に学んでいる。	3.0	3.2	3.1	3.1
4	項目40：大学が学生に卒業時まで身に付けることを求めている力（※）を理解している。 ※ディプロマ・ポリシーに示された知識・能力	2.8	2.9	2.7	3.0
4	項目41：授業アンケート等の回答を通じて大学教育が良くなっている。	2.3	2.4	2.3	2.5
4	項目42：教員が学生と向き合って教育に取り組んでいる。	2.9	2.9	3.1	2.9
4	項目43：大学での学びによって自分自身の成長を実感している。	3.0	3.1	3.1	3.1
4	項目44：知識やスキルを組み合わせる一つのものをつくり出す力が必要と感じている。	3.3	3.2	3.4	3.3
4	項目45：大学での学びを通じて社会に対する理解が深まっている。	3.0	2.8	3.1	2.9
4	項目46：卒業後も主体的に学び続けていくことの大切さを感じている。	3.5	3.7	3.6	3.6
5	項目47：授業への出席 ※実験・実習、オンライン授業を含む	13.7	20.9	13.1	19.1
5	項目48：卒業論文・卒業研究・卒業制作	7.3	0.5	7.9	1.4
5	項目49：予習・復習・課題など授業に関する学習 ※卒業論文等は除く	7.2	11.3	6.5	10.2
5	項目50：授業の予習・復習・課題以外の学習（学問に関係する読書やディスカッション、実技の練習、資格試験の勉強等）	6.3	10.8	6.7	10.8
5	項目51：部活動／サークル活動	2.5	5.5	3.2	4.0
5	項目52：アルバイト／定職	9.7	5.0	10.0	4.4
5	項目53：趣味／娯楽／交友	12.0	10.3	11.2	10.9
5	項目54：スマートフォンの使用 ※学習のために使用している時間は除く	14.7	13.0	15.5	12.2
6	項目55：前期（4月～9月）	3.2	4.4	2.5	4.2
6	項目56：後期（10月～3月）	3.4	3.6	2.5	3.8
7	項目57-1：同時双方向型オンライン授業の割合（令和2年度）	4.0	4.6	4.6	3.4
7	項目57-2：同時双方向型オンライン授業の割合（令和3年度）	3.2	3.8	4.4	2.7
7	項目58-1：オンデマンド型オンライン授業の割合（令和2年度）	4.2	2.1	2.3	3.2
7	項目58-2：オンデマンド型オンライン授業の割合（令和3年度）	2.7	1.3	1.5	2.8

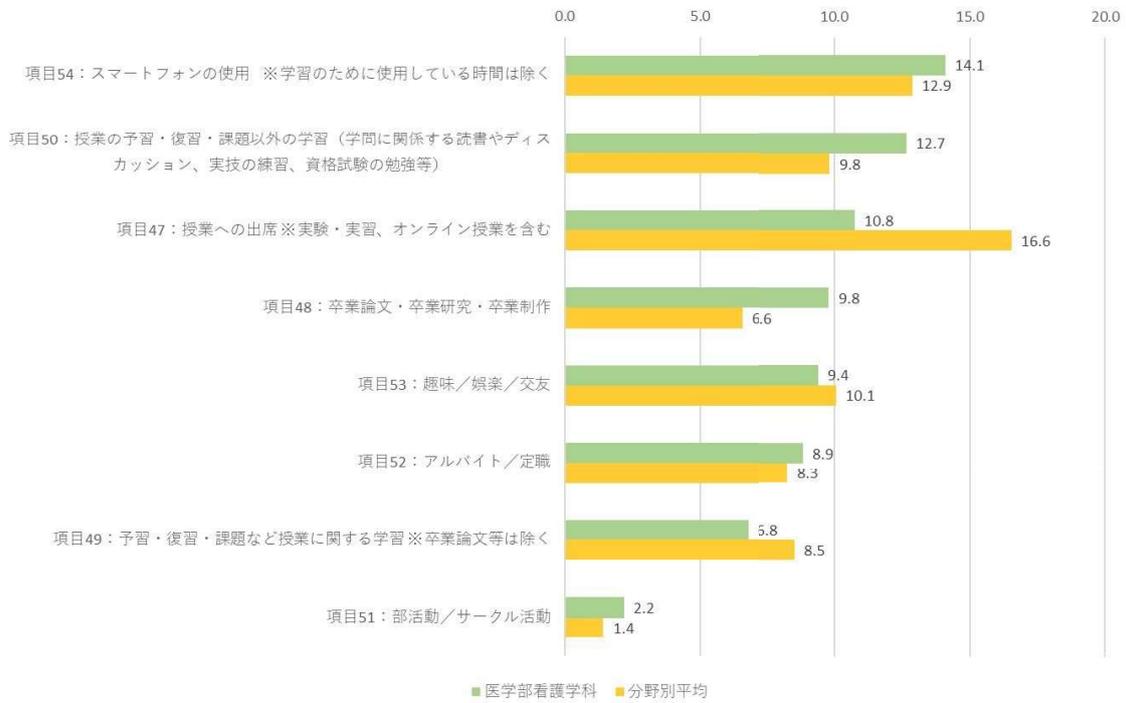
令和3年度 全国学生調査（第2回試行実施）回答集計～医学部看護学科～





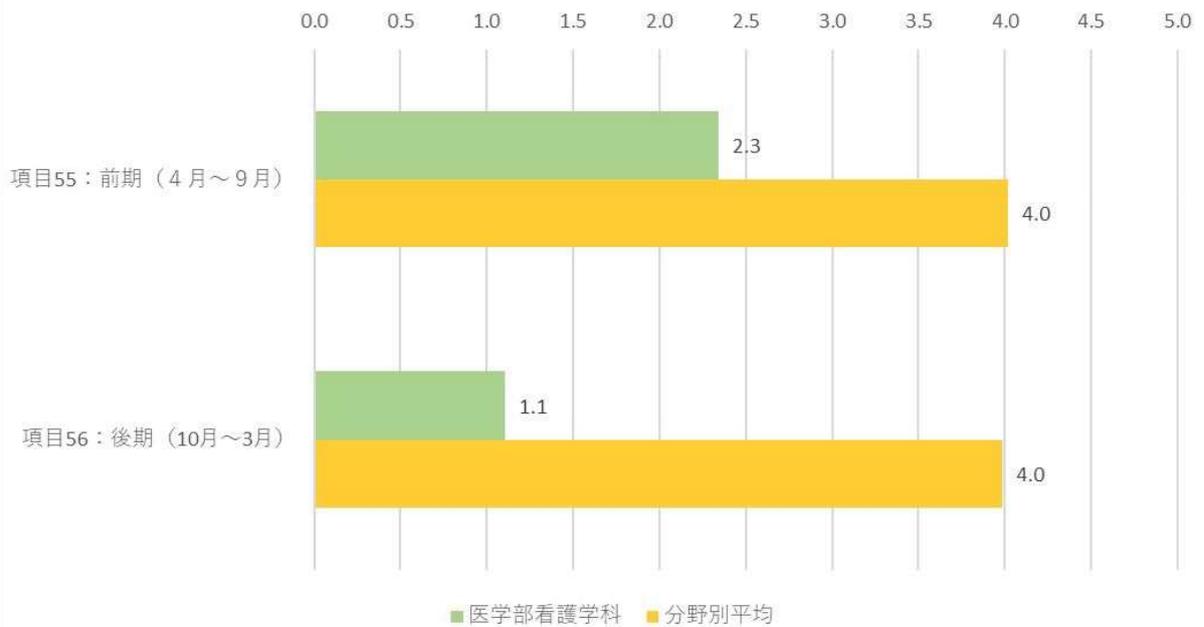
【医学部看護学科】

問5 今年度後期の授業期間中の平均的な1週間（7日間）の生活時間は、それぞれどのくらいですか



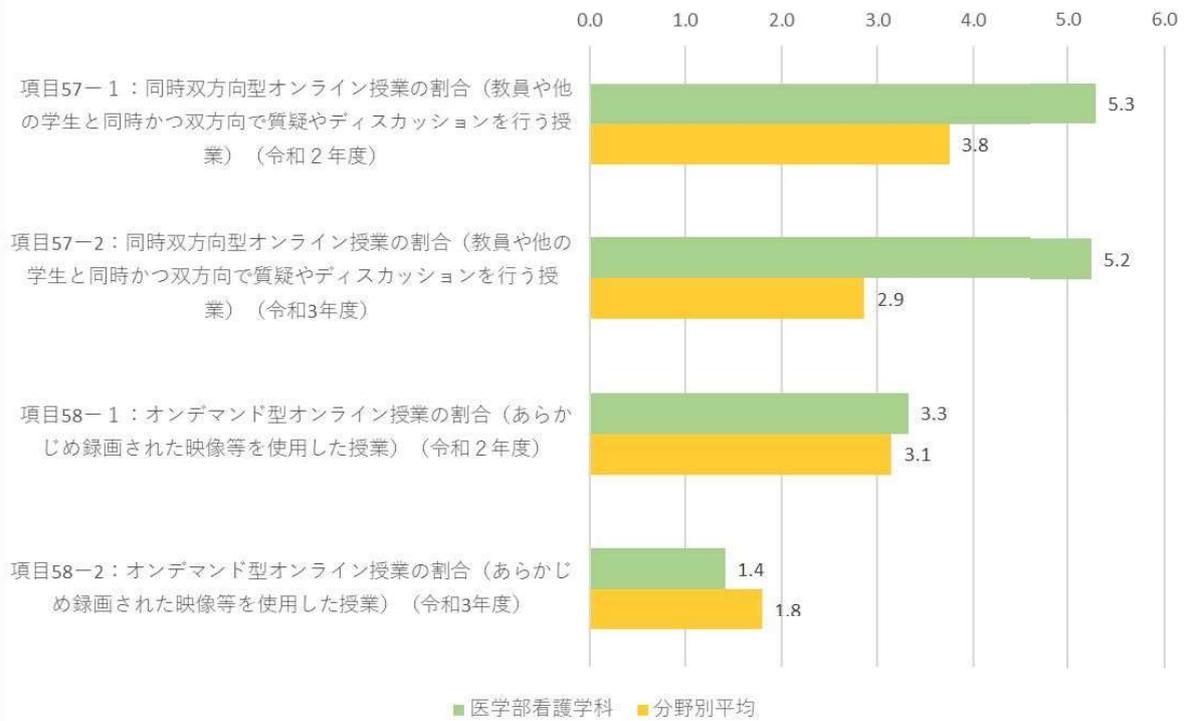
【医学部看護学科】

問6 今年度の授業期間中にキャンパスへ通った日数は、1週間でそれぞれ何日くらいですか



【医学部看護学科】

問7 昨年度と今年度に受けた授業のうち、次の授業形態の割合はそれぞれどのくらいですか



問	設問	全国	医学部 看護学科	本学合計	分野別平均 (保健)
1	項目4：授業内容の意義や必要性を十分に説明してくれた。	3.2	3.5	3.2	3.3
1	項目5：授業内容やその分野を学びたいという意欲がわく内容だった。	3.2	3.3	3.3	3.2
1	項目6：理解しやすいように教え方が工夫されていた。	3.1	3.2	3.1	3.2
1	項目7：予習・復習などの自主学習について授業やシラバスで指示があった。	3.0	3.1	2.9	3.1
1	項目8：教員以外にアシスタントなどが配置され、補助的な指導があった。	2.5	3.1	2.4	2.8
1	項目9：小テストやレポートなどの課題が出された。※期末試験は除く	3.5	3.6	3.5	3.5
1	項目10：課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却された。	2.4	3.0	2.3	2.6
1	項目11：グループワークやディスカッションの機会があった。	2.8	3.7	2.8	3.1
1	項目12：教員から意見を求められるなど、質疑応答の機会があった。	2.8	3.2	2.9	3.0
1	項目13：語学科目以外で、主に英語で行われる授業があった。	1.8	2.0	2.4	1.6
2	項目14：大学生生活全般について相談する機会	2.8	2.7	2.8	2.9
2	項目15：大学での学習の方法（スタディ・スキル）を学ぶ科目	2.9	2.8	2.8	2.9
2	項目16：研究室やゼミでの少人数教育	3.3	3.6	3.3	3.2
2	項目17：授業時間以外で、教員に質問や学習の方法を相談する機会	3.0	3.1	3.1	3.1
2	項目18：授業時間以外で、他の学生と一緒に学習する機会	3.2	3.2	3.3	3.3
2	項目19：キャリアに関する科目、キャリアカウンセリング（就職・進学相談）	3.0	2.9	2.9	3.0
2	項目20：5日間以上のインターンシップ	3.2	2.9	2.9	3.2
2	項目21：3か月以上の海外留学・海外研修	3.2	2.3	2.8	3.2
2	項目22：3か月未満の海外留学・海外研修	3.4	3.6	3.5	3.4
2	項目23：海外の大学等が提供するオンライン授業（オンライン留学）	3.0	2.8	3.0	2.9
2	項目24：オンラインで海外の大学等の学生と交流する機会	3.0	3.1	3.1	2.9
2	項目25：学内で自分と異なる文化圏の学生と交流する機会	3.1	3.1	3.2	3.0
2	項目26：図書館やアクティブ・ラーニングスペースなど大学施設を活用した学習	3.3	3.2	3.3	3.3
3	項目27：専門分野に関する知識・理解	3.1	3.6	3.3	3.3
3	項目28：将来の仕事につながるような知識・技能	3.0	3.6	3.0	3.3
3	項目29：文献・資料を収集・分析する力	3.0	3.3	3.2	3.0
3	項目30：論理的に文章を書く力	2.9	3.1	3.1	2.8
3	項目31：人に分かりやすく話す力	2.8	2.9	3.0	2.9
3	項目32：外国語を使う力	2.1	2.0	2.4	1.7
3	項目33：統計などデータサイエンスの知識・技能	2.5	2.5	2.5	2.4
3	項目34：問題を見つけて解決方法を考える力	2.9	3.2	3.1	3.0
3	項目35：答えのない問題を自分の頭で考え抜く力	2.9	3.1	3.0	2.9
3	項目36：多様な人々の理解を得ながら協働する力	3.0	3.2	3.1	3.1
3	項目37：幅広い知識、ものの見方	3.1	3.4	3.3	3.1
3	項目38：異なる文化に関する知識・理解	2.8	3.0	2.9	2.5
4	項目39：具体的な目標・目的をもって主体的に学んでいる。	3.0	3.2	3.1	3.1
4	項目40：大学が学生に卒業時まで身に付けることを求めている力（※）を理解している。 ※ディプロマ・ポリシーに示された知識・能力	2.8	3.0	2.7	3.0
4	項目41：授業アンケート等の回答を通じて大学教育が良くなっている。	2.3	2.4	2.3	2.4
4	項目42：教員が学生と向き合って教育に取り組んでいる。	2.9	3.2	3.1	3.1
4	項目43：大学での学びによって自分自身の成長を実感している。	3.0	3.3	3.1	3.1
4	項目44：知識やスキルを組み合わせ一つのものをつくり出す力が必要と感じている。	3.3	3.4	3.4	3.3
4	項目45：大学での学びを通じて社会に対する理解が深まっている。	3.0	3.1	3.1	3.1
4	項目46：卒業後も主体的に学び続けていくことの大切さを感じている。	3.5	3.7	3.6	3.5
5	項目47：授業への出席 ※実験・実習、オンライン授業を含む	13.7	10.8	13.1	16.6
5	項目48：卒業論文・卒業研究・卒業制作	7.3	9.8	7.9	6.6
5	項目49：予習・復習・課題など授業に関する学習 ※卒業論文等は除く	7.2	6.8	6.5	8.5
5	項目50：授業の予習・復習・課題以外の学習（学問に関係する読書やディスカッション、実技の練習、資格試験の勉強等）	6.3	12.7	6.7	9.8
5	項目51：部活動／サークル活動	2.5	2.2	3.2	1.4
5	項目52：アルバイト／定職	9.7	8.9	10.0	8.3
5	項目53：趣味／娯楽／交友	12.0	9.4	11.2	10.1
5	項目54：スマートフォンの使用 ※学習のために使用している時間は除く	14.7	14.1	15.5	12.9
6	項目55：前期（4月～9月）	3.2	2.3	2.5	4.0
6	項目56：後期（10月～3月）	3.4	1.1	2.5	4.0
7	項目57-1：同時双方向型オンライン授業の割合（令和2年度）	4.0	5.3	4.6	3.8
7	項目57-2：同時双方向型オンライン授業の割合（令和3年度）	3.2	5.2	4.4	2.9
7	項目58-1：オンデマンド型オンライン授業の割合（令和2年度）	4.2	3.3	2.3	3.1
7	項目58-2：オンデマンド型オンライン授業の割合（令和3年度）	2.7	1.4	1.5	1.8

# 令和4年度教学 IR 検討の取組結果と課題、今後の取組について

## 1. 趣旨

令和4年度に実施した下記取組について、実施報告書を作成し、各種会議体で報告します。また、これまで実施してきたWGの取組みで挙げられた課題を整理し、高等教育推進センター教学IR部門の運営を通じて、関係所管と調整します。

## 2. 教学 IR 検討 WG で実施した取組について

### (1) 入学から卒業後までのアンケートをつないだ経時的な分析

#### <取組概要>

平成30年度から引き続き、「新入生アンケート（入学時実施）」、「カリキュラム評価アンケート（卒業時実施）」、「卒業生アンケート（卒後3年に実施）」の3つのアンケートを設定し、本学が特に重視する教育理念に関する共通設問の回答結果を分析した。入学時と卒業時の回答結果から、本学が掲げる教育理念について、入学時には期待値が高いものの、卒業時、卒後3年と徐々に下がっていく傾向が見られた。

また、3学部（国際教養学部・国際商学部・理学部）とも令和3年度カリキュラム評価アンケートでは令和3年度のみ、「グローバルな視野」の数値が上がっているが、令和4年度は令和2年度以前の数値に近い結果となっていた。これについて、渡航経験が該年度に増えていないため、オンライン参加のイベントが増えたことが一因ではないかと考える。

分析結果については、各種会議にて報告を行うとともに、結果を各学部教授会で報告・共有し、各学部におけるカリキュラム改善検討を支援した。

また、各アンケートの回答率向上のために、回答者への結果の共有・周知を進めることが提案され、来年度以降対応を進める。

### (2) 教学 IR 検討 WG における認証評価に向けた対応

#### <取組概要>

令和3年度の認証評価受審を想定し設定した3つの観点について、認証評価受審後も普遍的な課題として検討を進めた。教学IR検討WGにて解析した結果について各学部会議体にて報告を行うとともに、結果を各学部教授会で報告・共有し、各学部において各学部独自の課題が確認された。

#### <教学 IR 検討 WG で取り組む3つの観点>

- ① 「各授業の内容が授与する学位に相応しい水準となっていること」
- ② 「成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることの組織的確認」
- ③ 学修成果の可視化

- ① 「各授業の内容が授与する学位に相応しい水準となっていること」

1単位の授業科目を45時間の学習を必要とする内容をもって構成する原則を踏まえ、正

規に加えて授業外学修時間がどの程度であるか確認を行った。

対面授業を実施した令和元年度までと比較し、令和2年度には講義科目及び演習科目について授業外学修時間が増加したが、令和3年度には微減、令和4年度に微増している。

講義全体では授業外学修時間は「1時間未満」が平均、演習全体は「1時間以上2時間未満」が平均という結果になっている。

## ② 「成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることの組織的確認」

令和3年度後期、令和4年度前期の成績評価結果を分析し、成績評価が適切に行われているか確認を行った。

- ・分野別に GPA 平均値を集計し、昨年度と比較して 1.0 以上平均値が変化している分野の確認を依頼した。
- ・各科目の成績登録者数によって平均値に差が見られるため、今後は成績登録者数を考慮し分析を進める。また、各学期の集計結果だけでなく、経年変化を集計し、広い目で見えた変化を確認できるようにする。

## ③ 学修成果の可視化

今年度より導入した YCU-Board に実装したポートフォリオ機能の活用推進を進めた。

- ・ YCU 指標等の学修成果の AI 試行分析については、(1) 学生の入試区分(学部・学系別)と学修成果項目の相関分析、(2) 学生の海外留学思考と学修成果項目の相関分析を行った。両テーマを分析した結果、現時点で相関は見られなかったため、YCU-Board のデータを蓄積し、再集計を行う。
- ・ YCU-Board 目標設定機能の活用については、学生、教員への内容や意義の説明、周知を進め、目標・振り返りの登録が浸透するよう努めた。
- ・ YCU-Board ポートフォリオ機能の活用については、入力項目を確認し、所管課に入力を依頼した。

## (3) ALCS 学修行動比較調査の実施及び分析

### <取組概要>

学生データの効率的な収集及び他大学との比較のため、令和元年度より教学比較 IR コモンズに入り会いし、令和4年度も1年次、3年次の学生に対しアンケート調査を実施した。令和4年度は令和3年度の調査結果について分析を実施し、これまでに本学で実施している各種アンケートでは確認できなかった観点について、学生の主体的な回答が得られた。

- ・「よく学ぶ学生に刺激されて学修が促されたこと」に関する設問について「よくあった・かなりあった」とする回答、「短期・長期海外留学を希望する」という回答が他大学と比較して10%程度多いという結果が見られた。
- ・一方で、「図書館の蔵書内容」「設備の使用感」については、他大学よりも満足度が低い傾向が見られた。

なお、他調査との重複等も踏まえ、ALCS 学修行動比較調査は令和5年度は実施しない予定となっている。

## (4) 全国学生調査の実施及び分析

<取組概要>

全国学生調査は、文部科学省によって、2019年から2022年度までの計3回、試行で実施されており、本学も参加している。令和4年度は令和3年度調査結果の分析及び令和4年度調査の周知を実施し、集計結果を各種会議体に報告・共有した。

- ・論理的な思考や、研究を進める上で必要とされるスキルを問う項目で全国平均を上回る傾向があった。（「項目 29 文献・資料を収集・分析する力」、「項目 30：論理的に文章を書く力」、「項目 31：人に分かりやすく話す力」）
- ・グローバル人材及びデータサイエンス人材の育成に関する項目では、全国平均と同等または上回る水準であった。特に「項目 32：外国語を使う力」では、全国平均 2.1 に対し、本学平均は 2.4 と良好な結果であった。データサイエンスに関わる「項目 33：統計などデータサイエンスの知識・技能」も、令和3年度は全国平均と全学平均は同水準であった。
- ・全国平均を下回った項目は「項目 7：予習・復習などの自主学習について授業やシラバスで指示があった」、「項目 10：課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却された」であった。

### 3. 教学 IR 検討 WG で挙げられた課題について

#### (1) オンラインで実施するアンケートの回収率について

本学がオンラインで実施するアンケートの回答率が低い傾向にあり、データの信頼性の観点から、教学 IR の活動に影響を与えている。（一方で、カリキュラム評価アンケートや新入生アンケート等、回収率が 80%以上となっているオンラインアンケートも存在する。

アンケートを周知する際に意義を適切に伝えるとともに、アンケート結果のフィードバックを十分に行う等、回答者の該当アンケートへの理解が深まるよう、取組みを進める。

例) 卒業生アンケート(卒後3年の卒業生が対象) :22.8%(前回 27.4%)

国際総合科学群令和4年度授業評価アンケート:約3割(紙媒体での実施時は約7~8割)

#### (2) アンケートの実施頻度と設問の類似(重複)について

本学で実施しているアンケートは業務の必要性に基づいて各所管で実施されており、アンケート回答期間や設問内容が十分に調整されておらず、学生の負担(アンケート疲れ)につながる可能性がある。高等教育推進センターと連携し、各アンケートの集約・精査に関する審議を依頼することを検討する。

<国際総合科学群の学生が回答するアンケート>

1年次	2年次	3年次	4年次
授業評価アンケート(毎学期末に履修登録した科目数分実施)			
新入生アンケート	全国学生調査 (文科省)		・全国学生調査 (文科省)
ALCS 学修行動比較調査(他大と比較)		ALCS 学修行動比較調査(他大と比較)	・カリキュラム評価アンケート

※その他、在学中に回答を依頼するものとして、「学生生活アンケート(3年に一度実施)」がある。

### (3)各学部の自己点検評価と教学 IR の連動について

これまで WG は認証評価の受審を見据え、3つの観点について全学的な取組を実施したが、来年度は各学部で実施する自己点検評価の取組と教学 IR の取組の連携も検討する。

### (4)学生個人情報の活用に関する許諾について

令和4年度より LMS が導入され、学生個人に関わるデータを活用する機会も増えると考えられることから、各アンケートを実施する際に学生に対し目的を十分に説明するとともに、アンケート回答後は集計結果を適切に伝える必要がある。

## 4. 令和5年度の方針について

これまで取り組んできた観点については全体の課題として令和5年度以降も継続して実施し、新たにアンケート結果の詳細分析や分析結果を踏まえた対応を進めることを検討している。

また、令和5年度より実施される第4期中期計画では、「教学 IR と連動した FD・SD 研修会の実施」が明記されている。教学 IR 検討ワーキングにて企画を検討するとともに、FD・SD 部門とも連携し、実施に向けた取組を進める。